

尾三衛生組合ごみ処理施設整備事業
に係る計画段階環境配慮書

令和 8 年 1 月

尾三衛生組合

はじめに

本計画段階環境配慮書は、尾三衛生組合が計画している新たなごみ処理施設の整備事業について、「愛知県環境影響評価条例」（平成10年愛知県条例第47号）に基づき、事業の計画の立案段階において環境の保全のために配慮すべき事項の検討を行い、その結果を取りまとめた計画段階環境配慮書の案についての環境の保全の見地からの意見を踏まえて、取りまとめたものである。

目 次

| | | |
|---|-------|-------|
| 第1章 配慮書事業者の名称 | 1-1 | (1) |
| 第2章 配慮書対象事業の目的及び内容 | 2-1 | (3) |
| 2.1 配慮書対象事業の目的 | 2-1 | (3) |
| 2.1.1 事業の目的 | 2-1 | (3) |
| 2.1.2 ごみ処理施設の現状 | 2-2 | (4) |
| 2.1.3 ごみ処理広域化計画の概要 | 2-3 | (5) |
| 2.1.4 建設予定地の選定経緯 | 2-3 | (5) |
| 2.2 配慮書対象事業の内容 | 2-4 | (6) |
| 2.2.1 配慮書対象事業の種類 | 2-4 | (6) |
| 2.2.2 配慮書対象事業の規模 | 2-4 | (6) |
| 2.2.3 配慮書対象事業実施想定区域の位置 | 2-4 | (6) |
| 2.2.4 配慮書対象事業の諸元 | 2-7 | (9) |
| 2.2.5 複数案の設定 | 2-14 | (16) |
| 第3章 配慮書対象事業実施想定区域及びその周囲の概況 | 3-1 | (19) |
| 3.1 自然的状況 | 3-3 | (21) |
| 3.1.1 気象・大気質その他の大気に係る環境の状況 | 3-3 | (21) |
| 3.1.2 騒音等に係る環境の状況 | 3-20 | (38) |
| 3.1.3 振動に係る環境の状況 | 3-23 | (41) |
| 3.1.4 悪臭に係る環境の状況 | 3-25 | (43) |
| 3.1.5 水象、水質、水底の底質その他の水に係る環境の状況 | 3-25 | (43) |
| 3.1.6 地形及び地質の状況 | 3-34 | (52) |
| 3.1.7 地盤、地下水及び土壌の状況 | 3-38 | (56) |
| 3.1.8 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況 | 3-44 | (62) |
| 3.1.9 景観、人と自然との触れ合いの活動の状況及び 地域の歴史的文化的特性を生かした環境の状況 | 3-86 | (104) |
| 3.2 社会的状況 | 3-99 | (117) |
| 3.2.1 人口及び産業の状況 | 3-99 | (117) |
| 3.2.2 土地利用の状況 | 3-101 | (119) |
| 3.2.3 都市計画の状況 | 3-105 | (123) |
| 3.2.4 河川、湖沼及び海域の利用並びに地下水の利用の状況 | 3-108 | (126) |
| 3.2.5 交通の状況 | 3-110 | (128) |
| 3.2.6 学校、病院その他の環境の保全についての配慮が特に 必要な施設の配置の状況及び住宅の配置の概況 | 3-114 | (132) |

| | | | |
|------------|--|-------|-------|
| 3.2.7 | 下水道の整備の状況 | 3-119 | (137) |
| 3.2.8 | 環境の保全を目的とする法令等により指定された地域 その他の対象及び当該対象に係る規制の内容その他の 環境の保全に関する施策の内容 | 3-120 | (138) |
| 3.2.9 | その他都市計画対象事業に関し必要な事項 | 3-167 | (185) |
| 第4章 | 計画段階配慮事項並びに調査、予測及び評価の手法 | 4-1 | (191) |
| 4.1 | 計画段階配慮事項の選定及びその選定理由 | 4-1 | (191) |
| 4.2 | 調査、予測及び評価の手法の選定 | 4-4 | (194) |
| 第5章 | 計画段階配慮事項に係る調査、予測及び評価の結果 | 5-1 | (197) |
| 5.1 | 大気質 | 5-1 | (197) |
| 5.1.1 | 調査 | 5-1 | (197) |
| 5.1.2 | 予測 | 5-3 | (199) |
| 5.1.3 | 評価 | 5-11 | (207) |
| 5.2 | 景観 | 5-12 | (208) |
| 5.2.1 | 調査 | 5-12 | (208) |
| 5.2.2 | 予測 | 5-16 | (212) |
| 5.2.3 | 評価 | 5-29 | (225) |
| 第6章 | 総合評価 | 6-1 | (227) |
| 第7章 | 配慮書の案についての意見書の意見の概要及び 配慮書事業者の見解 | 7-1 | (229) |
| 7.1 | 配慮書の案についての縦覧状況及び意見書の提出状況 | 7-1 | (229) |
| 7.1.1 | 縦覧状況 | 7-1 | (229) |
| 7.1.2 | 意見書の提出状況 | 7-3 | (229) |
| 第8章 | 配慮書の案から配慮書への主な修正点 | 8-1 | (231) |
| 第9章 | 計画段階環境配慮書に関する業務を委託した事業者の名称、 代表者の氏名及び主たる事務所の所在地 | 9-1 | (233) |

第 1 章 配慮書事業者の名称

第1章 配慮書事業者の名称

配慮書事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

名 称 : 尾三衛生組合

代表者 : 管理者 小山 祐

所在地 : 愛知郡東郷町大字諸輪字百々51 番地 23

第 2 章 配慮書対象事業の目的及び内容

第2章 配慮書対象事業の目的及び内容

2.1 配慮書対象事業の目的

2.1.1 事業の目的

国は、ごみ処理に伴うダイオキシン類の排出削減等を図るため、平成9年5月に各都道府県に対して、ダイオキシン類削減対策、焼却残渣の高度処理対策、マテリアルリサイクルの推進、サーマルリサイクルの推進、最終処分場の確保対策、公共事業のコスト縮減を踏まえた、ごみ処理の広域化を推進するよう通知を行った。

これを受けて、愛知県は、平成10年10月に平成19年度までの10年間を計画期間とする「愛知県ごみ焼却処理広域化計画」を策定した。その後、市町村合併の進展やごみ処理技術の進歩を受けて、広域化ブロックの区割りの見直しを実施し、平成21年3月に「第2次愛知県ごみ焼却処理広域化計画」（以下、「広域化計画」という。）を策定した。

「広域化計画」では、県内を13のブロックに分け、焼却能力300t/日以上全連続炉への集約化を目指しており、尾三衛生組合（構成市町：日進市、みよし市、愛知郡東郷町）と尾張東部衛生組合（構成市：瀬戸市、尾張旭市、長久手市）の焼却施設の集約化が目標とされている。令和3年3月策定の「尾張東部・尾三地域広域化ブロックごみ処理における広域化計画」では、令和44年度に集約1施設とすることを目標としており、よって、令和43年度までは、各組合が単独でごみ処理を行う必要がある。

なお、令和3年11月には、廃棄物処理経費の縮減、気候変動対策の推進、災害への対応等の観点から、より安定的かつ効率的なごみ処理体制の構築を推進するため、愛知県は「愛知県ごみ処理広域化・集約化計画（2021年度～2030年度）」を策定しており、本計画においても、尾張東部・尾三ブロックの2焼却施設を令和15（2033）年度以降を目安に統合し、1施設による処理体制を目指すとしている。

尾三衛生組合（以下、「本組合」という。）は、日進市、みよし市及び愛知郡東郷町（以下、「構成市町」という。）を行政圏として、昭和49年にごみの共同処理を行うための一部事務組合として設立された。本組合の現有施設である東郷美化センターは、ごみ焼却施設が平成9年11月、粗大・不燃ごみ処理施設が平成11年3月に竣工し、ごみ焼却施設は老朽化が進行していたため、平成27年度から令和元年度にかけて基幹的設備改良工事（延命化工事）を実施している。令和3年度に「施設整備検討業務」を策定し、令和4年度に集約化までの整備方針を検討した結果、令和16年度稼働を目指し、新しいごみ焼却施設と粗大・不燃ごみ処理施設を整備していくこととした。

本事業は、本組合の新たなごみ処理施設の建設を目的とするものである。

2.1.2 ごみ処理施設の現状

本組合では、東郷美化センターにおいて構成市町の一般廃棄物の処理を行っている。ごみ焼却施設とリサイクルプラザがあり、ごみ焼却施設は、平成27年度より5か年をかけて基幹的設備改良工事（延命化工事）を実施している。既存施設の概要は、表2.1.1に、位置は図2.1.1に示すとおりである。

表 2.1.1 既存施設の概要

| | | |
|---------|--------------------------------|-----------------------|
| 施設名称 | 尾三衛生組合東郷美化センター | |
| 所在地 | 愛知郡東郷町大字諸輪字百々51番地23 | |
| 施設種類 | ごみ焼却施設 | リサイクルプラザ |
| 処理対象廃棄物 | 可燃ごみ | 粗大ごみ、金属 ^{注)} |
| 処理能力 | 200 t / 日 (100 t / 日 × 2 炉) | 55 t / 日 (5h) |
| 処理方式 | ストーカ炉 | 二軸せん断、 高速回転せん断併用方式 |
| 竣工 | 平成9年11月 | 平成11年3月 |

注) リサイクルプラザには、ガラスびん(12t/5h)・金属缶(8t/5h)の選別設備があったが、施設維持管理費の削減のため、ガラスびんの処理設備は平成28年度から、金属缶の処理設備は平成29年度から停止している。



図 2.1.1 既存施設の位置

2.1.3 ごみ処理広域化計画の概要

県の「広域化計画」では、尾張東部・尾三ブロックの構想として尾張東部衛生組合と本組合でごみ焼却施設を集約化する方針が定められており、尾張東部衛生組合を構成する瀬戸市、尾張旭市及び長久手市と本組合の構成市町の間で協議、検討を進め、「尾張東部・尾三地域広域化ブロックごみ処理における広域化計画」（令和3年3月）（以下、「尾張東部・尾三地域広域化計画」という。）を策定している。

両組合既存施設の敷地では、集約して1施設を建設できる面積が不足している点、両組合とも既存施設の延命化目標年度終了までの期間が約10年である点から、次期施設整備時には、両組合それぞれが単独で新施設を建設する方針となった。なお、両施設は相互支援を取り入れたものとし、令和43年度までは相互支援により2施設体制で運営し、令和44年度に集約1施設として新施設の竣工・供用を開始することを目指す。

これを踏まえ、本組合では、「施設整備検討業務報告書」（令和4年3月）を作成し、延命化目標年度終了後の施設整備方針を検討した結果、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、脱炭素社会に貢献するため、令和16年度の稼働を目指し、新しいごみ焼却施設と粗大・不燃ごみ処理施設を整備していくこととした。

2.1.4 建設予定地の選定経緯

施設整備方針として、「施設整備検討業務報告書」において、既存施設の延命化目標年度終了後について、「再延命化工事あり」、「再延命化工事なし」、「施設の更新」の3案のライフサイクルコストを算出し、検討を行った。比較検討の結果、費用面では「再延命化工事あり」が最も優れた整備方針案となったが、みよし市は令和元年に、日進市は令和4年にゼロカーボン宣言を行っているのに対し、既存施設は発電設備が備わっておらず、エネルギー回収型廃棄物処理施設となっていないことなどから、国が目指す2050年カーボンニュートラルや脱炭素社会の実現を目指すため、「施設の更新」を整備方針として示すこととなった。

建設予定地については、組合敷地内で配置検討を行い、斜面安定対策工事が必要となること、計量棟や資源回収ストックヤードの移設が必要となることなどの課題はあるものの、既存施設を稼働させながら新施設の建設が可能であるとの調査結果になったため、新たな建設場所の検討は行わなかった。

なお、建設予定地は、以下の観点からも組合敷地内を選定した。

第一に、既存施設は、日進市、みよし市、東郷町の3市町の境界に位置しているため収集運搬の効率が良く、既存施設と同じ場所とすることで施設利用者への混乱も防ぐことができること。

第二に、本組合の所有地であるため新たな用地取得の必要がない、既存施設の一部を活用した一体的な整備や、既存の道路・電気等のインフラの活用が可能となるなど、コスト低減等の経済性の観点から最良であること。

第三に、既存敷地を活用することで大規模な造成の必要がないため、周辺の自然環境及び生活環境への影響を最小限とすることができる。

2.2 配慮書対象事業の内容

2.2.1 配慮書対象事業の種類

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（昭和45年法律第137号）第8条第1項に規定するごみ処理施設（ごみ焼却施設）の設置事業

2.2.2 配慮書対象事業の規模

ごみ焼却施設 処理能力：約191t/日

2.2.3 配慮書対象事業実施想定区域の位置

位置：愛知郡東郷町大字諸輪字百々51番地23（図2.2.1及び図2.2.2参照）

面積：約7.8ha



図 2.2.1 配慮書対象事業実施想定区域の位置

第2章 配慮書対象事業の目的及び内容
2.2 配慮書対象事業の内容

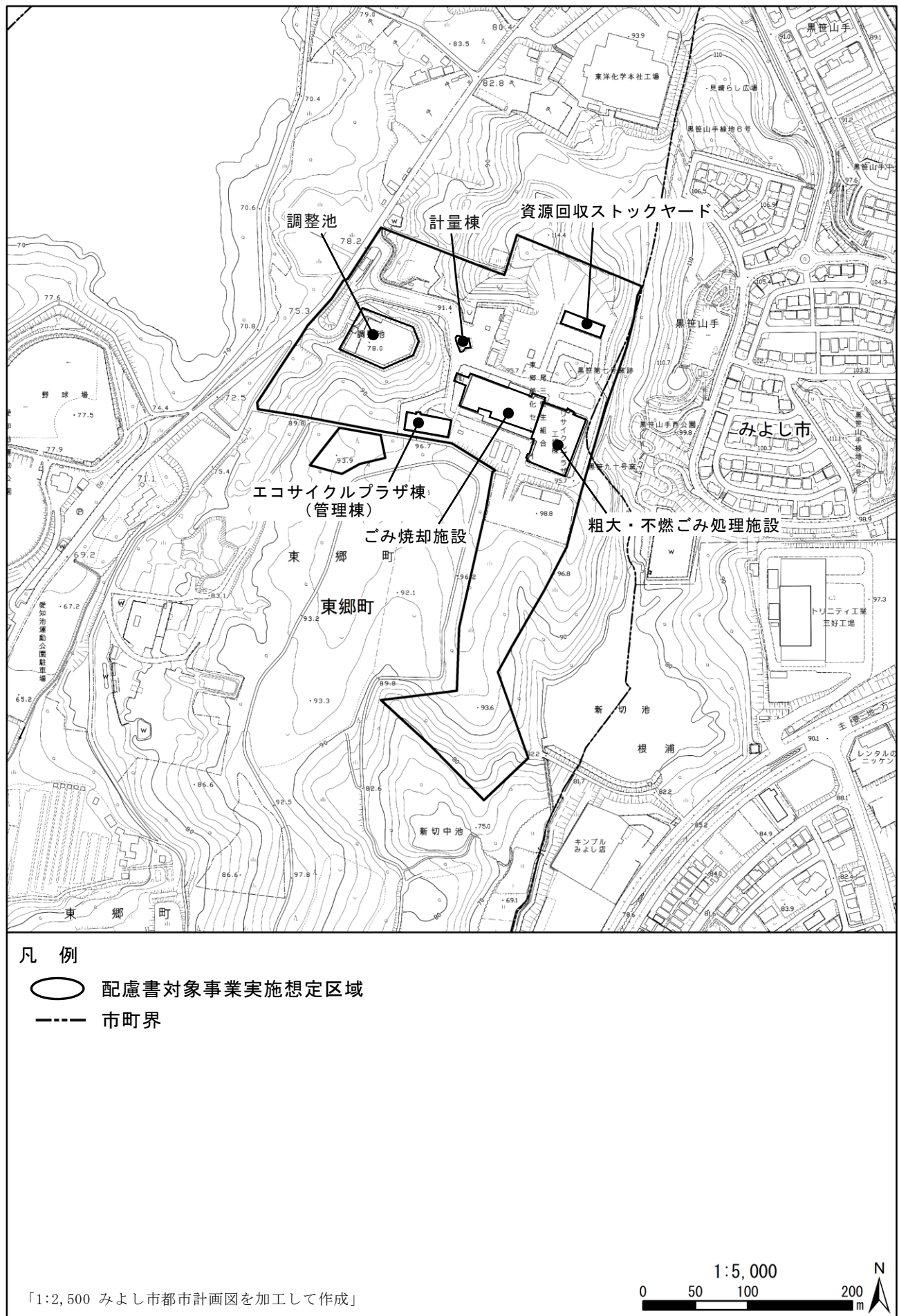


図 2.2.2 既存施設の設備配置

2.2.4 配慮書対象事業の諸元

2.2.4.1 ごみ処理施設の諸元

本事業において配慮書対象事業実施想定区域（以下、「対象事業実施想定区域」という。）に設置するごみ処理施設（以下、「計画施設」という。）の諸元は、表 2.2.1 に示すとおりである。

表 2.2.1 計画施設の諸元

| 処理施設 | 項目 | 計画諸元 |
|-----------------|--------|-------------------------|
| ごみ焼却施設 | 処理能力 | 191 t / 日（95.5t/日×2 炉） |
| | 処理方式 | 未定 |
| | 処理対象ごみ | 可燃ごみ、粗大ごみ破碎選別可燃残渣、災害廃棄物 |
| | 公害防止設備 | 適切な公害防止設備を備えた施設を整備する |
| | 煙突高さ | 59m |
| | 運転計画 | 24 時間連続運転 |
| 粗大・不燃ごみ 処理施設 | 処理能力 | 10t/日 |
| | 処理方式 | 破碎・選別処理 |
| | 処理対象ごみ | 可燃性粗大ごみ、不燃性粗大ごみ、不燃物（金属） |
| | 運転計画 | 5 時間運転 |
| 稼働目標年度 | | 令和 16 年度 |

2.2.4.2 処理能力の算定

(1) ごみ焼却施設

計画施設の処理能力は 191 t / 日（24 h、95.5t/日×2 炉）を計画している。

処理能力については、「廃棄物処理施設整備基本構想」（令和 6 年 3 月 尾三衛生組合）及び「尾三地域循環型社会形成推進地域計画」（令和 6 年 11 月）（以下、「地域計画」という。）において、以下のとおり算出している。

① 計画処理量

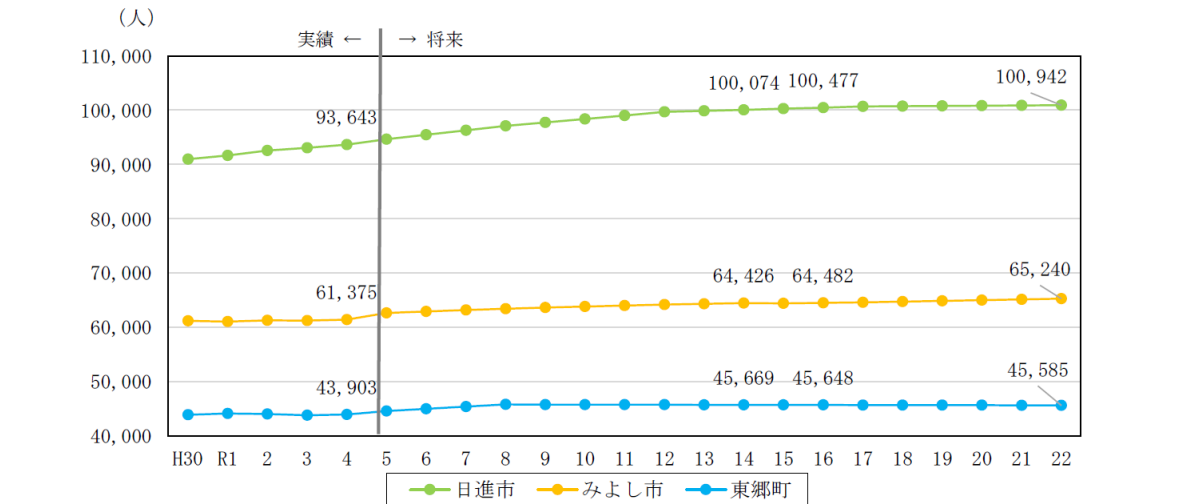
計画施設における計画処理量は、「廃棄物処理施設整備基本構想」において算出している。計画目標年次は、「循環型社会形成推進交付金等に係る施設の整備規模について（通知）」（環循適発第 24032920 号）を参考とし、将来予測の確度や、施設の耐用年数、投資効率等を勘案して、稼働開始年度から 7 年以内で処理量が最大となる令和 22 年度としている。

構成市町の人口実績及び将来人口は図 2.2.3 に示すとおりである。令和 22 年度の構成市町の将来人口の合計は、211,767 人となっている。

構成市町のごみ排出量の見込みは、図 2.2.4 に示すとおりである。令和 5 年度から令和 14 年度は「ごみ処理基本計画【令和 5（2023）年度～令和 14（2032）年度】」（令和 5 年 3 月、尾三衛生組合）で示されている将来数値を基に設定し、令和 15 年度以降の将来値は令和 14 年度の原単位の値を固定して設定している。令和 22 年度のごみ総排出量は 61,780t/年、集団回収及び市町独自処理（資源）を除いた組合搬入分は 50,499t/年となる。

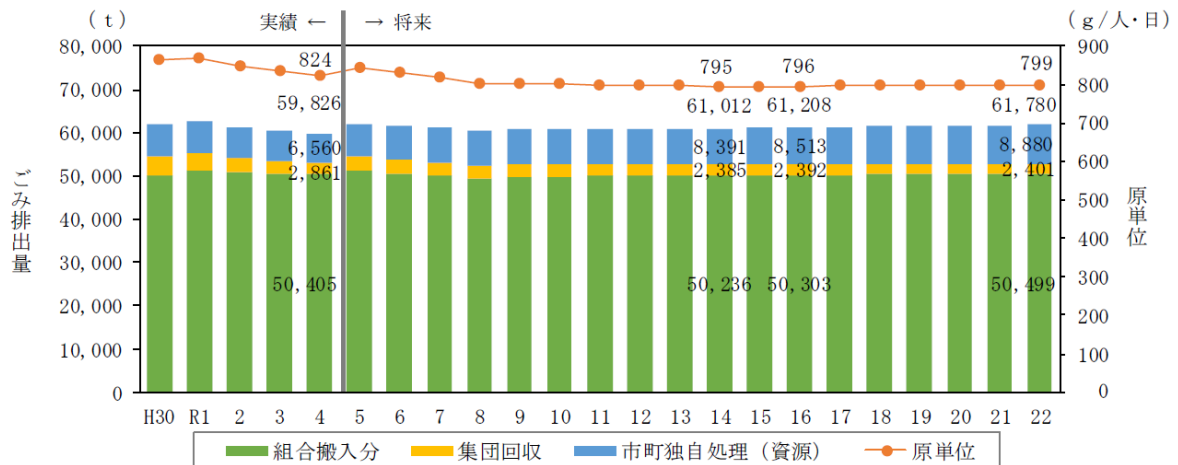
また、ごみ処理量の見込みは、図 2.2.5 に示すとおりである。ごみ処理量は、搬入量に対する処理量の比率の実績から設定している。令和 22 年度の可燃ごみ処理量は 50,252t/年、粗大ごみ及び金属処理量は 1,863t/年となる。

第2章 配慮書対象事業の目的及び内容
2.2 配慮書対象事業の内容



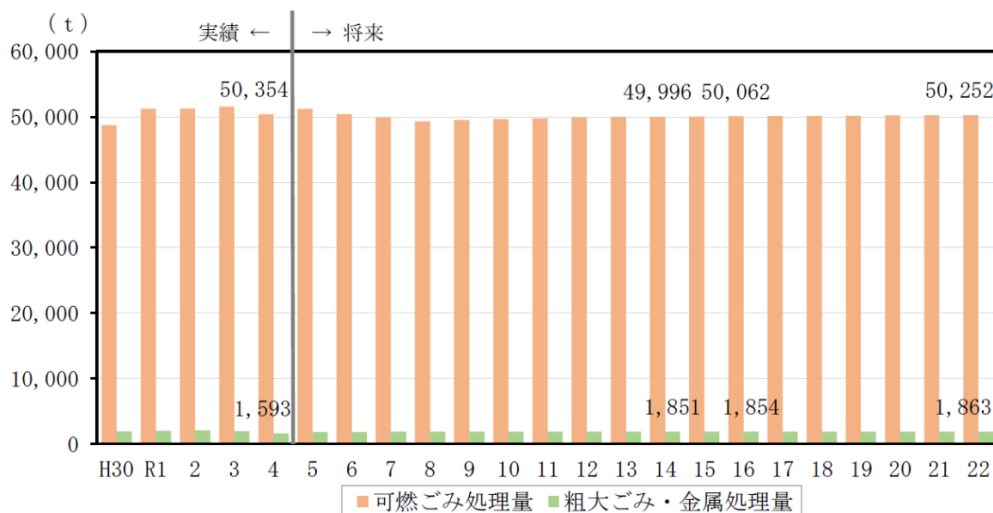
出典：「廃棄物処理施設整備基本構想」（令和6年3月 尾三衛生組合）

図 2.2.3 人口実績及び将来人口



出典：「廃棄物処理施設整備基本構想」（令和6年3月 尾三衛生組合）

図 2.2.4 ごみ排出量の見込み



出典：「廃棄物処理施設整備基本構想」（令和6年3月 尾三衛生組合）

図 2.2.5 ごみ処理量の見込み

② 施設規模

施設規模は、1日あたりに処理する能力を示し、「循環型社会形成推進交付金等に係る施設の整備規模について（通知）」（環循適発第24032920号）に基づき、次式により算定した。算定の結果は、表2.2.2に示すとおりである。

| |
|--|
| 施設規模＝（計画1人1日平均排出量×計画収集人口＋計画直接搬入量）÷実稼働率 |
|--|

- ・ 実稼働率＝（365日－年間停止日数）÷365日
年間停止日数については、75日を上限とする。
- ・ 算出した施設規模に対し、10%を上限にした災害廃棄物処理量を見込むことができるものとする。

表 2.2.2 施設規模の算定

| 区分 | 算定結果 |
|-------------------------|--|
| 計画年間日平均処理量 | ＝計画1人1日平均排出量×計画収集人口＋計画直接搬入量 ＝137.7 t / 日 |
| 実稼働率 | ＝（365日－年間停止日数 75日）÷365日 ≒0.795 |
| 通知に基づく施設規模 | ＝計画年間日平均処理量÷実稼働率 ≒173.2 t / 日 |
| 災害廃棄物処理量 | ＝通知に基づく施設規模×10% ≒17.3 t / 日 |
| 災害廃棄物処理量を見込んだ通知に基づく施設規模 | ＝通知に基づく施設規模＋災害廃棄物処理量 ＝190.5 t / 日 ≒191 t / 日 |

2.2.4.3 処理方式の選定

可燃ごみの処理方式については、「廃棄物処理施設整備基本構想」において、複数あるごみ処理方式の中から、構成市町から発生する可燃ごみを安全かつ安定的に処理でき、エネルギーの有効利用等が可能である処理方式を選定することとしている。信頼性、資源化性、適用性の3つの評価条件から評価を行った結果、抽出した5つの方式は表2.2.3に示すとおりである。

今後、専門家等により構成する委員会において検討を行い、処理方式を決定することとしている。

表 2.2.3 処理方式の抽出結果

| 処理方式 | 技術名称 |
|------|-------------|
| 焼却 | ストーカ式 |
| | 流動床式 |
| 熔融 | 流動床式 |
| | シャフト式 |
| 燃料化 | バイオガス化（＋焼却） |

2.2.4.4 公害防止及び環境保全

(1) 基本的な考え方

既存施設及び計画施設に係る法令等による規制基準値等を表 2.2.4 に示す。新ごみ処理施設の排出基準（自主規制値）については、規制基準を遵守し、かつ既存施設の自主規制値を満たす基準値を今後検討する計画である。

表 2.2.4 規制基準値等

| 項目 | | 単位 | 計画施設の 法規制値 | 既存施設 | |
|---------------|-------------------------|-------------------------|---------------|--------|---------|
| | | | | 自主規制値等 | 法規制値 |
| 注 1・2) 排ガス | ばいじん | g/m ³ N | 0.08 | 0.02 | 0.08 |
| | 硫黄酸化物(SO _x) | — | K 値=9.0 注 2) | 30ppm | K 値=9.0 |
| | 塩化水素(HCl) | ppm | 430 注 3) | 50 | 430 |
| | 窒素酸化物(NO _x) | ppm | 250 注 4) | 100 | 250 |
| | ダイオキシン類 | ng-TEQ/m ³ N | 1 | 1 | 1 |
| | 水銀 | μ g/m ³ N | 30 | 50 | 50 |
| 悪 臭 | 臭気指数（敷地境界） | — | 15 | 15 | |
| 騒 音 | 昼間（8 時～19 時） | デシベル | 60 | 60 | |
| | 朝・夕（6 時～8 時、19 時～22 時） | デシベル | 55 | 55 | |
| | 夜間（22 時～翌 6 時） | デシベル | 50 | 50 | |
| 振 動 | 昼間（7 時～20 時） | デシベル | 65 | 65 | |
| | 夜間（20 時～翌 7 時） | デシベル | 60 | 60 | |

注 1) 排ガス濃度は酸素濃度 12%換算値。

注 2) K 値=9.0 は、計画施設において約 1,500ppm。

注 3) 塩化水素の排出基準は 700 mg/m³N（約 430ppm）。

注 4) 計画施設が「県民の生活環境の保全等に関する条例」（平成 15 年愛知県条例第 7 号）に基づく大気指定工場に該当する場合、「工場・事業場に係る窒素酸化物対策指導要領」（平成 18 年 4 月 愛知県）により、昭和 58 年 6 月 15 日以後に設置されるばい煙発生施設については、「大気汚染防止法施行規則」（昭和 46 年厚生省・通商産業省令第 1 号）第 5 条及び別表第 3 の 2 に定める窒素酸化物の排出基準の 20%以上の低減等が求められる。

(2) 大気汚染対策

ごみ焼却施設における一般的な大気汚染防止対策として、窒素酸化物及びダイオキシン類については主に燃焼管理による排出抑制を行い、その他の物質及びダイオキシン類の除去には、ろ過式集じん器（バグフィルタ）と薬剤（消石灰や活性炭等）噴霧の併用による排ガス処理が行われている。本施設についても、これらの対策を基本とし、具体的な排ガス処理方法を今後、検討していく計画としている。

(3) 水質汚濁対策

水質汚濁防止対策として、場内で発生するプラント排水については、排水処理を行ったのち場内で使用する計画であり、公共用水域への排水は行わない。生活排水については検討中であり、場内利用又は合併浄化槽で処理を行ったのちに放流のいずれかとする計画である。雨水は、調整池に一旦貯留したのちに、雨水管を経て公共用水域へ放流する計画である。

なお、給水には、プラント用水は井水又は上水、生活用水は上水を利用する計画である。

給排水のフローは図 2.2.6 に示すとおりである。

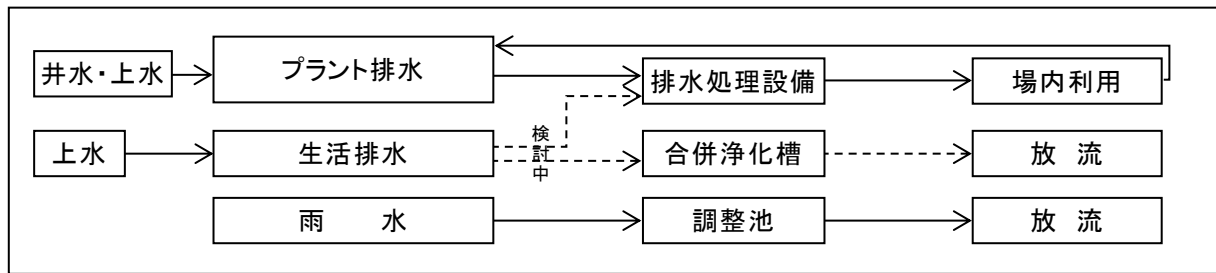


図 2.2.6 給排水フロー図

(4) 工事中の環境保全対策

① 排出ガス及び騒音・振動対策

建設機械は、可能な限り排出ガス対策型及び低騒音型の建設機械を使用する。また、建設機械の集中稼働を避け、効率的運用に努める。

工事用車両については、より低公害・低燃費車両の使用に努めるとともに、エコドライブ等を励行するよう指導・監督を行う。また、車両が集中しないよう工程の管理等を行う。

② 粉じん対策

工事中は建設機械の稼働等による砂の巻き上げや土砂等の飛散を防止するため、施工区域をフェンス等により仮囲いする。また、適宜散水を行って粉じんの飛散を防止する。

③ 濁水等対策

雨水等の排水については、仮設沈砂池等を設け、適正に処理を行ったのち、既存の調整池から雨水管を経て公共用水域へ放流する。また、アルカリ性排水が発生する場合には、場内で pH 調整を行ったのち、同様に放流する計画である。

④ 廃棄物等対策

工事に伴って発生する廃棄物等については、種類に応じた分別を徹底し、適正に再資源化、処理及び処分を行う。

⑤ 土壌汚染対策

本事業は「土壌汚染対策法」（平成 14 年法律第 53 号）及び「県民の生活環境の保全等に関する条例」（平成 15 年愛知県条例第 7 号）の対象となることから、法令に基づき必要な調査を今後実施する。

2.2.4.5 収集運搬関連

(1) 収集区域

廃棄物の収集区域は、日進市、みよし市、愛知郡東郷町の全域とする。

(2) ごみ収集車等の主な走行経路

ごみ収集車等の関係車両の想定される主な走行経路は図 2.2.7 に示すとおりである。

北側は市道打越黒笹1号線や市道黒笹諸輪線、南側は県道岩作諸輪線や町道東郷・三好線から、町道木戸畑・百々線を通して対象事業実施想定区域へ進入する。

また、令和6年度における既存施設へのごみ収集車等の関係車両は、日平均で約260台である。

2.2.4.6 配慮書対象事業に係る工事計画の概要

本事業における工事工程は、表 2.2.5 に示すとおりである。

本事業の工事は、準備工事として造成工事及び資源回収ストックヤードの解体工事、建設工事として土木・建築工事、プラント設備工事及び外構工事を予定している。

また、工事用車両の主な走行経路はごみ収集車と同様であると想定され、図 2.2.7 に示したとおりである。

表 2.2.5 工事工程表（予定）

| 工程 | | 令和 11年度 (1年目) | 令和 12年度 (2年目) | 令和 13年度 (3年目) | 令和 14年度 (4年目) | 令和 15年度 (5年目) | 令和 16年度 (6年目) |
|---------------------------------|-----------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 準備 工事 | 造成工事 (設計含む) | | | | | | |
| | 解体工事(資源回収 ストックヤード) | | | | | | |
| 新 ごみ 処理 施設 建設 工事 | 設計 | | | | | | |
| | 土木・建築工事 | | | | | | |
| | プラント設備工事 | | | | | | |
| | 外構工事 | | | | | | |
| 試運転 | | | | | | | |
| 供用 | | | | | | | |

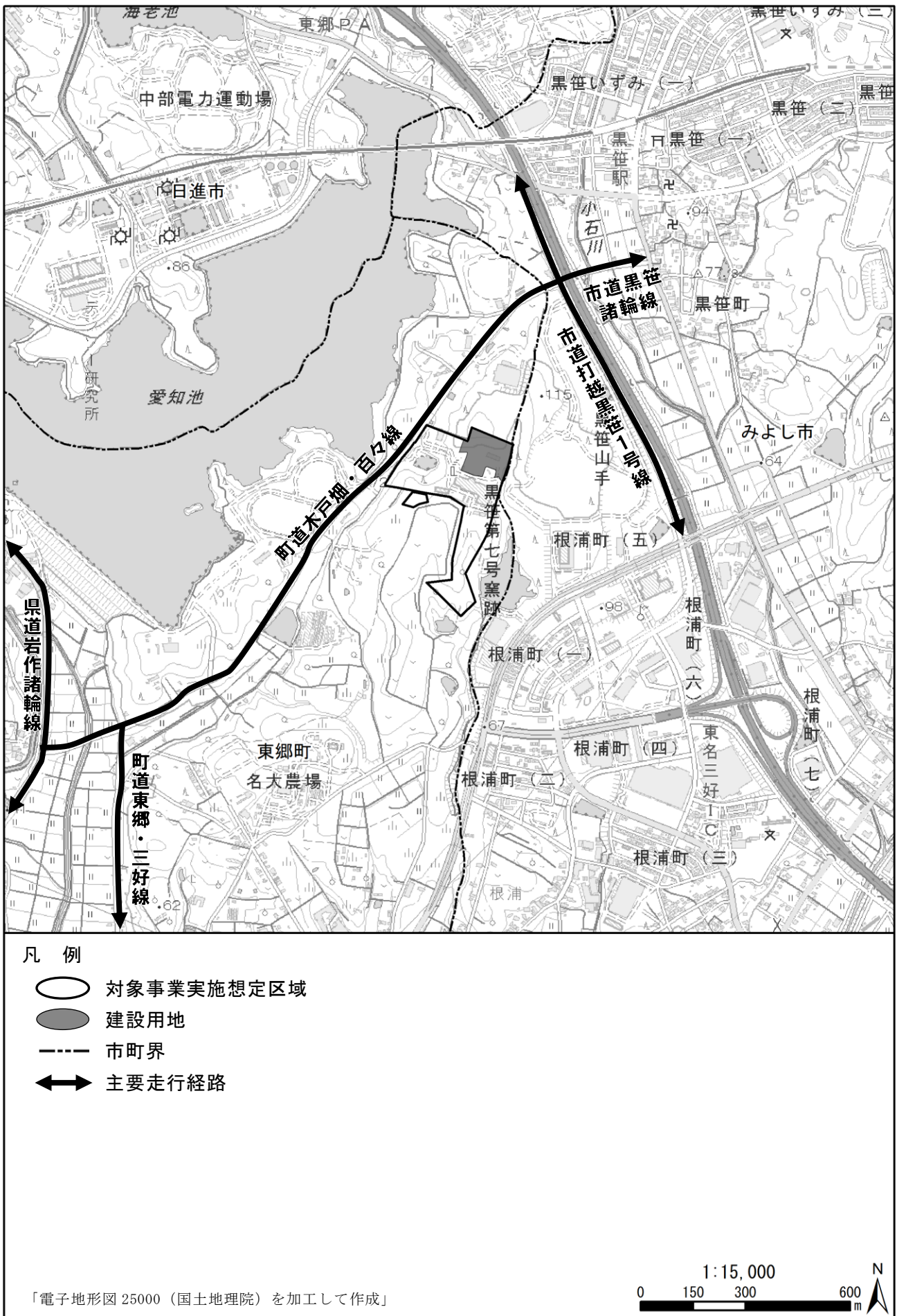


図 2.2.7 関係車両の主要走行経路

2.2.5 複数案の設定

「環境影響評価指針」（平成11年愛知県告示第445号）に基づき、本事業における複数案について検討した結果、事業の位置については前掲「2.1.4 建設予定地の選定経緯」に示したとおり「施設整備検討業務報告書」において検討が行われていること、また、規模については前掲「2.2.4 配慮書対象事業の諸元」に示したとおり、「廃棄物処理施設整備基本構想」において既に検討が行われていることから、位置及び規模に関する複数案の設定は行わず、施設の配置及び構造等について複数案を設定する。

複数案の設定について検討した結果は、次に示すとおりである。

(1) 対象事業実施想定区域の位置

対象事業実施想定区域の位置については、前掲「2.1.4 建設予定地の選定経緯」に示したとおり、「施設整備検討業務報告書」において候補地選定が行われているため、愛知郡東郷町大字諸輪字百々51番地23の1案とする。

対象事業実施想定区域については、既存施設用地、駐車場、ストックヤード等として整備・利用されている約7.8haの1案とする。

なお、この区域内で既存施設を稼働しながら新施設の建設を行うことが可能であることを確認している。

(2) 事業の規模（処理能力）

ごみ焼却施設の処理能力は、前掲「2.2.4 配慮書対象事業の諸元」に示したとおり、「廃棄物処理施設整備基本構想」及び「地域計画」において検討されているため、191t/日の1案とする。

(3) 施設の規模・配置

建屋の規模について、類似事例などを参考に、想定される最大の大きさとして、表2.2.6に示すとおり設定する。

表 2.2.6 設定した建屋の規模

| 項目 | | 規模 |
|----|-------|--------------|
| 建屋 | 縦（短辺） | 65m（40m＋25m） |
| | 横（長辺） | 80m |
| | 高さ | 39m |

施設の配置について、既存施設の稼働を継続しながら新施設の建設を行うことから、計画施設の配置は概ね限られるが、その中で煙突の配置について複数案を設定することとし、A案（煙突東側配置）とB案（煙突中央配置）の2案とする。

設定した複数案は、図2.2.8に示すとおりである。

(4) 施設の構造等

① 処理方式

処理方式は、前掲「2.2.4 配慮書対象事業の諸元」に示したとおり、今後専門家等により構成する委員会において検討を行うこととしているため、処理方式の複数案は設定せず、どの処理方式でも対応可能な計画内容を前提とする。

② 煙突の高さ

煙突高さについては、既存施設は 59m であるが、これまで環境面で問題が生じていないことや、煙突を高くすることによるコストや景観面への影響等を勘案し、既存施設と同様の 59m の 1 案とする。

なお、本事業は、既存施設の老朽化が進む中、3R（発生抑制、再使用、再生利用）の推進によるごみ減量施策にも限界があり、また、「尾張東部・尾三地域広域化計画」において、本組合及び尾張東部衛生組合のそれぞれが単独で新施設を建設することとしていることから、ゼロ・オプション（当該事業を実施しない案）は設定しない。

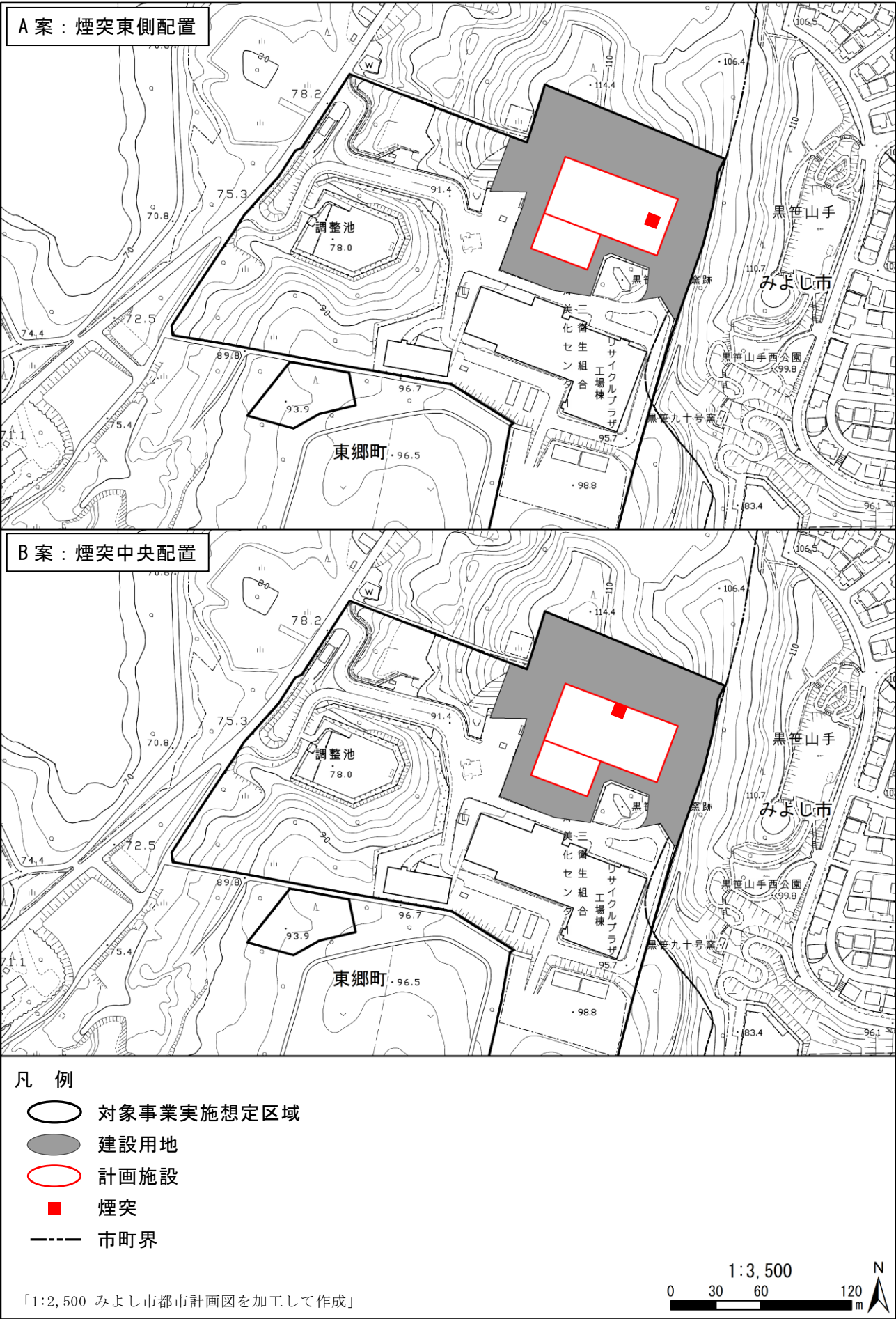


図 2.2.8 設定した複数案

第 3 章 配慮書対象事業実施想定区域及び その周囲の概況

第3章 配慮書対象事業実施想定区域及びその周囲の概況

配慮書対象事業が実施されるべき区域及びその周囲の自然的社会的状況（以下、「地域特性」という。）を把握するにあたっては、図 3.1 に示す範囲（以下、「対象事業実施想定区域及びその周囲」という。）を基本とし、適宜、調査対象項目により適切な範囲を設定した。

なお、対象事業実施想定区域及びその周囲の範囲は対象事業実施想定区域から概ね半径 3km を基本としており、設定にあたっては本事業による環境への影響が最も広範囲に及ぶものとして考えられる煙突排出ガスの最大着地濃度出現予想距離をもとに、次の点を勘案して設定した。

- ・「廃棄物処理施設生活環境影響調査指針」（平成 18 年 9 月環境省）において、煙突排出ガスによる影響の調査対象地域として、最大着地濃度出現予想距離の概ね 2 倍を見込んで設定した例が示されている。
- ・類似事例（処理能力：200t/日～660t/日、煙突実体高：59m～100m）のシミュレーションにおいて、年平均値の最大着地濃度出現予想距離が概ね 1km 程度の結果であった。

また、市町村単位で公表されている統計資料等については、愛知県愛知郡東郷町、日進市、みよし市及び豊田市の全域を範囲とした。

第3章 配慮書対象事業実施想定区域及びその周囲の概況

3.1 自然的状況

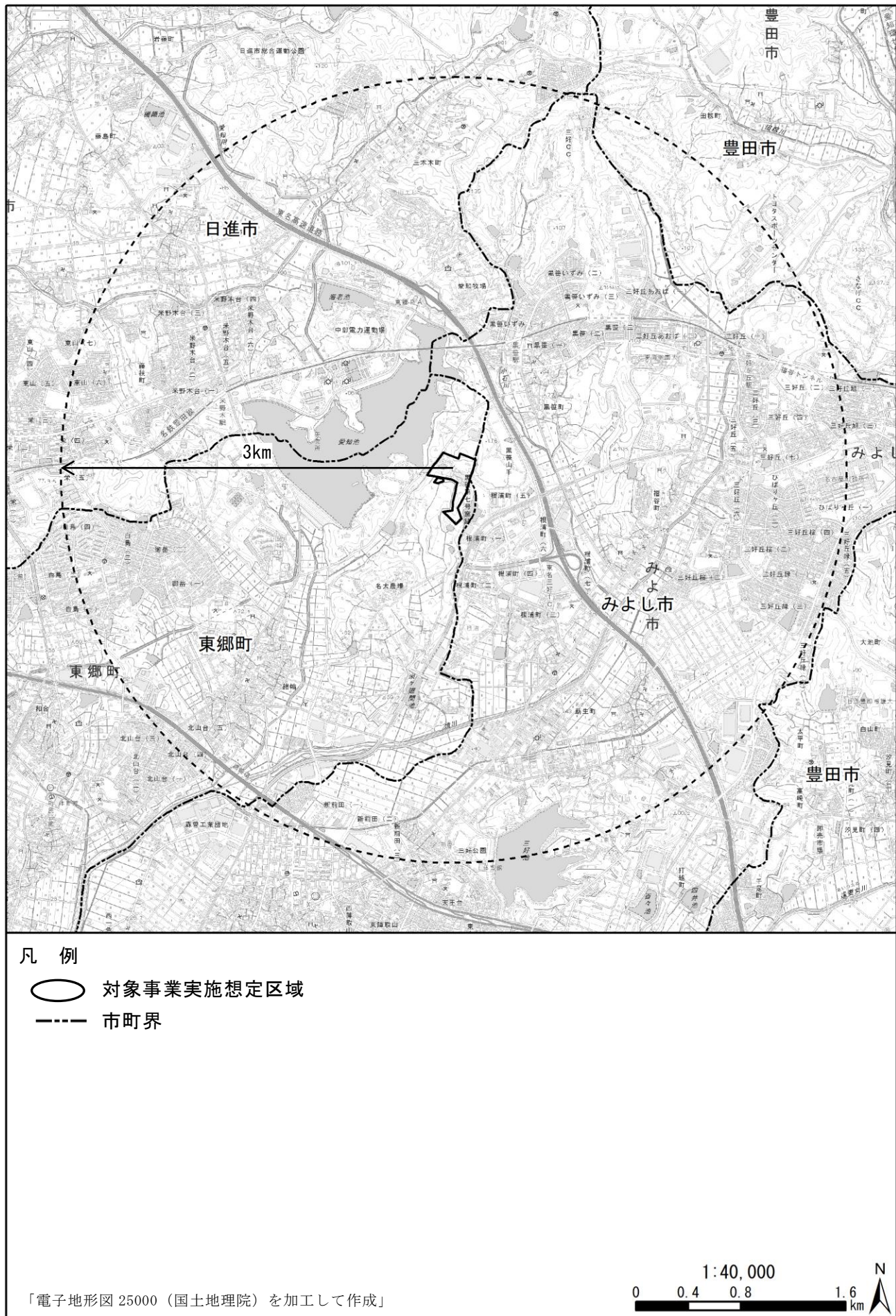


図 3.1 対象事業実施想定区域及びその周囲

3.1 自然的状況

3.1.1 気象・大気質その他の大気に係る環境の状況

3.1.1.1 気象

対象事業実施想定区域の位置する東郷町は、比較的温暖で「東郷の統計 令和6年版(2024)」(令和6年12月 東郷町)によると、令和5年の平均気温は16.6℃となっており、年間降水量は1,457.0mmと夏に多く冬に少ない太平洋岸式気候となっている。

対象事業実施想定区域及びその周囲には気象観測所が存在しないため、対象事業実施想定区域から北西に約12.2kmの位置にある名古屋地方気象台の観測結果により、気温、降水量、風向・風速及び日照時間を把握した。なお、対象事業実施想定区域の東北東約8.3kmに豊田地域気象観測所もあるが、周辺の地形や対象事業実施想定区域における過去の測定データ等と比較すると、豊田地域気象観測所は、周囲を北西～北～南東にかけて山地・丘陵に囲まれており、その中を北東から南西に向かって流れる矢作川に沿ったような主風向帯となっている。周辺が開けた名古屋地方気象台のほうが、より事業計画地に類似性が高いと考えられることから、名古屋地方気象台の観測結果により把握することとした。

名古屋地方気象台の位置は、図3.1.1に示すとおりである。



図 3.1.1 気象観測地点

(1) 気温・降水量

名古屋地方気象台における令和2～令和6年の月別平均気温は表3.1.1に、月別降水量は表3.1.2に示すとおりである。また、月別平均気温及び降水量の変化は、図3.1.2に示すとおりである。

令和2～令和6年の5年平均値は、年間平均気温が17.2℃であり、月別平均気温は8月が29.2℃で最も高く、1月が5.6℃で最も低くなっている。

また、降水量については、5年平均値は年間降水量が1,713.0mmであり、月別降水量は7月が276.5mmで最も多く、1月が38.5mmで最も少なくなっている。

表 3.1.1 名古屋地方気象台における月別平均気温（令和2～令和6年）

単位：℃

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 年間 平均値 |
|------|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|-----------|
| 令和2年 | 7.6 | 7.1 | 10.7 | 13.4 | 20.6 | 24.6 | 25.4 | 30.3 | 25.4 | 18.0 | 14.0 | 7.4 | 17.0 |
| 令和3年 | 5.0 | 7.5 | 12.0 | 15.2 | 19.5 | 23.4 | 27.4 | 27.8 | 24.1 | 19.9 | 13.0 | 7.3 | 16.8 |
| 令和4年 | 4.1 | 4.5 | 11.0 | 16.8 | 19.5 | 24.3 | 27.5 | 28.5 | 26.1 | 18.7 | 14.6 | 6.6 | 16.9 |
| 令和5年 | 5.2 | 6.5 | 12.7 | 15.9 | 20.2 | 23.8 | 28.9 | 29.4 | 27.3 | 18.3 | 13.6 | 8.4 | 17.5 |
| 令和6年 | 6.0 | 8.1 | 9.0 | 17.5 | 19.7 | 23.8 | 29.4 | 30.2 | 28.2 | 21.6 | 14.6 | 7.0 | 17.9 |
| 平均値 | 5.6 | 6.7 | 11.1 | 15.8 | 19.9 | 24.0 | 27.7 | 29.2 | 26.2 | 19.3 | 14.0 | 7.3 | 17.2 |

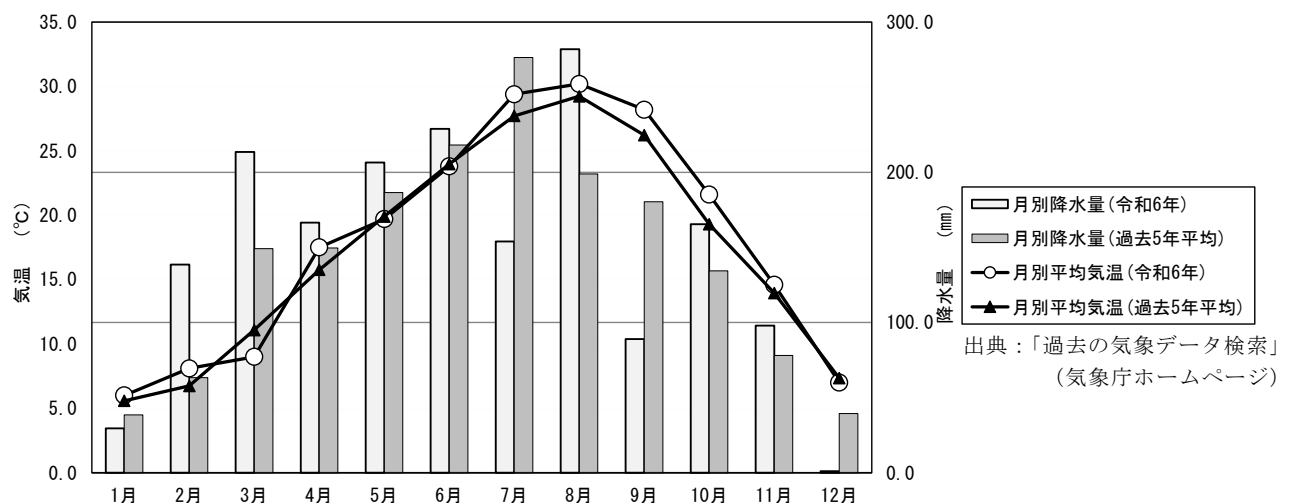
出典：「過去の気象データ検索」（気象庁ホームページ）

表 3.1.2 名古屋地方気象台における月別降水量（令和2～令和6年）

単位：mm

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 年間 降水量 |
|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-----------|
| 令和2年 | 55.5 | 53.5 | 149.5 | 111.0 | 135.0 | 230.0 | 405.5 | 13.0 | 230.5 | 269.0 | 36.5 | 22.0 | 1,711.0 |
| 令和3年 | 56.5 | 46.5 | 203.5 | 192.0 | 254.0 | 137.0 | 312.5 | 347.0 | 224.0 | 65.0 | 71.5 | 89.0 | 1,998.5 |
| 令和4年 | 26.0 | 34.0 | 84.5 | 134.5 | 164.0 | 117.5 | 366.5 | 196.0 | 260.0 | 56.0 | 114.0 | 25.0 | 1,578.0 |
| 令和5年 | 25.0 | 44.0 | 95.0 | 144.0 | 173.0 | 377.5 | 144.0 | 156.5 | 98.5 | 116.5 | 70.5 | 60.0 | 1,504.5 |
| 令和6年 | 29.5 | 138.5 | 213.5 | 166.5 | 206.5 | 229.0 | 154.0 | 282.0 | 89.0 | 165.5 | 98.0 | 1.0 | 1,773.0 |
| 平均値 | 38.5 | 63.3 | 149.2 | 149.6 | 186.5 | 218.2 | 276.5 | 198.9 | 180.4 | 134.4 | 78.1 | 39.4 | 1,713.0 |

出典：「過去の気象データ検索」（気象庁ホームページ）



出典：「過去の気象データ検索」（気象庁ホームページ）

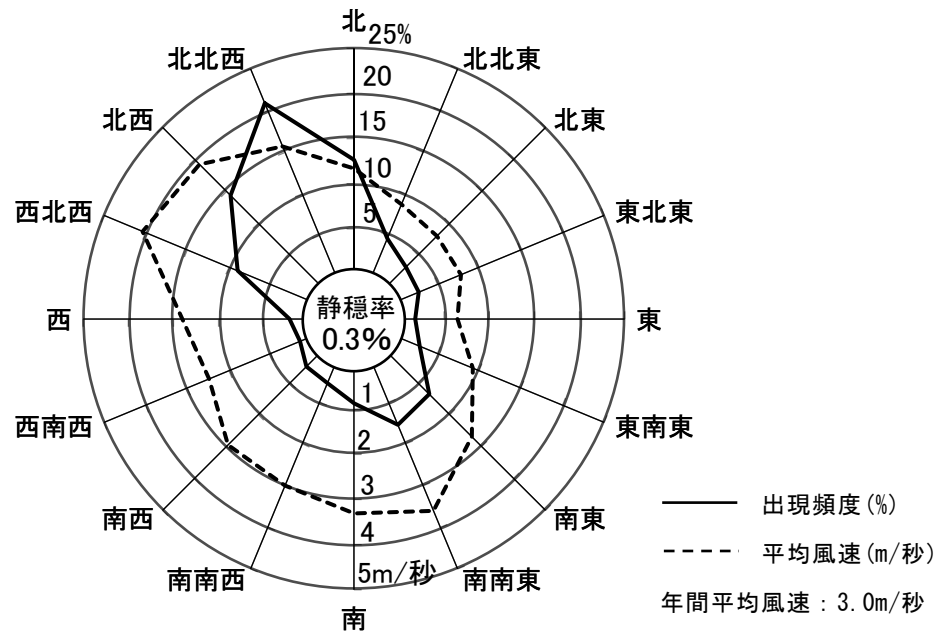
図 3.1.2 名古屋気象台における月別平均気温及び降水量（令和2～令和6年）

(2) 風向・風速

① 名古屋地方気象台

名古屋地方気象台における令和6年の風配図は、図3.1.3に示すとおりである。

令和6年の風配図をみると、風向出現頻度は北北西の風が20.9%と最も多く、年間平均風速は3.0m/秒となっている。



| 風向 | 北 | 北北東 | 北東 | 東北東 | 東 | 東南東 | 南東 | 南南東 |
|------------|------|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|
| 出現頻度 (%) | 12.6 | 4.7 | 3.1 | 2.8 | 1.8 | 2.9 | 6.8 | 7.7 |
| 平均風速 (m/秒) | 2.3 | 1.7 | 1.6 | 1.6 | 1.3 | 1.9 | 2.7 | 3.6 |
| 風向 | 南 | 南南西 | 南西 | 西南西 | 西 | 西北西 | 北西 | 北北西 |
| 出現頻度 (%) | 4.3 | 2.7 | 2.4 | 1.5 | 2.2 | 9.0 | 14.4 | 20.9 |
| 平均風速 (m/秒) | 3.3 | 3.0 | 3.0 | 2.5 | 2.8 | 4.1 | 3.8 | 3.1 |

注) 静穏：0.2m/秒以下。
出典：「過去の気象データ検索」（気象庁ホームページ）

図 3.1.3 名古屋地方気象台における風向・風速及び出現頻度（令和6年）

(3) 日照時間

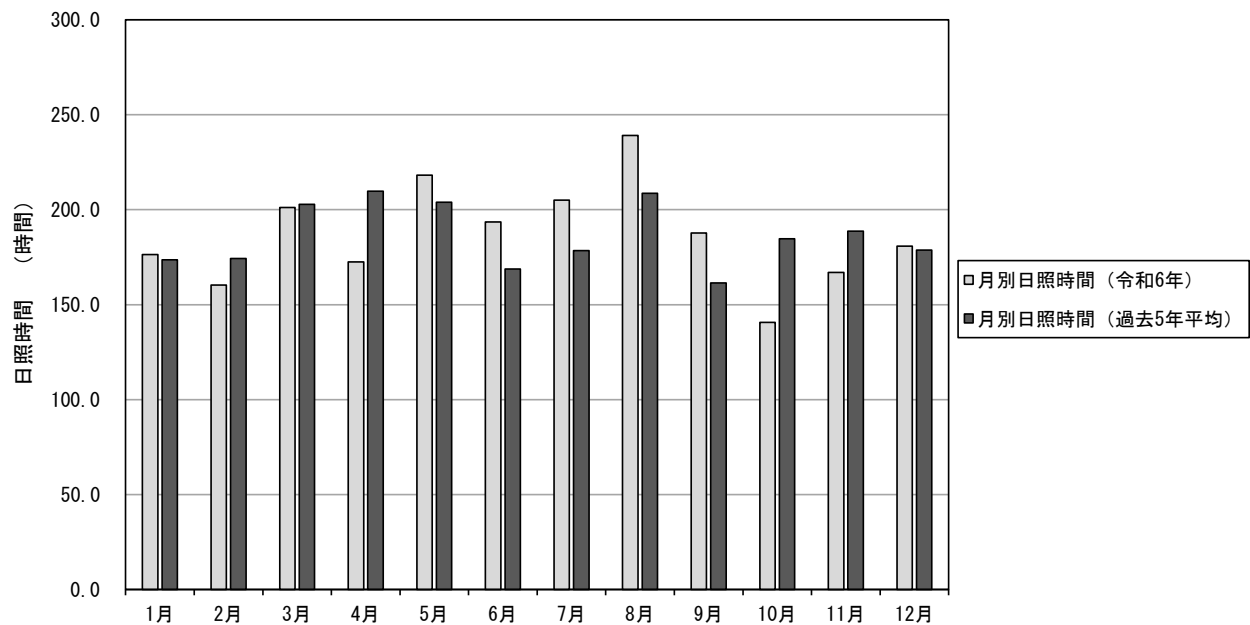
名古屋地方気象台における令和2～令和6年の月別日照時間は、表 3.1.3 及び図 3.1.4 に示すとおりである。

令和2～令和6年の5年平均値は、年間日照時間が2,234.2時間であり、月別日照時間は4月が209.8時間で最も長く、9月が161.5時間で最も短くなっている。

表 3.1.3 名古屋地方気象台における月別日照時間（令和2～令和6年）

単位：時間

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 年間日照時間 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 令和2年 | 146.6 | 184.2 | 201.1 | 254.9 | 213.6 | 164.2 | 78.2 | 265.5 | 148.5 | 178.2 | 202.5 | 178.3 | 2,215.8 |
| 令和3年 | 161.7 | 164.8 | 192.8 | 219.5 | 151.9 | 153.7 | 175.2 | 167.1 | 126.1 | 197.1 | 200.2 | 168.0 | 2,078.1 |
| 令和4年 | 196.8 | 170.9 | 205.3 | 200.2 | 210.5 | 203.8 | 192.8 | 155.5 | 163.8 | 189.8 | 191.7 | 175.2 | 2,256.3 |
| 令和5年 | 186.9 | 191.4 | 213.6 | 202.0 | 225.8 | 128.8 | 241.5 | 216.2 | 181.3 | 217.4 | 182.2 | 191.3 | 2,378.4 |
| 令和6年 | 176.4 | 160.3 | 201.2 | 172.5 | 218.2 | 193.6 | 205.0 | 239.1 | 187.7 | 140.7 | 167.0 | 180.8 | 2,242.5 |
| 平均値 | 173.7 | 174.3 | 202.8 | 209.8 | 204.0 | 168.8 | 178.5 | 208.7 | 161.5 | 184.6 | 188.7 | 178.7 | 2,234.2 |



出典：「過去の気象データ検索」（気象庁ホームページ）

図 3.1.4 名古屋地方気象台における月別日照時間（令和2～令和6年）

3.1.1.2 大気質

対象事業実施想定区域及びその周囲の大気質については、半径約3kmの範囲に大気汚染常時監視測定局が存在しないことから、対象範囲を広げ、図3.1.5に示す範囲に位置する大気汚染常時監視測定局4局（東郷町春木測定局、日進市五色園測定局、中部局（三軒町）、日進市上納池スポーツ公園測定局）における大気質の測定結果を用いて把握した。東郷町春木測定局、日進市五色園測定局及び中部局（三軒町）は一般局、日進市上納池スポーツ公園測定局は自動車排出ガス測定局である。常時監視測定項目は表3.1.4(1)に示すとおりである。

ダイオキシン類については表3.1.4(1)に示すとおり、東郷町春木測定局及び中部局（三軒町）で測定が実施されている。

有害大気汚染物質については、中部局（三軒町）で測定が行われている。

降下ばいじん量については、表3.1.4(2)に示すとおり、みよし市で測定が実施されている。

また、みよし市では毎年異なる地点で大気汚染調査が実施されており、対象範囲内の最新の調査は、令和4年度に表3.1.4(3)に示すとおり自動車排気ガス調査が行われている。

ダイオキシン類、降下ばいじん量及びみよし市の大気汚染調査の調査地点位置は図3.1.5に示すとおりである。

表 3.1.4(1) 各大気汚染常時監視測定局における常時監視測定項目（令和6年度）

| 種別 | 測定局 | 測定項目 | | | | | | 対象事業実施 想定区域からの 距離 |
|-----|---------------------|---------------------------------|---------------------------------|--------------------------|---------------------------|----------------------------|-------------|-------------------------|
| | | 二酸化 硫黄 (SO ₂) | 二酸化 窒素 (NO ₂) | 浮遊 粒子状 物質 (SPM) | 光化学 オキシ ダント (Ox) | 微小 粒子状 物質 (PM2.5) | ダイオキ シン類 | |
| 一般局 | 東郷町春木測定局 | — | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 約4.0km |
| | 日進市五色園測定局 | ○ | ○ | ○ | ○ | — | — | 約4.2km |
| | 中部局（三軒町） | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 約6.2km |
| 自排局 | 日進市上納池 スポーツ公園測定局 | — | ○ | ○ | — | — | — | 約6.2km |

出典：「2024年度 大気汚染調査結果」（令和7年6月 愛知県）
「2024年度におけるダイオキシン類の環境調査及び事業者による測定の結果について」（愛知県ホームページ）

表 3.1.4(2) 降下ばいじん量測定地点（みよし市：令和5年度）

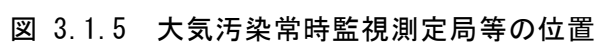
| 測定地点 | 降下ばいじん量 |
|-------|---------|
| 北部小学校 | ○ |
| 緑丘小学校 | ○ |

出典：「令和6(2024)年度みよしの環境【令和5(2023)年度実績】」（令和7年3月 みよし市）

表 3.1.4(3) 自動車排気ガス測定地点（みよし市：令和4年度）

| 測定地点 | 自動車排気ガス |
|--------------------------------|---------|
| 愛知用水土地改良区事務所 (みよし市三好町上砂後地内) | ○ |

調査期間：令和4年10月13日～11月2日
出典：「令和5(2023)年度みよしの環境【令和4(2022)年度実績】」（令和6年3月 みよし市）



(1) 二酸化硫黄 (SO₂)

対象事業実施想定区域及びその周囲の一般環境大気測定局における二酸化硫黄の令和6年度の測定結果は表3.1.5に、過去5年間の経年変化は図3.1.6に示すとおりである。

令和6年度の測定結果をみると、すべての測定局で環境基準（短期的評価及び長期的評価）を達成している。

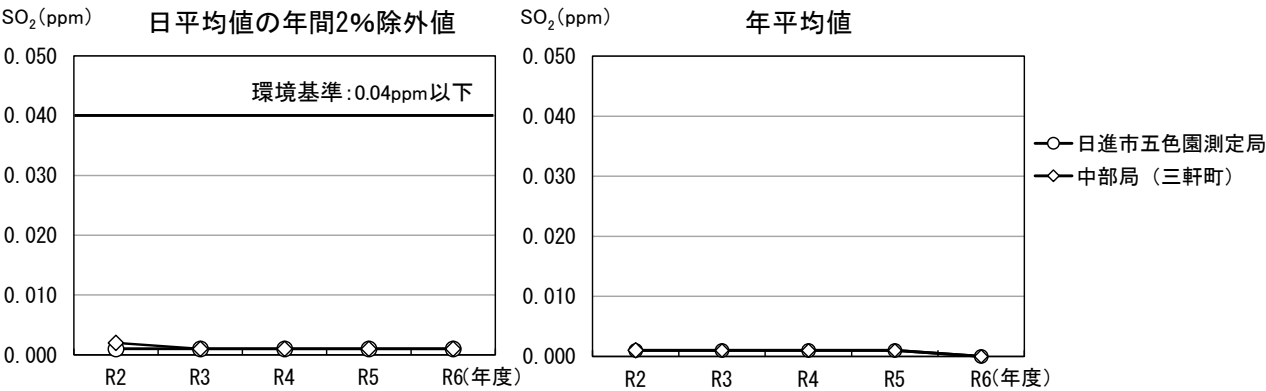
また、日平均値の2%除外値^{注)}の経年変化をみると、過去5年間に於いて環境基準を達成しており、年平均値は概ね横ばいとなっている。

注) 1年間に測定されたすべての日平均値（欠測日を除く）を、1年間での最高値を第1番目として、値の高い方から低い方に順（降順）に並べたとき、高い方（最高値）から数えて2%分の日数に1を加えた番号に該当する日平均値。

表 3.1.5 二酸化硫黄の測定結果（令和6年度）

| 種別 | 測定局 | 年平均値 | 短期的評価 | | | | 長期的評価 | | 環境基準との比較 ^{注)} |
|-----|-----------|-------|-------------------------|-----|-----------------------------|-----|------------|----------------------------------|------------------------|
| | | | 1時間値が0.1ppmを超えた時間数とその割合 | | 日平均値が0.04ppmを連続して超えた日数とその割合 | | 日平均値の2%除外値 | 1日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無 | |
| | | (ppm) | (時間) | (%) | (日) | (%) | (ppm) | (有×・無○) | (達成○・非達成×) |
| 一般局 | 日進市五色園測定局 | 0.000 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0.001 | ○ | ○ |
| | 中部局（三軒町） | 0.000 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0.001 | ○ | ○ |

注) ○は長期的評価による環境基準（日平均値の2%除外値が0.04ppm以下であり、かつ、日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続していないこと）達成局。
出典：「2024年度 大気汚染調査結果」（令和7年6月 愛知県）



出典：「2020年度～2024年度 大気汚染調査結果」（愛知県）

図 3.1.6 二酸化硫黄の経年変化

(2) 二酸化窒素 (NO₂)

対象事業実施想定区域及びその周囲の一般環境大気測定局及び自動車排出ガス測定局における二酸化窒素の令和6年度の測定結果は表 3.1.6 に、過去5年間の経年変化は図 3.1.7 に示すとおりである。

令和6年度の測定結果をみると、すべての測定局で環境基準（長期的評価）を達成している。また、日平均値の年間98%値^{注)}の経年変化をみると、過去5年間に於いてすべての測定局で環境基準を達成しており、年平均値は概ね横ばいとなっている。

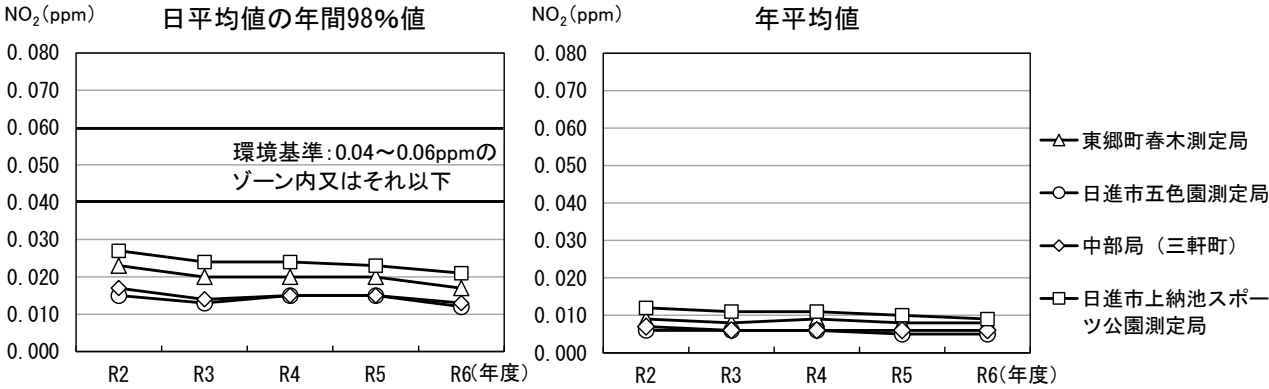
注) 1年間に測定されたすべての日平均値（欠測日を除く。）を、1年間での最低値を第1番目として、値の低い方から高い方に順（昇順）に並べたとき、低い方（最低値）から数えて98%目に該当する日平均値。

表 3.1.6 二酸化窒素の測定結果（令和6年度）

| 種別 | 測 定 局 | 年 平均値 | 環境基準との比較 | | | | 1 時間値 の最高値 | 長期的評価 | |
|-----|---------------------|----------|--|-----|---|-----|---------------|-----------------|--------------------------------|
| | | | 1 日平均値が 0.06ppm を 超えた日数とそ の割合 | | 1 日平均値が 0.04ppm 以上 0.06ppm 以下の 日数とその割合 | | | 日平均値の 年間98%値 | 環境基準 との 比較 ^{注)} |
| | | (ppm) | (日) | (%) | (日) | (%) | (ppm) | (ppm) | (達成○・ 非達成×) |
| 一般局 | 東郷町春木 測定局 | 0.008 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0.047 | 0.017 | ○ |
| | 日進市五色園 測定局 | 0.005 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0.045 | 0.012 | ○ |
| | 中部局（三軒町） | 0.006 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0.040 | 0.013 | ○ |
| 自排局 | 日進市上納池スポ ーツ公園測定局 | 0.009 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0.045 | 0.021 | ○ |

注) ○は長期的評価による環境基準（日平均値の年間98%値が0.06ppm以下であること。）達成局。

出典：「2024年度 大気汚染調査結果」（令和7年6月 愛知県）



出典：「2020年度～2024年度 大気汚染調査結果」（愛知県）

図 3.1.7 二酸化窒素の経年変化

(3) 浮遊粒子状物質（SPM）

対象事業実施想定区域及びその周囲の一般環境大気測定局及び自動車排出ガス測定局における浮遊粒子状物質の令和6年度の測定結果は表 3.1.7 に、過去5年間の経年変化は図 3.1.8 に示すとおりである。

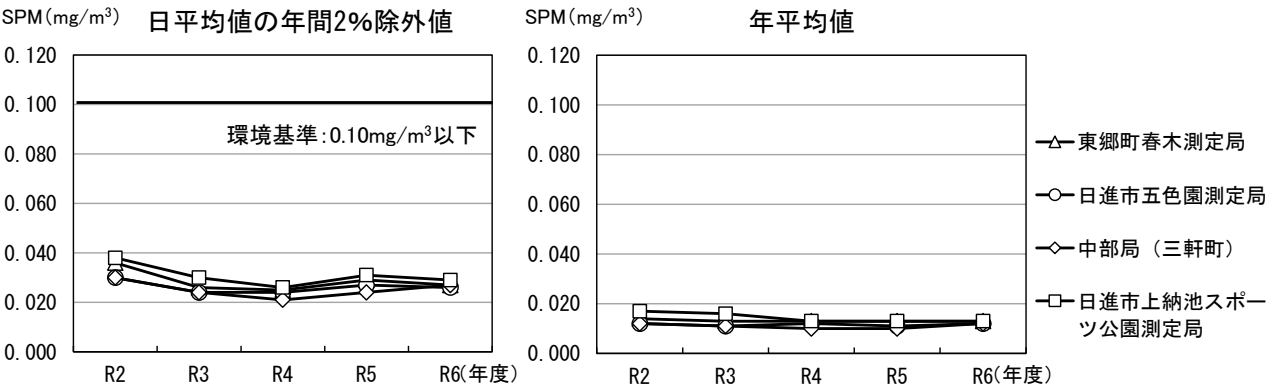
令和6年度の測定結果をみると、すべての測定局で環境基準（短期的評価及び長期的評価）を達成している。

また、日平均値の年間2%除外値の経年変化をみると、過去5年間に於いてすべての測定局で環境基準（長期的評価）を達成しており、年平均値は概ね横ばいとなっている。

表 3.1.7 浮遊粒子状物質の測定結果（令和6年度）

| 種別 | 測定局 | 年平均値 | 短期的評価 | | | | | 長期的評価 | | |
|-----|-----------------|----------------------|---|-----|--|-----|-------------------------|----------------------|--|-------------------------|
| | | | 1時間値が0.20mg/m ³ を超えた時間数とその割合 | | 日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数とその割合 | | 環境基準との比較 ^{注1)} | 日平均値の年間2%除外値 | 日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日が2日以上連続したことの有無 | 環境基準との比較 ^{注2)} |
| | | (mg/m ³) | (時間) | (%) | (日) | (%) | (達成○・非達成×) | (mg/m ³) | (有×・無○) | (達成○・非達成×) |
| 一般局 | 東郷町春木測定局 | 0.013 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | ○ | 0.027 | ○ | ○ |
| | 日進市五色園測定局 | 0.012 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | ○ | 0.026 | ○ | ○ |
| | 中部局(三軒町) | 0.012 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | ○ | 0.027 | ○ | ○ |
| 自排局 | 日進市上納池スポーツ公園測定局 | 0.013 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | ○ | 0.029 | ○ | ○ |

注1) ○は短期的評価による環境基準（1時間値が0.20mg/m³以下で、かつ、1日平均値が0.10mg/m³以下であること。）達成局。
注2) ○は長期的評価による環境基準（日平均値の2%除外値が0.10mg/m³以下で、かつ、日平均値が0.10mg/m³を超えた日が2日以上連続していないこと。）達成局。
出典：「2024年度 大気汚染調査結果」（令和7年6月 愛知県）



出典：「2020年度～2024年度 大気汚染調査結果」（愛知県）

図 3.1.8 浮遊粒子状物質の経年変化

(4) 光化学オキシダント (O_x)

対象事業実施想定区域及びその周囲の一般環境大気測定局における、光化学オキシダントの令和6年度の測定結果は表 3.1.8 に、過去5年間の経年変化は図 3.1.9 に示すとおりである。

令和6年度の光化学オキシダントの昼間の年平均値は0.034～0.037ppmである。また、昼間の1時間値の最高値をみると、すべての測定局において環境基準を達成していない。

また、経年変化をみると、過去5年間に於いて、昼間年平均値は概ね横ばいとなっており、昼間の1時間値の最高値は、すべての測定局で環境基準非達成の状況である。

なお、光化学オキシダントについて環境基準の達成状況が低いのは、当該地域特有ではなく全国的な傾向である。

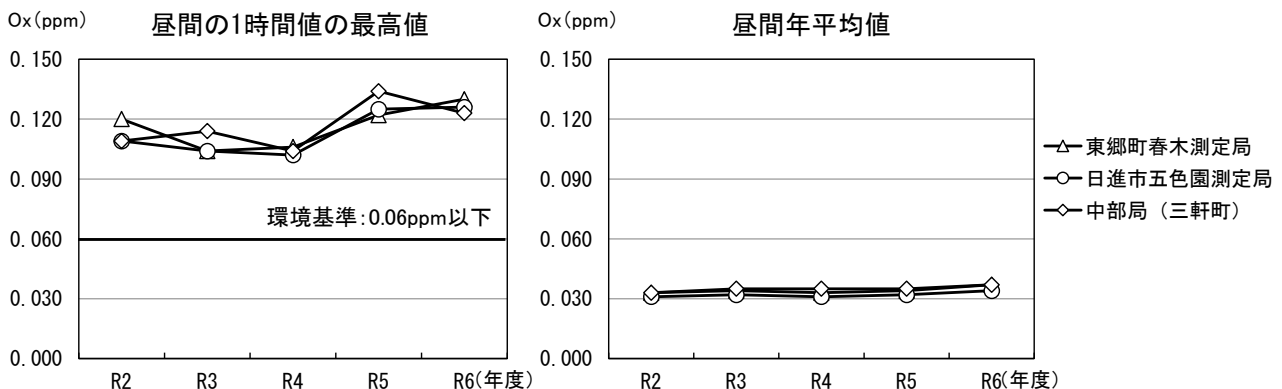
表 3.1.8 光化学オキシダントの測定結果（令和6年度）

| 種別 | 測 定 局 | 昼間 年平均値 | 短期的評価 | | | | | 昼間の 1 時間値の 最高値 |
|-----|---------------|------------|--|------|-----|------------------------------------|------------|----------------------|
| | | | 昼間 ^{注 1)} の 1 時間値が 0.06ppm を 超えた時間数及び日数とその割合 | | | 環 境 基 準 と の 比 較 ^{注 2)} | | |
| | | (ppm) | (時間) | (%) | (日) | (%) | (達成○・非達成×) | (ppm) |
| 一般局 | 東郷町春木 測定局 | 0.037 | 485 | 8.9 | 101 | 27.7 | × | 0.130 |
| | 日進市五色園 測定局 | 0.034 | 410 | 7.6 | 90 | 24.8 | × | 0.126 |
| | 中部局（三軒町） | 0.037 | 598 | 11.1 | 119 | 32.6 | × | 0.123 |

注1) 昼間とは5時～20時を示す。

注2) ×は短期的評価による環境基準（1時間値が0.06ppm以下であること。）非達成局。

出典：「2024年度 大気汚染調査結果」（令和7年6月 愛知県）



出典：「2020年度～2024年度 大気汚染調査結果」（愛知県）

図 3.1.9 光化学オキシダントの経年変化

(5) 微小粒子状物質（PM2.5）

対象事業実施想定区域及びその周囲の一般環境大気測定局における微小粒子状物質の令和6年度の測定結果は表 3.1.9 に、過去5年間の年平均値の経年変化は図 3.1.10 に示すとおりである。

令和6年度の測定結果をみると、すべての測定局で環境基準（短期基準及び長期基準）を達成している。

また、年平均値の経年変化をみると、過去5年間に於いて環境基準（長期基準）を達成しており、概ね横ばいとなっている。

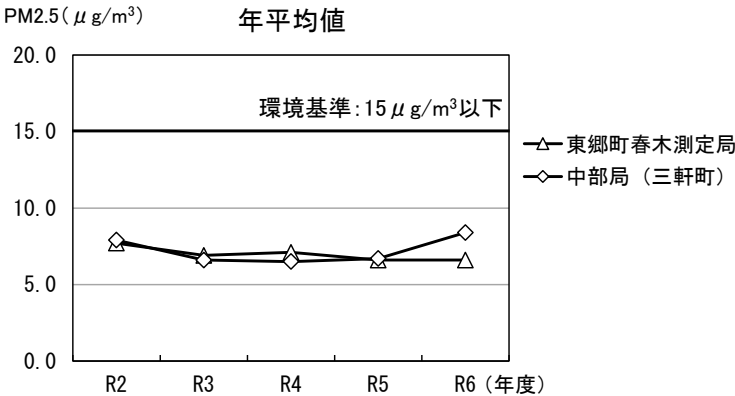
表 3.1.9 微小粒子状物質の測定結果（令和6年度）

| 種別 | 測定局 | 長期的評価 | | | | | |
|-----|--------------|---|-----|------------------------------|-----------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| | | 短期基準（1日平均値） | | | 長期基準 | | |
| | | 1日平均値が 35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた 日数とその割合 | | 1日平均値の 年間98%値 | 環境基準と の比較 ^{注1)} | 年平均値 | 環境基準と の比較 ^{注2)} |
| | | (日) | (%) | ($\mu\text{g}/\text{m}^3$) | (達成○・ 非達成×) | ($\mu\text{g}/\text{m}^3$) | (達成○・ 非達成×) |
| 一般局 | 東郷町春木 測定局 | 1 | 0.3 | 17.8 | ○ | 6.6 | ○ |
| | 中部局（三 軒町） | 1 | 0.3 | 19.1 | ○ | 8.4 | ○ |

注1) ○は短期基準による環境基準（1日平均値の年間98%値が35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。）達成局。

注2) ○は長期基準による環境基準（1年平均値が15 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。）達成局。

出典：「2024年度 大気汚染調査結果」（令和7年6月 愛知県）



出典：「2020年度～2024年度 大気汚染調査結果」（愛知県）

図 3.1.10 微小粒子状物質（年平均値）の経年変化

(6) ダイオキシン類

対象事業実施想定区域及びその周囲におけるダイオキシン類の令和6年度の測定結果は表3.1.10に、過去5年間の年平均値の経年変化は図3.1.11に示すとおりである。

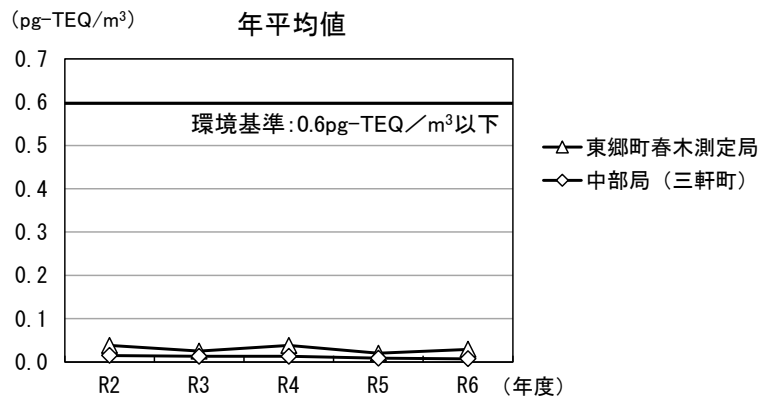
令和6年度の測定結果をみると、すべての測定局で環境基準を達成している。また、年平均値の経年変化をみると、過去5年間に於いて環境基準を達成しており、概ね横ばいとなっている。

表 3.1.10 ダイオキシン類の測定結果（令和6年度）

| 測定地点 | 測定結果 (pg-TEQ/m ³) | | | | | 環境基準の 達成状況 ^{注)} (達成○・非達成×) |
|----------|-------------------------------|--------|-------|--------|--------|---|
| | 春季 | 夏季 | 秋季 | 冬季 | 平均値 | |
| 東郷町春木測定局 | 0.011 | 0.034 | 0.052 | 0.018 | 0.029 | ○ |
| 中部局（三軒町） | 0.0062 | 0.0040 | 0.012 | 0.0075 | 0.0074 | ○ |

注) ○は環境基準（年間平均値が0.6pg-TEQ/m³以下であること。）達成地点。

出典：「2024年度におけるダイオキシン類の環境調査及び事業者による測定の結果について」（愛知県ホームページ）



出典：「2020年度～2024年度におけるダイオキシン類の環境調査及び事業者による測定の結果について」（愛知県ホームページ）

図 3.1.11 ダイオキシン類（年平均値）の経年変化

(7) 有害大気汚染物質

① 環境基準の定められている物質

対象事業実施想定区域及びその周囲における有害大気汚染物質（環境基準設定物質）の令和5年度の測定結果は表 3.1.11 に、過去5年間の年平均値の経年変化は図 3.1.12 に示すとおりである。

令和5年度の測定結果をみると、いずれの項目も環境基準を達成している。また、年平均値の経年変化をみると、過去5年間に於いて環境基準を達成しており、概ね横ばいとなっている。

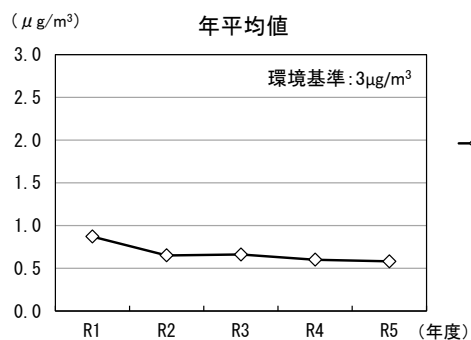
表 3.1.11 有害大気汚染物質（環境基準設定物質）の測定結果（令和5年度）

| 測定地点 | 測定項目 | 単位 | 年平均値 | 環境基準の 達成状況 ^{注)} |
|----------|------------|--------------------------|-------|-----------------------------|
| | | | | (達成○・非達成×) |
| 中部局（三軒町） | ベンゼン | $\mu\text{g}/\text{m}^3$ | 0.58 | ○ |
| | トリクロロエチレン | $\mu\text{g}/\text{m}^3$ | 0.050 | ○ |
| | テトラクロロエチレン | $\mu\text{g}/\text{m}^3$ | 0.023 | ○ |
| | ジクロロメタン | $\mu\text{g}/\text{m}^3$ | 1.0 | ○ |

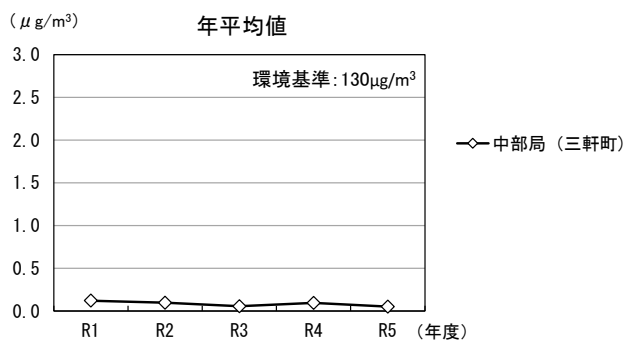
注) ○は環境基準達成地点。

- ・ベンゼン : 年平均値が $0.003\text{mg}/\text{m}^3$ ($3\mu\text{g}/\text{m}^3$) 以下であること。
- ・トリクロロエチレン : 年平均値が $0.13\text{mg}/\text{m}^3$ ($130\mu\text{g}/\text{m}^3$) 以下であること。
- ・テトラクロロエチレン : 年平均値が $0.2\text{mg}/\text{m}^3$ ($200\mu\text{g}/\text{m}^3$) 以下であること。
- ・ジクロロメタン : 年平均値が $0.15\text{mg}/\text{m}^3$ ($150\mu\text{g}/\text{m}^3$) 以下であること。

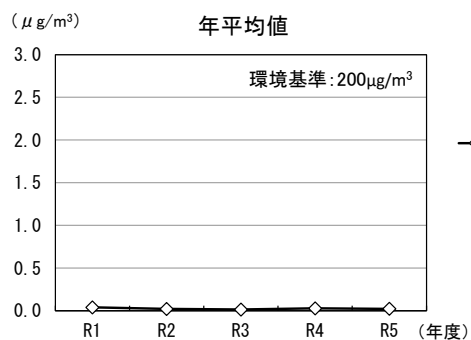
出典：「有害大気汚染物質等調査結果ダウンロード」（愛知県ホームページ）



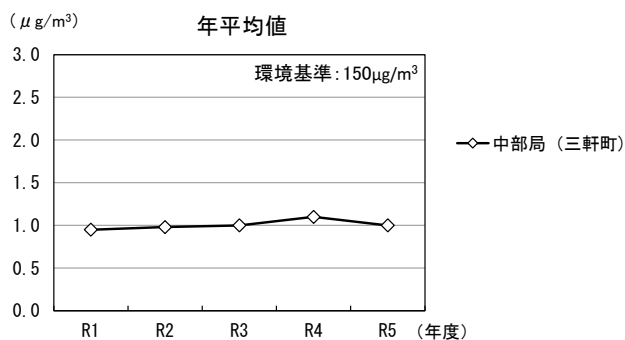
[ベンゼン]



[トリクロロエチレン]



[テトラクロロエチレン]



[ジクロロメタン]

図 3.1.12 有害大気汚染物質（環境基準設定物質、年平均値）の経年変化

② 指針値の定められている物質

対象事業実施想定区域及びその周囲における有害大気汚染物質（指針値設定物質）の令和5年度の測定結果は表 3.1.12 に示すとおりである。

令和5年度の測定結果をみると、いずれの項目も指針値を下回っている。

表 3.1.12 有害大気汚染物質（指針値設定物質）の測定結果（令和5年度）

| 測定地点 | 測定項目 | 単位 | 年平均値 | 指針値の 達成状況 ^{注)} |
|----------|-------------|--------------------------|--------|----------------------------|
| | | | | (達成○・非達成×) |
| 中部局（三軒町） | アクリロニトリル | $\mu\text{g}/\text{m}^3$ | 0.018 | ○ |
| | 塩化ビニルモノマー | $\mu\text{g}/\text{m}^3$ | 0.0050 | ○ |
| | 水銀及びその化合物 | ngHg/m^3 | 1.7 | ○ |
| | ニッケル化合物 | ngNi/m^3 | 1.5 | ○ |
| | クロロホルム | $\mu\text{g}/\text{m}^3$ | 0.095 | ○ |
| | 1,2-ジクロロエタン | $\mu\text{g}/\text{m}^3$ | 0.11 | ○ |
| | 1,3-ブタジエン | $\mu\text{g}/\text{m}^3$ | 0.050 | ○ |
| | ヒ素及びその化合物 | ngAs/m^3 | 0.42 | ○ |
| | マンガン及びその化合物 | ngMn/m^3 | 9.8 | ○ |
| | 塩化メチル | $\mu\text{g}/\text{m}^3$ | 1.4 | ○ |
| | アセトアルデヒド | $\mu\text{g}/\text{m}^3$ | 2.4 | ○ |

注) ○は指針値以下の地点。

指針値：環境中の有害大気汚染物質による健康リスクの低減を図るための指針となる数値（平成15年環管総発第030930004号通知、平成18年環水大総発第061220001号通知、平成22年環水大総発第1010150002号、環水大発第1010150004号通知、平成26年環水大総発第1405011号通知、令和2年環水大総発第2008201号通知）

- ・アクリロニトリル：年平均値が $2\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下
- ・塩化ビニルモノマー：年平均値が $10\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下
- ・水銀及びその化合物：年平均値が $0.04\mu\text{gHg}/\text{m}^3$ （ $40\text{ngHg}/\text{m}^3$ ）以下
- ・ニッケル化合物：年平均値が $0.025\mu\text{gNi}/\text{m}^3$ （ $25\text{ngNi}/\text{m}^3$ ）以下
- ・クロロホルム：年平均値が $18\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下
- ・1,2-ジクロロエタン：年平均値が $1.6\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下
- ・1,3-ブタジエン：年平均値が $2.5\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下
- ・ヒ素及びその化合物：年平均値が $6\text{ngAs}/\text{m}^3$ 以下
- ・マンガン及びその化合物：年平均値が $140\text{ngMn}/\text{m}^3$ 以下
- ・塩化メチル：年平均値が $94\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下
- ・アセトアルデヒド：年平均値が $120\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下

出典：「有害大気汚染物質等調査結果ダウンロード」（愛知県ホームページ）

③ 環境基準及び指針値の定められていない物質

対象事業実施想定区域及びその周囲における有害大気汚染物質（環境基準及び指針値の定められていない物質）の令和5年度の測定結果は表 3.1.13 に示すとおりである。

表 3.1.13 有害大気汚染物質（環境基準及び指針値の定められていない物質）の測定結果（令和5年度）

| 測定地点 | 測定項目 | 単位 | 年平均値 |
|----------|--------------|--------------------------|--------|
| 中部局（三軒町） | ホルムアルデヒド | $\mu\text{g}/\text{m}^3$ | 1.6 |
| | 酸化エチレン | $\mu\text{g}/\text{m}^3$ | 0.053 |
| | ベンゾ(a)ピレン | ng/m^3 | 0.033 |
| | クロム及びその化合物 | ngCr/m^3 | 1.5 |
| | ベリリウム及びその化合物 | ngBe/m^3 | 0.0070 |
| | トルエン | $\mu\text{g}/\text{m}^3$ | 5.2 |

出典：「有害大気汚染物質等調査結果ダウンロード」（愛知県ホームページ）

(8) 降下ばいじん量

対象事業実施想定区域及びその周囲における降下ばいじん量の令和5年度の測定結果は表3.1.14に示すとおりである。

降下ばいじん量については環境基準が設定されていないが、 $5\text{ t/km}^2/\text{月}$ 以下が望ましいとされており、令和5年度の調査結果はいずれの月もこれを下回っている。

表 3.1.14 降下ばいじん量の測定結果（みよし市：令和5年度）

単位： $\text{t/km}^2/\text{月}$

| 測定地点 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 平均 |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 北部小学校 | 3.23 | 2.47 | 4.13 | 1.93 | 4.09 | 0.68 | 1.45 | 0.77 | 1.03 | 1.07 | 0.95 | 1.97 | 1.81 |
| 緑丘小学校 | 1.29 | 3.11 | 2.22 | 1.45 | 2.39 | 0.42 | 2.10 | 1.67 | 1.05 | 0.82 | 0.59 | 1.76 | 1.45 |

注）測定値は条件（測定場所、気象等）の影響を受けるため特に基準は設定されていないが、 $5\text{ t/km}^2/\text{月}$ 以下が望ましいとされている。

出典：「令和6(2024)年度みよしの環境【令和5(2023)年度実績】」（令和7年3月 みよし市）

(9) 自動車排気ガス

みよし市では毎年異なる地点で大気汚染調査が実施されており、対象範囲内の最新の調査は、令和4年度に自動車排気ガス調査が行われている。

測定結果は表3.1.15に示すとおりであり、いずれの項目も環境基準に適合する結果となっている。

表 3.1.15(1) 自動車排気ガス（浮遊粒子状物質）の測定結果（みよし市：令和4年度）

| 調査地点 | 測定日数 | 測定時間 | 期間平均値 | 環境基準との対比 | | 1時間値の最高値 | 環境基準の適否 |
|----------------------|------|------|-------|---|--|---------------------|---------|
| | | | | 日平均値が 0.1 mg/m^3 を 超えた日数 | 1時間値 0.2 mg/m^3 を 超えた回数 | | |
| | | | | (日) | (回) | (mg/m^3) | |
| 愛知用水 土地改良区 事務所 | 21 | 504 | 0.012 | 0 | 0 | 0.030 | ○ |

注）環境基準：1時間値の1日平均値が、 0.10 mg/m^3 以下であり、かつ、1時間値が 0.20 mg/m^3 以下であること。

(昭和48年環境庁告示第25号)

出典：「令和5(2023)年度みよしの環境【令和4(2022)年度実績】」（令和6年3月 みよし市）

表 3.1.15(2) 自動車排気ガス（二酸化窒素）の測定結果（みよし市：令和4年度）

| 調査地点 | 測定日数 | 測定時間 | 期間平均値 | 環境基準との対比 | | 1時間値の最高値 | 環境基準の適否 |
|----------------------|------|------|-------|--|---------------------------------------|------------------|---------|
| | | | | 日平均値が 0.04 ppm 以上 0.06 ppm 以下 の日数 | 日平均値が 0.06 ppm を 超えた日数 | | |
| | | | | (日) | (回) | (ppm) | |
| 愛知用水 土地改良区 事務所 | 21 | 504 | 0.007 | 0 | 0 | 0.051 | ○ |

注）環境基準：1時間値の1日平均値が、 0.04 ppm から 0.06 ppm のゾーン内又はそれ以下であること。

(昭和53年環境庁告示第38号)

出典：「令和5(2023)年度みよしの環境【令和4(2022)年度実績】」（令和6年3月 みよし市）

表 3.1.15(3) 自動車排気ガス（二酸化硫黄）の測定結果（みよし市：令和4年度）

| 調査地点 | 測定日数 | 測定時間 | 期間平均値 | 環境基準との対比 | | 1時間値の 最高値 | 環境基準 の適否 |
|----------------------|------|------|-------|----------------------------|---------------------------|--------------|-------------|
| | | | | 日平均値が 0.04ppmを 超えた日数 | 1時間値が 0.1ppmを 超えた回数 | | |
| | (日) | (時間) | (ppm) | (日) | (回) | (ppm) | 適：○ 否：× |
| 愛知用水 土地改良区 事務所 | 21 | 504 | 0.001 | 0 | 0 | 0.005 | ○ |

注）環境基準：1時間値の1日平均値が、0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。

（昭和48年環境庁告示第25号）

出典：「令和5(2023)年度みよしの環境【令和4(2022)年度実績】」（令和6年3月 みよし市）

表 3.1.15(4) 自動車排気ガス（光化学オキシダント）の測定結果（みよし市：令和4年度）

| 調査地点 | 測定日数 | 測定時間 | 期間平均値 | 環境基準との対比 | 1時間値の 最高値 | 環境基準 の適否 |
|----------------------|------|------|-------|------------------------|--------------|-------------|
| | | | | 1時間値が0.06ppmを 超えた回数 | | |
| | (日) | (時間) | (ppm) | (回) | (ppm) | 適：○ 否：× |
| 愛知用水 土地改良区 事務所 | 21 | 504 | 0.021 | 0 | 0.060 | ○ |

注）環境基準：1時間値が0.06ppm以下であること。（昭和48年環境庁告示第25号）

出典：「令和5(2023)年度みよしの環境【令和4(2022)年度実績】」（令和6年3月 みよし市）

3.1.2 騒音等に係る環境の状況**3.1.2.1 低周波音**

対象事業実施想定区域及びその周囲において、低周波音に係る調査は実施されていない。

3.1.2.2 環境騒音

対象事業実施想定区域及びその周囲における環境騒音の調査が、みよし市において実施されている。令和5年度の調査結果は表 3.1.16 に、調査地点は図 3.1.13 に示すとおりである。いずれの地点も、環境基準値以下となっている。

表 3.1.16 環境騒音調査結果（令和5年度）

単位：デシベル

| 番号 | 測定地点 | 類型 | 測定日 | 環境基準 | | 測定結果 | | 適否 |
|----|--|----|---------------------------|------|------------------|------|------------------|----|
| | | | | 時間帯 | L _{Aeq} | 時間帯 | L _{Aeq} | |
| 1 | みどり保育園 三好丘桜四丁目 11 番地 1 第 1 種低層住居専用地域 | A | 2 月 8 日 ～ 2 月 9 日 | 昼間 | 55 | 昼間 | 53 | ○ |
| | | | | 夜間 | 45 | 夜間 | 41 | ○ |
| 2 | 三好丘小学校 三好丘七丁目 1 番地 第 1 種中高層住居専用地域 | A | 2 月 7 日 ～ 2 月 8 日 | 昼間 | 55 | 昼間 | 49 | ○ |
| | | | | 夜間 | 45 | 夜間 | 43 | ○ |
| 3 | 黒笹公園※ 黒笹いずみ三丁目 第 1 種中高層住居専用地域 | A | 2 月 26 日 ～ 2 月 27 日 | 昼間 | 60 | 昼間 | 57 | ○ |
| | | | | 夜間 | 55 | 夜間 | 47 | ○ |
| 4 | みよし市役所 三好町小坂 50 番地 近隣商業地域 | C | 2 月 13 日 ～ 2 月 14 日 | 昼間 | 60 | 昼間 | 50 | ○ |
| | | | | 夜間 | 50 | 夜間 | 47 | ○ |
| 5 | 森曾公園 三好町井ノ口 工業地域 | C | 2 月 19 日 ～ 2 月 20 日 | 昼間 | 60 | 昼間 | 55 | ○ |
| | | | | 夜間 | 50 | 夜間 | 49 | ○ |
| 6 | みよし消防署 福谷町才戸 50 番地 市街化調整区域 | B | 2 月 27 日 ～ 2 月 28 日 | 昼間 | 55 | 昼間 | 52 | ○ |
| | | | | 夜間 | 45 | 夜間 | 38 | ○ |
| 7 | 教育センター「学びの森」 三好町仲ヶ山 43 番地 11 市街化調整区域 | B | 2 月 15 日 ～ 2 月 16 日 | 昼間 | 55 | 昼間 | 47 | ○ |
| | | | | 夜間 | 45 | 夜間 | 41 | ○ |

注 1) 「※」は 2 車線以上の車線を有する道路に面する地域

注 2) 時間帯 昼間：6 時から 22 時まで 夜間：22 時から翌日 6 時まで

注 3) 表中の番号は、図 3.1.13 の番号に対応する。

出典：「令和 6(2024)年度みよしの環境【令和 5(2023)年度実績】」（令和 7 年 3 月 みよし市）

3.1.2.3 道路交通騒音

対象事業実施想定区域及びその周囲における令和5年度の道路交通騒音の調査結果は表3.1.17及び表3.1.18に示すとおりである。また、調査地点が明らかになっている地点について調査地点位置は図3.1.13に示すとおりである。

環境基準の達成状況調査については、東名高速道路、一般国道153号、一般国道155号、県道豊田知立線、県道名古屋岡崎線、県道瀬戸大府東海線、県道主要地方道名古屋豊田線、県道合豊田線、県道米野木苜生線、県道駕鴨みよし線、県道みよし杣掛線、県道豊田東郷線及び豊田市道保見浄水線では、環境基準を達成していない住戸のある区間がある。

要請限度調査については、1地点で調査が行われており、昼夜ともに要請限度以下となっている。

表 3.1.17(1) 道路交通騒音調査結果（環境基準の達成状況）（令和5年度）

| 番号 | 道路名 | 調査地点 | 評価区間 | | | 騒音レベル (L_{Aeq}) (デシベル) | | 環境基準達成戸数 (戸) | | | 調査 区間 内全 戸数 (戸) | 環境基準達成率 | | |
|----|-------------------|---------------------------|--------------------|--------------------|------------------|----------------------------------|----|-----------------|-----|-----|-----------------------------|---------|--------|--------|
| | | | 起点 | 終点 | 区間 延長 (km) | 昼間 | 夜間 | 昼間 | 夜間 | 昼夜 | | 昼間 | 夜間 | 昼夜 |
| 1 | 東名高速道路 | 豊田市 聖心町 | 豊田市 美山町 | 豊田市 千足町 | 2.1 | 68 | 66 | 159 | 159 | 159 | 159 | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| 2 | | みよし市 打越町 | みよし市 打越町 | みよし市 福谷町 | 2.9 | 56 | 54 | 127 | 121 | 121 | 127 | 100.0% | 95.3% | 95.3% |
| 3 | | みよし市 打越町 | みよし市 福谷町 | みよし市 黒笹町 | 1.8 | 56 | 54 | 65 | 65 | 65 | 65 | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| 4 | 一般国道 153号 | 豊田市 小川町 | 豊田市 千足町 | 豊田市 本新町 | 1 | 71 | 68 | 56 | 56 | 56 | 56 | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| 5 | | みよし市 三好町 | みよし市 三好町 | みよし市 三好町 | 1 | 66 | 61 | 114 | 114 | 114 | 114 | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| 6 | | みよし市 三好町 | みよし市 三好町 | みよし市 打越町 | 2.1 | 66 | 61 | 486 | 485 | 485 | 486 | 100.0% | 99.8% | 99.8% |
| 7 | | 愛知郡東 郷町北山 台5丁目 | 愛知郡東 郷町大字 和合 | 愛知郡東 郷町大字 諸輪 | 1.9 | 66 | 61 | 214 | 213 | 213 | 219 | 97.7% | 97.3% | 97.3% |
| 8 | 一般国道 155号 | 豊田市 日南町 | 豊田市 保見町 | 豊田市 栄町 | 6.5 | 66 | 62 | 587 | 587 | 587 | 588 | 99.8% | 99.8% | 99.8% |
| 9 | 県道豊田 知立線 | みよし市 苜生町 | みよし市 福谷町 | みよし市 福谷町 | 1.2 | 68 | 64 | 82 | 82 | 82 | 82 | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| 10 | | みよし市 苜生町 | みよし市 福谷町 | みよし市 苜生町 | 3.4 | 68 | 64 | 233 | 229 | 229 | 233 | 100.0% | 98.3% | 98.3% |
| 11 | | みよし市 三好町 | みよし市 苜生町 | みよし市 三好町 | 2.4 | 67 | 62 | 437 | 437 | 437 | 437 | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| 12 | | みよし市 福田町 | みよし市 三好町 | みよし市 三好町 | 1.9 | 69 | 67 | 222 | 196 | 196 | 224 | 99.1% | 87.5% | 87.5% |
| 13 | | みよし市 福田町 | みよし市 三好町 | みよし市 福田町 | 1.3 | 69 | 67 | 68 | 62 | 62 | 68 | 100.0% | 91.2% | 91.2% |
| 14 | | みよし市 根浦町 | みよし市 苜生町 | みよし市 根浦町 | 0.9 | 68 | 63 | 175 | 175 | 175 | 175 | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| 15 | | みよし市 根浦町 | みよし市 根浦町 | みよし市 根浦町 | 0.2 | 64 | 60 | 114 | 114 | 114 | 114 | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| 16 | | みよし市 福田町 | みよし市 三好町 | みよし市 三好町 | 0.7 | 69 | 67 | 36 | 35 | 35 | 36 | 100.0% | 97.2% | 97.2% |
| 17 | 県道名古屋岡崎線 | 愛知郡東 郷町三ツ 池2丁目 | 愛知郡東 郷町大字 春木 | 愛知郡東 郷町大字 諸輪 | 3.2 | 68 | 65 | 527 | 518 | 518 | 533 | 98.9% | 97.2% | 97.2% |
| 18 | 県道瀬戸 大府東海 線 | 日進市 竹の山 | 日進市 岩崎町 | 日進市 蟹甲町 | 3.8 | 71 | 63 | 482 | 484 | 482 | 484 | 99.6% | 100.0% | 99.6% |
| 19 | | 愛知郡東 郷町大字 和合北蚊 谷 | 愛知郡東 郷町白鳥 | 愛知郡東 郷町大字 春木 | 3.6 | 71 | 67 | 551 | 547 | 547 | 562 | 98.0% | 97.3% | 97.3% |

注) 昼間：6時から22時まで 夜間：22時から翌日6時まで

出典：「2023年度 交通騒音・振動調査結果資料集」（令和6年9月 愛知県）

表 3.1.17(2) 道路交通騒音調査結果（環境基準の達成状況）（令和5年度）

| 番号 | 道路名 | 調査地点 | 評価区間 | | | 騒音レベル (L_{Aeq}) (デシベル) | | 環境基準達成戸数 (戸) | | | 調査 区間 内全 戸数 (戸) | 環境基準達成率 | | |
|----|---------------------------|---------------------------|--------------------|--------------------|------------------|----------------------------------|----|-----------------|------|------|-----------------------------|---------|--------|--------|
| | | | 起点 | 終点 | 区間 延長 (km) | 昼間 | 夜間 | 昼間 | 夜間 | 昼夜 | | 昼間 | 夜間 | 昼夜 |
| 20 | 県道主要 地方道 名古屋 豊田線 | 豊田市 保見町 | 豊田市 保見町 | 豊田市 平戸橋町 | 6.6 | 70 | 64 | 1220 | 1220 | 1219 | 1225 | 99.6% | 99.6% | 99.5% |
| 21 | 県道田 名古屋線 | 豊田市 田 稲町 | 豊田市 田 稲町 | 豊田市 八草町 | 1.3 | 68 | 62 | 3 | 3 | 3 | 3 | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| 22 | 県道合 豊田線 | みよし市 三好町 | みよし市 西一色町 | みよし市 打越町 | 4.6 | 64 | 59 | 609 | 609 | 609 | 679 | 89.7% | 89.7% | 89.7% |
| 23 | | みよし市 黒笹町 | みよし市 黒笹町 | みよし市 福谷町 | 1.6 | 69 | 62 | 73 | 75 | 73 | 76 | 96.1% | 98.7% | 96.1% |
| 24 | 県道米 木助生線 | みよし市 黒笹町 | みよし市 福谷町 | みよし市 福谷町 | 0.8 | 69 | 62 | 45 | 45 | 45 | 45 | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| 25 | | みよし市 助生町 | みよし市 福谷町 | みよし市 助生町 | 1 | 66 | 62 | 64 | 62 | 62 | 65 | 98.5% | 95.4% | 95.4% |
| 26 | 県道鴛 みよし線 | みよし市 打越町 | みよし市 打越町 | みよし市 打越町 | 2.8 | 65 | 61 | 108 | 108 | 108 | 109 | 99.1% | 99.1% | 99.1% |
| 27 | 県道み よし沓掛線 | みよし市 明知町 | みよし市 東山台 | みよし市 明知町 | 3.2 | 68 | 64 | 213 | 211 | 211 | 217 | 98.2% | 97.2% | 97.2% |
| 28 | | 豊田市 高崎町 | 豊田市 宮上町 | 豊田市 北ノ脇 | 1.9 | 68 | 63 | 138 | 138 | 138 | 138 | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| 29 | 県道豊 田東郷線 | みよし市 三好町 | みよし市 打越町 | みよし市 三好町 | 2.8 | 68 | 65 | 162 | 151 | 151 | 162 | 100.0% | 93.2% | 93.2% |
| 30 | | 愛知郡東 郷町大字 諸輪字下 市 | 愛知郡東 郷町大字 諸輪 | 愛知郡東 郷町大字 諸輪 | 1.6 | 72 | 69 | 42 | 36 | 36 | 53 | 79.2% | 67.9% | 67.9% |
| 31 | 市道 原山線 | 豊田市 浄水町 | 豊田市 大清水町 | 豊田市 浄水町 | 1.9 | 68 | 61 | 695 | 695 | 695 | 695 | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| 32 | | 豊田市 保見町 | 豊田市 浄水町 | 豊田市 浄水町 | 1.6 | 67 | 64 | 207 | 207 | 207 | 207 | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| 33 | 市道保 見浄水線 | 豊田市 保見町 | 豊田市 保見町 | 豊田市 東保見町 | 0.7 | 67 | 64 | 63 | 63 | 63 | 63 | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| 34 | | 豊田市 保見町 | 豊田市 東保見町 | 豊田市 東保見町 | 2.3 | 67 | 64 | 1144 | 1132 | 1132 | 1191 | 96.1% | 95.0% | 95.0% |

注) 昼間：6時から22時まで 夜間：22時から翌日6時まで

出典：「2023年度 交通騒音・振動調査結果資料集」（令和6年9月 愛知県）

表 3.1.18 道路交通騒音調査結果（要請限度）（令和5年度）

| 番号 | 道路名 | 測定地点 | 測定日 | 等価騒音レベル (デシベル) | |
|----|---------|-------------|-------------|-------------------|----|
| | | | | 昼間 | 夜間 |
| 1 | 県道豊田東郷線 | 愛知郡東郷町諸輪字下市 | 11/10～11/16 | 72 | 69 |

注1) 昼間：6時から22時まで 夜間：22時から翌日6時まで

注2) 表中の番号は、図 3.1.13 の番号に対応する。

出典：「2023年度 交通騒音・振動調査結果資料集」（令和6年9月 愛知県）

3.1.3 振動に係る環境の状況

対象事業実施想定区域及びその周囲における道路交通振動の調査結果は表 3.1.19 に、調査地点は図 3.1.13 に示すとおりである。

対象事業実施想定区域及びその周囲では1地点で調査されており、昼夜ともに要請限度以下である。また、人が振動を感じ始める値である振動感覚閾値（55 デシベル）を下回っている。

表 3.1.19 道路交通振動調査結果（令和5年度）

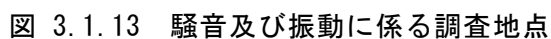
| 番号 | 道路名 | 測定地点 | 測定日 | 振動レベル（L ₁₀ ） （デシベル） | |
|----|---------|-------------|-------------|-----------------------------------|----|
| | | | | 昼間 | 夜間 |
| 1 | 県道豊田東郷線 | 愛知郡東郷町諸輪字下市 | 11/13～11/14 | 40 | 34 |

注1) 昼間：6時から22時まで 夜間：22時から翌日6時まで

注2) 表中の番号は、図 3.1.13 の番号に対応する。

出典：「2023年度 交通騒音・振動調査結果資料集」（令和6年9月 愛知県）

3.1 自然的狀況



3.1.4 悪臭に係る環境の状況

対象事業実施想定区域及びその周囲において、悪臭に係る調査は実施されていない。

3.1.5 水象、水質、水底の底質その他の水に係る環境の状況

3.1.5.1 水象

対象事業実施想定区域及びその周囲における主要な河川・用水路等の分布状況は、図 3.1.14 に示すとおりである。

対象事業実施想定区域及びその周囲の河川としては、対象事業実施想定区域の東側に境川水系の二級河川である小石川が流れているほか、東側から南側にかけて境川やその支流が流れている。また、西側には愛知池が存在している。

3.1.5.2 水質

対象事業実施想定区域及びその周囲における令和5年度の河川の水質の調査結果は表 3.1.20～表 3.1.22 に、ため池の水質調査結果は表 3.1.23 及び表 3.1.24 に、調査地点は図 3.1.14 に示すとおりである。

河川における環境基準の適合状況をみると、類型指定されている調査地点のうち、天白川（米野木橋）、境川（源流付近）、境川（打上橋下流）、砂後川（平池地内）、逢妻女川（野末橋）については、すべての項目で環境基準に適合している。小石川（落合橋下流）ではBODとSSが、境川（西一色地内）ではSSが適合していない。

なお、対象事業実施想定区域及びその周囲において、ダイオキシン類に係る調査は行われていない。

表 3.1.20 河川の水質調査結果（日進市：令和5年度）

| 項目 | 1 | | 2 | | 3 | | 環境基準 【C 類型】 |
|---------------------|------|------|-------|-----|------|------|------------------|
| | 測定河川 | 天白川 | 測定河川 | 岩崎川 | 測定河川 | 三本木川 | |
| | 測定地点 | 米野木橋 | 測定地点 | 金剛橋 | 測定地点 | 月花橋 | |
| | 類型 | C | 類型 | — | 類型 | — | |
| pH | 7.3 | | 7.3 | | 7.1 | | 6.5 以上 8.5 以下 |
| BOD (mg/L) | 2.2 | | 1.9 | | 3.7 | | 5 以下 |
| COD (mg/L) | 4.0 | | 2.1 | | 3.4 | | — |
| SS (mg/L) | 5 | | 2 | | 2 | | 50 以下 |
| DO (mg/L) | 9.7 | | 9.9 | | 9.7 | | 5 以上 |
| 大腸菌数 (CFU/100mL) | 200 | | 210 | | 490 | | — |
| ノルマルヘキサノ抽出物質 (mg/L) | <0.5 | | <0.5 | | <0.5 | | — |
| 全窒素 (mg/L) | 2.8 | | 0.69 | | 2.1 | | — |
| 全りん (mg/L) | 0.24 | | 0.033 | | 0.23 | | — |
| 電気伝導率 (mS/m) | 17 | | 9.4 | | 11 | | — |
| 塩化物イオン (mg/L) | 17 | | 5.2 | | 10 | | — |
| 陰イオン界面活性剤 (mg/L) | 0.04 | | 0.01 | | 0.03 | | — |
| 水温 (℃) | 18.6 | | 20.2 | | 19.6 | | — |

注 1) 環境基本法に基づく「生活環境の保全に関する基準（河川）」における水域類型の指定について、天白川のみ C 類型に指定されている。

注 2) BOD は測定結果の 75% 水質値※、その他の項目は年間平均値。
※BOD 水質値とは、全データを小さいほうから順に並べ 0.75×n 番目のデータのことをいう。BOD の評価については BOD75% 水質値を用いる。

注 3) 表中の番号は、図 3.1.14 の番号に対応する。

出典：「令和 6 年度版日進市環境基本計画年次報告書」（令和 6 年 10 月 日進市）

表 3.1.21(1) 河川の水質調査結果（みよし市：令和5年度）

| 番号 | 4 | | | | 5 | | | | 環境基準 【B 類型】 |
|---------------------|-------|--------|-------|------|-------|--------|-------|------|------------------|
| 測定河川 | 境川 | | | | 小石川 | | | | |
| 測定地点 | 源流付近 | | | | 落合橋下流 | | | | |
| 類型 | B | | | | B | | | | |
| 項目 | 最大値 | 最小値 | 平均値 | 適合状況 | 最大値 | 最小値 | 平均値 | 適合状況 | |
| pH | 7.0 | 6.8 | 6.9 | ○ | 7.6 | 6.8 | 7.3 | ○ | 6.5 以上 8.5 以下 |
| DO (mg/L) | 14 | 6.7 | 9.7 | ○ | 11 | 8.6 | 10 | ○ | 5 以上 |
| BOD (mg/L) | 1.6 | 0.5 未満 | 1.0 | ○ | 7.9 | 0.5 未満 | 2.3 | × | 3 以下 |
| SS (mg/L) | 12 | 2 | 5 | ○ | 42 | 1 未満 | 15 | × | 25 以下 |
| 大腸菌数 (CFU/100mL) | 82 | 10 | 31 | ○ | 100 | 14 | 44 | ○ | 1,000 以下 |
| 全窒素 (mg/L) | 0.65 | 0.29 | 0.51 | | 1.6 | 0.55 | 0.81 | | － |
| 全磷 (mg/L) | 0.190 | 0.014 | 0.089 | | 0.28 | 0.012 | 0.085 | | － |
| 塩化物イオン (mg/L) | 26 | 7.4 | 13.7 | | 15 | 7.2 | 9.5 | | － |

注) 表中の番号は、図 3.1.14 の番号に対応する。

出典：「令和 6(2024)年度みよしの環境【令和 5(2023)年度実績】」（令和 7 年 3 月 みよし市）

表 3.1.21(2) 河川の水質調査結果（みよし市：令和5年度）

| 番号 | 6 | | | | 7 | | | | 環境基準 【B 類型】 |
|---------------------|-------|--------|------|------|------|-------|------|------|------------------|
| 測定河川 | 境川 | | | | 砂後川 | | | | |
| 測定地点 | 打上橋下流 | | | | 平池地内 | | | | |
| 類型 | B | | | | B | | | | |
| 項目 | 最大値 | 最小値 | 平均値 | 適合状況 | 最大値 | 最小値 | 平均値 | 適合状況 | |
| pH | 7.6 | 7.3 | 7.5 | ○ | 7.8 | 7.3 | 7.5 | ○ | 6.5 以上 8.5 以下 |
| DO (mg/L) | 11 | 9.1 | 10 | ○ | 11 | 7.6 | 9.2 | ○ | 5 以上 |
| BOD (mg/L) | 2.2 | 0.5 未満 | 1.3 | ○ | 2.0 | 0.7 | 1.4 | ○ | 3 以下 |
| SS (mg/L) | 5 | 2 | 4 | ○ | 15 | 2 | 7 | ○ | 25 以下 |
| 大腸菌数 (CFU/100mL) | 150 | 30 | 67 | ○ | 680 | 75 | 278 | ○ | 1,000 以下 |
| 全窒素 (mg/L) | 1.8 | 0.88 | 1.3 | / | 2.1 | 0.8 | 1.6 | / | － |
| 全磷 (mg/L) | 0.28 | 0.069 | 0.12 | | 0.33 | 0.110 | 0.19 | | － |
| 塩化物イオン (mg/L) | 20 | 7.8 | 12 | | 19 | 3.4 | 11 | | － |

注）表中の番号は、図 3.1.14 の番号に対応する。

出典：「令和 6(2024)年度みよしの環境【令和 5(2023)年度実績】」（令和 7 年 3 月 みよし市）

表 3.1.21(3) 河川の水質調査結果（みよし市：令和5年度）

| 番号 | 8 | | | | 環境基準 【B 類型】 |
|---------------------|-------|------|------|------|------------------|
| 測定河川 | 境川 | | | | |
| 測定地点 | 西一色地内 | | | | |
| 類型 | B | | | | |
| 項目 | 最大値 | 最小値 | 平均値 | 適合状況 | |
| pH | 7.8 | 7.5 | 7.6 | ○ | 6.5 以上 8.5 以下 |
| D0 (mg/L) | 12 | 7.9 | 10 | ○ | 5 以上 |
| BOD (mg/L) | 1.7 | 0.6 | 1.3 | ○ | 3 以下 |
| SS (mg/L) | 27 | 3 | 8 | × | 25 以下 |
| 大腸菌数 (CFU/100mL) | 170 | 28 | 77 | ○ | 1,000 以下 |
| 全窒素 (mg/L) | 2.1 | 1.2 | 1.7 | | — |
| 全磷 (mg/L) | 0.28 | 0.08 | 0.14 | | — |
| 塩化物イオン (mg/L) | 35 | 4.5 | 18 | | — |

注）表中の番号は、図 3.1.14 の番号に対応する。

出典：「令和 6(2024)年度みよしの環境【令和 5(2023)年度実績】」（令和 7 年 3 月 みよし市）

表 3.1.22(1) 河川の水質調査結果（豊田市：令和6年度）

| 項 目 | | 測定地点名 | 9 | | 環境基準 【C類型、生物B】 |
|--------|-----------------|-------------|----------|-------|-------------------|
| | | | 逢妻女川 | | |
| | | | 野末橋 | | |
| | | | 類型 | C、生物B | |
| 生活環境項目 | pH | | 7.6 | | 6.5 以上 8.5 以下 |
| | D0 | (mg/L) | 10 | | 5 以上 |
| | BOD | (mg/L) | 2.3 | | 5 以下 |
| | COD | (mg/L) | 6.0 | | － |
| | SS | (mg/L) | 4 | | 50 以下 |
| | 大腸菌数 | (CFU/100mL) | － | | － |
| | n-ヘキサン抽出物質 | (mg/L) | <0.5 | | － |
| | 全窒素 | (mg/L) | 2.5 | | － |
| | 全燐 | (mg/L) | 0.18 | | － |
| | 全亜鉛 | (mg/L) | 0.009 | | 0.03 以下 |
| | ノニルフェノール | (mg/L) | <0.00006 | | 0.002 以下 |
| | LAS | (mg/L) | 0.0065 | | 0.05 以下 |
| 健康項目 | カドミウム | (mg/L) | <0.0005 | | 0.003 以下 |
| | 全シアン | (mg/L) | <0.1 | | 検出されないこと |
| | 鉛 | (mg/L) | <0.005 | | 0.01 以下 |
| | 六価クロム | (mg/L) | <0.01 | | 0.02 以下 |
| | 砒素 | (mg/L) | <0.005 | | 0.01 以下 |
| | 総水銀 | (mg/L) | <0.0005 | | 0.0005 以下 |
| | アルキル水銀 | (mg/L) | － | | 検出されないこと |
| | PCB | (mg/L) | － | | 検出されないこと |
| | ジクロロメタン | (mg/L) | <0.002 | | 0.02 以下 |
| | 四塩化炭素 | (mg/L) | <0.0002 | | 0.002 以下 |
| | 1,2-ジクロロエタン | (mg/L) | <0.0004 | | 0.004 以下 |
| | 1,1-ジクロロエチレン | (mg/L) | <0.01 | | 0.1 以下 |
| | シス-1,2-ジクロロエチレン | (mg/L) | <0.004 | | 0.04 以下 |
| | 1,1,1-トリクロロエタン | (mg/L) | <0.1 | | 1 以下 |
| | 1,1,2-トリクロロエタン | (mg/L) | <0.0006 | | 0.006 以下 |
| | トリクロロエチレン | (mg/L) | <0.001 | | 0.01 以下 |
| | テトラクロロエチレン | (mg/L) | <0.0005 | | 0.01 以下 |
| | 1,3-ジクロロプロペン | (mg/L) | <0.0002 | | 0.002 以下 |
| | チウラム | (mg/L) | <0.0006 | | 0.006 以下 |
| | シマジン | (mg/L) | <0.0003 | | 0.003 以下 |
| | チオベンカルブ | (mg/L) | <0.002 | | 0.02 以下 |
| | ベンゼン | (mg/L) | <0.001 | | 0.01 以下 |
| | セレン | (mg/L) | <0.002 | | 0.01 以下 |
| | 硝酸性・亜硝酸性窒素 | (mg/L) | 2.1 | | 10 以下 |
| | ふっ素 | (mg/L) | 0.08 | | 0.8 以下 |
| | ほう素 | (mg/L) | <0.02 | | 1 以下 |
| | 1,4-ジオキサン | (mg/L) | <0.005 | | 0.05 以下 |

注1) 表中の値は年平均値を示す。

注2) 「—」は調査を行っていない、又は環境基準が設定されていないことを示す。

注3) 表中の番号は、図 3.1.14 の番号に対応する。

出典：「令和7年版 環境調査報告書」（令和7年6月 豊田市）

表 3.1.22(2) 河川の水質調査結果（豊田市：令和6年度、続き）

| 項 目 | | 測定地点名 | 9 | | 環境基準・指針値 【C類型、生物B】 |
|-----------|------------------|----------|----------|-------|-----------------------|
| | | | 逢妻女川 | | |
| | | | 野末橋 | | |
| | | | 類型 | C、生物B | |
| 要監視項目（人） | クロロホルム | (mg/L) | — | | 0.06 以下 |
| | トランス-1,2-ジクロエチレン | (mg/L) | — | | 0.04 以下 |
| | 1,2-ジクロロプロパン | (mg/L) | — | | 0.06 以下 |
| | イソキサチオン | (mg/L) | — | | 0.008 以下 |
| | ダイアジノン | (mg/L) | — | | 0.005 以下 |
| | フェニトロチオン | (mg/L) | — | | 0.003 以下 |
| | イソプロチオラン | (mg/L) | — | | 0.04 以下 |
| | オキシシン銅 | (mg/L) | — | | 0.04 以下 |
| | クロロタロニル | (mg/L) | — | | 0.05 以下 |
| | プロピザミド | (mg/L) | — | | 0.008 以下 |
| | EPN | (mg/L) | — | | 0.006 以下 |
| | ジクロロボス | (mg/L) | — | | 0.008 以下 |
| | フェノブカルブ | (mg/L) | — | | 0.03 以下 |
| | イプロベンホス | (mg/L) | — | | 0.008 以下 |
| | クロルニトロフェン | (mg/L) | — | | — |
| | トルエン | (mg/L) | — | | 0.6 以下 |
| | キシレン | (mg/L) | — | | 0.4 以下 |
| | フタル酸ジエチルヘキシル | (mg/L) | — | | 0.06 以下 |
| | ニッケル | (mg/L) | 0.001 | | — |
| | モリブデン | (mg/L) | — | | 0.07 以下 |
| | アンチモン | (mg/L) | — | | 0.02 以下 |
| | 塩化ビニルモノマー | (mg/L) | — | | 0.002 以下 |
| | エピクロロヒドリン | (mg/L) | — | | 0.0004 以下 |
| | 全マンガン | (mg/L) | — | | 0.2 以下 |
| | ウラン | (mg/L) | — | | 0.002 以下 |
| | PFOS及びPFOA | (mg/L) | 0.000012 | | 0.00005 以下（暫定） |
| PFOS | (mg/L) | 0.000005 | | — | |
| PFOS（直鎖体） | (mg/L) | 0.000002 | | — | |
| PFOA | (mg/L) | 0.000007 | | — | |
| PFOA（直鎖体） | (mg/L) | 0.000007 | | — | |
| 監視項目（生物） | ホルムアルデヒド | (mg/L) | — | | 1 以下 |
| | フェノール | (mg/L) | — | | 0.08 以下 |
| | 4-tオクチルフェノール | (mg/L) | <0.00004 | | 0.004以下 |
| | アニリン | (mg/L) | <0.002 | | 0.02以下 |
| | 2,4-ジクロロフェノール | (mg/L) | <0.0003 | | 0.03以下 |
| 特殊項目 | フェノール類 | (mg/L) | <0.01 | | — |
| | 銅 | (mg/L) | <0.01 | | — |
| | 鉄（溶解性） | (mg/L) | 0.19 | | — |
| | マンガン（溶解性） | (mg/L) | <0.01 | | — |
| | クロム | (mg/L) | <0.01 | | — |
| その他項目 | 電気伝導率 | (mS/m) | 21 | | — |
| | 塩化物イオン | (mg/L) | 15 | | — |

注1) 表中の値は年平均値を示す。

注2) 「—」は調査を行っていない、又は環境基準が設定されていないことを示す。

注3) 表中の番号は、図 3.1.14 の番号に対応する。

出典：「令和7年版 環境調査報告書」（令和7年6月 豊田市）

表 3.1.23 ため池の水質調査結果（日進市：令和5年度）

| 項目 | 1 | | 2 | | 3 | | 4 | |
|--------------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|-----|
| | 測定地点 | 三ヶ峯下池 | 測定地点 | 岩藤新池 | 測定地点 | 鶴思慕池 | 測定地点 | 機織池 |
| pH | 6.8 | | 6.7 | | 5.4 | | 8.3 | |
| COD (mg/L) | 3.7 | | 2.6 | | 1.2 | | 3.0 | |
| SS (mg/L) | 3 | | 2 | | 2 | | <1 | |
| DO (mg/L) | 8.9 | | 8 | | 8.3 | | 10 | |
| 全窒素 (mg/L) | 0.44 | | 0.26 | | 0.12 | | 0.35 | |
| 全りん (mg/L) | 0.037 | | 0.009 | | 0.012 | | 0.009 | |
| 電気伝導率 (mS/m) | 4.2 | | 3.6 | | 1.6 | | 7.5 | |

注) 表中の番号は、図 3.1.14 の番号に対応する。

出典：「令和6年度版日進市環境基本計画年次報告書」（令和6年10月 日進市）

表 3.1.24 ため池の水質調査結果（みよし市：令和5年度）

| 項目 | 5 | | 6 | | 7 | | 8 | | 9 | |
|---------------------|-----------|-----|-----------|-----|-----------|----|-----------|-----|-----------|-----|
| | 測定地点 | 大坂池 | 測定地点 | 四ツ池 | 測定地点 | 新池 | 測定地点 | 百々池 | 測定地点 | 三好池 |
| pH | 7.0 | | 7.75 | | 7.05 | | 7.35 | | 7.3 | |
| DO (mg/L) | 9.35 | | 11.35 | | 8.6 | | 11.5 | | 11.45 | |
| BOD (mg/L) | 2.65 | | 1.6 | | 4.4 | | 2 | | 1.45 | |
| COD (mg/L) | 7.35 | | 3.2 | | 8.4 | | 4.9 | | 3.9 | |
| SS (mg/L) | 4.5 | | 4.5 | | 21 | | 10.5 | | 5.5 | |
| 大腸菌数 (CFU/100mL) | 31.5 | | 1.5 | | 7 | | 4 | | 24 | |
| 全窒素 (mg/L) | 0.605 | | 0.305 | | 0.71 | | 0.265 | | 0.265 | |
| 全リン (mg/L) | 0.040 | | 0.0115 | | 0.066 | | 0.0545 | | 0.028 | |
| 銅 (mg/L) | 0.01 未満 | | 0.01 未満 | | 0.01 未満 | | 0.01 未満 | | 0.01 未満 | |
| 亜鉛 (mg/L) | 0.01 未満 | | 0.01 | | 0.01 | | 0.035 | | 0.02 | |
| カドミウム (mg/L) | 0.0003 未満 | | 0.0003 未満 | | 0.0003 未満 | | 0.0003 未満 | | 0.0003 未満 | |
| 総水銀 (mg/L) | 0.0005 未満 | | 0.0005 未満 | | 0.0005 未満 | | 0.0005 未満 | | 0.0005 未満 | |
| 塩化物イオン (mg/L) | 4.65 | | 4.35 | | 8.05 | | 3.7 | | 4.25 | |

注1) 表中の値は年2回実施された測定値の平均値である。

注2) 表中の番号は、図 3.1.14 の番号に対応する。

出典：「令和6(2024)年度みよしの環境【令和5(2023)年度実績】」（令和7年3月 みよし市）

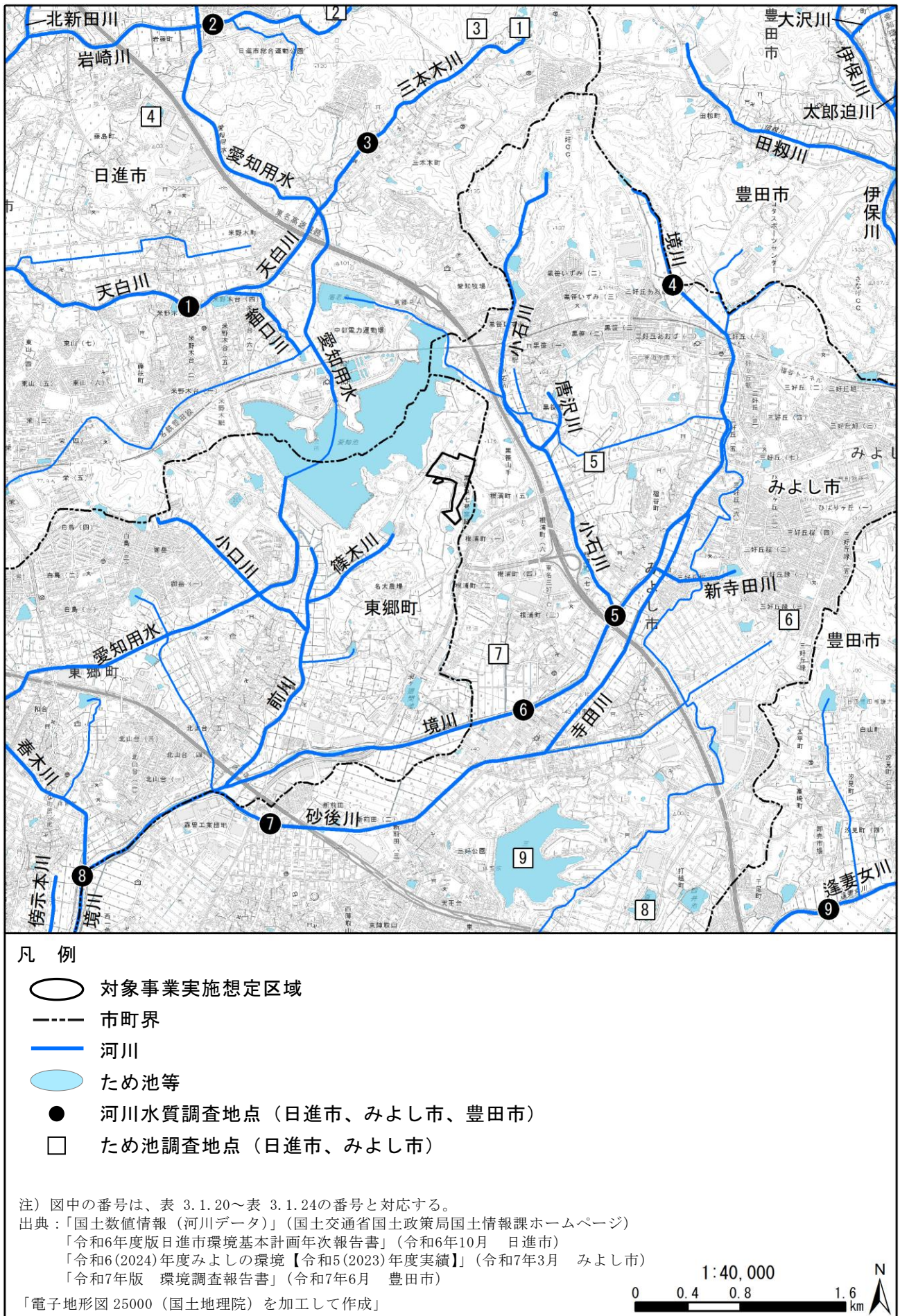


図 3.1.14 主要な河川・用水路等の分布状況

3.1.5.3 水底の底質

対象事業実施想定区域及びその周囲における令和5年度の河川の底質の調査結果は表 3.1.25 及び表 3.1.26 に、調査地点は図 3.1.15 に示すとおりである。

なお、対象事業実施想定区域及びその周囲において、水底の底質（ダイオキシン類）に係る調査は行われていない。

表 3.1.25 河川の底質調査結果（日進市：令和5年度）

| 項 目 | 測定地点名 | 1 | 2 |
|--------|---------|-------|-------|
| | | 天白川 | 岩崎川 |
| | | 米野木橋 | 金剛橋 |
| ヒ素 | (mg/kg) | 0.5 | 1 |
| 鉛 | (mg/kg) | 1.3 | 2.7 |
| カドミウム | (mg/kg) | <0.05 | 0.06 |
| 全水銀 | (mg/kg) | <0.01 | <0.01 |
| 六価クロム | (mg/kg) | <2 | <2 |
| シアン化合物 | (mg/kg) | <0.5 | <0.5 |
| 有機リン | (mg/kg) | <1 | <1 |

注）表中の番号は、図 3.1.15 の番号に対応する。

出典：「令和6年度版日進市環境基本計画年次報告書」（令和6年10月 日進市）

表 3.1.26 河川の底質調査結果（みよし市：令和5年度）

| 項 目 | 測定地点名 | 3 | 4 | 5 | 6 |
|-------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | | 小石川 | 境川上流 | 境川中流 | 砂後川 |
| 総水銀 | (mg/kg) | 0.01 未満 | 0.01 | 0.01 | 0.02 |
| カドミウム | (mg/kg) | 0.05 未満 | 0.05 未満 | 0.05 未満 | 0.05 未満 |
| 鉛 | (mg/kg) | 3.0 | 1.7 | 3.4 | 6.7 |
| 六価クロム | (mg/kg) | 1 | 2 | 1 未満 | 1 |
| 砒素 | (mg/kg) | 1.4 | 1.3 | 2.4 | 2.8 |
| 全シアン | (mg/kg) | 0.5 未満 | 0.5 未満 | 0.5 未満 | 0.5 未満 |

注）表中の番号は、図 3.1.15 の番号に対応する。

出典：「令和6(2024)年度みよしの環境【令和5(2023)年度実績】」（令和7年3月 みよし市）

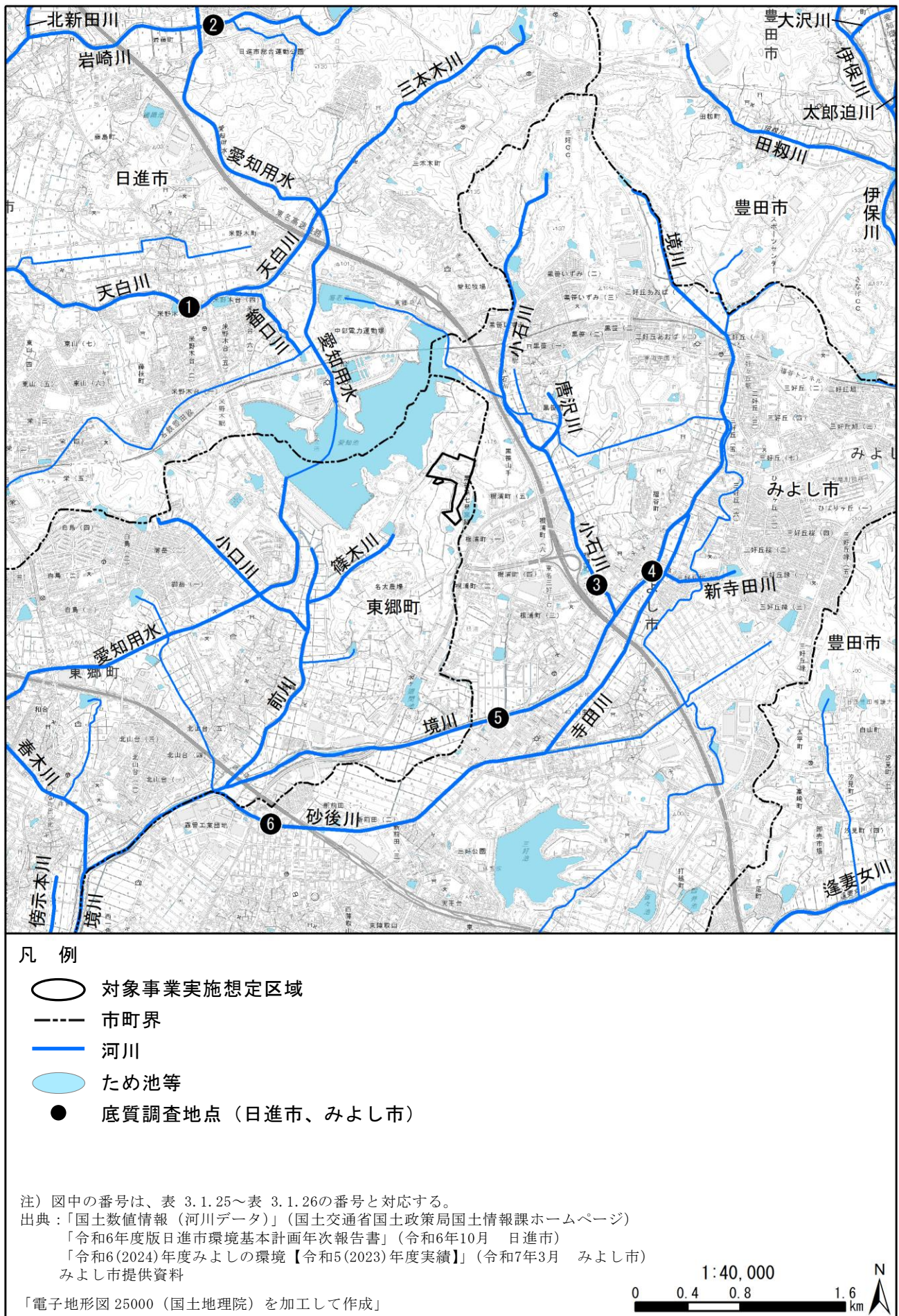


図 3.1.15 底質に係る調査地点

3.1.6 地形及び地質の状況

3.1.6.1 地形

対象事業実施想定区域及びその周囲の地形分類図は、図 3.1.16 に示すとおりである。

対象事業実施想定区域の地形は山頂緩斜面や急斜面、人工改変地となっている。対象事業実施想定区域周辺は、丘陵地や台地のあいだに、境川等の中小河川沿いに幅の狭い谷底平野・氾濫平野等の低地が入り込んでいる。また、人工改変地も点在している。対象事業実施想定区域西側は人造湖である愛知池となっている。

3.1.6.2 地質

対象事業実施想定区域及びその周囲の表層地質図は、図 3.1.17 に示すとおりである。

対象事業実施想定区域の表層地質は半固結～固結堆積物の礫となっており、同様の地質が周辺にも広がっている。境川等の中小河川沿いには礫がち堆積物や泥がち堆積物がみられ、丘陵地や台地は砂または砂を主とする地層、シルトまたはシルトを主とする地層、礫等となっている。

3.1.6.3 重要な地形・地質

「日本の地形レッドデータブック 第1集」（平成6年2月 小泉・青木編）や「日本の地形レッドデータブック 第2集」（平成14年3月 小泉・青木編）、「第3回自然環境保全基礎調査」（平成元年 環境庁）等によると、対象事業実施想定区域及びその周囲には重要な地形・地質は存在していない。

3.1.6.4 断層

対象事業実施想定区域及びその周囲の活断層の状況は、図 3.1.18 に示すとおりである。

対象事業実施想定区域の東側から南西側にかけて、活断層・推定活断層の猿投境川断層が存在している。

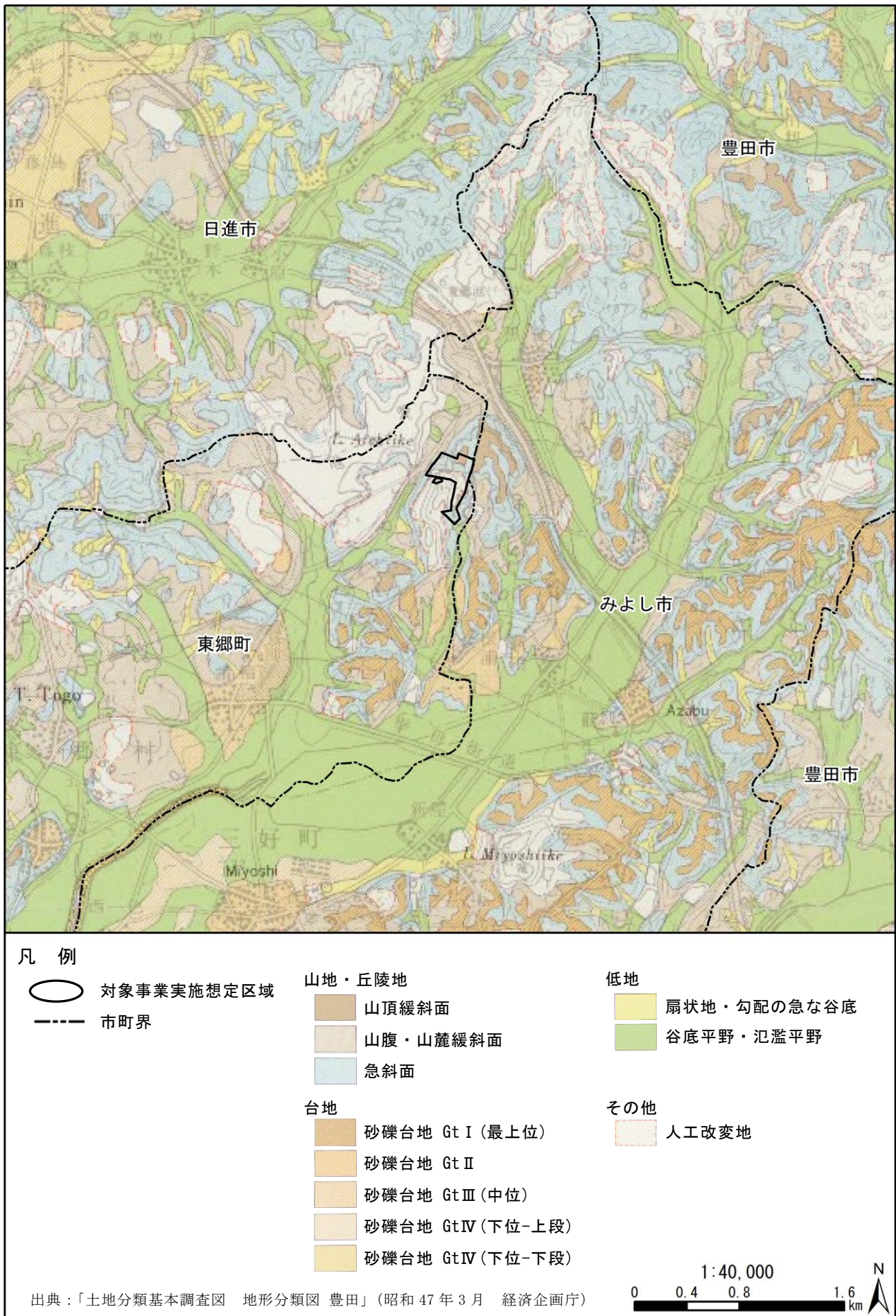


図 3.1.16 地形分類図

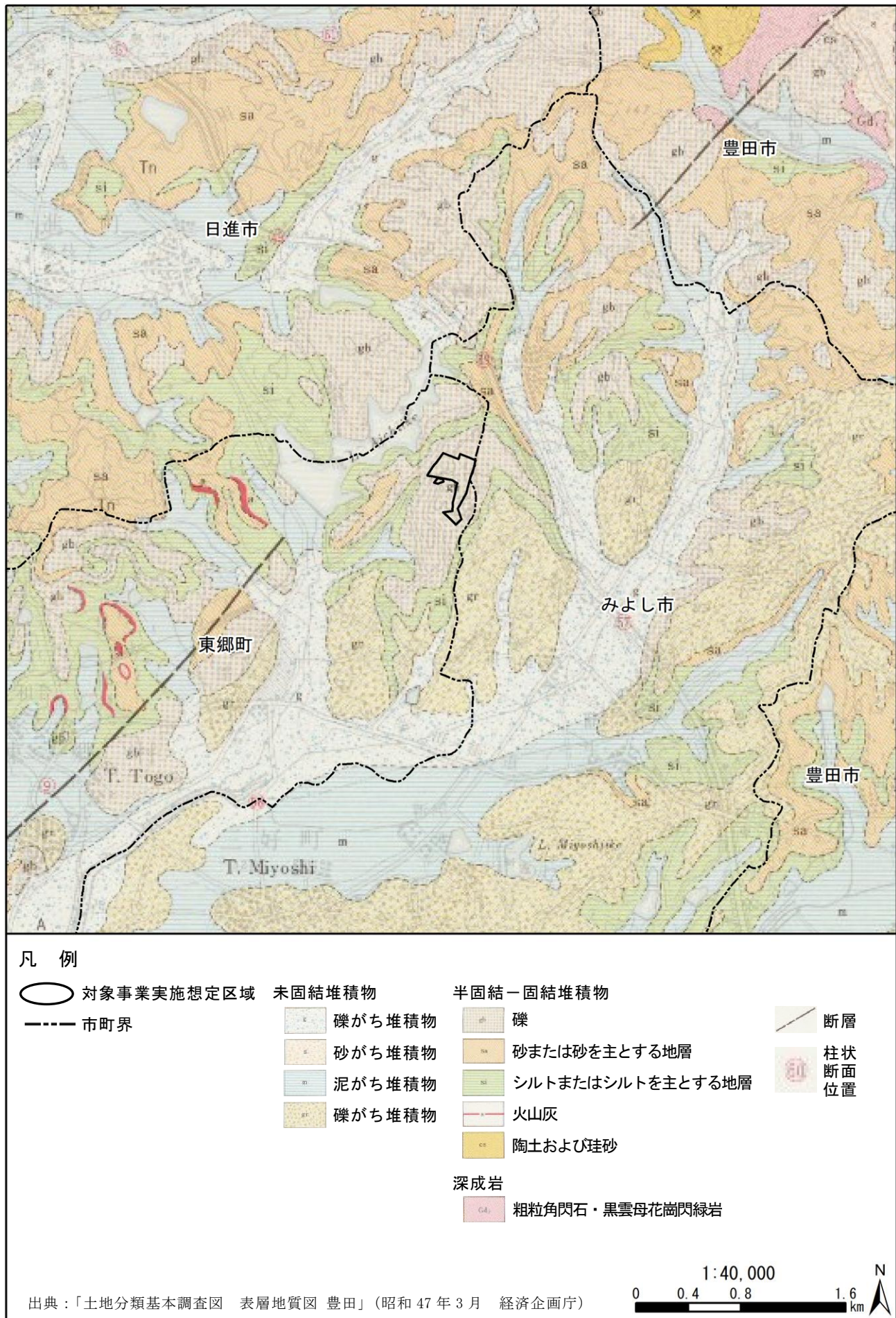


図 3.1.17 表層地質図

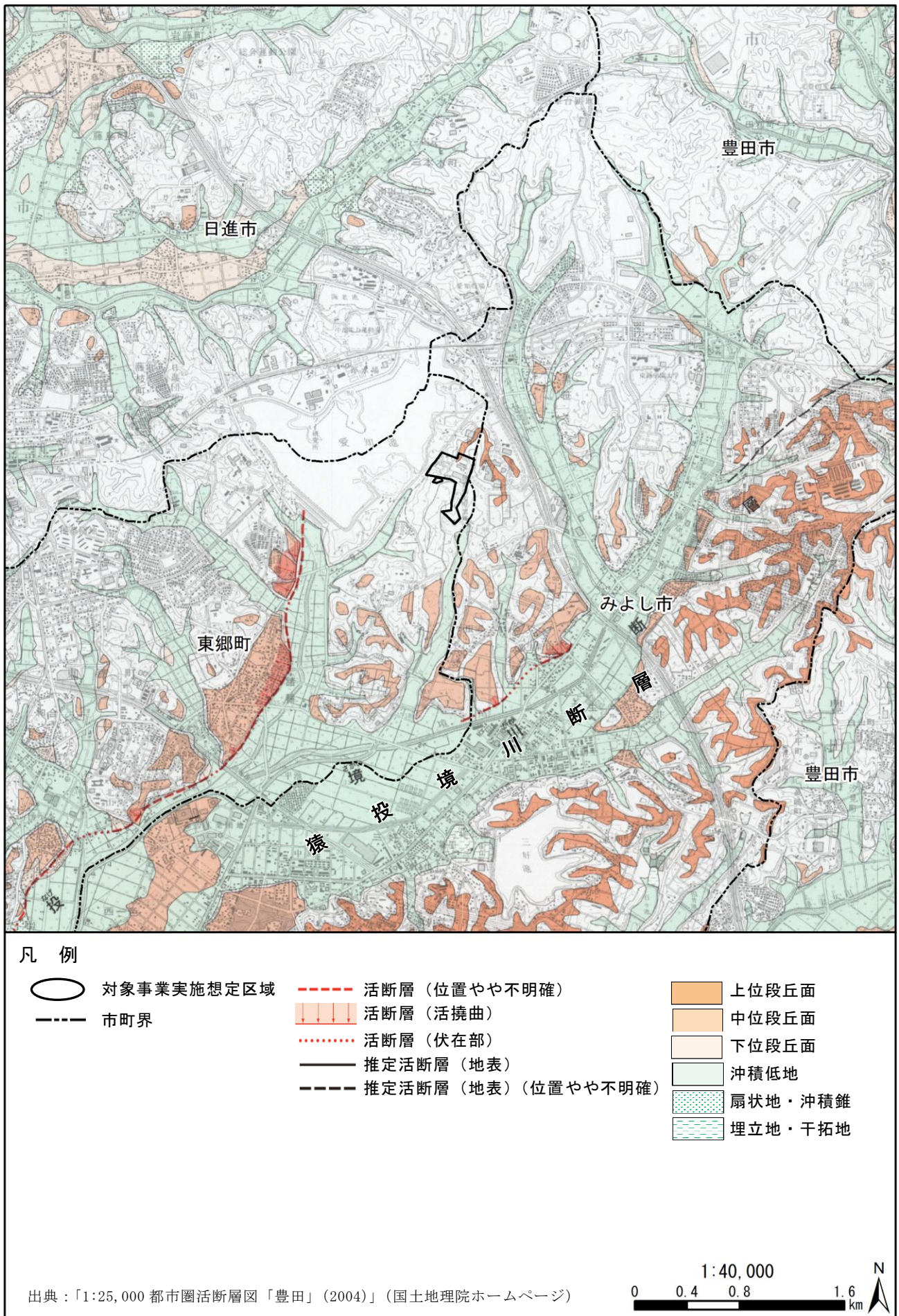


図 3.1.18 活断層の位置

3.1.7 地盤、地下水及び土壌の状況**3.1.7.1 地盤沈下**

対象事業実施想定区域及びその周囲において、地盤沈下の調査は実施されていない。

3.1.7.2 地下水

対象事業実施想定区域及びその周囲における地下水質調査結果は、表 3.1.27 に示すとおりである。

対象事業実施想定区域及びその周囲の地下水質の調査としては、地下水質の概況を把握するためのメッシュ調査が1地点、過去に地下水汚染が判明した地域の継続的な監視を行うための定期モニタリング調査が4地点で実施されている。

メッシュ調査の結果を見ると、すべての項目で環境基準以下の値となっている。

また、定期モニタリングの調査結果をみると、みよし市三好丘旭（発端井戸）で総水銀が環境基準を超過している。

表 3.1.27(1) 地下水質調査結果（令和5年度 概況調査（メッシュ））

| 調査項目 | 調査地点 | みよし市三好町 | 環境基準 |
|----------------|------|----------------|-----------|
| | 調査区分 | 概況調査 (メッシュ) | |
| カドミウム | mg/L | <0.0005 | 0.003 以下 |
| 全シアン | mg/L | <0.1 | 検出されないこと |
| 鉛 | mg/L | <0.005 | 0.01 以下 |
| 六価クロム | mg/L | <0.01 | 0.02 以下 |
| 砒素 | mg/L | <0.005 | 0.01 以下 |
| 総水銀 | mg/L | <0.0005 | 0.0005 以下 |
| アルキル水銀 | mg/L | — | 検出されないこと |
| P C B | mg/L | <0.0005 | 検出されないこと |
| ジクロロメタン | mg/L | <0.002 | 0.02 以下 |
| 四塩化炭素 | mg/L | <0.0002 | 0.002 以下 |
| クロロエチレン | mg/L | <0.0002 | 0.002 以下 |
| 1,2-ジクロロエタン | mg/L | <0.0004 | 0.004 以下 |
| 1,1-ジクロロエチレン | mg/L | <0.01 | 0.1 以下 |
| 1,2-ジクロロエチレン | mg/L | <0.004 | 0.04 以下 |
| 1,1,1-トリクロロエタン | mg/L | <0.0005 | 1 以下 |
| 1,1,2-トリクロロエタン | mg/L | <0.0006 | 0.006 以下 |
| トリクロロエチレン | mg/L | <0.001 | 0.01 以下 |
| テトラクロロエチレン | mg/L | <0.0005 | 0.01 以下 |
| 1,3-ジクロロプロペン | mg/L | <0.0002 | 0.002 以下 |
| チウラム | mg/L | <0.0006 | 0.006 以下 |
| シマジン | mg/L | <0.0003 | 0.003 以下 |
| チオベンカルブ | mg/L | <0.002 | 0.02 以下 |
| ベンゼン | mg/L | <0.001 | 0.01 以下 |
| セレン | mg/L | <0.002 | 0.01 以下 |
| 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 | mg/L | <0.10 | 10 以下 |
| ふっ素 | mg/L | <0.08 | 0.8 以下 |
| ほう素 | mg/L | <0.02 | 1 以下 |
| 1,4-ジオキサン | mg/L | <0.005 | 0.05 以下 |
| pH | | 6.6 | |
| 電気伝導率 | mS/m | 10 | |

注1) 表中の「<」は、報告下限値未満であることを示す。

注2) 表中の「—」は、調査を行っていないことを示す。

出典：「令和5（2023）年度公共用水域及び地下水の水質調査結果」（令和6年11月 愛知県）

表 3.1.27(2) 地下水質調査結果（令和5年度 定期モニタリング）

| 調査項目 | 調査地点 | みよし市三好丘旭 | | 東郷町大字諸輪 | | 環境基準 |
|----------------|--------------|--------------------|--------------|--------------------|-------------|-----------|
| | 調査 区分 | 定期モニタリング（継続監視）調査 | | | | |
| | | 概況調査等により判明 した汚染 | | 事業者からの報告等により判明した汚染 | | |
| | 発端・周辺 の区分 | 発端井戸 | 周辺井戸 | 発端井戸 | 周辺井戸 | |
| | 井戸場所 | みよし市 三好丘旭 | みよし市 三好丘旭 | 東郷町 大字諸輪 | みよし市 根浦町 | |
| カドミウム | mg/L | － | － | － | － | 0.003 以下 |
| 全シアン | mg/L | － | － | － | － | 検出されないこと |
| 鉛 | mg/L | － | － | － | － | 0.01 以下 |
| 六価クロム | mg/L | － | － | － | － | 0.02 以下 |
| 砒素 | mg/L | － | － | － | － | 0.01 以下 |
| 総水銀 | mg/L | 0.0007 | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | 0.0005 以下 |
| アルキル水銀 | mg/L | － | － | － | － | 検出されないこと |
| P C B | mg/L | － | － | － | － | 検出されないこと |
| ジクロロメタン | mg/L | － | － | － | － | 0.02 以下 |
| 四塩化炭素 | mg/L | － | － | － | － | 0.002 以下 |
| クロロエチレン | mg/L | － | － | － | － | 0.002 以下 |
| 1,2-ジクロロエタン | mg/L | － | － | － | － | 0.004 以下 |
| 1,1-ジクロロエチレン | mg/L | － | － | － | － | 0.1 以下 |
| 1,2-ジクロロエチレン | mg/L | － | － | － | － | 0.04 以下 |
| 1,1,1-トリクロロエタン | mg/L | － | － | － | － | 1 以下 |
| 1,1,2-トリクロロエタン | mg/L | － | － | － | － | 0.006 以下 |
| トリクロロエチレン | mg/L | － | － | － | － | 0.01 以下 |
| テトラクロロエチレン | mg/L | － | － | － | － | 0.01 以下 |
| 1,3-ジクロロプロペン | mg/L | － | － | － | － | 0.002 以下 |
| チウラム | mg/L | － | － | － | － | 0.006 以下 |
| シマジン | mg/L | － | － | － | － | 0.003 以下 |
| チオベンカルブ | mg/L | － | － | － | － | 0.02 以下 |
| ベンゼン | mg/L | － | － | － | － | 0.01 以下 |
| セレン | mg/L | － | － | － | － | 0.01 以下 |
| 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 | mg/L | － | － | － | － | 10 以下 |
| ふっ素 | mg/L | － | － | － | － | 0.8 以下 |
| ほう素 | mg/L | － | － | － | － | 1 以下 |
| 1,4-ジオキサン | mg/L | － | － | － | － | 0.05 以下 |
| pH | | 6.2 | 6.3 | 6.4 | 5.9 | |
| 電気伝導率 | mS/m | 15 | 5.1 | 5.8 | 11 | |

注 1) 表中の「<」は、報告下限値未満であることを示す。

注 2) 表中の「—」は、調査を行っていないことを示す。

出典：「令和 5（2023）年度公共用水域及び地下水の水質調査結果」（令和 6 年 11 月 愛知県）

対象事業実施想定区域では、令和3年12月3日の自主検査で、環境基準を超える水銀が検出されて以降、地下水について経過観察を行っている。令和4年度は毎月測定を行ったが、基準値を超える水銀の検出が不規則であり、発生原因が自然由来と解されることから、令和5年度より年1回の測定としている。測定結果は、表3.1.28に示すとおりである。

表 3.1.28 地下水質調査結果（尾三衛生組合敷地内3号井戸）

| 年度 | 測定日 | 測定結果 |
|-------|------------|----------------|
| 令和3年度 | 令和3年12月3日 | 0.0010 mg/L |
| | 令和3年12月23日 | 0.0011 mg/L |
| | 令和4年1月6日 | 0.0005 mg/L 未満 |
| | 令和4年2月28日 | 0.0006 mg/L |
| | 令和4年3月16日 | 0.0013 mg/L |
| 令和4年度 | 令和4年4月18日 | 0.0005 mg/L 未満 |
| | 令和4年5月23日 | 0.0013 mg/L |
| | 令和4年6月16日 | 0.0018 mg/L |
| | 令和4年7月15日 | 0.0016 mg/L |
| | 令和4年8月12日 | 0.0023 mg/L |
| | 令和4年9月6日 | 0.0005 mg/L 未満 |
| | 令和4年10月13日 | 0.0005 mg/L 未満 |
| | 令和4年11月29日 | 0.0011 mg/L |
| | 令和4年12月5日 | 0.0027 mg/L |
| | 令和4年12月6日 | 0.0023 mg/L |
| | 令和5年1月24日 | 0.0029 mg/L |
| | 令和5年2月3日 | 0.0022 mg/L |
| | 令和5年3月9日 | 0.0005 mg/L 未満 |
| 令和5年度 | 令和5年12月12日 | 0.0049 mg/L |
| 令和6年度 | 令和6年12月12日 | 0.0048 mg/L |

注1) 環境基準 総水銀：0.0005 mg/L 以下

注2) 一般的に毒性が強いとされているアルキル水銀は検出されていない。

出典：「尾三衛生組合 3号井戸地下水の測定結果について」（令和7年1月 尾三衛生組合）

3.1.7.3 土壌**(1) 土壌**

対象事業実施想定区域及びその周囲の土壌図は、図 3.1.19 に示すとおりである。

対象事業実施想定区域の土壌は主に乾性褐色森林土壌（未熟土系）の三ヶ峰統、東山統となっている。対象事業実施想定区域の周囲は、地形等に応じて主に乾性褐色森林土壌（未熟土系）や赤色土壌、黄色土壌がみられる。また、境川等の中小河川沿いは、細粒グライ土壌、グライ土壌、粗粒グライ土壌等となっている。

(2) 土壌汚染

対象事業実施想定区域及びその周囲には、「土壌汚染対策法」（平成 14 年法律第 53 号）に基づく要措置区域に指定されている区域はない。形質変更時要届出区域に指定されている区域は、表 3.1.29 に示すとおりである。

表 3.1.29 形質変更時要届出区域

| 指定番号 | 指定年月日 | 区域が存在する場所 | 区域の面積 | 基準に適合しない 特定有害物質 |
|------|------------------|---|----------------------|-----------------------------------|
| 形-11 | 平成 25 年 3 月 22 日 | みよし市三好町笠松 111 番、112 番 1 及び 112 番 2 の各一部 | 158.5m ² | 鉛及びその化合物（溶出） |
| 形-74 | 令和 7 年 3 月 14 日 | 愛知郡東郷町大字諸輪 字上鉾 68 番の一部 | 600.00m ² | カドミウム及びその化合物（溶出） 砒素及びその化合物（溶出） |

出典：「土壌汚染対策法に基づく要措置区域・形質変更時要届出区域の指定状況」（愛知県ホームページ）

(3) 土地利用の履歴

「地図・空中写真閲覧サービス」（国土交通省国土地理院ホームページ）によると、対象事業実施想定区域及びその周囲の土地利用は、昭和 40 年代までは森林及び荒地となっていた。

対象事業実施想定区域には、本組合の焼却施設が昭和 51 年に建設された。その後、平成 9 年に現在の東郷美化センターに建替えが行われ、現在も稼働している。



図 3.1.19(1) 土壌図

凡 例

| 山地及び丘陵地地域の土壌 | | | | | |
|---|---|---|----------|---|---------|
| 乾性褐色森林土壌 |  | 村積山 1 統 | 赤色土壌 |  | 勘八山統 |
| |  | 真福寺 1 統 | |  | 岩崎統 |
| |  | 三ヶ峰統、東山統 | |  | 明知統、拳母統 |
|  | 相野山統、東山統 |  | | 上郷統、拳母統 | |
| 乾性褐色森林土壌 (未熟土系) |  | 和合 1 統、和合 2 統 | | | |
| | | | | | |
| 褐色森林土壌 |  | 村積山 2 統 | | | |
| |  | 真福寺 2 統 | | | |
| 台地・低地地域の土壌 | | | | | |
| 赤色土壌 |  | 駒場統 | 灰色低地土壌 |  | 加茂統 |
| 黄色土壌 |  | 東境統 | 細粒灰色低地土壌 |  | 豊中統 |
| |  | 猿投統 | |  | 久世田統 |
| |  | 三好統 | 細粒グライ土壌 |  | 保倉統 |
| |  | 蓼沼統 | |  | 三隅下統 |
| |  | 北多久統 | |  | 田川統 |
| |  | 真福寺 1 統 | |  | 西山統 |
| |  | 新野統 | |  | 東浦統 |
| |  | 堤統 | グライ土壌 |  | 上兵庫統 |
| |  | 豊明統 | |  | 芝井統 |
| | |  | | 滝尾統 | |
| 灰色台地土壌 |  | 吉原統 | 粗粒グライ土壌 |  | 八幡統 |
| |  | 筋生統 | |  | 琴浜統 |
| |  | 早稲原統 | |  | 竜北統 |
| |  | 長田統 | | | |
| |  | 明知下統 | 黒泥土壌 |  | 荒井統 |
| 台地グライ土壌 |  | 栃丘統 | |  | 大平統 |
| |  | 本地統 | |  | 今の浦統 |
| |  | 山古志統 | その他 |  | 人工改変地 |
| 褐色低地土壌 |  | 荻野統 | | | |
| 細粒灰色低地土壌 |  | 東和統 | | | |
| |  | 藤代統 | | | |
| |  | 宝田統 | | | |

図 3.1.19(2) 土壌図

3.1.8 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況**3.1.8.1 動物**

(1) 動物相の概要

対象事業実施想定区域及びその周囲の動物の状況については、表 3.1.30 に示す既存資料により整理した。

表 3.1.30 確認文献一覧

| 番号 | 文献 | 分布想定種 |
|----|--|--|
| 1 | 「レッドデータブックあいち 2020」 (令和2年3月 愛知県) | 調査対象とした野生動物（哺乳類、爬虫類、両生類、昆虫類、クモ類）のうち、対象事業実施想定区域及びその周囲を含むメッシュ内で確認されている種（鳥類、魚類、貝類はメッシュ情報なし） 貝類は対象事業実施想定区域及びその周囲での分布情報（生息環境）が記載されている種 |
| 2 | 「第2回～第7回自然環境保全基礎調査」 (昭和53年～平成24年、環境省) 哺乳類（中大型哺乳類分布調査、要注意鳥獣（クマ等）生息分布調査） (平成27年度～令和3年度、環境省) | 調査対象とした野生動物（哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類、貝類）のうち、対象事業実施想定区域及びその周囲を含むメッシュ内で確認されている種 |
| 3 | 「全国鳥類繁殖分布調査報告 日本の鳥の今を描こう 2016－2021年」 (令和3年10月 鳥類繁殖分布調査会) | 調査対象とした野生動物（鳥類）のうち対象事業実施想定区域及びその周囲を含むメッシュ内で確認されている種 |
| 4 | 「全国鳥類越冬分布調査報告 2016－2022年」 (令和5年2月 特定非営利活動法人 バードリサーチ 公益財団法人 日本野鳥の会) | 調査対象とした野生動物（鳥類）のうち対象事業実施想定区域及びその周囲を含むメッシュ内で確認されている種 |
| 5 | 「愛知の野鳥 1995」 (愛知県農地林務部自然保護課) | 対象事業実施想定区域及びその周囲を含むメッシュ内で確認されている種 |
| 6 | 東郷町誌 第二巻 (昭和55年3月 東郷町) | 掲載の種全て |
| 7 | 日進市史 自然編 (平成27年3月 日進市) | 掲載の種全て |
| 8 | 第2次日進市環境基本計画(2024年度～2030年度) (令和6年3月 日進市) | 対象事業実施想定区域及びその周囲で確認されている種 |
| 9 | 生物調査報告書 (平成30年11月 豊田市) | 魚類：調査地点…逢妻女川上流域（高速道路下から上流約1km区間）で確認されている種 両生類：対象事業実施想定区域及びその周囲を含むメッシュ内で確認されている種 爬虫類、鳥類、哺乳類、昆虫類、クモ類：挙母地区、保見地区確認されている種 |
| 10 | 豊田市で確認された生物種 (令和6年11月 豊田市) | 掲載の種全て（地区名記載がないため全種を対象とした） |
| 11 | 最終処分場建設に係る生活環境影響調査 報告書 (平成14年3月 尾三衛生組合) | 現地調査の結果全て |

① 哺乳類

対象事業実施想定区域及びその周囲で見られる哺乳類は、表 3.1.31 に示すとおり、7 目 19 科 43 種である。

対象事業実施想定区域及びその周囲では、農地等の草地や樹林を生息環境とするタヌキ、キツネ、ニホンイタチ、イノシシ、市街地やため池等ひらけた空間を利用するアブラコウモリなどが確認されている。

また、アライグマやヌートリアといった外来種も確認されている。

表 3.1.31 確認種一覧（哺乳類）

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 学名 | 文献番号 | | | | | | | |
|-----|----------------|------------|-------------------------------|--|-----------------------|-----|----|-----|-----|-----|----|---|
| | | | | | 1 | 2 | 6 | 7 | 9 | 10 | 11 | |
| 1 | モグラ目 (食虫目) | トガリネズミ科 | ジネズミ | <i>Crocidura dsinezumi</i> | ● | | | ● | | ● | | |
| 2 | | | カワネズミ | <i>Chimarrogale platycephalus</i> | ● | | | | | ● | | |
| 3 | | モグラ科 | ヒミズ | <i>Urotrichus talpoides</i> | | ● | | ● | | ● | | |
| 4 | | | ミズラモグラ | <i>Oreoscaptor mizura</i> | | | | | | ● | | |
| 5 | | | アズマモグラ | <i>Mogera imaizumii</i> | | | | | | ● | | |
| 6 | | | コウベモグラ | <i>Mogera wogura</i> | ● | | ● | ● | ● | ● | | |
| - | | | モグラ科の一種 | <i>Talpidae</i> sp. | | | | | | ● | ● | |
| 7 | コウモリ目 (翼手目) | キクガシラコウモリ科 | コキクガシラコウモリ (ニホンコキクガシラコウモリ) | <i>Rhinolophus cornutus (P. c. cornutus)</i> | ● | | | | ● | ● | | |
| 8 | | | キクガシラコウモリ | <i>Rhinolophus ferrumequinum</i> | ● | | | | | ● | | |
| 9 | | ヒナコウモリ科 | モモジロコウモリ | <i>Myotis macrodactylus</i> | ● | | | | ● | ● | | |
| 10 | | | アブラコウモリ | <i>Pipistrellus abramus</i> | | ● | | ● | | ● | ● | |
| 11 | | | ヤマコウモリ | <i>Nyctalus aviator</i> | | | | | | ● | | |
| 12 | | | ヒナコウモリ | <i>Vespertilio sinensis</i> | | | | | | ● | | |
| 13 | | | ユビナガコウモリ | <i>Miniopterus fuliginosus</i> | | | | | | ● | | |
| 14 | | | テングコウモリ | <i>Murina hilgendorfi</i> | | | | | ● | ● | | |
| - | | | - | コウモリ目(翼手目)の一種 | <i>Chiroptera</i> sp. | | | | | | ● | |
| 15 | | サル目(霊長目) | オナガザル科 | ニホンザル | <i>Macaca fuscata</i> | | ● | | ● | ● | ● | |
| 16 | ウサギ目 | ウサギ科 | ノウサギ | <i>Lepus brachyurus</i> | ● | ● | ● | ● | | ● | | |
| 17 | ネズミ目 (齧歯目) | リス科 | ニホンリス | <i>Sciurus lis</i> | | ● | | ● | | ● | | |
| 18 | | | ニホンモモンガ | <i>Pteromys momonga</i> | | | | | | | ● | |
| 19 | | | ムササビ | <i>Petaurista leucogenys</i> | ● | | | | | ● | | |
| 20 | | ヤマネ科 | ヤマネ | <i>Glirulus japonicus</i> | | | | | | ● | | |
| 21 | | ネズミ科 | スミスネズミ | <i>Craseomys smithii</i> | | | | | | | ● | |
| 22 | | | ハタネズミ | <i>Alexandromys montebelli</i> | | | | | | | ● | |
| 23 | | | アカネズミ | <i>Apodemus speciosus</i> | | ● | | ● | ● | ● | | |
| 24 | | | ヒメネズミ | <i>Apodemus argenteus</i> | | ● | | | | | ● | |
| 25 | | | カヤネズミ | <i>Micromys minutus</i> | ● | | | ● | | | ● | ● |
| 26 | | | ハツカネズミ | <i>Mus musculus</i> | | | ● | ● | | | | |
| 27 | | | クマネズミ | <i>Rattus rattus</i> | | | | ● | | | ● | |
| 28 | | | ドブネズミ | <i>Rattus norvegicus</i> | | | | ● | | | | |
| - | | | - | ネズミ科の一種 | <i>Muridae</i> sp. | | | ● | | | | ● |
| 29 | | ヌートリア科 | ヌートリア | <i>Myocastor coypus</i> | | ● | | ● | ● | ● | | |
| 30 | ネコ目(食肉目) | クマ科 | ツキノワグマ | <i>Ursus thibetanus</i> | | | | | ● | ● | | |
| 31 | | アライグマ科 | アライグマ | <i>Procyon lotor</i> | | ● | | ● | | ● | | |
| 32 | | イヌ科 | タヌキ | <i>Nyctereutes procyonoides</i> | | ● | ● | ● | ● | ● | | |
| 33 | | | キツネ | <i>Vulpes vulpes</i> | | ● | ● | ● | ● | ● | | |
| 34 | | | ノイヌ(オオカミ) | <i>Canis lupus</i> | | | | | | | ● | |
| 35 | | イタチ科 | テン(ホンドテン) | <i>Martes melampus (M. m. melampus)</i> | | | | | | | ● | |
| 36 | | | シベリアイタチ | <i>Mustela sibirica</i> | | | | | | ● | ● | |
| 37 | | | ニホンイタチ | <i>Mustela itatsi</i> | | | | | | ● | ● | |
| - | | | イタチ属の一種 | <i>Mustela</i> sp. | | ● | ● | ● | | | ● | ● |
| 38 | | | アナグマ | <i>Meles anakuma</i> | | ● | | | | | ● | |
| 39 | | ジャコウネコ科 | ハクビシン | <i>Paguma larvata</i> | | ● | | ● | ● | ● | | |
| 40 | ネコ科 | ノネコ | <i>Felis catus</i> | | | | | | | ● | | |
| 41 | ウシ目(偶蹄目) | イノシシ科 | イノシシ | <i>Sus scrofa</i> | | ● | ● | ● | ● | ● | | |
| 42 | | シカ科 | ニホンジカ | <i>Cervus nippon</i> | | | | | | | ● | |
| 43 | | ウシ科 | カモシカ | <i>Capricornis crispus</i> | | ● | | ● | | | ● | |
| - | | - | ウシ目(偶蹄目)の一種 | <i>Artiodactyla</i> sp. | | | | | | | ● | |
| | 7目 | 19科 | 43種 | | 9種 | 16種 | 8種 | 19種 | 14種 | 41種 | 4種 | |

注1) 表中の文献番号は表 3.1.30の番号と対応する。

注2) 種名及び配列については原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（令和6年10月 国土交通省）に準拠した。

② 鳥類

対象事業実施想定区域及びその周囲で見られる鳥類は、表 3.1.32 に示すとおり、22 目 67 科 298 種である。

住宅地周辺を利用するツバメやムクドリ、メジロ、ため池を利用するオシドリ、カルガモ等のカモ科や草地を利用するヒバリやケリ、樹林地を生息環境とするヤマガラやシジュウカラ等のシジュウカラ科、オオルリやルリビタキ等ヒタキ科が確認されているほか、タカ科、フクロウ科、ハヤブサ科などの生態系上位種も確認されている。

また、ソウシチョウやガビチョウといった外来種も確認されている。

表 3.1.32(1) 確認種一覧（鳥類）

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 学名 | 文献番号 | | | | | | | | | | |
|-----|--------|-----------------------------------|-----------|--|------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|----|----|---|
| | | | | | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | |
| 1 | カモ目 | カモ科 | コクガン | <i>Branta bernicla nigricans</i> | | | ● | | | | | | | | |
| 2 | | | ヒシクイ | <i>Anser fabalis</i> | | | ● | | | | | | | | |
| 3 | | | マガン | <i>Anser albifrons albifrons</i> | | | ● | | | | | | ● | | |
| 4 | | | カリガネ | <i>Anser erythropus</i> | | | ● | | | | | | | | |
| 5 | | | コブハクチョウ | <i>Cygnus olor</i> | | ● | ● | | | | | | | | |
| 6 | | | コハクチョウ | <i>Cygnus columbianus</i> | | | ● | | | | | | ● | | |
| 7 | | | オオハクチョウ | <i>Cygnus cygnus</i> | | | ● | | | | | | ● | | |
| 8 | | | ツクシガモ | <i>Tadorna tadorna</i> | | | ● | | | | | | | | |
| 9 | | | オシドリ | <i>Aix galericulata</i> | | ● | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | |
| 10 | | | トモエガモ | <i>Sibirionetta formosa</i> | | | ● | ● | | | | ● | ● | ● | |
| 11 | | | シマアジ | <i>Spatula querquedula</i> | | | | | | | | ● | ● | | |
| 12 | | | ハシビロガモ | <i>Spatula clypeata</i> | | | ● | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 13 | | | オカヨシガモ | <i>Mareca strepera strepera</i> | | | ● | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 14 | | | ヨシガモ | <i>Mareca falcata</i> | | | ● | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 15 | | | ヒドリガモ | <i>Mareca penelope</i> | | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 16 | | | アメリカヒドリ | <i>Mareca americana</i> | | | ● | ● | | | | ● | ● | | |
| 17 | | | カルガモ | <i>Anas zonorhyncha</i> | | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | |
| 18 | | | マガモ | <i>Anas platyrhynchos platyrhynchos</i> | | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | |
| 19 | | | アイガモ（アヒル） | <i>Anas platyrhynchos var.domesticus</i> | | | | | | | | | ● | | |
| 20 | | | オナガガモ | <i>Anas acuta</i> | | ● | | ● | ● | | ● | | ● | ● | |
| 21 | | | コガモ | <i>Anas crecca crecca</i> | | ● | | ● | ● | | ● | | ● | ● | |
| — | | | | マガモ属の一種 | <i>Anas sp.</i> | | | | | | | | ● | | |
| 22 | | | | オオホシハジロ | <i>Aythya valisineria</i> | | | ● | | | | | | | |
| 23 | | | | ホシハジロ | <i>Aythya ferina</i> | | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | | |
| 24 | | | | アカハジロ | <i>Aythya baeri</i> | | | ● | | | ● | | | | |
| 25 | | | | メジロガモ | <i>Aythya nyroca</i> | | | ● | | | | | | | |
| 26 | | | | キンクロハジロ | <i>Aythya fuligula</i> | | | ● | ● | | ● | | ● | ● | |
| 27 | | | | スズガモ | <i>Aythya marila nearctica</i> | | ● | | ● | ● | | ● | ● | | |
| 28 | | | | シノリガモ | <i>Histrionicus histrionicus</i> | | | ● | | | | | | | |
| 29 | | | | ビロードキンクロ | <i>Melanitta streperus</i> | | | ● | | | | | | | |
| 30 | | | | クロガモ | <i>Melanitta americana</i> | | | ● | | | | | | | |
| 31 | | | | コオリガモ | <i>Clangula clangula</i> | | | ● | | | | | | | |
| 32 | | | | ホオジロガモ | <i>Bucephala clangula clangula</i> | | | ● | | | ● | | ● | ● | |
| 33 | | | | ミコアイサ | <i>Mergellus albellus</i> | | ● | | ● | ● | | ● | ● | ● | |
| 34 | | | | カワアイサ | <i>Mergus merganser merganser</i> | | | ● | ● | | | ● | ● | | |
| 35 | | | | ウミアイサ | <i>Mergus serrator</i> | | | ● | | | | | ● | | |
| 36 | | | | コウライアイサ | <i>Mergus squamatus</i> | | | ● | | | | | | | |
| — | | | | カモ科の一種 | <i>Anatidae sp.</i> | | | | | ● | | | | | |
| 37 | キジ目 | キジ科 | ヤマドリ | <i>Syrnium soemmerringii scintillans</i> | | | ● | ● | ● | | ● | | | | |
| 38 | | | キジ | <i>Phasianus versicolor robustipes</i> | | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | | |
| 39 | | | ウズラ | <i>Coturnix japonica</i> | | | ● | ● | | ● | | ● | | | |
| 40 | ヨタカ目 | ヨタカ科 | ヨタカ | <i>Caprimulgus jotaka jotaka</i> | | ● | ● | | ● | | ● | ● | | | |
| 41 | アマツバメ目 | アマツバメ科 | ハリオアマツバメ | <i>Hirundapus caudacutus caudacutus</i> | | | ● | | | | ● | ● | | | |
| 42 | | | アマツバメ | <i>Apus pacificus</i> | | | ● | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 43 | | | ヒメアマツバメ | <i>Apus nipalensis kuntzi</i> | | | ● | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 44 | カッコウ目 | カッコウ科 | ジュウイチ | <i>Hierococyx hyperythrus</i> | | ● | | | | | ● | ● | | | |
| 45 | | | ホトトギス | <i>Cuculus poliocephalus</i> | | ● | | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 46 | | | セグロカッコウ | <i>Cuculus micropterus micropterus</i> | | | | | | | | ● | | | |
| 47 | | | ツツドリ | <i>Cuculus optatus</i> | | ● | | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 48 | | | カッコウ | <i>Cuculus canorus canorus</i> | | ● | | ● | | ● | | ● | ● | | |
| — | | | カッコウ属の一種 | <i>Cuculus sp.</i> | | | | | | | | ● | ● | | |
| 49 | | | ハト目 | ハト科 | キジバト | <i>Streptopelia orientalis orientalis</i> | | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● |
| 50 | アオバト | <i>Treron sieboldii sieboldii</i> | | | | | ● | ● | ● | | ● | | ● | | |
| — | ハト科の一種 | <i>Columbidae sp.</i> | | | | | | | | | | | ● | | |
| 51 | ツル目 | クイナ科 | クイナ | <i>Rallus indicus</i> | | ● | ● | ● | ● | | ● | | ● | | |
| 52 | | | バン | <i>Gallinula chloropus chloropus</i> | | ● | ● | ● | ● | | ● | | ● | | |
| 53 | | | オオバン | <i>Fulica atra atra</i> | | | ● | ● | ● | | ● | | ● | | |
| 54 | | | シマクイナ | <i>Coturnicops exquisitus</i> | | | ● | | | | | | | | |
| 55 | | | ヒクイナ | <i>Zapornia fusca erythrothorax</i> | | ● | ● | ● | | | ● | | ● | | |
| 56 | | | ツルクイナ | <i>Gallirex cinerea</i> | | | | | | | | | ● | | |
| 57 | | | ツル科 | <i>Grus monacha</i> | | | | ● | | | | | | | |
| 58 | カイツブリ目 | カイツブリ科 | カイツブリ | <i>Tachybaptus ruficollis poggei</i> | | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | | |
| 59 | | | アカエリカイツブリ | <i>Podiceps grisegena holbollii</i> | | | ● | ● | | | | ● | ● | | |
| 60 | | | カンムリカイツブリ | <i>Podiceps cristatus cristatus</i> | | ● | ● | ● | ● | | ● | | ● | | |
| 61 | | | ミミカイツブリ | <i>Podiceps auritus auritus</i> | | | | ● | | | | | | | |
| 62 | | | ハジロカイツブリ | <i>Podiceps nigricollis nigricollis</i> | | | | ● | | | ● | | ● | | |

注1) 表中の文献番号は表 3.1.30 の番号と対応する。

注2) 種名及び配列については原則として「日本鳥類目録 改訂第8版」(令和6年10月 日本鳥学会)に準拠した。

表 3.1.32(2) 確認種一覧（鳥類）

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 学名 | 文献番号 | | | | | | | | | | |
|-----|------------|--------------------------------------|---|---|-------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|----|----|--|
| | | | | | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | |
| 63 | チドリ目 | ミヤコドリ科 | ミヤコドリ | <i>Haematopus ostralegus osculans</i> | | | | | | | | | | | |
| 64 | | セイタカシギ科 | セイタカシギ | <i>Himantopus himantopus</i> | | ● | ● | | | | | | ● | | |
| 65 | | チドリ科 | ソリハシセイタカシギ | <i>Recurvirostra avosetta</i> | | | ● | | | | | | | | |
| 66 | | | タゲリ | <i>Vanellus vanellus</i> | | | | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 67 | | | ケリ | <i>Vanellus cinereus</i> | ● | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 68 | | | ムナグロ | <i>Pluvialis fulva</i> | | | | ● | | ● | | | ● | | |
| 69 | | | ダイゼン | <i>Pluvialis squatarola</i> | | | ● | | | | | | ● | | |
| 70 | | | ハジロコチドリ | <i>Charadrius hiaticula tundrae</i> | | | ● | | | | | | | | |
| 71 | | | イカルチドリ | <i>Charadrius placidus</i> | ● | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 72 | | | コチドリ | <i>Charadrius dubius curonicus</i> | ● | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | ● | |
| 73 | | | シロチドリ | <i>Charadrius alexandrinus</i> | ● | ● | ● | | | | | | ● | | |
| 74 | | | メダイチドリ | <i>Charadrius mongolus</i> | | | ● | | | | | | ● | | |
| - | | | チドリ属の一種 | <i>Charadrius sp.</i> | | | | | | | | | ● | | |
| 75 | | | タマシギ科 | タマシギ | <i>Rostratula benghalensis</i> | ● | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | |
| 76 | | | シギ科 | チュウシャクシギ | <i>Numenius phaeopus variegatus</i> | | | ● | | | ● | | | ● | |
| 77 | | | | ホウロクシギ | <i>Numenius madagascariensis</i> | | | | | | ● | | | | |
| 78 | | ダイシャクシギ | | <i>Numenius arquata orientalis</i> | | | ● | | | | | | | | |
| 79 | | オオソリハシシギ | | <i>Limosa lapponica</i> | | | | | | | | | | ● | |
| 80 | | オグロシギ | | <i>Limosa limosa melanuroides</i> | | | | | | | | | | ● | |
| 81 | | キョウジョシギ | | <i>Arenaria interpres interpres</i> | | | | ● | | | | | | ● | |
| 82 | | エリマキシギ | | <i>Calidris pugnax</i> | | | ● | | | | | | | ● | |
| 83 | | キリアイ | | <i>Calidris falcinellus sibirica</i> | | | | | | | | | | ● | |
| 84 | | ウスラシギ | | <i>Calidris acuminata</i> | | | | | | | | | | ● | |
| 85 | | オジロトウネン | | <i>Calidris temminckii</i> | | | ● | | | | | | | ● | |
| 86 | | ヒバリシギ | | <i>Calidris subminuta</i> | | | | | | ● | | | | ● | |
| 87 | トウネン | <i>Calidris ruficollis</i> | | | | | ● | | | | | | ● | | |
| 88 | ミュビシギ | <i>Calidris alba</i> | | | | | ● | | | | | | | | |
| 89 | ハマシギ | <i>Calidris alpina sakhalina</i> | | | | | ● | ● | | | | | ● | | |
| 90 | ヨーロッパトウネン | <i>Calidris minuta</i> | | | | | ● | | | | | | | | |
| 91 | アメリカウズラシギ | <i>Calidris melanotos</i> | | | | | | | | | | | ● | | |
| 92 | オオハシシギ | <i>Limnodromus scolopaceus</i> | | | | | ● | | | | | | | | |
| 93 | ヤマシギ | <i>Scolopax rusticola</i> | | | | | ● | ● | | | | | ● | | |
| 94 | アオシギ | <i>Gallinago solitaria japonica</i> | | | | | | | | | | | ● | | |
| 95 | オオジシギ | <i>Gallinago hardwickii</i> | | | | | | | | ● | | | ● | | |
| 96 | ハリオシギ | <i>Gallinago stenura</i> | | | | | | | | ● | | | | | |
| 97 | チュウジシギ | <i>Gallinago megala</i> | | | | | | | | ● | | | ● | | |
| 98 | タシギ | <i>Gallinago gallinago gallinago</i> | | ● | | | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | | |
| 99 | ソリハシシギ | <i>Xenus cinereus</i> | | | | | ● | | | | | | ● | | |
| 100 | アカエリヒレアシシギ | <i>Phalaropus lobatus</i> | | | | | | | | ● | | | ● | | |
| 101 | イソシギ | <i>Actitis hypoleucos</i> | | ● | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | | | |
| 102 | クサシギ | <i>Tringa ochropus</i> | | | | ● | ● | | ● | | ● | ● | | | |
| 103 | キアシシギ | <i>Tringa brevipes</i> | | | | | ● | | ● | | ● | ● | | | |
| 104 | アカアシシギ | <i>Tringa totanus ussuriensis</i> | | | | | ● | | | | | | | | |
| 105 | コアオアシシギ | <i>Tringa stagnatilis</i> | | | | | | | | ● | | | ● | | |
| 106 | タカアシシギ | <i>Tringa glareola</i> | | | | | ● | ● | | ● | | | ● | | |
| 107 | ツルシギ | <i>Tringa erythropus</i> | | | | | ● | | | | | | ● | | |
| 108 | アオアシシギ | <i>Tringa nebularia</i> | | | | | ● | ● | | ● | | | ● | | |
| - | | シギ科の一種 | | <i>Scolopacidae sp.</i> | | | | | | | | | ● | | |
| 109 | ツバメチドリ科 | ツバメチドリ | <i>Glareola maldivarum</i> | | | ● | | | | | | ● | | | |
| 110 | カモメ科 | ミツユビカモメ | <i>Rissa tridactyla pollicaris</i> | | | ● | | | | | | ● | | | |
| 111 | | ユリカモメ | <i>Chroicocephalus ridibundus</i> | ● | | ● | ● | | ● | | ● | | | | |
| 112 | | ズグロカモメ | <i>Saundersilarus saundersi</i> | | | ● | | | ● | | | | | | |
| 113 | | ウミネコ | <i>Larus crassirostris</i> | | ● | ● | | | ● | | ● | ● | | | |
| 114 | | カモメ | <i>Larus canus kamtschatschensis</i> | | | | | | ● | | ● | ● | | | |
| 115 | | ワシカモメ | <i>Larus glaucescens</i> | | | ● | | | | | | | | | |
| 116 | | シロカモメ | <i>Larus hyperboreus pallidissimus</i> | | | ● | | | | | | | | | |
| 117 | | セグロカモメ | <i>Larus vegae vegae</i> | | | ● | | | | | | ● | | | |
| 118 | | オオセグロカモメ | <i>Larus schistisagus</i> | | | ● | | | | | | | | | |
| 119 | | ニセセグロカモメ | <i>Larus fuscus</i> | | | ● | | | | | | | | | |
| 120 | | コアジサシ | <i>Sternula albifrons sinensis</i> | ● | ● | | ● | | ● | | ● | ● | | | |
| 121 | | アジサシ | <i>Sterna hirundo</i> | | | | | | ● | | | | | | |
| 122 | | クロハラアジサシ | <i>Chlidonias hybrida hybrida</i> | | | | | | | | | | | | |
| 123 | | ハジロクロハラアジサシ | <i>Chlidonias leucopterus</i> | | | | | | ● | | | ● | | | |
| 124 | トウゾクカモメ科 | クロトウゾクカモメ | <i>Stercorarius parasiticus</i> | | | | | | | | ● | | | | |
| 125 | ウミスズメ科 | ウミスズメ | <i>Synthliboramphus antiquus antiquus</i> | | | | ● | | | | | | | | |
| 126 | アビ目 | アビ科 | アビ | | | ● | | | | | | | | | |
| 127 | | | オオハム | <i>Gavia arctica viridigularis</i> | | | ● | | | | | | | | |
| 128 | ミズナギドリ目 | ミズナギドリ科 | オオミズナギドリ | <i>Calonectris leucomelas</i> | | ● | | | | | | ● | | | |
| 129 | コウノトリ目 | コウノトリ科 | コウノトリ | <i>Ciconia boyciana</i> | | ● | ● | | | | | | | | |
| 130 | カツオドリ目 | ウ科 | ヒメウ | <i>Urile pelagicus pelagicus</i> | | | ● | | | | | | | | |
| 131 | | | ウミウ | <i>Phalacrocorax capillatus</i> | | | ● | | | | | | | | |
| 132 | | | カワウ | <i>Phalacrocorax carbo</i> | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | | | |
| 133 | バリカン目 | トキ科 | ヘラサギ | <i>Platalea leucorodia leucorodia</i> | | | ● | | | | | | | | |
| 134 | | | クロツラヘラサギ | <i>Platalea minor</i> | | | ● | | | | | | | | |
| 135 | | サギ科 | サンカノゴイ | <i>Botaurus stellaris stellaris</i> | | | ● | | | | | | | | |
| 136 | | | ヨシゴイ | <i>Ixobrychus sinensis sinensis</i> | | ● | | | | | ● | ● | | | |
| 137 | | | ミソゴイ | <i>Gorsachius goisagi</i> | | ● | | | | ● | | ● | | | |
| 138 | | | ゴイサギ | <i>Nycticorax nycticorax nycticorax</i> | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | | | |
| 139 | | | ササゴイ | <i>Butorides striata amurensis</i> | | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | | | |
| 140 | | | アカガシラサギ | <i>Ardeola bacchus</i> | | | | | | | | ● | | | |
| 141 | | | アマサギ | <i>Bubulcus ibis coromandus</i> | ● | ● | ● | ● | | | ● | ● | ● | | |
| 142 | | | アオサギ | <i>Ardea cinerea jouyi</i> | ● | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 143 | | | ダイサギ | <i>Ardea alba alba</i> | | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 144 | | | チュウサギ | <i>Ardea intermedia intermedia</i> | | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 145 | | | コサギ | <i>Egretta garzetta garzetta</i> | ● | ● | ● | ● | | | ● | ● | | | |
| 146 | | | クロサギ | <i>Egretta sacra sacra</i> | | ● | ● | | | | | | | | |
| - | | | | サギ科の一種 | <i>Ardeidae sp.</i> | | | | ● | | | | | | |

注1) 表中の文献番号は表 3.1.30 の番号と対応する。

注2) 種名及び配列については原則として「日本鳥類目録 改訂第8版」(令和6年10月 日本鳥学会)に準拠した。

第3章 配慮書対象事業実施想定区域及びその周囲の概況

3.1 自然的状況

表 3.1.32(3) 確認種一覧（鳥類）

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 学名 | 文献番号 | | | | | | | | | | |
|-----|---------|----------|----------|--|------------------|---|---|---|---|---|---|---|----|----|---|
| | | | | | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | |
| 147 | タカ目 | ミサゴ科 | ミサゴ | <i>Pandion haliaetus haliaetus</i> | | ● | ● | ● | | | ● | ● | ● | ● | |
| 148 | | タカ科 | ハチクマ | <i>Pernis ptilorhynchus orientalis</i> | | ● | | ● | | | ● | | ● | ● | |
| 149 | | | クマタカ | <i>Nisaetus nipalensis orientalis</i> | | ● | ● | | | | | | ● | | |
| 150 | | | イヌワシ | <i>Aquila chrysaetos japonica</i> | | | | | | | | | | ● | |
| 151 | | | ツミ | <i>Accipiter gularis gularis</i> | | | ● | ● | ● | | | ● | | | |
| 152 | | | ハイタカ | <i>Accipiter nisus nisosimilis</i> | | | ● | ● | ● | | | ● | | ● | |
| 153 | | | オオタカ | <i>Accipiter gentilis fujiyamae</i> | | | ● | ● | ● | | | ● | ● | ● | ● |
| 154 | | | チュウヒ | <i>Circus spilonotus</i> | | | ● | ● | | | | ● | | ● | |
| 155 | | | ハイイロチュウヒ | <i>Circus cyaneus</i> | | | | ● | | | | | | | |
| 156 | | | トビ | <i>Milvus migrans lineatus</i> | | ● | ● | ● | ● | ● | | | ● | ● | ● |
| 157 | | | オオワシ | <i>Haliaeetus pelagicus</i> | | | | ● | | | | | | | |
| 158 | | | オジロワシ | <i>Haliaeetus albicilla albicilla</i> | | | | ● | | | | | | | |
| 159 | | | サシバ | <i>Butastur indicus</i> | | | ● | | ● | | | ● | | ● | |
| 160 | | | ノスリ | <i>Buteo japonicus</i> | | | ● | ● | ● | ● | | | ● | ● | ● |
| - | | | | タカ科の一種 | Accipitridae sp. | | | | | | ● | | | ● | ● |
| 161 | フクロウ目 | フクロウ科 | アオバズク | <i>Ninox japonica japonica</i> | ● | ● | | | | | ● | | ● | | |
| 162 | | | コノハズク | <i>Otus sunia japonicus</i> | | ● | | ● | | | ● | | ● | | |
| 163 | | | オオコノハズク | <i>Otus semitorques</i> | | | ● | ● | ● | | ● | | ● | | |
| 164 | | | トラフズク | <i>Asio otus otus</i> | | | ● | | | | | | ● | | |
| 165 | | | コミミズク | <i>Asio flammeus flammeus</i> | | | ● | ● | | | | | ● | | |
| 166 | | | フクロウ | <i>Strix uralensis</i> | | | ● | ● | ● | ● | ● | | | ● | |
| - | | | | フクロウ科の一種 | Strigidae sp. | | | | | | ● | | | | |
| 167 | サイチョウ目 | ヤツガシラ科 | ヤツガシラ | <i>Upupa epops epops</i> | | | | | | ● | | ● | | | |
| 168 | ブッポウソウ目 | ブッポウソウ科 | ブッポウソウ | <i>Eurystomus orientalis cyanocolis</i> | | ● | | ● | | | | ● | ● | | |
| 169 | | カワセミ科 | アカショウビン | <i>Halcyon coromanda major</i> | | ● | | | | | | | | | |
| 170 | | | カワセミ | <i>Alcedo atthis bengalensis</i> | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | |
| 171 | | | ヤマセミ | <i>Megaceryle lugubris</i> | | ● | ● | ● | ● | | | ● | ● | | |
| 172 | キツツキ目 | キツツキ科 | アリスイ | <i>Jynx torquilla</i> | | | ● | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 173 | | | コゲラ | <i>Yungipicus kizuki</i> | ● | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | ● | |
| 174 | | | アカゲラ | <i>Dendrocopos major</i> | | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | ● | |
| 175 | | | オオアカゲラ | <i>Dendrocopos leucotos</i> | | ● | ● | ● | | | | ● | ● | | |
| 176 | | | アオゲラ | <i>Picus awokera awokera</i> | | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | | |
| - | | | キツツキ科の一種 | Picidae sp. | | | | | | | | | ● | | |
| 177 | ハヤブサ目 | ハヤブサ科 | チョウゲンボウ | <i>Falco tinnunculus interstinctus</i> | | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 178 | | | コチョウゲンボウ | <i>Falco columbarius insignis</i> | | | ● | ● | | | | | | | |
| 179 | | | チゴハヤブサ | <i>Falco subbuteo subbuteo</i> | | | | ● | | | | | ● | | |
| 180 | | | ハヤブサ | <i>Falco peregrinus japonensis</i> | | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 181 | スズメ目 | ヤイロチョウ科 | ヤイロチョウ | <i>Pitta nympha</i> | | ● | | | | | | | ● | | |
| 182 | | サンショウクイ科 | サンショウクイ | <i>Pericrocotus divaricatus</i> | | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 183 | | カササギヒタキ科 | サンコウチョウ | <i>Terpsiphone atrocaudata atrocaudata</i> | | ● | | ● | | ● | | | ● | | |
| 184 | | モズ科 | チゴモズ | <i>Lanius tigrinus</i> | | ● | | | | | | | | | |
| 185 | | | アカモズ | <i>Lanius cristatus</i> | | | | ● | | | | | | | |
| 186 | | | モズ | <i>Lanius bucephalus bucephalus</i> | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | |
| 187 | | カラス科 | カケス | <i>Garrulus glandarius</i> | ● | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | ● | |
| 188 | | | オナガ | <i>Cyanopica cyanus japonica</i> | | ● | ● | | | | | | ● | | |
| 189 | | | カササギ | <i>Pica serica</i> | | | ● | | | | | | | | |
| 190 | | | ホシガラス | <i>Nucifraga caryocatactes</i> | | ● | ● | | | | | | | ● | |
| 191 | | | ミヤマガラス | <i>Corvus frugilegus pastinator</i> | | | ● | | | | | | | ● | |
| 192 | | | ハシボソガラス | <i>Corvus corone orientalis</i> | ● | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | ● | |
| 193 | | | ハシブトガラス | <i>Corvus macrorhynchos</i> | ● | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | ● | |
| - | | | カラス属の一種 | Corvus sp. | | | | | | ● | | | | ● | |
| 194 | | レンジャク科 | キレンジャク | <i>Bombycilla garrulus garrulus</i> | | | ● | ● | | | | | | | |
| 195 | | | ヒレンジャク | <i>Bombycilla japonica</i> | | | ● | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 196 | | シジュウカラ科 | ヒガラ | <i>Periparus ater insularis</i> | | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 197 | | | ヤマガラ | <i>Sittiparus varius varius</i> | | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | ● | |
| 198 | | | コガラ | <i>Poecile montanus</i> | ● | ● | ● | | | ● | | | | | |
| 199 | | | シジュウカラ | <i>Parus cinereus minor</i> | ● | ● | ● | ● | ● | | | ● | ● | ● | |
| 200 | | ツリスガラ科 | ツリスガラ | <i>Remiz consobrinus</i> | | | ● | | | | | | ● | | |
| 201 | | ヒバリ科 | ヒバリ | <i>Alauda arvensis</i> | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | |
| 202 | | ヒヨドリ科 | ヒヨドリ | <i>Hypsipetes amaurotis amaurotis</i> | ● | ● | ● | ● | | | | ● | ● | ● | |
| 203 | | ツバメ科 | ショウドウツバメ | <i>Riparia riparia ijimae</i> | | | | ● | | | ● | | | | |
| 204 | | | ツバメ | <i>Hirundo rustica</i> | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | |
| - | | | ツバメ属の一種 | Hirundo sp. | | | | | | | | | | ● | |
| 205 | | | イワツバメ | <i>Delichon dasypus dasypus</i> | | | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | |
| 206 | | | コシアカツバメ | <i>Cecropis daurica japonica</i> | ● | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | ● | |
| 207 | | ウグイス科 | ウグイス | <i>Horornis diphone</i> | ● | ● | ● | ● | ● | | | ● | ● | ● | |
| 208 | | | ヤブサメ | <i>Urosphena squameiceps</i> | | ● | | ● | | | ● | | ● | ● | |
| 209 | | エナガ科 | エナガ | <i>Aegithalos caudatus</i> | ● | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | ● | |
| 210 | | ムシクイ科 | カラフトムシクイ | <i>Phylloscopus proregulus</i> | | | | | | | | | | ● | |
| 211 | | | センダイムシクイ | <i>Phylloscopus coronatus</i> | | ● | | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 212 | | | イイジマムシクイ | <i>Phylloscopus ijimae</i> | | | | | | | | | | ● | |
| 213 | | | エゾムシクイ | <i>Phylloscopus borealoides</i> | | | ● | | ● | | ● | | | | |
| 214 | | | メボソムシクイ | <i>Phylloscopus xanthodryas</i> | | | ● | ● | | | | | ● | ● | |
| 215 | | | オオムシクイ | <i>Phylloscopus examinandus</i> | | | | | | | | | ● | ● | |
| - | | | ムシクイ属の一種 | Phylloscopus sp. | | | | | | | | | | | |
| 216 | | ヨシキリ科 | オオヨシキリ | <i>Acrocephalus orientalis</i> | ● | ● | | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 217 | | | コヨシキリ | <i>Acrocephalus bistrigiceps</i> | | ● | | | | ● | | | ● | | |
| 218 | | センニュウ科 | エソセンニュウ | <i>Locustella amnicola</i> | | | | | | | | | | ● | |
| 219 | | | シマセンニュウ | <i>Locustella ochotensis</i> | | | | | | | ● | | | ● | |
| 220 | | セッカ科 | セッカ | <i>Cisticola juncidis brunniceps</i> | ● | ● | ● | ● | | | | | ● | ● | ● |
| 221 | | メジロ科 | メジロ | <i>Zosterops japonicus japonicus</i> | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | ● | ● |
| 222 | | クイタダキ科 | クイタダキ | <i>Regulus regulus japonensis</i> | | | ● | ● | | | | | | | |
| 223 | | ミソサザイ科 | ミソサザイ | <i>Troglodytes troglodytes fumigatus</i> | | ● | ● | ● | | | ● | | | | |
| 224 | | ゴジュウカラ科 | ゴジュウカラ | <i>Sitta europaea</i> | | ● | ● | | | | ● | | | | |
| 225 | | キバシリ科 | キバシリ | <i>Certhia familiaris</i> | | ● | ● | | | | | | | ● | |

注1) 表中の文献番号は表 3.1.30 の番号と対応する。

注2) 種名及び配列については原則として「日本鳥類目録 改訂第8版」(令和6年10月 日本鳥学会)に準拠した。

表 3.1.32(4) 確認種一覧（鳥類）

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 学名 | 文献番号 | | | | | | | | | | |
|-----|-------|------------|--|--|------------------------------------|------|------|------|-----|------|----|------|------|-----|--|
| | | | | | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | |
| 226 | スズメ目 | ムクドリ科 | ギンムクドリ | <i>Spodiopsar sericeus</i> | | | | | | | | | | | |
| 227 | | | ムクドリ | <i>Spodiopsar cineraceus</i> | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | |
| 228 | | | コムクドリ | <i>Agropsar philippensis</i> | | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 229 | | | カラムクドリ | <i>Sturnia sinensis</i> | | | ● | | | | | | | | |
| 230 | | | ホシムクドリ | <i>Sturnus vulgaris poltaratskyi</i> | | | ● | | | | | | | | |
| 231 | | ツグミ科 | トラツグミ | <i>Zoothera aurea</i> | ● | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | ● | |
| 232 | | | マミジロ | <i>Geokichla sibirica davisoni</i> | | ● | | ● | | | | ● | ● | | |
| 233 | | | クロツグミ | <i>Turdus cardis</i> | | ● | | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 234 | | | マミチャジナイ | <i>Turdus obscurus</i> | | | ● | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 235 | | | シロハラ | <i>Turdus pallidus</i> | ● | | ● | ● | | ● | | ● | ● | ● | |
| 236 | | | アカハラ | <i>Turdus chrysolaus</i> | ● | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 237 | | | ツグミ | <i>Turdus eunomus</i> | ● | | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | |
| - | | | ツグミ属の一種 | <i>Turdus sp.</i> | | | | | | | | | ● | | |
| 238 | | | ヒタキ科 | エソビタキ | <i>Muscicapa griseisticta</i> | | | | ● | | ● | | ● | ● | |
| 239 | | | | サメビタキ | <i>Muscicapa sibirica sibirica</i> | | | | ● | | ● | | ● | ● | |
| 240 | | コサメビタキ | | <i>Muscicapa dauurica dauurica</i> | | ● | | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 241 | | オオルリ | | <i>Cyanoptila cyanomelana</i> | ● | ● | | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 242 | | ノゴマ | | <i>Calliope calliope</i> | | | | | | | | | ● | | |
| 243 | | コルリ | | <i>Larvivora cyane nechaevi</i> | | ● | | | | ● | | | ● | | |
| 244 | | コマドリ | | <i>Larvivora akahige akahige</i> | | ● | | | | ● | | | ● | | |
| 245 | | キビタキ | | <i>Ficedula narsissina</i> | ● | ● | | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 246 | | ムギマキ | | <i>Ficedula mugimaki</i> | | | | | | ● | | | ● | | |
| 247 | | ニシオジロビタキ | | <i>Ficedula parva</i> | | | ● | | | | | | | | |
| 248 | | オジロビタキ | | <i>Ficedula albicilla</i> | | | | | | | | | ● | | |
| 249 | | ルリビタキ | | <i>Tarsiger cyanurus</i> | ● | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | ● | |
| 250 | | ジョウビタキ | | <i>Phoenicurus auroreus auroreus</i> | ● | | ● | ● | | ● | | ● | ● | ● | |
| 251 | | イソヒヨドリ | | <i>Monticola solitarius</i> | | ● | ● | | | | | ● | ● | | |
| 252 | | ノビタキ | | <i>Saxicola stejnegeri</i> | | | ● | ● | | ● | | ● | ● | | |
| - | | ヒタキ科の一種 | | <i>Muscicapidae sp.</i> | | | | | | | | | ● | | |
| 253 | | カワガラス科 | カワガラス | <i>Cinclus pallasi pallasi</i> | | ● | ● | | | | | | ● | | |
| 254 | | スズメ科 | ニュウナイスズメ | <i>Passer cinnamomeus rutilans</i> | | ● | ● | | | ● | | ● | ● | | |
| 255 | | | スズメ | <i>Passer montanus saturatus</i> | ● | ● | ● | ● | ● | | | ● | ● | ● | |
| 256 | | イワヒバリ科 | イワヒバリ | <i>Prunella collaris erythropygia</i> | | | | | | | | | ● | | |
| 257 | | | カヤクグリ | <i>Prunella rubida</i> | | ● | ● | ● | | | | | ● | | |
| 258 | | セキレイ科 | キセキレイ | <i>Motacilla cinerea cinerea</i> | ● | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | ● | |
| 259 | | | ハクセキレイ | <i>Motacilla alba</i> | ● | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | ● | |
| 260 | | | セグロセキレイ | <i>Motacilla grandis</i> | ● | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | ● | |
| - | | | セキレイ属の一種 | <i>Motacilla sp.</i> | | | | | ● | | | | | | |
| 261 | | | ビンズイ | <i>Anthus hodgsoni</i> | ● | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | ● | |
| 262 | | | ムネアカタヒバリ | <i>Anthus cervinus</i> | | | | | | ● | | | | | |
| 263 | | | タヒバリ | <i>Anthus rubescens japonicus</i> | | | ● | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 264 | | アトリ科 | アトリ | <i>Fringilla montifringilla</i> | | | | ● | | | | ● | ● | | |
| 265 | | | シメ | <i>Coccothraustes coccothraustes japonicus</i> | ● | | ● | ● | | | | ● | ● | ● | |
| 266 | | | コイカル | <i>Eophona migratoria migratoria</i> | | | ● | | | | | ● | ● | | |
| 267 | | | イカル | <i>Eophona personata personata</i> | ● | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | ● | |
| 268 | | | ウソ | <i>Pyrrhula pyrrhula</i> | | | ● | ● | | | | ● | ● | | |
| 269 | | | アカウソ | <i>Pyrrhula pyrrhula rosacea</i> | | | | | | ● | | | | | |
| 270 | | | ハギマシコ | <i>Leucosticte arctoa brunneonucha</i> | | | ● | | | | | | ● | | |
| 271 | | | アカマシコ | <i>Carpodacus erythrurus grebnitskii</i> | | | | | | | | | ● | | |
| 272 | | | ベニマシコ | <i>Carpodacus sibiricus sanguinolentus</i> | | | ● | ● | | ● | | ● | ● | ● | |
| 273 | | | オオマシコ | <i>Carpodacus roseus portenkoi</i> | | | ● | | | | | | ● | | |
| 274 | | | カワラヒワ | <i>Chloris sinica</i> | ● | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | ● | |
| 275 | | | ベニヒワ | <i>Acanthis flammea flammea</i> | | | ● | | | | | | | | |
| 276 | | | イスカ | <i>Loxia curvirostra japonica</i> | | | ● | | | | | | ● | | |
| 277 | | | マヒワ | <i>Spinus spinus</i> | | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 278 | | ツメナガホオジロ科 | ユキホオジロ | <i>Plectrophenax nivalis vlasowae</i> | | | ● | | | | | | | | |
| 279 | ホオジロ科 | ホオジロ | <i>Emberiza cioides ciopsis</i> | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | |
| 280 | | ホオアカ | <i>Emberiza fucata fucata</i> | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | |
| 281 | | カシラダカ | <i>Emberiza rustica latifascia</i> | ● | | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | | |
| 282 | | ミヤマホオジロ | <i>Emberiza elegans elegans</i> | ● | | ● | ● | | ● | | ● | ● | | | |
| 283 | | シマアオジ | <i>Emberiza aureola ornata</i> | | | | | | | | | ● | | | |
| 284 | | ノジコ | <i>Emberiza sulphurata</i> | | ● | | | | | | | ● | | | |
| 285 | | アオジ | <i>Emberiza personata</i> | ● | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | ● | | |
| 286 | | クロジ | <i>Emberiza variabilis</i> | ● | | ● | ● | | ● | | ● | ● | | | |
| 287 | | シベリアジュリン | <i>Emberiza pallasi polaris</i> | | | ● | | | | | | | | | |
| 288 | | コジュリン | <i>Emberiza yessoensis yessoensis</i> | | | ● | | | ● | | | | | | |
| 289 | | オオジュリン | <i>Emberiza schoeniclus pyrrhulina</i> | | | ● | ● | | ● | | ● | ● | | | |
| 290 | | コジュケイ | <i>Bambusicola thoracicus</i> | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | | |
| 291 | | カワラバト（ドバト） | <i>Columba livia</i> | ● | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | ● | | |
| 292 | インコ目 | インコ科 | ホンセイインコ | <i>Psittacula krameri</i> | | ● | ● | | | | | | | | |
| 293 | | | （和名検討中） セキセイインコ | <i>Melopsittacus undulatus</i> | | | ● | | | | | | | | |
| 294 | | ガビチョウ科 | ソウシチョウ | <i>Leiothrix lutea</i> | | ● | ● | | | ● | ● | ● | | | |
| 295 | | | （和名検討中） ガビチョウ | <i>Garrulax canorus</i> | | ● | ● | | | | | ● | | | |
| 296 | | カエデチョウ科 | ギンバラ | <i>Lonchura malacca</i> | | | ● | | | | | | | | |
| 297 | | | ヘキチョウ | <i>Lonchura maja</i> | | | ● | | | | | | | | |
| 298 | | | ベニスズメ | <i>Amandava amandava</i> | | ● | ● | | | | | | | | |
| | 22目 | 67科 | 298種 | | 75種 | 139種 | 220種 | 146種 | 24種 | 169種 | 3種 | 138種 | 234種 | 55種 | |

注 1) 表中の文献番号は表 3.1.30 の番号と対応する。

注 2) 種名及び配列については原則として「日本鳥類目録 改訂第8版」（令和6年10月 日本鳥学会）に準拠した。

第3章 配慮書対象事業実施想定区域及びその周囲の概況

3.1 自然的状況

③ 爬虫類

対象事業実施想定区域及びその周囲で見られる爬虫類は、表 3.1.33 に示すとおり、2 目 10 科 20 種である。

水田や耕作地を生息環境とするニホンカナヘビやシマヘビ、ヤマカガシ、ため池等を生息環境とするニホンイシガメやニホンスッポン等が確認されている。

また、ミシシippアカミミガメやカミツキガメ等の外来種も確認されている。

表 3.1.33 確認種一覧（爬虫類）

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 学名 | 文献番号 | | | | | | | | | |
|-----|-----|---------|------------------|------------------------------------|------|----|----|-----|----|-----|-----|----|---|--|
| | | | | | 1 | 2 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | | |
| 1 | カメ目 | イシガメ科 | クサガメ | <i>Mauremys reevesii</i> | | | | ● | | ● | ● | | | |
| 2 | | | ニホンイシガメ | <i>Mauremys japonica</i> | ● | ● | | ● | | ● | ● | ● | | |
| 3 | | | 交雑（ニホンイシガメ*クサガメ） | - | | | | | | | ● | | | |
| 4 | | ヌマガメ科 | リパークーター | <i>Pseudemys concinna</i> | | | | | | ● | ● | | | |
| 5 | | | ミシシippアカミミガメ | <i>Trachemys scripta elegans</i> | | | | ● | | ● | ● | | | |
| 6 | | カミツキガメ科 | カミツキガメ | <i>Chelydra serpentina</i> | | | | | | | ● | | | |
| 7 | | | ワニガメ | <i>Macrochelys temminckii</i> | | | | | | ● | ● | | | |
| 8 | | スッポン科 | ニホンスッポン | <i>Pelodiscus japonicus</i> | ● | ● | | ● | | ● | ● | | | |
| - | | - | カメ目の一種 | Testudines sp. | | | ● | | | | | | | |
| 9 | 有鱗目 | ヤモリ科 | ニホンヤモリ | <i>Gekko japonicus</i> | | | | ● | | ● | ● | | | |
| 10 | | トカゲ科 | ニホントカゲ | <i>Plestiodon japonicus</i> | | ● | ● | | | | | ● | | |
| 11 | | | ヒガシニホントカゲ | <i>Plestiodon finitimus</i> | | | | ● | | ● | ● | | | |
| 12 | | カナヘビ科 | ニホンカナヘビ | <i>Takydromus tachydromoides</i> | | ● | | ● | | ● | ● | ● | | |
| 13 | | タカチホヘビ科 | タカチホヘビ | <i>Achalinus spinalis</i> | | | | | | | ● | | | |
| 14 | | ナミヘビ科 | シロマダラ | <i>Lycodon orientalis</i> | | | | | | | ● | | | |
| 15 | | | ジムグリ | <i>Euprepiophis conspicillatus</i> | | ● | | ● | | ● | ● | | | |
| 16 | | | アオダイショウ | <i>Elaphe climacophora</i> | | | ● | ● | | ● | ● | | | |
| 17 | | | シマヘビ | <i>Elaphe quadrivirgata</i> | | | ● | ● | | ● | ● | | | |
| 18 | | | ヒバカリ | <i>Hebius vibakari vibakari</i> | | | | ● | | ● | ● | ● | ● | |
| 19 | | | ヤマカガシ | <i>Rhabdophis tigrinus</i> | ● | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | |
| 20 | | クサリヘビ科 | ニホンマムシ | <i>Gloydius blomhoffii</i> | | ● | ● | ● | | ● | ● | | | |
| | 2目 | 10科 | 20種 | | 3種 | 6種 | 5種 | 13種 | 1種 | 15種 | 19種 | 5種 | | |

注 1) 表中の文献番号は表 3.1.30 の番号と対応する。

注 2) 種名及び配列については原則として「日本産爬虫両生類標準名リスト」（令和 7 年 4 月 日本爬虫両棲類学会）に準拠した。

④ 両生類

対象事業実施想定区域及びその周囲で見られる両生類は、表 3.1.34 に示すとおり、2 目 8 科 22 種である。

人家の庭先にも生息することのあるアズマヒキガエル、水田、耕作地で一般的にみられるニホンアマガエルやツチガエル、トノサマガエル、シュレーゲルアオガエル、水田やため池を生息環境とするアカハライモリ、樹林地を生息環境とするトウキョウサンショウウオ等のサンショウウオ科やニホンアカガエル等が確認されている。

また、ウシガエルといった外来種も確認されている。

表 3.1.34 確認種一覧（両生類）

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 学名 | 文献番号 | | | | | | | |
|-----|-----|------------|--------------|--------------------------------------|------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|
| | | | | | 1 | 2 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 1 | 有尾目 | サンショウウオ科 | トウキョウサンショウウオ | <i>Hynobius tokyoensis</i> | | ● | | | | | | |
| 2 | | | ヒガシヒダサンショウウオ | <i>Hynobius fossigenus</i> | | | | | | | ● | |
| 3 | | | ヒダサンショウウオ | <i>Hynobius kimurae</i> | | | | | | | ● | |
| 4 | | | ミカワサンショウウオ | <i>Hynobius mikawaensis</i> | | | | | | | ● | |
| 5 | | | ヤマトサンショウウオ | <i>Hynobius vandenburghi</i> | ● | | | | | | ● | |
| 6 | | | ハコネサンショウウオ | <i>Onychodactylus japonicus</i> | | | | | | | ● | |
| 7 | | オオサンショウウオ科 | オオサンショウウオ | <i>Andrias japonicus</i> | | | | | | | ● | |
| 8 | | | イモリ科 | アカハライモリ | | | ● | | | | ● | |
| 9 | 無尾目 | ヒキガエル科 | アズマヒキガエル | <i>Bufo formosus</i> | | ● | | ● | | | ● | |
| 10 | | アマガエル科 | ニホンアマガエル | <i>Dryophytes japonicus</i> | | | | ● | | ● | ● | |
| 11 | | アカガエル科 | タゴガエル | <i>Rana tagoi</i> | | | | | | | ● | |
| 12 | | | ニホンアカガエル | <i>Rana japonica</i> | | ● | | ● | | | ● | |
| 13 | | | ヤマアカガエル | <i>Rana ornativentris</i> | | | | | | | ● | |
| 14 | | | ウシガエル | <i>Lithobates catesbeianus</i> | | ● | | ● | | | ● | ● |
| 15 | | | ツチガエル | <i>Glandirana rugosa</i> | | | | | | ● | ● | |
| 16 | | | ダルマガエル | <i>Pelophylax porosus</i> | | ● | | | | | | |
| 17 | | | ナゴヤダルマガエル | <i>Pelophylax porosus brevipodus</i> | ● | | | ● | | ● | ● | |
| 18 | | | トノサマガエル | <i>Pelophylax nigromaculatus</i> | | ● | | ● | ● | ● | ● | ● |
| 19 | | ヌマガエル科 | ヌマガエル | <i>Fejervarya kawamurai</i> | | ● | | ● | | ● | ● | ● |
| 20 | | アオガエル科 | シュレーゲルアオガエル | <i>Zhangixalus schlegelii</i> | | | | ● | | ● | ● | ● |
| 21 | | | モリアオガエル | <i>Zhangixalus arboreus</i> | | | | | | | ● | |
| 22 | | | カジカガエル | <i>Buergeria buergeri</i> | | | | | | | ● | |
| | 2 目 | 8 科 | 22 種 | | 2 種 | 7 種 | 1 種 | 8 種 | 1 種 | 6 種 | 20 種 | 4 種 |

注 1) 表中の文献番号は表 3.1.30 の番号と対応する。

注 2) 種名及び配列については原則として「日本産爬虫両生類標準名リスト」(令和 7 年 4 月 日本爬虫両棲類学会)に準拠した。

⑤ 魚類

対象事業実施想定区域及びその周囲で見られる魚類は、表 3.1.35 に示すとおり、9 目 25 科 69 種である。

水田等を生息環境とするドジョウやナマズ、ため池等を生息環境とするフナ類やミナミメダカ等が確認されている。

また、ブルーギルやオオクチバスといった外来種も確認されている。

第3章 配慮書対象事業実施想定区域及びその周囲の概況

3.1 自然的状況

表 3.1.35 確認種一覧（魚類）

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 学名 | 文献番号 | | | | | | | | |
|-----|-----------------|------------------------------------|---|--|---|-----|-----|----|-----|-----|----|---|--|
| | | | | | 2 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | | |
| 1 | ヤツメウナギ目 | ヤツメウナギ科 | スナヤツメ南方種 | <i>Lethenteron</i> sp.S. | | | | | | | | | |
| - | | | スナヤツメ類 | <i>Lethenteron</i> sp.N and/or sp.S | ● | | | | | ● | | | |
| 2 | ウナギ目 | ウナギ科 | ニホンウナギ | <i>Anguilla japonica</i> | ● | ● | ● | | | | | | |
| 3 | コイ目 | コイ科 | キンギョ | <i>Carassius auratus</i> | | | | | | ● | | | |
| 4 | | | オオキンブナ | <i>Carassius buergeri buergeri</i> | ● | | | | | | | | |
| 5 | | | ゲンゴロウブナ | <i>Carassius cuvieri</i> | | | ● | | | | | | |
| 6 | | | ギンブナ | <i>Carassius langsdorfii</i> | ● | | | | | | ● | | |
| - | | | フナ類 | <i>Carassius buergeri</i> | | | ● | ● | | ● | ● | | |
| 7 | | | コイ（飼育型） | <i>Cyprinus carpio</i> | | | | | | | ● | | |
| - | | | コイ（型不明） | <i>Cyprinus carpio</i> | ● | ● | ● | | | ● | ● | | |
| 8 | | | コイ科（タナゴ科） | イチモンジタナゴ | <i>Acheilognathus cyanostigma</i> | | | | | | ● | | |
| 9 | | | | イタセンバラ | <i>Acheilognathus longipinnis</i> | | ● | | | | | | |
| 10 | | | | タナゴ | <i>Acheilognathus melanogaster</i> | | ● | | | | | | |
| 11 | タイリクバラタナゴ | <i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i> | | ● | | ● | | | | ● | | | |
| 12 | ヤリタナゴ | <i>Tanakia lanceolata</i> | | | | | | | | ● | | | |
| 13 | コイ科 （カマツカ科） | ゼゼラ | <i>Biwia zezera</i> | ● | | | | | | ● | | | |
| 14 | | ホンモロコ | <i>Gnathopogon caeruleascens</i> | | | | | | | ● | | | |
| 15 | | タモロコ | <i>Gnathopogon elongatus elongatus</i> | ● | | ● | | | | ● | | | |
| 16 | | ニゴイ | <i>Hemibarbus barbus</i> | ● | | | | | | ● | | | |
| - | | ニゴイ類 | <i>Hemibarbus barbus complex</i> | ● | | | | | | | | | |
| 17 | | カマツカ | <i>Pseudogobio esocinus</i> | ● | | ● | | | ● | ● | | | |
| 18 | | モツゴ | <i>Pseudorasbora parva</i> | ● | ● | ● | | | ● | ● | | | |
| 19 | | ウシモツゴ | <i>Pseudorasbora pugnax</i> | | | ● | | | | ● | | | |
| 20 | | ビワヒガイ | <i>Sarcocheilichthys variegatus microoculus</i> | | | | | | | ● | | | |
| 21 | | カワヒガイ | <i>Sarcocheilichthys variegatus variegatus</i> | ● | | | | | | ● | | | |
| 22 | - | スゴモロコ | <i>Squalidus chankaensis biwae</i> | ● | | | | | | | | | |
| - | - | スゴモロコ類 | <i>Squalidus chankaensis</i> | ● | | | | | | | | | |
| 23 | - | コウライモロコ | <i>Squalidus chankaensis tsuchigae</i> | | | ● | | | ● | ● | | | |
| 24 | - | イトモロコ | <i>Squalidus gracilis gracilis</i> | | | | | | ● | | | | |
| 25 | - | デメモロコ | <i>Squalidus japonicus japonicus</i> | | | | | | ● | | | | |
| 26 | コイ科（ウグイ科） | ウグイ | <i>Pseudaspius hakonensis</i> | ● | | | | | | ● | | | |
| - | | ウグイ属の一種 | <i>Pseudaspius</i> sp. | ● | | | | | | | | | |
| 27 | | アブラハヤ | <i>Rhynchocypris lagowskii steindachneri</i> | ● | | | | | | ● | | | |
| 28 | | タカハヤ | <i>Rhynchocypris oxycephala</i> | | | | | | | ● | | | |
| 29 | | コイ科 (Xenocyprididae) | ソウギョ | <i>Ctenopharyngodon idellus</i> | | | | | | | ● | | |
| 30 | | | カワバタモロコ | <i>Hemigrammocypripis neglecta</i> | ● | | ● | ● | | ● | ● | | |
| 31 | | | ヌマムツ | <i>Candidia sieboldii</i> | ● | | ● | | | | ● | | |
| 32 | | | カワムツ | <i>Candidia temminckii</i> | | | | | | ● | ● | | |
| - | | | カワムツ属の一種 | <i>Candidia</i> sp. | ● | | | | | | | | |
| 33 | | | オイカワ | <i>Opsariichthys platypus</i> | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | | |
| - | オイカワまたはカワムツ属の一種 | | - | | | | | | | ● | | | |
| 34 | ハス | | <i>Opsariichthys uncirostris uncirostris</i> | ● | | | | | | | | | |
| - | コイ科の一種 | | Cyprinidae sp. | | ● | | | | | | | | |
| 35 | ドジョウ科 | | トウカイコガタスジマドジョウ | <i>Cobitis minamorii tokaiensis</i> | | | | | | | ● | | |
| 36 | | ニシシマドジョウ | <i>Cobitis</i> sp. BIWAE type B | | | | | | | ● | | | |
| - | | シマドジョウ種群 | <i>Cobitis biwae complex</i> | ● | | | | | | | | | |
| 37 | | ドジョウ | <i>Misgurnus anguillicaudatus</i> | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | |
| 38 | フクドジョウ科 | ホトケドジョウ | <i>Lefua echigonia</i> | ● | | ● | ● | | ● | ● | | | |
| 39 | ナマズ目 | アメリカナマズ科 | チャネルキャットフィッシュ | <i>Ictalurus punctatus</i> | | | | | | ● | | | |
| 40 | | ギギ科 | ネコギギ | <i>Tachysurus ichikawai</i> | ● | | | | | ● | | | |
| 41 | | | ギギ | <i>Tachysurus nudiceps</i> | ● | | | | | ● | | | |
| 42 | | ナマズ科 | ナマズ | <i>Silurus asotus</i> | ● | ● | ● | | ● | ● | | | |
| 43 | | アカザ科 | アカザ | <i>Liobagrus reinii</i> | ● | | | | | ● | | | |
| 44 | | サケ目 | キュウリウオ科 | ワカサギ | <i>Hypomesus nipponensis</i> | ● | | | | | | | |
| 45 | | | アユ科 | アユ | <i>Plecoglossus altivelis altivelis</i> | ● | ● | | | | ● | | |
| 46 | | | サケ科 | サツキマス・アマゴ | <i>Oncorhynchus masou ishikawae</i> | ● | | | | | ● | | |
| 47 | | | | ブラウントラウト | <i>Salmo trutta</i> | | | | | | ● | | |
| 48 | | | | ニッコウイワナ | <i>Salvelinus leucomaenis pluvius</i> | | | | | | ● | | |
| - | | | イワナ属の一種 | <i>Salvelinus</i> sp. | | | | | | ● | | | |
| 49 | ボラ目 | | ボラ科 | ボラ | <i>Mugil cephalus cephalus</i> | | | | | | ● | | |
| 50 | カダヤシ目 | | カダヤシ科 | カダヤシ | <i>Gambusia affinis</i> | ● | | ● | | ● | ● | | |
| 51 | ダツ目 | | メダカ科 | ミナミメダカ | <i>Oryzias latipes</i> | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | |
| - | | | | メダカ（飼育品種） | <i>Oryzias latipes</i> | | | | | | | ● | |
| 52 | スズキ目 | カジカ科 | カジカ | <i>Cottus pollux</i> | | | | | | ● | | | |
| 53 | | | ウツセミカジカ（淡水性両側回遊型） | <i>Cottus reinii</i> | | | | | | | ● | | |
| 54 | | | カマキリ（アユカケ） | <i>Rheopresbe kazika</i> | | | | | | | ● | | |
| 55 | | サンフィッシュ科 | ブルーギル | <i>Lepomis macrochirus macrochirus</i> | ● | | ● | | ● | ● | ● | | |
| 56 | | | オオクチバス | <i>Micropterus salmoides</i> | ● | ● | ● | | | ● | ● | | |
| 57 | | | ドンコ科 | ドンコ | <i>Odontobutis obscura</i> | ● | | | | | | | |
| 58 | | ハゼ科 | | ウロハゼ | <i>Glossogobius olivaceus</i> | | | | | | | | |
| 59 | | | | ウキゴリ | <i>Gymnogobius urotaenia</i> | | | | | | | ● | |
| 60 | | | | ビウヨシノボリ | <i>Rhinogobius biwaensis</i> | | | | | | | ● | |
| 61 | | | | カワヨシノボリ | <i>Rhinogobius flumineus</i> | ● | | ● | | | ● | ● | |
| 62 | ルリヨシノボリ | | | <i>Rhinogobius mizunoi</i> | | | | | | | ● | | |
| 63 | シマヨシノボリ | | | <i>Rhinogobius nagovae</i> | ● | | | | | | ● | | |
| 64 | トウヨシノボリ | | | <i>Rhinogobius</i> sp. | ● | | | | | | | ● | |
| - | トウヨシノボリ類 | | | <i>Rhinogobius</i> sp. OR unidentified | | | | | | | ● | | |
| 65 | オウミヨシノボリ | | | <i>Rhinogobius</i> sp. OM | | | | ● | | | | | |
| 66 | トウカイヨシノボリ | | | <i>Rhinogobius telma</i> | | | | ● | | | ● | | |
| - | - | ヨシノボリ属の一種 | <i>Rhinogobius</i> sp. | ● | | | | | | | | | |
| 67 | - | スマチチブ | <i>Tridentiger brevispinis</i> | | | | | | | ● | | | |
| 68 | - | ゴクラクギョ科 | チョウセンブナ | <i>Macropodus ocellatus</i> | | ● | | | | | | | |
| 69 | - | タイワンドジョウ科 | カムルチー | <i>Channa argus</i> | ● | ● | ● | | ● | ● | | | |
| | 9目 | 25科 | 69種 | | 39種 | 13種 | 23種 | 5種 | 13種 | 59種 | 8種 | | |

注 1) 表中の文献番号は表 3.1.30 の番号と対応する。

注 2) 種名及び配列については原則として「日本産魚類全種リスト（JAF リスト）」（令和 7 年 5 月 鹿児島大学総合研究博物館）に準拠した。

⑥ 昆虫類

対象事業実施想定区域及びその周囲で見られる昆虫類（クモ類含む）は、表 3.1.36 に示すとおり、30 目 542 科 9,664 種である。

対象事業実施想定区域及びその周囲は西側に大きなため池（愛知池）があり、東側は住宅地となっている。隣接する北側は工場や資材置き場等の用地となっている。南から南西にかけてはグラウンドや大学の農場、耕作地等が広がり、その周囲に住宅地が点在している。北側は河川を挟んで水田や畑などの耕作地も広がっている。愛知池の周囲及び大学農場や工場周辺には樹林地が存在している。

このような環境を反映し、クモ類では平地から山地まで広く分布し網を作るニホンヒメグモ、ジョロウグモ、コガネグモや人家周辺に多いオニグモ、葉の上などでの待ち伏せ型のササグモ、地面に巣を作るワスレナグモなど、多様な捕食形態を持つ種が確認された。

昆虫類ではイチモンジセセリやモンキチョウやオオスカシバ等のチョウ目やトノサマバッタ等のバッタ目、アブラゼミ等のカメムシ目、ナナホシテントウ等のコウチュウ目、ため池や水田等の水辺環境を生息環境とするハグロトンボやシオカラトンボ等のトンボ目、ハイイロゲンゴロウやミズスマシ等の水生昆虫類が多く確認されている。

このほか、耕作地や草地等を生息環境とするツユムシやトノサマバッタ等のバッタ目、樹林地を生息環境とするコクワガタやシロスジカミキリ等のコウチュウ目が確認されている。

表 3.1.36 確認種一覧（昆虫類）

| 目 名 | 主な確認種 | 科 数 | 種 数 |
|---------------|--|-----|-------|
| クモ目 | ワスレナグモ、ニホンヒメグモ、ハナサラグモ、ジョロウグモ、オニグモ、コガネグモ、ミナミコモリグモ、ササグモ、オオハエトリ | 43 | 479 |
| カマアシムシ目 | カマアシムシ、ヤマトカマアシムシ | 2 | 14 |
| トビムシ目 | ムラサキトビムシ、トゲトビムシ、シロツチトビムシ、タマトビムシ | 14 | 93 |
| コムシ目 | イシイハサミコムシ | 1 | 1 |
| イシノミ目 | ヤマトイシノミ | 1 | 1 |
| シミ目 | ヤマトシミ | 1 | 1 |
| カゲロウ目（蜉蝣目） | モンカゲロウ、クロマダラカゲロウ、サホコカゲロウ、ナミヒラタカゲロウ | 11 | 73 |
| トンボ目（蜻蛉目） | アオイイトトンボ、ベニイトトンボ、ハグロトンボ、ギンヤンマ、キイロサナエ、オニヤンマ、シオカラトンボ、アキアカネ | 11 | 91 |
| カワゲラ目（セキ翅目） | カミムラカワゲラ、トウゴウカワゲラ、ヒメアミメカワゲラ | 5 | 30 |
| バッタ目（直翅目） | コロギス、クツワムシ、ツユムシ、ウスイロササキリ、ケラ、スズムシ、カネタタキ、トノサマバッタ、コバネイナゴ、ヒメヒシバッタ | 17 | 122 |
| ナナフシ目（竹節虫目） | ニホントビナナフシ、ナナフシモドキ | 1 | 7 |
| ハサミムシ目（革翅目） | コバネハサミムシ、ミジンハサミムシ、オオハサミムシ | 4 | 10 |
| ゴキブリ目（網翅目） | クロゴキブリ、ヤマトゴキブリ | 3 | 8 |
| シロアリ目 | ヤマトシロアリ | 1 | 1 |
| カマキリ目（蟷螂目） | ハラビロカマキリ、ウスバカマキリ、オオカマキリ | 2 | 9 |
| チャタテムシ目 | クリイロチャタテ、カバイロチャタテ | 7 | 13 |
| ハジラミ目 | イヌハジラミ | 1 | 1 |
| シラミ目 | ヒメネズミシラミ | 2 | 4 |
| カメムシ目（半翅目） | ヒシウンカ、セスジウンカ、アカハネナガウンカ、アオバハゴロモ、クマゼミ、アブラゼミ、ニイニイゼミ、ツマジロヨコバイ、ヨコヅナサシガメ、ヒメグンバイ、ホソヘリカメムシ、クサギカメムシ、アメンボ、コオイムシ、ヒメタイコウチ、マツモムシ | 58 | 727 |
| アザミウマ目 | クワアザミウマ、クチキクダアザミウマ | 2 | 12 |
| ラクダムシ目 | ラクダムシ | 1 | 57 |
| ヘビトンボ目 | ヘビトンボ、ヤマトセンブリ | 2 | 6 |
| アミメカゲロウ目（脈翅目） | キマダラヒロバカゲロウ、ミズカゲロウ、ツノトンボ、ホシウスバカゲロウ | 9 | 1 |
| コウチュウ目（鞘翅目） | アオヘリホソゴミムシ、コハンミョウ、ハイイロゲンゴロウ、ミズスマシ、ナガヒラタムシ、キベリヒラタガムシ、クロシデムシ、ヤマトデオキノコムシ、キムネマルハナノミ、コクワガタ、アオドウガネ、ヒメツヤドロンシ、ウバタマムシ、サビキコリ、ジョウカイボン、ヘイケボタル、ナナホシテントウ、ヨツボシオオキスイ、シロスジカミキリ、ヨツボシハムシ、シロヒゲナガゾウムシ、ハイイロチョッキリ、ナカスジカレキゾウムシ、キイロコキクイムシ | 104 | 2,914 |
| ネジレバネ目 | スズメバチネジレバネ | 1 | 2 |
| シリアゲムシ目（長翅目） | ヤマトシリアゲ、ミスジシリアゲ | 2 | 15 |
| ハエ目（双翅目） | コマダラヒメガガンボ、キアシガガンボ、アオメアブ、オオケチョウバエ、ヤマトユスリカ、アシマダラブユ、ネグロクサアブ、ウシアブ、オオハナアブ、キイロショウジョウバエ、ナミニクバエ | 79 | 934 |
| チョウ目（鱗翅目） | チャノミガ、コスカシバ、イラガ、イチモンジセセリ、ツバメシジミ、アサギマダラ、モンキチョウ、ツトガ、ウスアカマダラメイガ、マユミトガリバ、キエダシヤク、ホシカレハ、ヒメヤマユ、オオスカシバ、セグロシヤチホコ、アカヒトリ、チャドクガ、シロスジアツバ | 73 | 2,960 |
| トビケラ目（毛翅目） | コガタシマトビケラ、ウルマーシマトビケラ、ヒゲナガカワトビケラ、ニンギョウトビケラ、エグリトビケラ | 29 | 179 |
| ハチ目（膜翅目） | ハグロハバチ、キバナガアリガタバチ、オオセイボウ、クロヤマアリ、ミカドトックリバチ、フタモンクモバチ、サトジガバチ、ニホンミツバチ、アオスジハナバチ、オオハキリバチ | 55 | 899 |
| 30 目 | 542 科 9, 664 種 | | |

注）確認文献は表 3.1.30 の番号 1、2、6、7、8、9、10、11 である。

⑦ 貝類

対象事業実施想定区域及びその周囲で見られる貝類は、表 3.1.37 に示すとおり、9 目 35 科 124 種である。

キセルガイ科やベッコウマイマイ科などの陸産貝類のほか、水質の良いところを生息環境とするカワニナやモノアラガイ、マシジミ、水質の悪いところを生息環境とするヒメタニシやサカマキガイ等の淡水産貝類が確認されている。また、スクミリンゴガイといった外来種も確認されている。

表 3.1.37(1) 確認種一覧（貝類）

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 学名 | 文献番号 | | | | | | | |
|-----|-----------|-----------|---------------------------------------|---|------|---|---|---|---|---|----|----|
| | | | | | 1 | 2 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 1 | 中腹足目 | ヤマタニシ科 | ヤマタニシ | <i>Cyclophorus herklotsi</i> | | | | | | | ● | |
| 2 | | | ミジンヤマタニシ | <i>Nakadaella micron</i> | | | | | | | ● | |
| 3 | | アズキガイ科 | アズキガイ | <i>Pupinella rufa</i> | | | | | | | ● | |
| 4 | | | ビルスプリムシオイ | <i>Chamalycaeus pilsbryi</i> | | | | | | | ● | |
| 5 | | ゴマガイ科 | ゴマガイ | <i>Diplommatina cassa</i> | | | | | | | ● | |
| 6 | | | イブキゴマガイ | <i>Diplommatina labiosa</i> | | | | | | | ● | |
| 7 | | | ヤマトゴマガイ | <i>Diplommatina nipponensis</i> | | | | | | | ● | |
| 8 | | | ヒダリマキゴマガイ | <i>Palaina pusilla</i> | | | | | | | ● | |
| 9 | 新生腹足目 | リンゴガイ科 | スクミリンゴガイ | <i>Pomacea canaliculata</i> | | | | ● | | ● | ● | |
| 10 | | タニシ科 | マルタニシ | <i>Cipangopaludina chinensis laeta</i> | ● | | | ● | | ● | ● | |
| 11 | | | オオタニシ | <i>Heterogen japonica</i> | | ● | | ● | | ● | ● | |
| 12 | | | ヒメタニシ | <i>Sinotaia histrica</i> | | | | ● | | ● | ● | |
| 13 | | | タニシ科の一種 | <i>Viviparidae sp.</i> | | | ● | | | | | |
| 14 | | カワニナ科 | クロダカワニナ | <i>Semisulcospira kurodai</i> | | ● | | | | | ● | |
| 15 | | | カワニナ | <i>Semisulcospira libertina</i> | | | ● | ● | | | ● | |
| 16 | | | チリメンカワニナ | <i>Semisulcospira reiniana</i> | | ● | | | | | ● | |
| 17 | | イツマデガイ科 | カタヤマガイ | <i>Oncomelania nosophora</i> | | | ● | | | | | |
| 18 | 異鰓目 | ケシガイ科 | ニホンケシガイ | <i>Carychium nipponense</i> | | | | | | | ● | |
| 19 | 汎有肺目 | モノアラガイ科 | ヒメモノアラガイ | <i>Orientogalba oillula</i> | | | | ● | | | ● | |
| 20 | | | ハブタエモノアラガイ | <i>Pseudosuccinea columella</i> | | | | ● | | ● | ● | |
| 21 | | | モノアラガイ | <i>Radix auricularia japonica</i> | | | | | | | ● | |
| 22 | | サカマキガイ科 | サカマキガイ | <i>Physella acuta</i> | | ● | | ● | | ● | ● | |
| 23 | | | カワコザラガイ | <i>Ferrissia nipponica</i> | | | | | | | ● | |
| 24 | | ヒラマキガイ科 | ヒメヒラマキミズマイマイ | <i>Gyraulus pulcher</i> | | | | | | | ● | |
| 25 | | | ミズコハクガイ | <i>Gyraulus soritai</i> | | | | | | | ● | |
| 26 | | | ヒラマキミズマイマイ | <i>Gyraulus spirillus</i> | ● | | | | | | ● | |
| 27 | | | トウキョウヒラマキガイ | <i>Gyraulus tokyoensis</i> | | | | | | | ● | |
| 28 | | | ヒラマキガイモドキ | <i>Polypylis hemisphaerula</i> | | | | | | | ● | |
| 29 | 柄眼目 | オカモノアラガイ科 | ヒメオカモノアラガイ | <i>Neosuccinea lyrata horticola</i> | | | | ● | | | | |
| 30 | | | ナガオカモノアラガイ | <i>Oxyloma hirasei</i> | | | | | | | ● | |
| 31 | | キバサナガイ科 | ナタネキバサナガイ | <i>Vertigo eogea</i> | ● | | | | | | ● | |
| 32 | | | マルナタネガイ | <i>Parazoogenetes orcula</i> | | | | | | | ● | |
| 33 | | ミジンマイマイ科 | ヒラドマルナタネ | <i>Pupisoma harpula</i> | | | | ● | | | ● | |
| 34 | | | ミジンマイマイ | <i>Vallonia costata</i> | | | | | | | ● | |
| 35 | | キセルガイモドキ科 | キセルガイモドキ | <i>Mirus reinianus</i> | | | | | | | ● | |
| 36 | | | ナミコギセル | <i>Euphaedusa tau</i> | | | | ● | | | ● | |
| 37 | | キセルガイ科 | オオギセル | <i>Megalophaedusa martensi</i> | | | | | | | ● | |
| 38 | | | ミカワギセル | <i>Mesophaedusa hickonis mikawa</i> | | | | | | | ● | |
| 39 | | | オクガタギセル | <i>Mundiphaedusa dorcas</i> | | | | | | | ● | |
| 40 | | | ホソヤカギセル | <i>Mundiphaedusa hosayaka</i> | ● | | | | | ● | ● | |
| 41 | | | ハチノコギセル | <i>Mundiphaedusa kawasaki</i> | | | | | | | ● | |
| 42 | | | チビギセル | <i>Pinguiphaedusa expansilabris</i> | | | | | | | ● | |
| 43 | | | ツムガタモドキギセル | <i>Pinguiphaedusa pinguis platyauchen</i> | | | | | | | ● | |
| 44 | | | ツムガタギセル | <i>Pinguiphaedusa pinguis platydera</i> | | | | | | | ● | |
| 45 | | | ナミギセル | <i>Stereophaedusa japonica</i> | | | | | | | ● | |
| 46 | | | ウスベニギセル | <i>Tyrannophaedusa aurantiaca</i> | | | | | | | ● | |
| 47 | | | エルベリギセル | <i>Tyrannophaedusa aurantiaca erberi</i> | | | | | | | ● | |
| 48 | | | キセルガイ類 | <i>Clausilidae sp.</i> | | | | | | | ● | |
| 49 | | ナタネガイ科 | ナタネガイ属の一種 | <i>Punctum sp.</i> | | | | | | | ● | |
| 50 | | | <i>Punctum sp.</i> (ナタネガイ類似種) | <i>Punctum sp.</i> | | | | | | | ● | |
| 51 | | | <i>Punctum sp.</i> (ナタネガイ類似種)(在来種) | <i>Punctum sp.</i> | | | | | | | ● | |
| 52 | | | イシノシタ科 | <i>Helicodiscus inermis</i> | | | | | | | ● | |
| 53 | オカチョウジガイ科 | | マルオカチョウジガイ | <i>Allopeas brevispirum</i> | | | | ● | | | | |
| 54 | | | オカチョウジガイ | <i>Allopeas clavulinum kyotoense</i> | | | | ● | | | ● | |
| 55 | | | トクサオカチョウジガイ | <i>Allopeas javanicum</i> | | | | ● | | ● | ● | |
| 56 | | | ホソオカチョウジガイ | <i>Allopeas pyrgula</i> | | | | | | | ● | |
| 57 | | ナタネガイ科 | ミジンナタネ | <i>Punctum atomus</i> | | | | | | | ● | |
| 58 | | | ハリマナタネ | <i>Punctum japonicum</i> | | | | | | | ● | |
| 59 | | コハクガイ科 | ヒメコハクガイ | <i>Hawaiiia minuscula</i> | | | | ● | | | ● | |
| 60 | | | コハクガイ | <i>Zonitoides arboreus</i> | | | | ● | | | ● | |
| 61 | ナメクジ科 | | ナメクジ | <i>Meghimatium bilineatum</i> | | | | ● | | | | |
| 62 | | | ヤマナメクジ | <i>Meghimatium fruhstorferi</i> | | | | ● | | | ● | |

注1) 表中の文献番号は表 3.1.30の番号と対応する。

注2) 種名及び配列については原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(令和6年10月 国土交通省)に準拠した。

第3章 配慮書対象事業実施想定区域及びその周囲の概況

3.1 自然的状況

表 3.1.37(2) 確認種一覧（貝類）

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 学名 | 文献番号 | | | | | | | | | |
|-----|-------|-----------|--------------|---|---------|---------------------------|-----|------|-----|------|-------|-----|---|--|
| | | | | | 1 | 2 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | | |
| 63 | 柄眼目 | ベッコウマイマイ科 | ヒラベッコウガイ | <i>Bekkochlamys micrograpta</i> | | | | | | | | ● | | |
| 64 | | | ツノイロヒメベッコウ | <i>Ceratochlamys ceratodes</i> | | | | | | | | | ● | |
| 65 | | | ウラウズタカキビ | <i>Coneuplecta</i> sp. | | | | | | | | | ● | |
| 66 | | | ヒメベッコウガイ | <i>Discoconulus sinapidium</i> | | | | | ● | | | | ● | |
| 67 | | | シロヒメベッコウ近似種 | <i>Discoconulus</i> sp. cf. <i>calicicola</i> | | | | | | | | | ● | |
| 68 | | | ヤクシマヒメベッコウ | <i>Discoconulus yakuensis</i> | | | | | | | | | ● | |
| 69 | | | カスミヒメベッコウ | <i>Discoconulus</i> sp. | | | | | | | | | ● | |
| 70 | | | キビガイ | <i>Gastrodontella multivolvis</i> | | | | | ● | | | | ● | |
| 71 | | | ハクサンベッコウ | <i>Nipponochlamys hakusanus</i> | | | | | ● | | | | | |
| 72 | | | ハクサンベッコウ属の一種 | <i>Nipponochlamys</i> sp. cf. <i>semisericata</i> | | | | | | | | | ● | |
| 73 | | | ハリマキビ | <i>Parakaliella harimensis</i> | | | | | | | | | ● | |
| 74 | | | ヒゼンキビ | <i>Parakaliella hizenensis</i> | | | | | | | | | ● | |
| 75 | | | ヒメハリマキビ | <i>Parakaliella pagoduloides</i> | | | | | | | | | ● | |
| 76 | | | ハリマキビ属の一種 | <i>Parakaliella</i> sp. | | | | | | | | | ● | |
| 77 | | | ウスイロシタラガイ | <i>Parasitella pallida</i> | | | | | ● | | | | ● | |
| 78 | | | マルシタラガイ | <i>Parasitella reinhardti</i> | | | | | | | | | ● | |
| 79 | | | コシタカシタラガイ | <i>Sitalina circumcincta</i> | | | | | | | | | ● | |
| 80 | | | ウメムラシタラガイ | <i>Sitalina japonica</i> | ● | | | | | | | | ● | |
| 81 | | | カサキビ | <i>Trochochlamys crenulata</i> | | | | | | | | | ● | |
| 82 | | | オオウエキビ | <i>Trochochlamys fraterna</i> | | | | | ● | | | | ● | |
| 83 | | | タカキビ | <i>Trochochlamys praealta</i> | ● | | | | ● | | | | ● | |
| 84 | | | ヒメカサキビ | <i>Trochochlamys subcrenulata</i> | ● | | | | | | | | ● | |
| 85 | | | ウラジロベッコウ | <i>Urazirochlamys doenitzii</i> | | | | | ● | | | | ● | |
| 86 | | | オオクラヒメベッコウ | <i>Yamatochlamys lampra</i> | | | | | ● | | | | ● | |
| 87 | | | ナミヒメベッコウ | <i>Yamatochlamys vaga</i> | | | | | | | | | ● | |
| 88 | | | ナミヒメベッコウ属の一種 | <i>Yamatochlamys</i> sp. | | | | | | | | | ● | |
| 89 | | | ベッコウマイマイ類 | Helicarionidae sp. | | | | | | | | | ● | |
| 90 | | | ベッコウマイマイ科の一種 | Helicarionidae sp. | | | | | | | | | ● | |
| 91 | | ニッポンマイマイ科 | トウカイビロウドマイマイ | <i>Nipponochloritis oscitans</i> | | | | | | | | ● | | |
| 92 | | | シメクチマイマイ | <i>Satsuma ferruginea</i> | | | | | | | | ● | | |
| 93 | | | ニッポンマイマイ | <i>Satsuma japonica</i> | | | | | | | | ● | | |
| 94 | | | カドバリニッポンマイマイ | <i>Satsuma japonica carinata</i> | | | | | | | | ● | | |
| 95 | | | コベソマイマイ | <i>Satsuma myomphala</i> | | | | | | | | ● | | |
| 96 | | ナンバンマイマイ科 | ビロウドマイマイ属の一種 | <i>Nipponochloritis</i> sp. | | | | | | | | ● | | |
| 97 | | オナジマイマイ科 | ウスカワマイマイ | <i>Acusta despecta sieboldiana</i> | | | | | ● | | | ● | | |
| 98 | | | カドコオオベソマイマイ | <i>Aegista proba goniosoma</i> | | | | | | | | ● | | |
| 99 | | | コオオベソマイマイ | <i>Aegista proba mimula</i> | | | | | | | | ● | | |
| 100 | | | オオケマイマイ | <i>Aegista vulgivaga</i> | | | | | | | | ● | | |
| 101 | | | オナジマイマイ | <i>Bradybaena similaris</i> | | | | | | | ● | ● | | |
| 102 | | | クチベニマイマイ | <i>Euhadra amaliae</i> | | | | | | | | ● | | |
| 103 | | | ハコネマイマイ | <i>Euhadra callizona</i> | | | | | | | | ● | | |
| 104 | | | イセノナミマイマイ | <i>Euhadra eoa communisiformis</i> | | | | | ● | | | ● | | |
| 105 | | | ヒラヒダリマキマイマイ | <i>Euhadra scaevola interioris</i> | | | | | | | | ● | | |
| 106 | | | カタマメマイマイ | <i>Lepidopisum verrucosum</i> | | | | | | | | ● | | |
| 107 | | | マメマイマイ | <i>Trishoplita commoda</i> | | | | | ● | | | ● | | |
| 108 | | | エンドウマイマイ | <i>Trishoplita commoda endo</i> | | | | | | | | ● | | |
| 109 | | | ヒルゲンドルフマイマイ | <i>Trishoplita hilgendorfi</i> | | | | | ● | | | | | |
| 110 | | タワラガイ科 | タワラガイ | <i>Sinoennea iwakawa</i> | | | | | | | | ● | | |
| 111 | イガイ目 | イガイ科 | カワヒバリガイ | <i>Limnoperna fortunei</i> | | | | | | | | ● | | |
| 112 | イシガイ目 | イシガイ科 | ドブガイ | <i>Anodonta woodiana</i> | | ● | | ● | | | | | | |
| 113 | | | ミナミタガイ | <i>Beringiana fukuharai</i> | | | | | | | | ● | | |
| 114 | | | カラスガイ | <i>Cristaria plicata</i> | | | | ● | | | | | | |
| 115 | | | トンガリササノハガイ | <i>Lanceolaria grayana cuspidata</i> | | | | | | | | ● | | |
| 116 | | | イシガイ | <i>Nodularia douglasiae</i> | | | | | | | ● | ● | | |
| 117 | | | ヌマガイ | <i>Sinanodonta lauta</i> | | | | | | | ● | ● | | |
| 118 | | | マルスダレ | シジミ科 | タイワンシジミ | <i>Corbicula fluminea</i> | | | | ● | | ● | ● | |
| 119 | ガイ目 | マシジミ | マシジミ | <i>Corbicula leana</i> | | ● | | ● | | ● | ● | | | |
| 120 | | | シジミ属の一種 | <i>Corbicula</i> sp. | | | ● | | | | ● | | | |
| 121 | | ドブシジミ科 | ドブシジミ | <i>Musculium japonicum</i> | | | | | | | ● | | | |
| 122 | | | ウエジマメシジミ | <i>Pisidium uejii</i> | | | | | | | ● | | | |
| 123 | アマオブネ | ヤマキサゴ科 | ヤマキサゴ | <i>Waldemaria japonica</i> | | | | | | | ● | | | |
| 124 | ガイ目 | ゴマオカタニシ科 | ゴマオカタニシ | <i>Georissa japonica</i> | | | | | | | ● | | | |
| | 9 目 | 35 科 | 124 種 | | 7 種 | 6 種 | 5 種 | 33 種 | 0 種 | 13 種 | 115 種 | 0 種 | | |

注1) 表中の文献番号は表 3.1.30の番号と対応する。

注2) 種名及び配列については原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（令和6年10月 国土交通省）に準拠した。

(2) 重要な動物種

確認された種のうち、重要な動物種を抽出した。重要な動物種の選定根拠は表 3.1.38 に、その選定基準は表 3.1.39 に示すとおりである。

なお、表 3.1.30 の確認文献の中には、詳細な位置情報の記載がないものも含まれるため、事業実施想定区域及びその周囲から離れた地域で見られる種を掲載している可能性がある。

表 3.1.38 重要な動物種の選定根拠

| 番号 | 法令・文献等 | 選定基準 |
|-----|---|---|
| I | 「文化財保護法」(昭和25年法律第214号) 「愛知県文化財保護条例」(昭和30年愛知県条例第6号) 「東郷町文化財保護条例」(昭和52年東郷町条例第21号) 「日進市文化財保護条例」(昭和51年日進市条例第1号) 「みよし市文化財保護条例」(昭和46年みよし市条例第8号) 「豊田市文化財保護条例」(昭和51年豊田市条例第24号) | ・特別天然記念物(特天) ・国指定天然記念物(国天) ・愛知県指定天然記念物(県天) ・東郷町指定天然記念物(町天) ・日進市指定天然記念物(市天) ・みよし市指定天然記念物(市天) ・豊田市指定天然記念物(市天) |
| II | 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成4年法律第75号) | ・国際希少野生動植物種(国際) ・国内希少野生動植物種(国内) ・特定第一種国内希少野生動植物種(特1) ・特定第二種国内希少野生動植物種(特2) ・緊急指定種(緊急) |
| III | 「環境省レッドリスト2020」 (令和2年3月27日 環境省報道発表資料) | ・絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN) ・絶滅危惧ⅠA類(CR) ・絶滅危惧ⅠB類(EN) ・絶滅危惧Ⅱ類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・情報不足(DD) ・地域個体群(LP) |
| IV | 「レッドリストあいち2025」レッドリスト (令和7年3月 愛知県) | ・絶滅危惧ⅠA類(CR) ・絶滅危惧ⅠB類(EN) ・絶滅危惧Ⅱ類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・情報不足(DD) ・地域個体群(LP) |
| V | 「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」 (昭和48年愛知県条例第3号) | ・指定希少野生動植物種(希少) |

表 3.1.39 重要な動物種の選定基準

| 番号 | 選定基準 | 評価基準 |
|-----|---------------------|--|
| I | 特別天然記念物（特天） | 天然記念物のうち世界的にまた国家的に価値が特に高いもの |
| | 国指定天然記念物（国天） | 動物植物及び地質鉱物のうち学術上貴重で、我が国の自然を記念するもの |
| | 愛知県指定天然記念物（県天） | 動物植物及び地質鉱物のうち学術上貴重で、愛知県の自然を記念するもの |
| | 東郷町指定天然記念物（町天） | 動物（生息地・繁殖地及び渡来地を含む。）・植物（自生地を含む。）及び地質鉱物（特異な自然現象の生じている土地を含む。）で学術上価値の高いもの |
| | 日進市指定天然記念物（市天） | 動物（生息地・繁殖地及び渡来地を含む。）、植物（自生地を含む。）及び地質、鉱物（特異な自然の現象の生じている土地を含む。）で学術上価値の高いもの |
| | みよし市指定天然記念物（市天） | 動物（生息地・繁殖地及び渡来地を含む。）、植物（自生地を含む。）及び地質、鉱物（特異な自然の現象の生じている土地を含む。）で学術上価値の高いもの |
| | 豊田市指定天然記念物（市天） | 動物（生息地・繁殖地及び渡来地を含む。）、植物（自生地を含む。）及び地質、鉱物（特異な自然現象の生じている土地を含む。）で学術上価値の高いもの |
| II | 国際希少野生動植物種（国際） | 国際的に協力して種の保存を図ることとされている絶滅のおそれのある野生動植物の種（国内希少野生動植物種を除く。）であって、政令で定めるものをいう |
| | 国内希少野生動植物種（国内） | その個体が本邦に生息し又は生育する絶滅のおそれのある野生動植物の種であって、政令で定めるものをいう |
| | 特定第一種国内希少野生動植物種（特1） | 次に掲げる要件のいずれにも該当する国内希少野生動植物種であって、政令で定めるものをいう 一 商業的に個体の繁殖をさせることができるものであること 二 国際的に協力して種の保存を図ることとされているものでないこと |
| | 特定第二種国内希少野生動植物種（特2） | 次に掲げる要件のいずれにも該当する国内希少野生動植物種であって、政令で定めるものをいう 一 種の個体の主要な生息地若しくは生育地が消滅しつつあるものであること又はその種の個体の生息若しくは生育の環境が著しく悪化しつつあるものであること 二 種の存続に支障を来す程度にその種の個体の数が著しく少ないものでないこと 三 繁殖による個体の数の増加の割合が低いものでないこと 四 国際的に協力して種の保存を図ることとされているものでないこと |
| | 緊急指定種（緊急） | 環境大臣が、希少野生動植物種及び国際希少野生動植物種以外の野生動植物の種の保存を特に緊急に図る必要があると認めるときに指定するものをいう |
| III | 絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN） | 絶滅の危機に瀕している種 |
| | 絶滅危惧ⅠA類（CR） | ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種 |
| | 絶滅危惧ⅠB類（EN） | ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種 |
| | 絶滅危惧Ⅱ類（VU） | 絶滅の危機が増大している種 |
| | 準絶滅危惧（NT） | 存続基盤が脆弱な種 |
| | 情報不足（DD） | 評価するだけの情報が不足している種 |
| | 絶滅のおそれのある地域個体群（LP） | 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの |
| IV | 絶滅危惧ⅠA類（CR） | ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの |
| | 絶滅危惧ⅠB類（EN） | ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの |
| | 絶滅危惧Ⅱ類（VU） | 絶滅の危険が増大している種 |
| | 準絶滅危惧（NT） | 存続基盤が脆弱な種 |
| | 情報不足（DD） | 「絶滅」「絶滅危惧」「準絶滅危惧」のいずれかに該当する可能性が高いが、評価するだけの情報が不足している種 |
| | 地域個体群（LP） | その種の国内における生息状況に鑑み、愛知県において特に保全のための配慮が必要と考えられる特徴的な個体群 |
| V | 指定希少野生動植物種（希少） | 県内に生息生育する絶滅のおそれのある野生動植物種のうち、特に保護を図る必要があるもの |

注）表中のⅠ～Ⅴは表 3.1.38の番号と対応する。

① 哺乳類

対象事業実施想定区域及びその周囲で見られる哺乳類の重要種は、表 3.1.40 に示すとおり、5目10科19種である。

樹林地を生息環境とするヒナコウモリやムササビ、ヤマネ、アナグマ、カモシカ等が重要種として該当している。

表 3.1.40 重要種一覧（哺乳類）

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 学名 | 選定基準 | | | | |
|-----|----------------|------------|-----------|-----------------------------------|--------|--------|--------|---------|--------|
| | | | | | I | II | III | IV | V |
| 1 | モグラ目 （食虫目） | トガリネズミ科 | カワネズミ | <i>Chimarrogale platycephalus</i> | - | - | - | VU | - |
| 2 | | モグラ科 | ミズラモグラ | <i>Oreoscaptor mizura</i> | - | - | NT | CR | - |
| 3 | | | アズマモグラ | <i>Mogera imaizumii</i> | - | - | - | VU | - |
| 4 | コウモリ目 （翼手目） | キクガシラコウモリ科 | キクガシラコウモリ | <i>Rhinolophus ferrumequinum</i> | - | - | - | NT | - |
| 5 | | | モモジロコウモリ | <i>Myotis macrodactylus</i> | - | - | - | VU | - |
| 6 | | ヒナコウモリ科 | ヤマコウモリ | <i>Nyctalus aviator</i> | - | - | VU | CR | - |
| 7 | | | ヒナコウモリ | <i>Vespertilio sinensis</i> | - | - | - | EN | - |
| 8 | | | ユビナガコウモリ | <i>Miniopterus fuliginosus</i> | - | - | - | EN | - |
| 9 | | | テングコウモリ | <i>Murina hilgendorfi</i> | - | - | - | EN | - |
| 10 | ネズミ目（齧歯目） | リス科 | ニホンリス | <i>Sciurus lis</i> | - | - | - | NT | - |
| 11 | | | ニホンモモンガ | <i>Pteromys momonga</i> | - | - | - | EN | - |
| 12 | | | ムササビ | <i>Petaurista leucogenys</i> | - | - | - | NT | - |
| 13 | | ヤマネ科 | ヤマネ | <i>Glirulus japonicus</i> | 国天 | - | - | NT | - |
| 14 | | ネズミ科 | スミスネズミ | <i>Craseomys smithii</i> | - | - | - | NT | - |
| 15 | | | ハタネズミ | <i>Alexandromys montebelli</i> | - | - | - | NT | - |
| 16 | | | カヤネズミ | <i>Micromys minutus</i> | - | - | - | VU | - |
| 17 | ネコ目（食肉目） | クマ科 | ツキノワグマ | <i>Ursus thibetanus</i> | - | - | - | CR | - |
| 18 | | イタチ科 | アナグマ | <i>Meles anakuma</i> | - | - | - | NT | - |
| 19 | ウシ目（偶蹄目） | ウシ科 | カモシカ | <i>Capricornis crispus</i> | 特天 | - | - | - | - |
| | 5目 | 10科 | 19種 | | 2 種 | 0 種 | 2 種 | 18 種 | 0 種 |

注1) 表中のI～Vは表 3.1.38の番号と対応する。

注2) 種名及び配列については原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（令和6年10月 国土交通省）に準拠した。

注3) シベリアイタチは移入した亜種のチョウセンイタチであるため、重要種から除外した。

第3章 配慮書対象事業実施想定区域及びその周囲の概況

3.1 自然的状況

② 鳥類

対象事業実施想定区域及びその周囲で見られる鳥類の重要種は、表 3.1.41 に示すとおり、17 目 39 科 113 種である。

樹林地、ため池、草地等多岐にわたる環境に生息する鳥類が該当している。

表 3.1.41(1) 重要種一覧（鳥類）

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 学名 | 選定基準 | | | | |
|-----|--------|---------|-----------|--|------|----|-----|-----------|---|
| | | | | | I | II | III | IV | V |
| 1 | カモ目 | カモ科 | コクガン | <i>Branta bernicla nigricans</i> | 国天 | - | VU | 越:EN | - |
| 2 | | | ヒシクイ | <i>Anser fabalis</i> | 国天 | - | VU | - | - |
| 3 | | | マガン | <i>Anser albifrons albifrons</i> | 国天 | - | NT | - | - |
| 4 | | | カリガネ | <i>Anser erythropus</i> | - | - | EN | - | - |
| 5 | | | ツクシガモ | <i>Tadorna tadorna</i> | - | - | VU | 越:VU | - |
| 6 | | | オシドリ | <i>Aix galericulata</i> | - | - | DD | 繁:VU/越:NT | - |
| 7 | | | トモエガモ | <i>Sibirionetta formosa</i> | - | - | VU | 越:VU | - |
| 8 | | | アカハジロ | <i>Aythya baeri</i> | - | - | DD | - | - |
| 9 | | | シノリガモ | <i>Histrionicus histrionicus</i> | - | - | - | 越:VU | - |
| 10 | | | ビロードキンクロ | <i>Melanitta stejnegeri</i> | - | - | - | 越:EN | - |
| 11 | | | クロガモ | <i>Melanitta americana</i> | - | - | - | 越:NT | - |
| 12 | | | カワアイサ | <i>Mergus merganser merganser</i> | - | - | - | 越:NT | - |
| 13 | | | コウライアイサ | <i>Mergus squamatus</i> | - | 国際 | - | - | - |
| 14 | キジ目 | キジ科 | ヤマドリ | <i>Symaticus soemmerringii scintillans</i> | - | - | - | 繁:NT/越:NT | - |
| 15 | | | ウズラ | <i>Coturnix japonica</i> | - | - | VU | 越:EN | - |
| 16 | ヨタカ目 | ヨタカ科 | ヨタカ | <i>Caprimulgus jotaka jotaka</i> | - | - | NT | 繁:EN/通:VU | - |
| 17 | アマツバメ目 | アマツバメ科 | ヒメアマツバメ | <i>Apus nipalensis kuntzi</i> | - | - | - | 繁:NT/越:NT | - |
| 18 | カッコウ目 | カッコウ科 | ジュウイチ | <i>Hierococyx hyperythrus</i> | - | - | - | 繁:VU/通:NT | - |
| 19 | | | ツツドリ | <i>Cuculus optatus</i> | - | - | - | 繁:VU/通:NT | - |
| 20 | | | カッコウ | <i>Cuculus canorus canorus</i> | - | - | - | 繁:VU/通:NT | - |
| 21 | ツル目 | クイナ科 | クイナ | <i>Rallus indicus</i> | - | - | - | 越:NT | - |
| 22 | | | バン | <i>Gallinula chloropus chloropus</i> | - | - | - | 繁:VU/越:NT | - |
| 23 | | | シマクイナ | <i>Coturnicops exquisitus</i> | - | 国内 | EN | - | - |
| 24 | | | ヒクイナ | <i>Zapornia fusca erythrothorax</i> | - | - | NT | 繁:VU/通:NT | - |
| 25 | | ツル科 | ナベヅル | <i>Grus monacha</i> | - | 国際 | VU | - | - |
| 26 | カイツブリ目 | カイツブリ科 | アカエリカイツブリ | <i>Podiceps grisegena holbollii</i> | - | - | - | 越:EN | - |
| 27 | | | ミミカイツブリ | <i>Podiceps auritus auritus</i> | - | - | - | 越:VU | - |
| 28 | チドリ目 | ミヤコドリ科 | ミヤコドリ | <i>Haematopus ostralegus osculans</i> | - | - | - | 越:NT | - |
| 29 | | セイタカシギ科 | セイタカシギ | <i>Himantopus himantopus</i> | - | - | VU | 繁:VU/越:NT | - |
| 30 | | チドリ科 | ケリ | <i>Vanellus cinereus</i> | - | - | DD | 繁:NT/越:VU | - |
| 31 | | | ムナグロ | <i>Pluvialis fulva</i> | - | - | - | 越:NT | - |
| 32 | | | イカルチドリ | <i>Charadrius placidus</i> | - | - | - | 繁:VU/越:NT | - |
| 33 | | | シロチドリ | <i>Charadrius alexandrinus</i> | - | - | VU | 繁:EN/越:VU | - |
| 34 | | | メダイチドリ | <i>Charadrius mongolus</i> | - | 国際 | - | - | - |
| 35 | | タマシギ科 | タマシギ | <i>Rostratula benghalensis</i> | - | - | VU | 繁:EN/越:EN | - |
| 36 | | シギ科 | ホウロクシギ | <i>Numenius madagascariensis</i> | - | 国際 | VU | EN | - |
| 37 | | | ダイシャクシギ | <i>Numenius arquata orientalis</i> | - | - | - | 越:VU | - |
| 38 | | | オオソリハシシギ | <i>Limosa lapponica</i> | - | - | VU | EN | - |
| 39 | | | オグロシギ | <i>Limosa limosa melanuroides</i> | - | - | - | EN | - |
| 40 | | | エリマキシギ | <i>Calidris pugnax</i> | - | - | - | CR | - |
| 41 | | | キリアイ | <i>Calidris falcinellus sibirica</i> | - | - | - | EN | - |
| 42 | | | ウズラシギ | <i>Calidris acuminata</i> | - | - | - | EN | - |
| 43 | | | オジロトウネン | <i>Calidris temminckii</i> | - | - | - | VU | - |
| 44 | | | ヒバリシギ | <i>Calidris subminuta</i> | - | - | - | CR | - |
| 45 | | | トウネン | <i>Calidris ruficollis</i> | - | - | - | VU | - |
| 46 | | | ミユビシギ | <i>Calidris alba</i> | - | - | - | 越:VU | - |
| 47 | | | ハマシギ | <i>Calidris alpina sakhalina</i> | - | - | NT | 越:VU | - |
| 48 | | | オオハシシギ | <i>Limnodromus scolopaceus</i> | - | - | - | 越:EN | - |
| 49 | | | ヤマシギ | <i>Scolopax rusticola</i> | - | - | - | 越:NT | - |
| 50 | | | アオシギ | <i>Gallinago solitaria japonica</i> | - | - | - | 越:VU | - |
| 51 | | | オオジシギ | <i>Gallinago hardwickii</i> | - | - | NT | 繁:EX/通:VU | - |
| 52 | | | アカアシシギ | <i>Tringa totanus ussuriensis</i> | - | - | VU | VU | - |
| 53 | | | タカブシギ | <i>Tringa glareola</i> | - | - | VU | EN | - |
| 54 | | | ツルシギ | <i>Tringa erythropus</i> | - | - | VU | EN | - |
| 55 | | ツバメチドリ科 | ツバメチドリ | <i>Glareola maldivarum</i> | - | - | VU | 繁:CR/通:EN | - |
| 56 | | カモメ科 | ズグロカモメ | <i>Saundersilarus saundersi</i> | - | - | VU | 越:VU | - |
| 57 | | | オオセグロカモメ | <i>Larus schistisagus</i> | - | - | NT | 越:NT | - |
| 58 | | | コアシサシ | <i>Sternula albifrons sinensis</i> | - | - | VU | 繁:EN/通:VU | - |
| 59 | | ウミスズメ科 | ウミスズメ | <i>Synthliboramphus antiquus antiquus</i> | - | - | CR | - | - |
| 60 | コウノトリ目 | コウノトリ科 | コウノトリ | <i>Ciconia boyciana</i> | 特天 | 国内 | CR | 越:NT | - |
| 61 | カツオドリ目 | ウ科 | ヒメウ | <i>Urile pelagicus pelagicus</i> | - | - | EN | 越:NT | - |

注1) 表中の I～V は表 3.1.38 の番号と対応する。

注2) IV の指定状況の意味は次のとおりである。越：越冬 繁：繁殖 通：通過

注3) 種名及び配列については原則として「日本鳥類目録 改訂第8版」（令和6年10月 日本鳥学会）に準拠した。

表 3.1.41(2) 重要種一覧（鳥類）

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 学名 | 選定基準 | | | | |
|-----|---------|----------|----------|--|------|-----|-----|-----------|----|
| | | | | | I | II | III | IV | V |
| 62 | ペリカン目 | トキ科 | ヘラサギ | <i>Platalea leucorodia leucorodia</i> | - | - | DD | - | - |
| 63 | | | クロツラヘラサギ | <i>Platalea minor</i> | - | 国内 | EN | 越:VU | - |
| 64 | | サギ科 | サンカノゴイ | <i>Botaurus stellaris stellaris</i> | - | - | EN | EN | - |
| 65 | | | ヨシゴイ | <i>Ixobrychus sinensis sinensis</i> | - | - | NT | 繁:CR/通:CR | - |
| 66 | | | ミゾゴイ | <i>Gorsachius goisagi</i> | - | - | VU | 繁:VU/通:NT | - |
| 67 | | | ゴイサギ | <i>Nycticorax nycticorax nycticorax</i> | - | - | - | 繁:NT/越:NT | - |
| 68 | | | チュウサギ | <i>Ardea intermedia intermedia</i> | - | - | NT | 繁:NT/通:NT | - |
| 69 | | | クロサギ | <i>Egretta sacra sacra</i> | - | - | - | 越:EN | - |
| 70 | タカ目 | ミサゴ科 | ミサゴ | <i>Pandion haliaetus haliaetus</i> | - | - | NT | 繁:VU | - |
| 71 | | タカ科 | ハチクマ | <i>Pernis ptilorhynchus orientalis</i> | - | - | NT | 繁:VU | - |
| 72 | | | クマタカ | <i>Nisaetus nipalensis orientalis</i> | - | 国内 | EN | 繁:EN/越:EN | - |
| 73 | | | イヌワシ | <i>Aquila chrysaetos japonica</i> | 国天 | 国内 | EN | - | - |
| 74 | | | ツミ | <i>Accipiter gularis gularis</i> | - | - | - | 繁:NT | - |
| 75 | | | ハイタカ | <i>Accipiter nisus nisosimilis</i> | - | - | NT | 越:NT | - |
| 76 | | | オオタカ | <i>Accipiter gentilis fujiyamae</i> | - | - | NT | 繁:VU/越:VU | - |
| 77 | | | チュウヒ | <i>Circus spilonotus</i> | - | 国内 | EN | 繁:CR/越:VU | - |
| 78 | | | ハイイロチュウヒ | <i>Circus cyaneus</i> | - | - | - | 越:VU | - |
| 79 | | | オオワシ | <i>Haliaeetus pelagicus</i> | 国天 | 国内 | VU | - | - |
| 80 | | | オジロワシ | <i>Haliaeetus albicilla albicilla</i> | 国天 | 国内 | VU | - | - |
| 81 | | | サンバ | <i>Butastur indicus</i> | - | - | VU | 繁:EN/通:NT | - |
| 82 | フクロウ目 | フクロウ科 | アオバズク | <i>Ninox japonica japonica</i> | - | - | - | 繁:EN/通:VU | - |
| 83 | | | コノハズク | <i>Otus sunia japonicus</i> | - | - | - | 繁:CR/通:VU | 希少 |
| 84 | | | オオコノハズク | <i>Otus semitorques</i> | - | - | - | 繁:VU/越:NT | - |
| 85 | | | トラフズク | <i>Asio otus otus</i> | - | - | - | 越:EN | - |
| 86 | | | コミミズク | <i>Asio flammeus flammeus</i> | - | - | - | 越:VU | - |
| 87 | | | フクロウ | <i>Strix uralensis</i> | - | - | - | 繁:NT/越:NT | - |
| 88 | ブッポウソウ目 | ブッポウソウ科 | ブッポウソウ | <i>Eurystomus orientalis cyanocollis</i> | - | - | EN | 繁:CR/通:VU | - |
| 89 | | カワセミ科 | アカショウビン | <i>Halcyon coromanda major</i> | - | - | - | 繁:VU/通:NT | - |
| 90 | | | ヤマセミ | <i>Megaceryle lugubris</i> | - | - | - | 繁:CR/越:CR | - |
| 91 | キツツキ目 | キツツキ科 | オオアカゲラ | <i>Dendrocopos leucotos</i> | - | - | - | 繁:VU/越:NT | - |
| 92 | ハヤブサ目 | ハヤブサ科 | ハヤブサ | <i>Falco peregrinus japonensis</i> | - | 国内 | VU | 繁:VU/越:NT | - |
| 93 | スズメ目 | ヤイロチョウ科 | ヤイロチョウ | <i>Pitta nympha</i> | - | 国内 | EN | 繁:EN/通:VU | - |
| 94 | | サンショウクイ科 | サンショウクイ | <i>Pericrocotus divaricatus</i> | - | - | VU | - | - |
| 95 | | モズ科 | チゴモズ | <i>Lanius tigrinus</i> | - | - | CR | CR | - |
| 96 | | | アカモズ | <i>Lanius cristatus</i> | - | 国内 | EN | CR | - |
| 97 | | ムシクイ科 | イイジマムシクイ | <i>Phylloscopus ijimae</i> | 国天 | - | VU | - | - |
| 98 | | | オオムシクイ | <i>Phylloscopus examinandus</i> | - | - | DD | - | - |
| 99 | | ヨシキリ科 | コヨシキリ | <i>Acrocephalus bistrigiceps</i> | - | - | - | 繁:EX/通:CR | - |
| 100 | | ミソサザイ科 | ミソサザイ | <i>Troglodytes troglodytes fumigatus</i> | - | - | - | 繁:VU/越:NT | - |
| 101 | | キバシリ科 | キバシリ | <i>Certhia familiaris</i> | - | - | - | 繁:EN/越:VU | - |
| 102 | | ツグミ科 | マミジロ | <i>Geokichla sibirica davisoni</i> | - | - | - | 繁:EX/通:EN | - |
| 103 | | | クロツグミ | <i>Turdus cardis</i> | - | - | - | 繁:CR/通:NT | - |
| 104 | | | アカハラ | <i>Turdus chrysolaus</i> | - | - | - | 繁:EX | - |
| 105 | | ヒタキ科 | コサメビタキ | <i>Muscicapa dauurica dauurica</i> | - | - | - | 繁:NT/通:NT | - |
| 106 | | | コルリ | <i>Larvivora cyane nechaevi</i> | - | - | - | 繁:VU/通:NT | - |
| 107 | | | コマドリ | <i>Larvivora akahige akahige</i> | - | - | - | 繁:EX/通:EN | - |
| 108 | | カワガラス科 | カワガラス | <i>Cinclus pallasii pallasii</i> | - | - | - | 繁:VU/越:VU | - |
| 109 | | セキレイ科 | ビンズイ | <i>Anthus hodgsoni</i> | - | - | - | 繁:EX/越:VU | - |
| 110 | | ホオジロ科 | ホオアカ | <i>Emberiza fucata fucata</i> | - | - | - | 繁:EX/越:NT | - |
| 111 | | | シマアオジ | <i>Emberiza aureola ornata</i> | - | 国内 | CR | - | - |
| 112 | | | ノジコ | <i>Emberiza sulphurata</i> | - | - | NT | 繁:EX/通:EN | - |
| 113 | | | コジュリン | <i>Emberiza yessoensis yessoensis</i> | - | - | VU | 越:EN | - |
| | 17目 | 39科 | 113種 | | 8種 | 16種 | 58種 | 96種 | 1種 |

注1) 表中のⅠ～Ⅴは表 3.1.38の番号と対応する。

注2) Ⅳの指定状況の意味は次のとおりである。越：越冬 繁：繁殖 通：通過

注3) 種名及び配列については原則として「日本鳥類目録 改訂第8版」（令和6年10月 日本鳥学会）に準拠した。

③ 爬虫類

対象事業実施想定区域及びその周囲で見られる爬虫類の重要種は、表 3.1.42 に示すとおり、2 目 4 科 5 種である。

ため池等を生息環境とするニホンイシガメや水田や湿地などを生息環境とするヤマカガシ等が重要種として該当している。

表 3.1.42 重要種一覧（爬虫類）

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 学名 | 選定基準 | | | | |
|-----|-----|---------|---------|-----------------------------|------|-----|-----|-----|-----|
| | | | | | I | II | III | IV | V |
| 1 | 有鱗目 | イシガメ科 | ニホンイシガメ | <i>Mauremys japonica</i> | - | - | NT | NT | - |
| 2 | | スッポン科 | ニホンスッポン | <i>Pelodiscus japonicus</i> | - | - | DD | DD | - |
| 3 | | タカチホヘビ科 | タカチホヘビ | <i>Achalinus spinalis</i> | - | - | - | DD | - |
| 4 | | ナミヘビ科 | シロマダラ | <i>Lycodon orientalis</i> | - | - | - | DD | - |
| 5 | | | ヤマカガシ | <i>Rhabdophis tigrinus</i> | - | - | - | DD | - |
| | 2 目 | 4 科 | 5 種 | | 0 種 | 0 種 | 2 種 | 5 種 | 0 種 |

注1) 表中の I ～ V は表 3.1.38 の番号と対応する。

注2) 種名及び配列については原則として「日本産爬虫両生類標準和名リスト」（令和7年4月 日本爬虫両棲類学会）に準拠した。

④ 両生類

対象事業実施想定区域及びその周囲で見られる両生類の重要種は、表 3.1.43 に示すとおり、2 目 5 科 12 種である。

水田や耕作地を生息環境とするアカハライモリやナゴヤダルマガエルのほか、山地の池沼や流れの緩やかな水路に生息するトウキョウサンショウウオ等のサンショウウオ科、樹林地に生息するモリアオガエルやカジカガエル等が重要種として該当している。

表 3.1.43 重要種一覧（両生類）

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 学名 | 選定基準 | | | | |
|-----|-----|------------|--------------|--------------------------------------|------|--------|-----|------|-----|
| | | | | | I | II | III | IV | V |
| 1 | 有尾目 | サンショウウオ科 | トウキョウサンショウウオ | <i>Hynobius tokyoensis</i> | - | 国内 | VU | - | - |
| 2 | | | ヒガシヒダサンショウウオ | <i>Hynobius fossigenus</i> | - | 国内(特2) | VU | NT | - |
| 3 | | | ヒダサンショウウオ | <i>Hynobius kimurae</i> | - | - | NT | EN | - |
| 4 | | | ミカワサンショウウオ | <i>Hynobius mikawaensis</i> | - | - | CR | CR | 希少 |
| 5 | | | ヤマトサンショウウオ | <i>Hynobius vandenburghi</i> | - | 国内(特2) | VU | EN | - |
| 6 | | | ハコネサンショウウオ | <i>Onychodactylus japonicus</i> | - | - | - | NT | - |
| 7 | | オオサンショウウオ科 | オオサンショウウオ | <i>Andrias japonicus</i> | 特天 | 国際 | VU | EN | - |
| 8 | | イモリ科 | アカハライモリ | <i>Cynops pyrrhogaster</i> | - | - | NT | NT | - |
| 9 | 無尾目 | アカガエル科 | ナゴヤダルマガエル | <i>Pelophylax porosus brevipodus</i> | - | - | EN | VU | - |
| 10 | | | トノサマガエル | <i>Pelophylax nigromaculatus</i> | - | - | NT | - | - |
| 11 | | アオガエル科 | モリアオガエル | <i>Zhangixalus arboreus</i> | - | - | - | NT | - |
| 12 | | | カジカガエル | <i>Buergeria buergeri</i> | - | - | - | NT | - |
| | 2 目 | 5 科 | 12 種 | | 1 種 | 4 種 | 9 種 | 10 種 | 1 種 |

注1) 表中の I ～ V は表 3.1.38 の番号と対応する。

注2) 種名及び配列については原則として「日本産爬虫両生類標準和名リスト」（令和7年4月 日本爬虫両棲類学会）に準拠した。

⑤ 魚類

対象事業実施想定区域及びその周囲で見られる魚類の重要種は、表 3.1.44 に示すとおり、7 目 15 科 31 種である。

ため池等を生息環境とするミナミメダカやドンコ、水田等を生息環境とするドジョウが重要種として該当している。

表 3.1.44 重要種一覧（魚類）

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 学名 | 選定基準 | | | | |
|-----|---------|-----------------------|-----------------|--|------|--------|-----|-----|----|
| | | | | | I | II | III | IV | V |
| 1 | ヤツメウナギ目 | ヤツメウナギ科 | スナヤツメ南方種 | <i>Lethenteron</i> sp.S. | - | - | VU | - | - |
| 2 | | | スナヤツメ類 | <i>Lethenteron</i> sp.N and/or sp.S | - | - | - | EN | - |
| 3 | ウナギ目 | ウナギ科 | ニホンウナギ | <i>Anguilla japonica</i> | - | - | EN | EN | - |
| 4 | コイ目 | コイ科 | ゲンゴロウブナ | <i>Carassius cuvieri</i> | - | - | EN | - | - |
| 5 | | コイ科 | イチモンジタナゴ | <i>Acheilognathus cyanostigma</i> | - | - | CR | DD | - |
| 6 | | コイ科 (タナゴ科) | イタセンバラ | <i>Acheilognathus longipinnis</i> | 国天 | 国内 | CR | CR | - |
| 7 | | | タナゴ | <i>Acheilognathus melanogaster</i> | - | - | EN | - | - |
| 8 | | | ヤリタナゴ | <i>Tanakia lanceolata</i> | - | - | NT | CR | - |
| 9 | | コイ科 (カマツカ科) | ゼゼラ | <i>Biwia zezera</i> | - | - | VU | NT | - |
| 10 | | | ホンモロコ | <i>Gnathopogon caeruleus</i> | - | - | CR | - | - |
| 11 | | | ウシモツゴ | <i>Pseudorasbora pugnax</i> | - | - | CR | CR | 希少 |
| 12 | | | カワヒガイ | <i>Sarcocheilichthys variegatus variegatus</i> | - | - | NT | CR | - |
| 13 | | | スゴモロコ | <i>Squalidus chankaensis biwae</i> | - | - | VU | - | - |
| 14 | | | イトモロコ | <i>Squalidus gracilis gracilis</i> | - | - | - | NT | - |
| 15 | | | デメモロコ | <i>Squalidus japonicus japonicus</i> | - | - | VU | CR | - |
| 16 | | コイ科 (Xenocypridae) | カワバタモロコ | <i>Hemigrammocypripis neglecta</i> | - | 国内(特2) | EN | EN | - |
| 17 | | | ハス | <i>Opsariichthys uncirostris uncirostris</i> | - | - | VU | - | - |
| 18 | | ドジョウ科 | トウカイコガタスジシマドジョウ | <i>Cobitis minamorii tokaiensis</i> | - | - | EN | EN | - |
| 19 | | | ニシシマドジョウ | <i>Cobitis</i> sp. BIWAE type B | - | - | - | VU | - |
| 20 | | | ドジョウ | <i>Misgurnus anguillicaudatus</i> | - | - | NT | VU | - |
| 21 | | フクドジョウ科 | ホトケドジョウ | <i>Lefua echigonia</i> | - | - | EN | EN | - |
| 22 | ナマズ目 | ギギ科 | ネコギギ | <i>Tachysurus ichikawai</i> | 国天 | - | EN | CR | - |
| 23 | | アカザ科 | アカザ | <i>Liobagrus reinii</i> | - | - | VU | NT | - |
| 24 | サケ目 | サケ科 | サツキマス・アマゴ | <i>Oncorhynchus masou ishikawae</i> | - | - | - | DD | - |
| 25 | | | ニッコウイワナ | <i>Salvelinus leucomaenis pluvius</i> | - | - | DD | - | - |
| 26 | ダツ目 | メダカ科 | ミナミメダカ | <i>Oryzias latipes</i> | - | - | VU | VU | - |
| 27 | スズキ目 | カジカ科 | カジカ | <i>Cottus pollux</i> | - | - | NT | EN | - |
| 28 | | | カマキリ (アユカケ) | <i>Rheopresbe kazika</i> | - | - | VU | EN | - |
| 29 | | ドンコ科 | ドンコ | <i>Odontobutis obscura</i> | - | - | - | EN | - |
| 30 | | ハゼ科 | ビウヨシノボリ | <i>Rhinogobius biwaensis</i> | - | - | DD | - | - |
| 31 | | | トウカイヨシノボリ | <i>Rhinogobius telma</i> | - | - | NT | CR | - |
| | 7目 | 15科 | 31種 | | 2種 | 2種 | 26種 | 23種 | 1種 |

注 1) 表中のⅠ～Ⅴは表 3.1.38 の番号と対応する。

注 2) 種名及び配列については原則として「日本産魚類全種リスト (JAF リスト)」（令和 7 年 5 月 鹿児島大学総合研究博物館）に準拠した。

第3章 配慮書対象事業実施想定区域及びその周囲の概況

3.1 自然的状況

⑥ 昆虫類

対象事業実施想定区域及びその周囲で見られる昆虫類（クモ類含む）の重要種は、表 3.1.45 に示すとおり、14 目 109 科 275 種である。

樹林地、ため池等の水域、草地等多岐にわたる環境に生息する種が該当している。

表 3.1.45(1) 重要種一覧（昆虫類）

| No. | 目名 | 科名 | 学名 | 種名 | 選定基準 | | | | |
|-----|-------|-----------|--------------------------------------|--------------|------|----|-----|----|---|
| | | | | | I | II | III | IV | V |
| 1 | クモ目 | ジグモ科 | <i>Calommata signata</i> | ワスレナグモ | - | - | NT | VU | - |
| 2 | | カネコトタテグモ科 | <i>Antrodiaetus roretzi</i> | カネコトタテグモ | - | - | NT | VU | - |
| 3 | | トタテグモ科 | <i>Conothele fragaria</i> | キノボリトタテグモ | - | - | NT | VU | - |
| 4 | | | <i>Latouchia typica</i> | キシノウエトタテグモ | - | - | NT | VU | - |
| 5 | | ヒメグモ科 | <i>Enoplognatha margarita</i> | シロタマヒメグモ | - | - | - | EN | - |
| 6 | | サラグモ科 | <i>Herbiphantes cericeus</i> | キヌキリグモ | - | - | - | EN | - |
| 7 | | | <i>Herbiphantes longiventris</i> | キノボリキヌキリグモ | - | - | - | EN | - |
| 8 | | アシナガグモ科 | <i>Metleucauge chikunii</i> | チクニドヨウグモ | - | - | - | EN | - |
| 9 | | コガネグモ科 | <i>Arachnura logio</i> | キジロオヒキグモ | - | - | - | EN | - |
| 10 | | | <i>Araneus seminiger</i> | コケオニグモ | - | - | - | EN | - |
| 11 | | | <i>Araneus variegatus</i> | ニシキオニグモ | - | - | - | VU | - |
| 12 | | | <i>Argiope amoena</i> | コガネグモ | - | - | - | NT | - |
| 13 | | | <i>Cyrtarachne bufo</i> | トリノフンダマシ | - | - | - | NT | - |
| 14 | | | <i>Cyrtarachne inaequalis</i> | オオトリノフンダマシ | - | - | - | NT | - |
| 15 | | | <i>Cyrtarachne nagasakiensis</i> | シロオビトリノフンダマシ | - | - | - | NT | - |
| 16 | | | <i>Cyrtarachne yunoharuensis</i> | アカイロトリノフンダマシ | - | - | - | NT | - |
| 17 | | | <i>Gasteracantha kuhlii</i> | トゲグモ | - | - | - | VU | - |
| 18 | | | <i>Ordgarius hobsoni</i> | マメイタイセキグモ | - | - | - | EN | - |
| 19 | | | <i>Ordgarius sexspinosus</i> | ムツトゲイセキグモ | - | - | - | EN | - |
| 20 | | | <i>Paraplectana tsushimensis</i> | ツシマトリノフンダマシ | - | - | - | VU | - |
| 21 | | | <i>Pasilobus hupingensis</i> | ワクツツキジグモ | - | - | - | EN | - |
| 22 | | | <i>Polys illepidus</i> | ゲホウグモ | - | - | - | NT | - |
| 23 | | コモリグモ科 | <i>Arctosa ebicha</i> | エビチャコモリグモ | - | - | - | EN | - |
| 24 | | | <i>Pardosa isago</i> | イサゴコモリグモ | - | - | - | EN | - |
| 25 | | | <i>Pardosa yamanoi</i> | テジロハリゲコモリグモ | - | - | - | EN | - |
| 26 | | | <i>Pirata meridionalis</i> | ミナモコモリグモ | - | - | - | NT | - |
| 27 | | サシアシグモ科 | <i>Shinobius orientalis</i> | シノビグモ | - | - | - | EN | - |
| 28 | | キンダグモ科 | <i>Dolomedes fontus</i> | ババハシリグモ | - | - | - | CR | - |
| 29 | | ネコグモ科 | <i>Castianeira shaxianensis</i> | オビジガバチグモ | - | - | - | NT | - |
| 30 | | ミヤマシボグモ科 | <i>Zora nemoralis</i> | ミヤマシボグモモドキ | - | - | - | CR | - |
| 31 | | アワセグモ科 | <i>Selenops bursarius</i> | アワセグモ | - | - | - | EN | - |
| 32 | | カニグモ科 | <i>Heriaeus mellottei</i> | アシナガカニグモ | - | - | - | VU | - |
| 33 | | | <i>Phrynarachne katoi</i> | カトウツケオグモ | - | - | - | EN | - |
| 34 | | | <i>Xysticus trizonatus</i> | オビボソカニグモ | - | - | - | VU | - |
| 35 | | | <i>Lestes japonicus</i> | コバネアオイトトンボ | - | - | EN | CR | - |
| 36 | (蜻蛉目) | イトトンボ科 | <i>Ceragrion nipponicum</i> | ベニイトトンボ | - | - | NT | VU | - |
| 37 | | | <i>Mortonagrion selenion</i> | モートンイトトンボ | - | - | NT | VU | - |
| 38 | | | <i>Paracercion sieboldii</i> | オオイトトンボ | - | - | - | EN | - |
| 39 | | | <i>Platycnemis foliacea sasakii</i> | グンバイイトトンボ | - | - | NT | EN | - |
| 40 | | カワトンボ科 | <i>Calopteryx japonica</i> | アオハダトンボ | - | - | NT | - | - |
| 41 | | ヤンマ科 | <i>Aeschnophlebia anisoptera</i> | ネアカヨシヤンマ | - | - | NT | NT | - |
| 42 | | | <i>Aeschnophlebia longistigma</i> | アオヤンマ | - | - | NT | CR | - |
| 43 | | サナエトンボ科 | <i>Asiagomphus pryori</i> | キイロサナエ | - | - | NT | VU | - |
| 44 | | | <i>Stylurus nagoyanus</i> | ナゴヤサナエ | - | - | VU | NT | - |
| 45 | | | <i>Stylurus oculatus</i> | メガネサナエ | - | - | VU | EN | - |
| 46 | | | <i>Trigomphus citimus tabei</i> | タバサナエ | - | - | NT | - | - |
| 47 | | | <i>Trigomphus interruptus</i> | フタスジサナエ | - | - | NT | VU | - |
| 48 | | | <i>Trigomphus melampus</i> | コサナエ | - | - | - | VU | - |
| 49 | | | <i>Trigomphus ogumai</i> | オグマサナエ | - | - | NT | EN | - |
| 50 | | エゾトンボ科 | <i>Epithea marginata</i> | トラフトンボ | - | - | - | VU | - |
| 51 | | | <i>Macromia daimoji</i> | キイロヤマトンボ | - | - | NT | NT | - |
| 52 | | | <i>Somatochlora clavata</i> | ハネビロエゾトンボ | - | - | VU | EN | - |
| 53 | | | <i>Somatochlora viridiaenea</i> | エゾトンボ | - | - | - | CR | - |
| 54 | | トンボ科 | <i>Libellula angelina</i> | ベッコウトンボ | - | 国内 | CR | CR | - |
| 55 | | | <i>Sympetrum croceolum</i> | キトンボ | - | - | - | EN | - |
| 56 | | | <i>Sympetrum infuscatum</i> | ノシメトンボ | - | - | - | NT | - |
| 57 | | | <i>Sympetrum kunkeli</i> | マイコアカネ | - | - | - | NT | - |
| 58 | | | <i>Sympetrum maculatum</i> | マダラナニワトンボ | - | - | EN | CR | - |
| 59 | | | <i>Sympetrum pedemontanum elatum</i> | ミヤマアカネ | - | - | - | NT | - |
| 60 | | | <i>Sympetrum uniforme</i> | オオキトンボ | - | - | EN | CR | - |

注1) 表中のⅠ～Ⅴは表 3.1.38の番号と対応する。

注2) 種名及び配列については原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（令和6年10月 国土交通省）に準拠した。

表 3.1.45(2) 重要種一覧（昆虫類）

| No. | 目名 | 科名 | 学名 | 種名 | 選定基準 | | | | |
|-----|-----------------|-----------|---|-----------------|------|------------|-----|----|---|
| | | | | | I | II | III | IV | V |
| 61 | カワゲラ目 (セキ翅目) | アミメカワゲラ科 | <i>Perlodes frisonanus</i> | フライゾンアミメカワゲラ | - | - | NT | - | - |
| 62 | バッタ目 | カマドウマ科 | <i>Anoplophilus minor</i> | チビクチキウマ | - | - | - | DD | - |
| 63 | (直翅目) | | <i>Anoplophilus okadai</i> | ミカワクチキウマ | - | - | - | DD | - |
| 64 | | クツワムシ科 | <i>Mecopoda elongata</i> | タイワンクツワムシ | - | - | - | NT | - |
| 65 | | ヒシバッタ科 | <i>Tetrix gifuensis</i> | ギフヒシバッタ | - | - | - | DD | - |
| 66 | ナナフシ目 (竹節虫目) | ナナフシ科 | <i>Phraortes elongatus</i> | エダナナフシ | - | - | - | DD | - |
| 67 | ゴキブリ目 (網翅目) | オオゴキブリ科 | <i>Panesthia angustipennis spadica</i> | オオゴキブリ | - | - | - | NT | - |
| 68 | カマキリ目 | カマキリ科 | <i>Amantis nawai</i> | ヒナカマキリ | - | - | - | NT | - |
| 69 | (蟷螂目) | | <i>Mantis religiosa sinica</i> | ウスバカマキリ | - | - | DD | - | - |
| 70 | カメムシ目 | アカジマウンカ科 | <i>Ommatidiotus japonicus</i> | ニホンアカジマウンカ | - | - | - | NT | - |
| 71 | (半翅目) | グンバイウンカ科 | <i>Trypetimorpha japonica</i> | ハウチワウンカ | - | - | VU | - | - |
| 72 | | ヨコバイ科 | <i>Psammotettix kurilensis</i> | スナヨコバイ | - | - | NT | - | - |
| 73 | | サシガメ科 | <i>Acanthaspis cineticus</i> | ハリサシガメ | - | - | NT | - | - |
| 74 | | | <i>Empicoris brachystigma</i> | フタオビマダラカモドキサシガメ | - | - | DD | - | - |
| 75 | | ハナカメムシ科 | <i>Elatophilus nipponensis</i> | ヒラタハナカメムシ | - | - | NT | - | - |
| 76 | | | <i>Lyctocoris beneficus</i> | ズイムシハナカメムシ | - | - | NT | - | - |
| 77 | | カスミカメムシ科 | <i>Pseudoloxops miyamotoi</i> | クスギヒイロカスミカメ | - | - | NT | - | - |
| 78 | | ツチカメムシ科 | <i>Canthophorus niveimarginatus</i> | シロヘリツチカメムシ | - | - | NT | - | - |
| 79 | | アメンボ科 | <i>Aquarius elongatus</i> | オオアメンボ | - | - | - | NT | - |
| 80 | | | <i>Limnopus esakii</i> | エサキアメンボ | - | - | NT | NT | - |
| 81 | | イトアメンボ科 | <i>Hydrometra albolineata</i> | イトアメンボ | - | - | VU | VU | - |
| 82 | | カタビロアメンボ科 | <i>Xiphovelia japonica</i> | オヨギカタビロアメンボ | - | - | NT | NT | - |
| 83 | | ミズムシ科 | <i>Hesperocorixa distantii hokkensis</i> | ホッケミズムシ | - | - | NT | NT | - |
| 84 | | | <i>Xenocorixa vittipennis</i> | ミヤケミズムシ | - | - | NT | - | - |
| 85 | | コオイムシ科 | <i>Appasus japonicus</i> | コオイムシ | - | - | NT | - | - |
| 86 | | | <i>Kirkaldyia deyrolli</i> | タガメ | - | 国内 (特2) | VU | EN | - |
| 87 | | タイコウチ科 | <i>Laccotrephes japonensis</i> | タイコウチ | - | - | - | NT | - |
| 88 | | | <i>Nepa hoffmanni</i> | ヒメタイコウチ | - | - | - | NT | - |
| 89 | | | <i>Ranatra chinensis</i> | ミズカマキリ | - | - | - | NT | - |
| 90 | | ナベブタムシ科 | <i>Aphelocheirus vittatus</i> | ナベブタムシ | - | - | - | NT | - |
| 91 | | | <i>Ilyocoris cimicoides exclamationis</i> | コバンムシ | - | 国内 (特2) | EN | CR | - |
| 92 | ヘビトンボ目 | センブリ科 | <i>Sialis yamatoensis</i> | ヤマトセンブリ | - | - | DD | - | - |
| 93 | コウチュウ目 (鞘翅目) | オサムシ科 | <i>Harpalus crates</i> | チョウセンゴモクムシ | - | - | VU | - | - |
| 94 | | | <i>Nebria livida angulata</i> | キベリマルクビゴミムシ | - | - | EN | EX | - |
| 95 | | | <i>Peronomerus auripilis</i> | イグチケブカゴミムシ | - | - | NT | - | - |
| 96 | | | <i>Pterostichus dandonis dandonis</i> | ダンドナガゴミムシ | - | - | - | EN | - |
| 97 | | ハンミョウ科 | <i>Cicindela gemmata aino</i> | アイヌハンミョウ | - | - | NT | VU | - |
| 98 | | ゲンゴロウ科 | <i>Allopachria flavomaculata</i> | キボシケシゲンゴロウ | - | - | DD | - | - |
| 99 | | | <i>Cybister brevis</i> | クロゲンゴロウ | - | - | NT | VU | - |
| 100 | | | <i>Cybister chinensis</i> | ゲンゴロウ | - | 国内 (特2) | VU | CR | - |
| 101 | | | <i>Cybister tripunctatus lateralis</i> | コガタノゲンゴロウ | - | - | VU | EX | - |
| 102 | | | <i>Hydaticus bowringii</i> | シマゲンゴロウ | - | - | NT | CR | - |
| 103 | | | <i>Hydrovatus stridulus</i> | サメハダマルケシゲンゴロウ | - | - | - | NT | - |
| 104 | | | <i>Hyphydrus japonicus</i> | ケシゲンゴロウ | - | - | NT | - | - |
| 105 | | | <i>Ilybius apicalis</i> | キベリクロヒメゲンゴロウ | - | - | NT | - | - |
| 106 | | | <i>Japanolaccophilus nipponensis</i> | キボシツブゲンゴロウ | - | - | NT | - | - |
| 107 | | | <i>Laccophilus lewisius</i> | ルイスツブゲンゴロウ | - | - | VU | - | - |
| 108 | | | <i>Laccophilus sharpi</i> | シャープツブゲンゴロウ | - | - | NT | - | - |
| 109 | | | <i>Leiodytes frontalis</i> | マルチビゲンゴロウ | - | - | NT | NT | - |
| 110 | | | <i>Platambus fimbriatus</i> | キベリマメゲンゴロウ | - | - | NT | - | - |
| 111 | | ミズスマシ科 | <i>Dineutus orientalis</i> | オオミズスマシ | - | - | NT | EN | - |
| 112 | | | <i>Gyrinus japonicus</i> | ミズスマシ | - | - | VU | CR | - |
| 113 | | | <i>Orectochilus punctipennis</i> | コオナガミズスマシ | - | - | VU | NT | - |
| 114 | | コガシラミズムシ科 | <i>Haliplus basinotatus</i> | クロホシコガシラミズムシ | - | - | VU | CR | - |
| 115 | | | <i>Haliplus ovalis</i> | ヒメコガシラミズムシ | - | - | - | EN | - |
| 116 | | コツブゲンゴロウ科 | <i>Neohydrocoptus bivittis</i> | キボシチビコツブゲンゴロウ | - | - | EN | NT | - |
| 117 | | カワラゴミムシ科 | <i>Omophron aequalis</i> | カワラゴミムシ | - | - | - | VU | - |
| 118 | | マルドロムシ科 | <i>Georissus granulosus</i> | セスジマルドロムシ | - | - | VU | - | - |
| 119 | | ホソガムシ科 | <i>Hydrochus japonicus</i> | ヤマトホソガムシ | - | - | NT | EN | - |
| 120 | | ガムシ科 | <i>Enochrus subsignatus</i> | マルヒラタガムシ | - | - | NT | - | - |
| 121 | | | <i>Helochaeres nipponicus</i> | スジヒラタガムシ | - | - | NT | - | - |
| 122 | | | <i>Hydrochara affinis</i> | コガムシ | - | - | DD | - | - |
| 123 | | | <i>Hydrochara libera</i> | エゾコガムシ | - | - | NT | - | - |
| 124 | | | <i>Hydrophilus acuminatus</i> | ガムシ | - | - | NT | CR | - |

注1) 表中の I～V は表 3.1.38 の番号と対応する。

注2) 種名及び配列については原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（令和6年10月 国土交通省）に準拠した。

第3章 配慮書対象事業実施想定区域及びその周囲の概況

3.1 自然的状況

表 3.1.45(3) 重要種一覧（昆虫類）

| No. | 目名 | 科名 | 学名 | 種名 | 選定基準 | | | | |
|-----|-----------------|-----------|--|----------------|------|----|-----|----|---|
| | | | | | I | II | III | IV | V |
| 125 | コウチュウ目 (鞘翅目) | エンマムシ科 | <i>Hister concolor</i> | クロエンマムシ | - | - | - | DD | - |
| 126 | | | <i>Merohister jekeli</i> | エンマムシ | - | - | - | DD | - |
| 127 | | クワガタムシ科 | <i>Ceruchus lignarius lignarius</i> | ツヤハダクワガタ | - | - | - | CR | - |
| 128 | | | <i>Dorcus hopei binodulosus</i> | オオクワガタ | - | - | VU | CR | - |
| 129 | | | <i>Dorcus montivagus montivagus</i> | ヒメオオクワガタ | - | - | - | CR | - |
| 130 | | コガネムシ科 | <i>Anthracophora rusticola</i> | アカマダラハナムグリ | - | - | DD | NT | - |
| 131 | | | <i>Aphodius elegans elegans</i> | オオフタホシマグソコガネ | - | - | - | EN | - |
| 132 | | | <i>Aphodius sordidus</i> | ヨツボシマグソコガネ | - | - | - | NT | - |
| 133 | | | <i>Aphodius variabilis</i> | クロモンマグソコガネ | - | - | NT | EX | - |
| 134 | | | <i>Rhomborhina polita</i> | クロカナブン | - | - | - | NT | - |
| 135 | | | <i>Trichius japonicus</i> | トラハナムグリ | - | - | - | DD | - |
| 136 | | ヒメドロムシ科 | <i>Graphelmis shirahatai</i> | アヤスジミゾドロムシ | - | - | EN | - | - |
| 137 | | | <i>Leptelmis gracilis</i> | ヨモミゾドロムシ | - | - | VU | NT | - |
| 138 | | | <i>Neorhodelmis kurosawai</i> | クロサワドロムシ | - | - | - | VU | - |
| 139 | | | <i>Pseudamophilus japonicus</i> | ケスジドロムシ | - | - | VU | - | - |
| 140 | | タマムシ科 | <i>Dicerca tibialis</i> | トゲフタオタマムシ | - | - | - | NT | - |
| 141 | | | <i>Nipponobuprestis querceti</i> | クロマダラタマムシ | - | - | - | VU | - |
| 142 | | コメツキムシ科 | <i>Actenicerus kidonoi Ohira</i> | サトヤマシモフリコメツキ | - | - | - | NT | - |
| 143 | | | <i>Aganohypoganus mirabilis</i> | ツヤヒラタコメツキ | - | - | - | VU | - |
| 144 | | | <i>Fleutiauxellus cruciatus</i> | ジョウジミズギワコメツキ | - | - | - | NT | - |
| 145 | | ホタル科 | <i>Luciola lateralis</i> | ヘイケボタル | - | - | - | DD | - |
| 146 | | オオキノコムシ科 | <i>Encaustes praenobilis</i> | オオキノコムシ | - | - | - | NT | - |
| 147 | | ナガクチキムシ科 | <i>Stenoxylita trialbofasciata</i> | ミスジナガクチキ | - | - | - | CR | - |
| 148 | | アカハネムシ科 | <i>Tosadendroides okamotoi</i> | オカモトツヤアナハネムシ | - | - | - | CR | - |
| 149 | | ゴミムシダマシ科 | <i>Gonocephalum terminale</i> | ヒメカクスナゴミムシダマシ | - | - | - | EN | - |
| 150 | | カミキリムシ科 | <i>Dolichoprosopus yokoyamai</i> | ヨコヤマヒゲナガカミキリ | - | - | - | NT | - |
| 151 | | | <i>Enoploderes bicolor</i> | ヒラヤマコブハナカミキリ | - | - | - | NT | - |
| 152 | | | <i>Gaurotes atripennis</i> | クビアカハナカミキリ | - | - | - | VU | - |
| 153 | | | <i>Leptura kusamai kusamai</i> | ヒメヨツスジハナカミキリ | - | - | - | EN | - |
| 154 | | | <i>Necydalis harmandi</i> | クロホソコバネカミキリ | - | - | - | NT | - |
| 155 | | | <i>Necydalis solida</i> | オオホソコバネカミキリ | - | - | - | NT | - |
| 156 | | | <i>Paranaspia anaspoides</i> | ベニバハナカミキリ | - | - | - | DD | - |
| 157 | | | <i>Parechthistatus gibber gibber</i> | セダカコブヤハズカミキリ | - | - | - | NT | - |
| 158 | | | <i>Pidonia approximata</i> | トサヒメハナカミキリ | - | - | - | NT | - |
| 159 | | | <i>Pidonia yamato</i> | ヤマトヒメハナカミキリ | - | - | - | NT | - |
| 160 | | | <i>Plagionotus pulcher</i> | コトラカミキリ | - | - | NT | - | - |
| 161 | | | <i>Pseudosieversia japonica</i> | チャイロヒメコブハナカミキリ | - | - | - | CR | - |
| 162 | | | <i>Stenocorus caeruleipennis</i> | フタコブルリハナカミキリ | - | - | - | NT | - |
| 163 | | | <i>Stenygrinum quadrinotatum</i> | ヨツボシカミキリ | - | - | EN | EN | - |
| 164 | | | <i>Stictoleptura pyrrha</i> | ヒメアカハナカミキリ | - | - | - | DD | - |
| 165 | | ハムシ科 | <i>Chrysolina virgata</i> | オオルリハムシ | - | - | NT | - | - |
| 166 | | | <i>Donacia katurai</i> | カツラネクイハムシ | - | - | - | VU | - |
| 167 | | | <i>Lema delicatula</i> | キオビクビボソハムシ | - | - | - | DD | - |
| 168 | | | <i>Syneta brevitibialis</i> | ヒメカバノキハムシ | - | - | - | DD | - |
| 169 | | ミツギリゾウムシ科 | <i>Cyphagogus iwatensis</i> | チャバネホソミツギリゾウムシ | - | - | DD | - | - |
| 170 | | ゾウムシ科 | <i>Bagous bipunctatus</i> | カギアシゾウムシ | - | - | - | DD | - |
| 171 | | | <i>Bagous buckingami</i> | バックシガムカギアシゾウムシ | - | - | - | NT | - |
| 172 | | | <i>Miarus vestitus</i> | チビコバンゾウムシ | - | - | - | DD | - |
| 173 | | チビゾウムシ科 | <i>Nanophyes japonicus</i> | ヒンチビゾウムシ | - | - | - | NT | - |
| 174 | ハエ目 (双翅目) | ハネカ科 | <i>Nymphomyia alba</i> | カスミハネカ | - | - | DD | - | - |
| 175 | | クチキカ科 | <i>Axymyia japonica</i> | ヤマトクチキカ | - | - | DD | - | - |
| 176 | | ハルカ科 | <i>Haruka elegans</i> | ハマダラハルカ | - | - | DD | - | - |
| 177 | | クサアブ科 | <i>Coenomyia basalis</i> | ネグロクサアブ | - | - | DD | - | - |
| 178 | チョウ目 (鱗翅目) | スカシバガ科 | <i>Macroscelesia longipes yamatoensis</i> | アシナガモモトスカシバ | - | - | VU | - | - |
| 179 | | ボクトウガ科 | <i>Phragmataecia geisha</i> | ハイイロボクトウ | - | - | NT | - | - |
| 180 | | マダラガ科 | <i>Balataea octomaculata</i> | ヤホシホソマダラ | - | - | NT | - | - |
| 181 | | セセリチョウ科 | <i>Aeromachus inachus inachus</i> | ホシチャバネセセリ | - | - | EN | CR | - |
| 182 | | | <i>Isoteinon lamprospilus lamprospilus</i> | ホソバセセリ | - | - | - | VU | - |
| 183 | | | <i>Leptalina unicolor</i> | ギンイチモンジセセリ | - | - | NT | NT | - |
| 184 | | | <i>Ochlodes venatus venatus</i> | コキマダラセセリ | - | - | - | EN | - |
| 185 | | | <i>Pelopidas jansonis</i> | ミヤマチャバネセセリ | - | - | - | EN | - |
| 186 | | | <i>Pyrgus maculatus maculatus</i> | チャマダラセセリ | - | - | EN | CR | - |
| 187 | | | <i>Thymelicus leoninus leoninus</i> | スジグロチャバネセセリ | - | - | NT | - | - |
| | | | | 北海道・本州・九州亜種 | | | | | |

注1) 表中のⅠ～Ⅴは表 3.1.38の番号と対応する。

注2) 種名及び配列については原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（令和6年10月 国土交通省）に準拠した。

表 3.1.45(4) 重要種一覧（昆虫類）

| No. | 目名 | 科名 | 学名 | 種名 | 選定基準 | | | | |
|-----|----------------|-----------|---------------------------------------|---------------|------|----|-----|----|----|
| | | | | | I | II | III | IV | V |
| 188 | チョウ目 (鱗翅目) | シジミチョウ科 | <i>Araragi enthea enthea</i> | オナガシジミ | - | - | - | NT | - |
| 189 | | | <i>Favonius jezoensis</i> | エブミドリシジミ | - | - | - | VU | - |
| 190 | | | <i>Favonius orientalis</i> | オオミドリシジミ | - | - | - | NT | - |
| 191 | | | <i>Favonius ultramarinus</i> | ハヤシミドリシジミ | - | - | - | CR | - |
| 192 | | | <i>Fixsenia mera</i> | ミヤマカラスシジミ | - | - | - | CR | - |
| 193 | | | <i>Iratsume orsedice orsedice</i> | ウラクロシジミ | - | - | - | VU | - |
| 194 | | | <i>Phengaris teleius kazamoto</i> | ゴマシジミ本州中部亜種 | - | 国内 | - | - | - |
| 195 | | | <i>Plebejus argus micrargus</i> | ヒメシジミ本州・九州亜種 | - | - | NT | - | - |
| 196 | | | <i>Shirozua jonasi</i> | ムモンアカシジミ | - | - | - | EN | - |
| 197 | | | <i>Sibatanozephyrus fujisanus</i> | フジミドリシジミ | - | - | - | VU | - |
| 198 | | タテハチョウ科 | <i>Argyronome laodice japonica</i> | ウラギンスジヒョウモン | - | - | VU | VU | - |
| 199 | | | <i>Argyronome ruslana</i> | オオウラギンスジヒョウモン | - | - | - | NT | - |
| 200 | | | <i>Coenonympha oedippus annulifer</i> | ヒメヒカゲ本州中部亜種 | - | - | - | - | 希少 |
| 201 | | | <i>Kirinia fentoni</i> | キマダラモドキ | - | - | NT | DD | - |
| 202 | | | <i>Lethe marginalis</i> | クロヒカゲモドキ | - | - | EN | EN | - |
| 203 | | | <i>Melitaea scotosia</i> | ヒョウモンモドキ | - | 国内 | CR | EX | - |
| 204 | | | <i>Ninguta schrenckii schrenckii</i> | オオヒカゲ | - | - | - | NT | - |
| 205 | | | <i>Sasakia charonda charonda</i> | オオムラサキ | - | - | NT | NT | - |
| 206 | | | <i>Ypthima multistriata nipponica</i> | ウラナミジャノメ本土亜種 | - | - | VU | - | - |
| 207 | | アゲハチョウ科 | <i>Luehdorffia japonica</i> | ギフチョウ | - | - | VU | VU | - |
| 208 | | シロチョウ科 | <i>Eurema laeta betheseba</i> | ツマグロキチョウ | - | - | EN | NT | - |
| 209 | | | <i>Gonepteryx aspasia nipponica</i> | スジボソヤマキチョウ | - | - | - | CR | - |
| 210 | | | <i>Gonepteryx rhamni maxima</i> | ヤマキチョウ | - | - | EN | - | - |
| 211 | | ツトガ科 | <i>Chilo pulveratus</i> | ゴマフツトガ | - | - | NT | - | - |
| 212 | | アゲハモドキガ科 | <i>Schistomitra funeralis</i> | フジキオビ | - | - | - | NT | - |
| 213 | | シャクガ科 | <i>Apochina excavata</i> | クワトゲエダシャク | - | - | NT | - | - |
| 214 | | ヤママユガ科 | <i>Actias gnoma gnoma</i> | オナガミズアオ本土亜種 | - | - | NT | - | - |
| 215 | | スズメガ科 | <i>Hemaris radians</i> | スキバホウジャク | - | - | VU | - | - |
| 216 | | シャチホコガ科 | <i>Ptilodon kuwayamae</i> | クワヤマエグリシャチホコ | - | - | NT | - | - |
| 217 | | ヒトリガ科 | <i>Aloa lactinea</i> | マエアカヒトリ | - | - | NT | - | - |
| 218 | | | <i>Eilema fuscodorsalis</i> | ヤネホソバ | - | - | NT | - | - |
| 219 | | | <i>Minolea degenerella</i> | シロホソバ | - | - | NT | - | - |
| 220 | | ドクガ科 | <i>Laelia coenosa sangaica</i> | スグドクガ | - | - | NT | - | - |
| 221 | | | <i>Laelia miyanoi</i> | ミヤノスグドクガ | - | - | VU | - | - |
| 222 | | ヤガ科 | <i>Acronicta carbonaria</i> | ウスズミケンモン | - | - | NT | - | - |
| 223 | | | <i>Acronicta digna</i> | クビゲロケンモン | - | - | NT | - | - |
| 224 | | | <i>Acronicta subornata</i> | マダラウスズミケンモン | - | - | - | DD | - |
| 225 | | | <i>Adisura atkinsoni</i> | アカヘリヤガ | - | - | NT | - | - |
| 226 | | | <i>Capsula aerata</i> | ガマヨトウ | - | - | VU | - | - |
| 227 | | | <i>Catocala actaea</i> | コシロシタバ | - | - | NT | - | - |
| 228 | | | <i>Catocala mirifica</i> | カバフキシタバ | - | - | - | NT | - |
| 229 | | | <i>Cidariplura signata</i> | カギモンハナオイアツバ | - | - | NT | - | - |
| 230 | | | <i>Doerriesa striata</i> | エゾスジヨトウ | - | - | VU | NT | - |
| 231 | | | <i>Elwesia sugii</i> | サヌキキリガ | - | - | - | NT | - |
| 232 | | | <i>Eulocasta sasakii</i> | シラユキコヤガ | - | - | VU | NT | - |
| 233 | | | <i>Eupsilia contracta</i> | ウスミモンキリガ | - | - | NT | - | - |
| 234 | | | <i>Globia sparganii</i> | クスジウスキヨトウ | - | - | VU | NT | - |
| 235 | | | <i>Hypena claripennis</i> | キシタアツバ | - | - | NT | - | - |
| 236 | | | <i>Jodia sericea</i> | ミスジキリガ | - | - | NT | - | - |
| 237 | | | <i>Mythimna pudorina</i> | ウスベニキヨトウ | - | - | - | DD | - |
| 238 | | | <i>Nonagria puengeleri</i> | オオチャバネヨトウ | - | - | VU | NT | - |
| 239 | | | <i>Plusilla rosalia</i> | ギンモンアカヨトウ | - | - | VU | - | - |
| 240 | トビケラ目 (毛翅目) | ナガレトビケラ科 | <i>Himalopsyche japonica</i> | オオナガレトビケラ | - | - | NT | NT | - |
| 241 | | ヒゲナガトビケラ科 | <i>Leptocerus moselyi</i> | モセリーヒゲナガトビケラ | - | - | - | NT | - |
| 242 | | | <i>Setodes argentatus</i> | ギンボシツツトビケラ | - | - | NT | - | - |
| 243 | | ホソバトビケラ科 | <i>Molannodes itoe</i> | イトウホソバトビケラ | - | - | - | NT | - |
| 244 | | フトヒゲトビケラ科 | <i>Psilotreta japonica</i> | ヒトスジキントビケラ | - | - | - | VU | - |

注1) 表中のⅠ～Ⅴは表 3.1.38の番号と対応する。

注2) 種名及び配列については原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（令和6年10月 国土交通省）に準拠した。

第3章 配慮書対象事業実施想定区域及びその周囲の概況

3.1 自然的状況

表 3.1.45(5) 重要種一覧（昆虫類）

| No. | 目名 | 科名 | 学名 | 種名 | 選定基準 | | | | |
|-----|--------------|----------|-------------------------------------|--------------|------|----|------|------|----|
| | | | | | I | II | III | IV | V |
| 245 | ハチ目 (膜翅目) | コンボウハバチ科 | <i>Agenocimbex maculatus</i> | ホシアシブトハバチ | - | - | DD | - | - |
| 246 | | ハバチ科 | <i>Siobla metallica</i> | ルリコシアカハバチ | - | - | DD | - | - |
| 247 | | ヤドリキバチ科 | <i>Ophrynopus tosenis</i> | トサヤドリキバチ | - | - | DD | - | - |
| 248 | | コマユバチ科 | <i>Euurobracon yokahamae</i> | ウマノオバチ | - | - | NT | NT | - |
| 249 | | セイボウ科 | <i>Stilbum cyanurum</i> | オオセイボウ | - | - | DD | - | - |
| 250 | | アリ科 | <i>Camponotus nipponensis</i> | ケブカツヤオオアリ | - | - | DD | - | - |
| 251 | | | <i>Polyrhachis lamellidens</i> | トゲアリ | - | - | VU | - | - |
| 252 | | スズメバチ科 | <i>Dolichovespula media</i> | キオビホオナガスズメバチ | - | - | DD | - | - |
| 253 | | | <i>Polistes japonicus</i> | ヤマトアシナガバチ | - | - | DD | - | - |
| 254 | | | <i>Vespa crabro</i> | モンズズメバチ | - | - | DD | - | - |
| 255 | | クモバチ科 | <i>Anoplius eous</i> | アケボノクモバチ | - | - | DD | - | - |
| 256 | | | <i>Leptodialepis sugiharai</i> | スギハラクモバチ | - | - | DD | - | - |
| 257 | | | <i>Parabatozonus jankowskii</i> | フタモンクモバチ | - | - | NT | - | - |
| 258 | | | <i>Paracyphononyx alienus</i> | アオスジクモバチ | - | - | DD | - | - |
| 259 | | ギングチバチ科 | <i>Crossocerus flavitarsus</i> | ギョウギギングチ | - | - | DD | - | - |
| 260 | | | <i>Crossocerus heydeni nipponis</i> | ガロアギングチ | - | - | DD | - | - |
| 261 | | | <i>Ectemnius furuichii</i> | ササキギングチ | - | - | NT | NT | - |
| 262 | | | <i>Larra amplipennis</i> | アカオビケラトリバチ | - | - | NT | - | - |
| 263 | | | <i>Pison koreense</i> | コウライクモカリバチ | - | - | DD | - | - |
| 264 | | | <i>Spadicocrabro nitobei</i> | ニトベギングチ | - | - | DD | - | - |
| 265 | | | <i>Argogorytes nipponis</i> | ニッポントゲアワフキバチ | - | - | DD | - | - |
| 266 | | ドロバチモドキ科 | <i>Bembix niponica</i> | ニッポンハナダカバチ | - | - | VU | NT | - |
| 267 | | | <i>Stizus perrisi</i> | キアシハナダカバチモドキ | - | - | VU | - | - |
| 268 | | | <i>Passaloecus koreanus</i> | カラトイスカバチ | - | - | DD | - | - |
| 269 | | アナバチ科 | <i>Ammophila atripes japonica</i> | フジジガバチ | - | - | NT | - | - |
| 270 | | | <i>Sceliphron madraspatanum</i> | キゴシジガバチ | - | - | - | NT | - |
| 271 | | ミツバチ科 | <i>Bombus ignitus</i> | クロマルハナバチ | - | - | NT | - | - |
| 272 | | | <i>Thyreus decorus</i> | ナミルリモンハナバチ | - | - | DD | - | - |
| 273 | | ハキリバチ科 | <i>Megachile kobensis</i> | キヌゲハキリバチ | - | - | - | NT | - |
| 274 | | | <i>Megachile pseudomonticola</i> | クズハキリバチ | - | - | DD | - | - |
| 275 | | | <i>Osmia orientalis</i> | マイマイツツハナバチ | - | - | DD | - | - |
| | 14目 | 109科 | 275種 | | 0種 | 6種 | 155種 | 181種 | 1種 |

注1) 表中の I ～ V は表 3.1.38 の番号と対応する。

注2) 種名及び配列については原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（令和6年10月 国土交通省）に準拠した。

⑦ 貝類

対象事業実施想定区域及びその周囲で見られる貝類の重要種は、表 3.1.46 に示すとおり、6 目 17 科 41 種である。

陸産貝類が複数種該当するほか、ため池や水田等の湛水域や河川域を生息環境とする種が該当している。

表 3.1.46 重要種一覧（貝類）

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 学名 | 選定基準 | | | | |
|-----|----------|-----------|--------------|--|------|-----|-------|------|-----|
| | | | | | I | II | III | IV | V |
| 1 | 新生腹足目 | タニシ科 | マルタニシ | <i>Cipangopaludina chinensis laeta</i> | - | - | VU | NT | - |
| 2 | | | オオタニシ | <i>Heterogen japonica</i> | - | - | NT | - | - |
| 3 | | カワニナ科 | クロダカワニナ | <i>Semisulcospira kurodai</i> | - | - | NT | NT | - |
| 4 | | イトマデガイ科 | カタヤマガイ | <i>Oncomelania nosophora</i> | - | - | CR+EN | - | - |
| 5 | 汎有肺目 | モノアラガイ科 | モノアラガイ | <i>Radix auricularia japonica</i> | - | - | NT | DD | - |
| 6 | | | カワコザラガイ | <i>Ferrissia nipponica</i> | - | - | CR | DD | - |
| 7 | | ヒラマキガイ科 | ヒメヒラマキミズマイマイ | <i>Gyraulus pulcher</i> | - | - | EN | DD | - |
| 8 | | | ミズコハクガイ | <i>Gyraulus soritai</i> | - | - | VU | VU | - |
| 9 | | | ヒラマキミズマイマイ | <i>Gyraulus spirillus</i> | - | - | DD | NT | - |
| 10 | | | トウキョウヒラマキガイ | <i>Gyraulus tokyoensis</i> | - | - | DD | - | - |
| 11 | | | ヒラマキガイモドキ | <i>Polypylis hemisphaerula</i> | - | - | NT | NT | - |
| 12 | 柄眼目 | オカモノアラガイ科 | ナガオカモノアラガイ | <i>Oxyloma hirasei</i> | - | - | NT | NT | - |
| 13 | | キバサナギガイ科 | ナタネキバサナギガイ | <i>Vertigo eogea</i> | - | - | VU | VU | - |
| 14 | | マキゾメガイ科 | ヒラドマルナタネ | <i>Pupisoma harpula</i> | - | - | - | NT | - |
| 15 | | キセルガイモドキ科 | キセルガイモドキ | <i>Mirus reinianus</i> | - | - | - | NT | - |
| 16 | | キセルガイ科 | オオギセル | <i>Megalophaedusa martensi</i> | - | - | NT | - | - |
| 17 | | | ミカワギセル | <i>Mesophaedusa hickonis mikawa</i> | - | - | NT | NT | - |
| 18 | | | オクガタギセル | <i>Mundiphaedusa dorcas</i> | - | - | NT | NT | - |
| 19 | | | ホソヤカギセル | <i>Mundiphaedusa hosayaka</i> | - | - | NT | NT | - |
| 20 | | | ハチノコギセル | <i>Mundiphaedusa kawasaki</i> | - | - | NT | NT | - |
| 21 | | | エルベリギセル | <i>Tyrannophaedusa aurantiaca erberi</i> | - | - | DD | - | - |
| 22 | | ナタネガイ科 | ミジンナタネ | <i>Punctum atomus</i> | - | - | - | DD | - |
| 23 | | ベッコウマイマイ科 | ヒラベッコウガイ | <i>Bekkochlamys micrograpta</i> | - | - | DD | VU | - |
| 24 | | | ウラウズタカキビ | <i>Coneuplecta sp.</i> | - | - | - | NT | - |
| 25 | | | ハクサンベッコウ | <i>Nipponochlamys hakusanus</i> | - | - | DD | DD | - |
| 26 | | | ヒゼンキビ | <i>Parakaliella hizenensis</i> | - | - | NT | NT | - |
| 27 | | | ヒメハリマキビ | <i>Parakaliella pagoduloides</i> | - | - | NT | NT | - |
| 28 | | | ウメムラシタラガイ | <i>Sitalina japonica</i> | - | - | NT | NT | - |
| 29 | | | オオウエキビ | <i>Trochochlamys fraterna</i> | - | - | DD | - | - |
| 30 | | | タカキビ | <i>Trochochlamys praealta</i> | - | - | NT | NT | - |
| 31 | | | ヒメカサキビ | <i>Trochochlamys subcrenulata</i> | - | - | NT | NT | - |
| 32 | | オナジマイマイ科 | カドコオオベソマイマイ | <i>Aegista proba goniosoma</i> | - | - | NT | NT | - |
| 33 | | | ヒラヒダリマキマイマイ | <i>Euhadra scaevola interioris</i> | - | - | - | VU | - |
| 34 | | | カタマメマイマイ | <i>Lepidopisum verrucosum</i> | - | - | VU | VU | - |
| 35 | | | ヒルゲンドルフマイマイ | <i>Trishoplita hilgendorfi</i> | - | - | NT | NT | - |
| 36 | イシガイ目 | イシガイ科 | ドブガイ | <i>Anodonta woodiana</i> | - | - | - | DD | - |
| 37 | | | カラスガイ | <i>Cristaria plicata</i> | - | - | EN | DD | - |
| 38 | | | イシガイ | <i>Nodularia douglasiae</i> | - | - | - | CR | - |
| 39 | マルスダレガイ目 | シジミ科 | マシジミ | <i>Corbicula leana</i> | - | - | VU | DD | - |
| 40 | アマオブネガイ目 | ヤマキサゴ科 | ヤマキサゴ | <i>Waldemaria japonica</i> | - | - | - | VU | - |
| 41 | | ゴマオカタニシ科 | ゴマオカタニシ | <i>Georissa japonica</i> | - | - | NT | NT | - |
| | 6 目 | 17 科 | 41 種 | | 0 種 | 0 種 | 33 種 | 35 種 | 0 種 |

注1) 表中の I～V は表 3.1.38 の番号と対応する。

注2) 種名及び配列については原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（令和6年10月 国土交通省）に準拠した。

3.1.8.2 植物

(1) 植物相の概要

「令和6年版 環境白書」(令和6年12月 愛知県)によると、愛知県の気候は一般に温暖で、夏季多雨、冬季小雨型となっている。このような気候の影響を受け、植物区分は奥三河山地の一部が温帯に属するほかは、暖帯に属している。

植生は、潜在的にはほとんどが照葉樹林帯に属するが、平野部では古くから宅地、農地等としての土地利用が進んだため、シイ・タブを中心とした自然植生は社寺林などとしてわずかに残っているにすぎない。一方、丘陵から山地部の多くの部分は、スギ及びヒノキを中心とした人工林となっており、都市近郊の丘陵部を中心にコナラ、アベマキ等を主体とする二次的植生の森林(二次林)地域が見られ、いわゆる里山を形成している。

対象事業実施想定区域及びその周囲の植生図は、図 3.1.20 に示すとおりである。

対象事業実施想定区域の西側は大きなため池(愛知池)があり、東側は住宅地となっている。隣接する北側は工場や資材置き場等の用地となっている。南から南西にかけてはグラウンドや大学の農場、耕作地等が広がりその周囲に住宅地が点在している。北側は河川を挟んで水田や畑などの耕作地も広がっている。また、愛知池の周囲及び大学農場や工場周辺には樹林地が存在している。農場や耕作地には牧草や水田・畑地雑草群落等の草本群落が成立しており、樹林地は主にケネザサーコナラ群集が多いが部分的にモチツツジ・アカマツ群集が点在している。

対象事業実施想定区域及びその周囲の植物の状況については、表 3.1.47 に示す既存文献により整理した。

対象事業実施想定区域及びその周囲で見られる植物は、表 3.1.48 に示すとおり、186 科 2,152 種である。

市街地、農耕地、草地、湿生地、樹林地、山地等の多様な環境に生育する多様な種が確認されており、シデコブシやマメナシ、ミカワバイケイソウ、ミカワシオガマ等の「東海丘陵要素」と呼ばれる東海地方に固有、あるいは国内における分布の中心がある種(変種を含む。)が複数種確認されている。

表 3.1.47 確認文献一覧

| 番号 | 文献 | 分布想定種 |
|----|---|-----------------------------------|
| 1 | 「レッドデータブックあいち 2020」 (令和2年3月 愛知県) | 対象事業実施想定区域及びその周囲を含むメッシュ内で確認されている種 |
| 2 | 東郷町誌 第二巻 (昭和55年3月 東郷町) | 掲載の種全て |
| 3 | 日進市史 自然編 (平成27年3月 日進市) | 掲載の種全て |
| 4 | 第2次日進市環境基本計画(2024年度～2030年度) (令和6年3月 日進市) | 対象事業実施想定区域及びその周囲で確認されている種 |
| 5 | 生物調査報告書 (平成30年11月 豊田市) | 挙母地区、保見地区で確認されている種 |
| 6 | 豊田市で確認された生物種 (令和6年11月 豊田市) | 掲載の種全て |
| 7 | 三好町植物誌 (昭和52年3月 三好町教育委員会) | 掲載の種全て |
| 8 | 最終処分場建設に係る生活環境影響調査 報告書 (平成14年3月 尾三衛生組合) | 現地調査の結果全て |

表 3.1.48 植物確認種数

| 分類群名 | | | 科数 | 種数 | 文献番号 | | | | | | | |
|-------|--------|----------|-------|---------|-------|------|---------|-----|-----|---------|-------|-------|
| 門名 | 亜門名 | 綱名 | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| シダ植物門 | | ヒカゲノカズラ綱 | 3 | 16 | 2 | 1 | 5 | 0 | 0 | 12 | 3 | 2 |
| | | 大葉シダ綱 | 23 | 159 | 11 | 2 | 59 | 0 | 0 | 143 | 48 | 23 |
| 種子植物門 | 裸子植物亜門 | － | 6 | 28 | 1 | 3 | 11 | 0 | 0 | 24 | 8 | 6 |
| | 被子植物亜門 | － | 9 | 46 | 5 | 3 | 21 | 0 | 0 | 39 | 16 | 3 |
| | | 単子葉類 | 30 | 544 | 65 | 20 | 301 | 3 | 4 | 376 | 229 | 93 |
| | | 真正双子葉類 | 115 | 1,359 | 82 | 63 | 650 | 4 | 2 | 1,072 | 494 | 233 |
| 合計 | | | 186 科 | 2,152 種 | 166 種 | 92 種 | 1,047 種 | 7 種 | 6 種 | 1,666 種 | 798 種 | 360 種 |

注1) 表中の文献番号は表 3.1.47の番号と対応する。

注2) 分類群名については原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(令和6年10月 国土交通省)に準拠した。

3.1 自然的状況

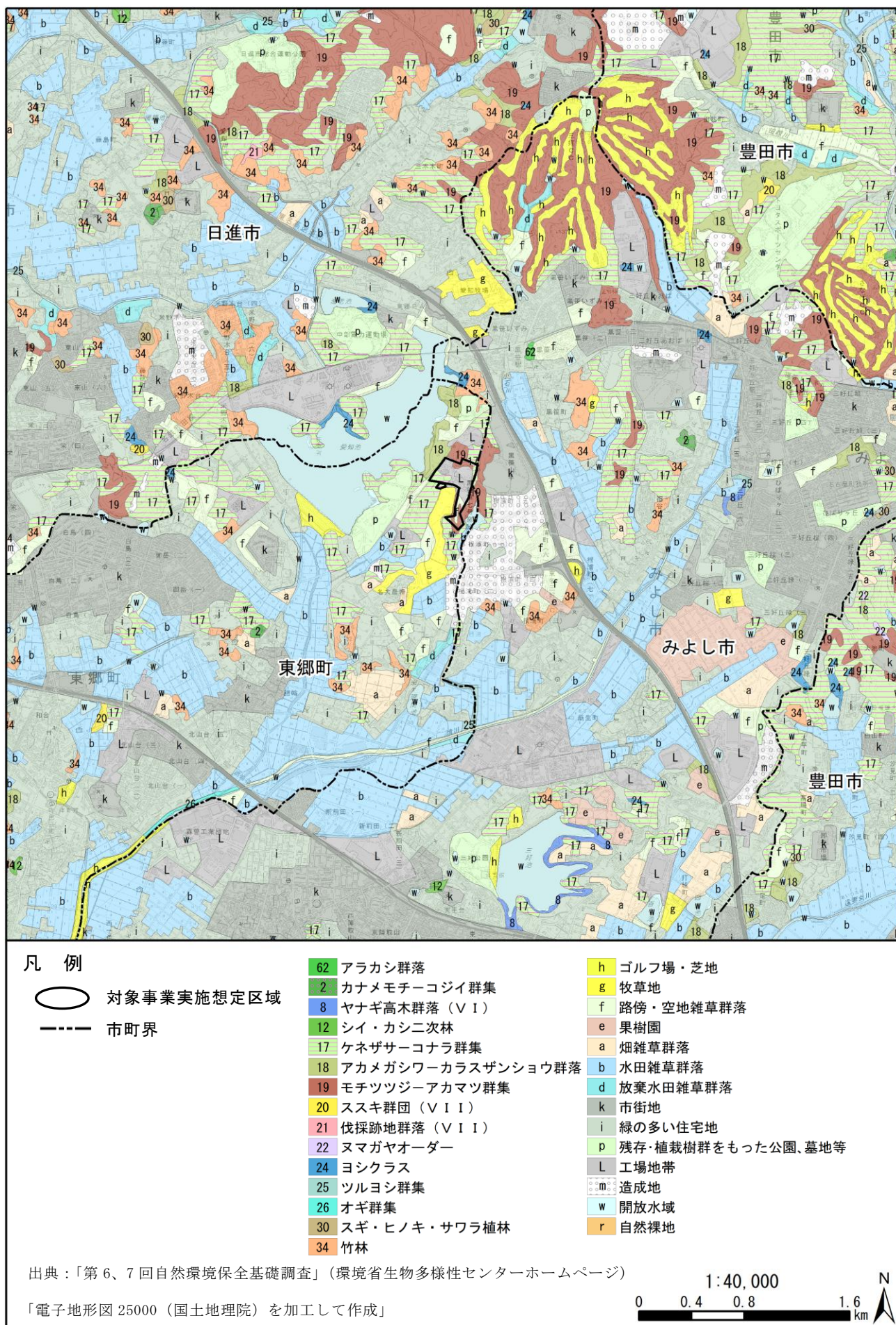


図 3.1.20 現存植生図

(2) 重要な植物種

確認された種のうち、重要な植物種を抽出した。重要な植物種及び植物群落の選定根拠は表 3.1.49 に、その選定基準は表 3.1.50 に示すとおりである。

なお、表 3.1.47 の確認文献の中には、詳細な位置情報の記載がないものも含まれるため、事業実施想定区域及びその周囲から離れた地域で見られる種を掲載している可能性がある。

表 3.1.49 重要な植物種及び植物群落の選定根拠

| 番号 | 法令・文献等 | 選定基準 |
|-----|---|---|
| I | 「文化財保護法」(昭和25年法律第214号) 「愛知県文化財保護条例」(昭和30年愛知県条例第6号) 「東郷町文化財保護条例」(昭和52年東郷町条例第21号) 「日進市文化財保護条例」(昭和51年日進市条例第1号) 「みよし市文化財保護条例」(昭和46年みよし市条例第8号) 「豊田市文化財保護条例」(昭和51年豊田市条例第24号) | ・特別天然記念物(特天) ・国指定天然記念物(国天) ・愛知県指定天然記念物(県天) ・東郷町指定天然記念物(町天) ・日進市指定天然記念物(市天) ・みよし市指定天然記念物(市天) ・豊田市指定天然記念物(市天) |
| II | 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成4年法律第75号) | ・国際希少野生動植物種(国際) ・国内希少野生動植物種(国内) ・特定第一種国内希少野生動植物種(特1) ・特定第二種国内希少野生動植物種(特2) ・緊急指定種(緊急) |
| III | 「環境省レッドリスト 第5次レッドリスト(植物・菌類)」 (令和7年3月18日 環境省報道発表資料) | ・絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN) ・絶滅危惧ⅠA類(CR) ・絶滅危惧ⅠB類(EN) ・絶滅危惧Ⅱ類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・情報不足(DD) ・地域個体群(LP) |
| IV | 「レッドリストあいち2025」レッドリスト (令和7年3月 愛知県) | ・絶滅危惧ⅠA類(CR) ・絶滅危惧ⅠB類(EN) ・絶滅危惧Ⅱ類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・情報不足(DD) ・地域個体群(LP) |
| V | 「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」 | ・指定希少野生動植物種(希少) |

表 3.1.50 重要な植物種及び植物群落の選定基準

| 番号 | 選定基準 | 評価基準 |
|-----|---------------------|--|
| I | 特別天然記念物（特天） | 天然記念物のうち世界的にまた国家的に価値が特に高いもの |
| | 国指定天然記念物（国天） | 動物植物及び地質鉱物のうち学術上貴重で、我が国の自然を記念するもの |
| | 愛知県指定天然記念物（県天） | 動物植物及び地質鉱物のうち学術上貴重で、愛知県の自然を記念するもの |
| | 東郷町指定天然記念物（町天） | 動物（生息地・繁殖地及び渡来地を含む。）・植物（自生地を含む。）及び地質鉱物（特異な自然現象の生じている土地を含む。）で学術上価値の高いもの |
| | 日進市指定天然記念物（市天） | 動物（生息地・繁殖地及び渡来地を含む。）、植物（自生地を含む。）及び地質、鉱物（特異な自然の現象の生じている土地を含む。）で学術上価値の高いもの |
| | みよし市指定天然記念物（市天） | 動物（生息地・繁殖地及び渡来地を含む。）、植物（自生地を含む。）及び地質、鉱物（特異な自然の現象を生じている土地を含む。）で学術上価値の高いもの |
| | 豊田市指定天然記念物（市天） | 動物（生息地・繁殖地及び渡来地を含む。）、植物（自生地を含む。）及び地質、鉱物（特異な自然現象の生じている土地を含む。）で学術上価値の高いもの |
| II | 国際希少野生動植物種（国際） | 国際的に協力して種の保存を図ることとされている絶滅のおそれのある野生動植物の種（国内希少野生動植物種を除く。）であって、政令で定めるものをいう |
| | 国内希少野生動植物種（国内） | その個体が本邦に生息し又は生育する絶滅のおそれのある野生動植物の種であって、政令で定めるものをいう |
| | 特定第一種国内希少野生動植物種（特1） | 次に掲げる要件のいずれにも該当する国内希少野生動植物種であって、政令で定めるものをいう 一 商業的に個体の繁殖をさせることができるものであること 二 国際的に協力して種の保存を図ることとされているものでないこと |
| | 特定第二種国内希少野生動植物種（特2） | 次に掲げる要件のいずれにも該当する国内希少野生動植物種であって、政令で定めるものをいう 一 種の個体の主要な生息地若しくは生育地が消滅しつつあるものであること又はその種の個体の生息若しくは生育の環境が著しく悪化しつつあるものであること 二 種の存続に支障を来す程度にその種の個体の数が著しく少ないものでないこと 三 繁殖による個体の数の増加の割合が低いものでないこと 四 国際的に協力して種の保存を図ることとされているものでないこと |
| | 緊急指定種（緊急） | 環境大臣が、希少野生動植物種及び国際希少野生動植物種以外の野生動植物の種の保存を特に緊急に図る必要があると認めるときに指定するものをいう |
| III | 絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN） | 絶滅の危機に瀕している種 |
| | 絶滅危惧ⅠA類（CR） | ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種 |
| | 絶滅危惧ⅠB類（EN） | ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種 |
| | 絶滅危惧Ⅱ類（VU） | 絶滅の危険が増大している種 |
| | 準絶滅危惧（NT） | 存続基盤が脆弱な種 |
| | 情報不足（DD） | 評価するだけの情報が不足している種 |
| | 絶滅のおそれのある地域個体群（LP） | 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの |
| IV | 絶滅危惧ⅠA類（CR） | ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの |
| | 絶滅危惧ⅠB類（EN） | ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの |
| | 絶滅危惧Ⅱ類（VU） | 絶滅の危険が増大している種 |
| | 準絶滅危惧（NT） | 存続基盤が脆弱な種 |
| | 情報不足（DD） | 評価するだけの情報が不足している種 |
| | 地域個体群（LP） | 特に保全のための配慮が必要と考えられる特徴的な個体群 |
| V | 指定希少野生動植物種（希少） | 県内に生息生育する絶滅のおそれのある野生動植物種のうち、特に保護を図る必要があるもの |

注）表中のⅠ～Ⅴは表 3.1.49の番号と対応する。

対象事業実施想定区域及びその周囲で見られる植物の重要種は、表 3.1.51 に示すとおり、103 科 337 種である。

動物種と同様、樹林地やため池等水域、草地等多岐にわたる環境に生育する植物種が該当している。

表 3.1.51(1) 重要種一覧（植物）

| No. | 科名 | 種名 | 学名 | 選定基準 | | | | |
|-----|-----------|--------------|---|------|----|-----|----|---|
| | | | | I | II | III | IV | V |
| 1 | ヒカゲノカズラ科 | ヤチスギラン | <i>Lycopodiella inundata</i> | - | - | - | CR | - |
| 2 | | アスヒカズラ | <i>Lycopodium complanatum</i> | - | - | - | VU | - |
| 3 | | スギラン | <i>Phlegmariurus cryptomerinus</i> | - | - | VU | VU | - |
| 4 | イワヒバ科 | ヒメクラマゴケ | <i>Selaginella heterostachys</i> | - | - | - | VU | - |
| 5 | | イヌカタヒバ | <i>Selaginella moellendorffii</i> | - | - | VU | - | - |
| 6 | ミズニラ科 | ミズニラ | <i>Isoetes japonica</i> | - | - | NT | NT | - |
| 7 | ハナヤスリ科 | ナガホノナツノハナワラビ | <i>Botrychium strictum</i> | - | - | - | NT | - |
| 8 | マツバラン科 | マツバラン | <i>Psilotum nudum</i> | - | - | NT | VU | - |
| 9 | デンジソウ科 | デンジソウ | <i>Marsilea quadrifolia</i> | - | - | NT | CR | - |
| 10 | サンショウモ科 | サンショウモ | <i>Salvinia natans</i> | - | - | NT | EN | - |
| 11 | キジノオシダ科 | ヤマソテツ | <i>Plagiogyria matsumureana</i> | - | - | - | VU | - |
| 12 | コバノイシカグマ科 | イシカグマ | <i>Microlepia strigosa</i> | - | - | - | NT | - |
| 13 | イノモトソウ科 | タキシダ | <i>Antrophyum obovatum</i> | - | - | VU | EN | - |
| 14 | | ミカワイワガネ | <i>Coniogramme</i> sp. | - | - | - | EN | - |
| 15 | | マツザカシダ | <i>Pteris nipponica</i> | - | - | - | EN | - |
| 16 | チャセンシダ科 | ヒノキンダ | <i>Asplenium prolongatum</i> | - | - | - | EN | - |
| 17 | | コタニワタリ | <i>Asplenium scolopendrium</i> | - | - | - | EN | - |
| 18 | ヒメシダ科 | ツクシヤワラシダ | <i>Thelypteris hattorii</i> var. <i>nemoralis</i> | - | - | - | VU | - |
| 19 | | ニッコウシダ | <i>Thelypteris nipponica</i> var. <i>nipponica</i> | - | - | - | CR | - |
| 20 | シシガシラ科 | オオカグマ | <i>Woodwardia japonica</i> | - | - | - | EN | - |
| 21 | メンダ科 | ホソバシケチシダ | <i>Athyrium fluviale</i> | - | 国内 | EN | - | - |
| 22 | | ウスバシケンシダ | <i>Deparia longipes</i> | - | - | VU | VU | - |
| 23 | | コヒロハシケンシダ | <i>Deparia pseudoconilii</i> var. <i>subdeltoidofrons</i> | - | - | - | VU | - |
| 24 | | ミヤマシケンシダ | <i>Deparia pycnosora</i> var. <i>pycnosora</i> | - | - | - | VU | - |
| 25 | オシダ科 | ツクシイワヘゴ | <i>Dryopteris commixta</i> | - | - | - | NT | - |
| 26 | | シラネワラビ | <i>Dryopteris expansa</i> | - | - | - | NT | - |
| 27 | | サクライカグマ | <i>Dryopteris gymnophylla</i> | - | - | - | CR | - |
| 28 | | ナガサキシダ | <i>Dryopteris sieboldii</i> | - | - | - | CR | - |
| 29 | | ホソイノデ | <i>Polystichum braunii</i> | - | - | - | EN | - |
| 30 | ウラボシ科 | ホテイシダ | <i>Lepisorus annuifrons</i> | - | - | - | NT | - |
| 31 | | クラガリシダ | <i>Lepisorus miyoshianus</i> | - | - | EN | EN | - |
| 32 | | イワオモダカ | <i>Pyrrosia hastata</i> | - | - | - | EN | - |
| 33 | コウヤマキ科 | コウヤマキ | <i>Sciadopitys verticillata</i> | - | - | - | NT | - |
| 34 | ヒノキ科 | ネズミサシ | <i>Juniperus rigida</i> | - | - | - | NT | - |
| 35 | イチイ科 | イチイ | <i>Taxus cuspidata</i> | - | - | - | EN | - |
| 36 | スイレン科 | オニバス | <i>Euryale ferox</i> | - | - | VU | CR | - |
| 37 | | コウホネ | <i>Nuphar japonica</i> | - | - | - | EN | - |
| 38 | | ヒメコウホネ | <i>Nuphar subintegerrima</i> | - | - | CR | CR | - |
| 39 | | ウマノスズクサ科 | オオバウマノスズクサ | - | - | - | VU | - |
| 40 | モクレン科 | シデコブシ | <i>Magnolia stellata</i> | - | - | NT | VU | - |
| 41 | クスノキ科 | ニッケイ | <i>Cinnamomum sieboldii</i> | - | - | NT | - | - |
| 42 | サトイモ科 | ムロウマムシグサ | <i>Arisaema kishidae</i> | - | - | - | VU | - |
| 43 | | ヤマトテンナンショウ | <i>Arisaema longilaminum</i> | - | - | - | EN | - |
| 44 | | ユモトマムシグサ | <i>Arisaema nikoense</i> | - | - | - | EN | - |
| 45 | | ミクニテンナンショウ | <i>Arisaema planilaminum</i> | - | - | - | EN | - |
| 46 | チシマゼキショウ科 | イワショウブ | <i>Triantha japonica</i> | - | - | - | VU | - |
| 47 | オモダカ科 | マルバオモダカ | <i>Caldesia parnassiifolia</i> | - | - | VU | EN | - |
| 48 | | アギナシ | <i>Sagittaria aginashi</i> | - | - | NT | - | - |
| 49 | トチカガミ科 | セトヤナギスプタ | <i>Blyxa alternifolia</i> | - | - | CR | CR | - |
| 50 | | マルミスプタ | <i>Blyxa aubertii</i> | - | - | VU | VU | - |
| 51 | | スプタ | <i>Blyxa echinosperma</i> | - | - | VU | CR | - |
| 52 | | ヤナギスプタ | <i>Blyxa japonica</i> | - | - | - | NT | - |
| 53 | | トチカガミ | <i>Hydrocharis dubia</i> | - | - | NT | EN | - |
| 54 | | サガミトリゲモ | <i>Najas chinensis</i> | - | - | NT | VU | - |
| 55 | | イトトリゲモ | <i>Najas gracillima</i> | - | - | NT | NT | - |
| 56 | | トリゲモ | <i>Najas minor</i> | - | - | VU | - | - |
| 57 | | オオトリゲモ | <i>Najas oguraensis</i> | - | - | - | NT | - |
| 58 | | ミズオオバコ | <i>Ottelia alismoides</i> | - | - | NT | - | - |
| 59 | ヒルムシロ科 | イトモ | <i>Potamogeton berchtoldii</i> | - | - | NT | NT | - |
| 60 | | コバノヒルムシロ | <i>Potamogeton cristatus</i> | - | - | VU | - | - |
| 61 | | ヒルムシロ | <i>Potamogeton distinctus</i> | - | - | - | NT | - |
| 62 | | オヒルムシロ | <i>Potamogeton natans</i> | - | - | - | VU | - |

注1) 表中のⅠ～Ⅴは表 3.1.49の番号と対応する。

注2) 種名及び配列については原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（令和6年10月 国土交通省）に準拠した。

第3章 配慮書対象事業実施想定区域及びその周囲の概況

3.1 自然的状況

表 3.1.51(2) 重要種一覧（植物）

| No. | 科名 | 種名 | 学名 | 選定基準 | | | | |
|-----|------------|------------|--|------|----|-----|----|---|
| | | | | I | II | III | IV | V |
| 63 | ヒナノシヤクジョウ科 | ヒナノシヤクジョウ | <i>Burmanna championii</i> | - | - | - | NT | - |
| 64 | ヤマノイモ科 | ウチワドコロ | <i>Dioscorea nipponica</i> | - | - | - | VU | - |
| 65 | | キクバドコロ | <i>Dioscorea septemloba</i> | - | - | - | VU | - |
| 66 | ホンゴウソウ科 | ホンゴウソウ | <i>Sciaphila nana</i> | - | - | NT | - | - |
| 67 | シュロソウ科 | エンレイソウ | <i>Trillium apetalon</i> | - | - | - | EN | - |
| 68 | | ミカワバイケイソウ | <i>Veratrum stamineum</i> var. <i>micranthum</i> | - | - | VU | EN | - |
| 69 | ユリ科 | サクラインソウ | <i>Petrosavia sakuraii</i> | - | - | EN | CR | - |
| 70 | ラン科 | ヒナラン | <i>Amitostigma gracile</i> | - | - | VU | CR | - |
| 71 | | イワチドリ | <i>Amitostigma keiskei</i> | - | - | EN | EN | - |
| 72 | | シラン | <i>Bletilla striata</i> | - | - | NT | NT | - |
| 73 | | ムギラン | <i>Bulbophyllum inconspicuum</i> | - | - | NT | - | - |
| 74 | | エビネ | <i>Calanthe discolor</i> | - | - | NT | NT | - |
| 75 | | ナツエビネ | <i>Calanthe puberula</i> | - | - | VU | VU | - |
| 76 | | サルメンエビネ | <i>Calanthe tricarinata</i> | - | - | VU | CR | - |
| 77 | | キンラン | <i>Cephalanthera falcata</i> | - | - | NT | NT | - |
| 78 | | ユウシュンラン | <i>Cephalanthera subaphylla</i> | - | - | NT | VU | - |
| 79 | | クマガイソウ | <i>Cypripedium japonicum</i> | - | - | VU | VU | - |
| 80 | | イチヨウラン | <i>Dactylostalix ringens</i> | - | - | - | NT | - |
| 81 | | セッコク | <i>Dendrobium moniliforme</i> | - | - | - | NT | - |
| 82 | | タシロラン | <i>Epipogium roseum</i> | - | - | NT | NT | - |
| 83 | | マツラン | <i>Gastrochilus matsuran</i> | - | - | VU | EN | - |
| 84 | | アキザキヤツシロラン | <i>Gastrodia confusa</i> | - | - | - | VU | - |
| 85 | | オオミヤマウズラ | <i>Goodyera tsukamotoi</i> | - | - | - | EN | - |
| 86 | | シュスラン | <i>Goodyera velutina</i> | - | - | - | VU | - |
| 87 | | ミズトンボ | <i>Habenaria sagittifera</i> | - | - | NT | VU | - |
| 88 | | ヒナチドリ | <i>Hemipilia chidori</i> | - | - | VU | CR | - |
| 89 | | クロムヨウラン | <i>Lecanorchis nigricans</i> var. <i>nigricans</i> | - | - | VU | - | - |
| 90 | | スズムシソウ | <i>Liparis makinoana</i> | - | - | - | CR | - |
| 91 | | コフタバラン | <i>Neottia cordata</i> | - | - | - | VU | - |
| 92 | | サギソウ | <i>Pecteilis radiata</i> | - | - | NT | VU | - |
| 93 | | ムカゴトンボ | <i>Peristylus densus</i> | - | - | EN | EX | - |
| 94 | | ミズチドリ | <i>Platanthera hologlottis</i> | - | - | - | VU | - |
| 95 | | ヤマサギソウ | <i>Platanthera mandarinorum</i> ssp. <i>mandarinorum</i> var. <i>oreades</i> | - | - | VU | VU | - |
| 96 | | オオヤマサギソウ | <i>Platanthera sachalinensis</i> | - | - | - | VU | - |
| 97 | | トキソウ | <i>Pogonia japonica</i> | - | - | NT | EN | - |
| 98 | | ヤマトキソウ | <i>Pogonia minor</i> | - | - | - | VU | - |
| 99 | キンバイザサ科 | コキンバイザサ | <i>Hypoxis aurea</i> | - | - | - | EN | - |
| 100 | アヤメ科 | ヒオウギ | <i>Iris domestica</i> | - | - | - | EN | - |
| 101 | | ヒメシャガ | <i>Iris gracilipes</i> | - | - | NT | - | - |
| 102 | | カキツバタ | <i>Iris laevigata</i> | - | - | NT | VU | - |
| 103 | | アヤメ | <i>Iris sanguinea</i> | - | - | - | EN | - |
| 104 | クサスギカズラ科 | マイヅルソウ | <i>Maianthemum dilatatum</i> | - | - | - | NT | - |
| 105 | ミズアオイ科 | ミズアオイ | <i>Monochoria korsakowii</i> | - | - | NT | CR | - |
| 106 | ガマ科 | ミクリ | <i>Sparganium erectum</i> | - | - | NT | EN | - |
| 107 | | ヤマトミクリ | <i>Sparganium fallax</i> | - | - | NT | VU | - |
| 108 | | ナガエミクリ | <i>Sparganium japonicum</i> | - | - | NT | - | - |
| 109 | | ヒメミクリ | <i>Sparganium subglobosum</i> | - | - | VU | CR | - |
| 110 | ホシクサ科 | クロイヌノヒゲ | <i>Eriocaulon atrum</i> | - | - | NT | - | - |
| 111 | | ツクシクロイヌノヒゲ | <i>Eriocaulon kiusianum</i> | - | - | - | NT | - |
| 112 | | ミカワイヌノヒゲ | <i>Eriocaulon mikawanum</i> | - | - | EN | EN | - |
| 113 | | シラタマホシクサ | <i>Eriocaulon nudicuspe</i> | - | - | VU | VU | - |
| 114 | | クロホシクサ | <i>Eriocaulon parvum</i> | - | - | NT | EN | - |
| 115 | カヤツリグサ科 | イトテンツキ | <i>Bulbostylis densa</i> var. <i>capitata</i> | - | - | NT | NT | - |
| 116 | | ミノボロスゲ | <i>Carex albata</i> | - | - | - | VU | - |
| 117 | | オオタマツリスゲ | <i>Carex filipes</i> var. <i>rouyana</i> | - | - | - | EN | - |
| 118 | | ヌマクロボスゲ | <i>Carex meyeriana</i> | - | - | VU | CR | - |
| 119 | | アワボスゲ | <i>Carex nipposinica</i> | - | - | - | CR | - |
| 120 | | タカネマスキサ | <i>Carex planata</i> | - | - | - | EN | - |
| 121 | | ヒメモエギスゲ | <i>Carex pocilliformis</i> | - | - | - | VU | - |
| 122 | | ヤブスゲ | <i>Carex rochebrunii</i> | - | - | - | EN | - |
| 123 | | ジングウスゲ | <i>Carex sacrosancta</i> | - | - | NT | NT | - |

注1) 表中のⅠ～Ⅴは表 3.1.49の番号と対応する。

注2) 種名及び配列については原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（令和6年10月 国土交通省）に準拠した。

表 3.1.51(3) 重要種一覧（植物）

| No. | 科名 | 種名 | 学名 | 選定基準 | | | | |
|-----|----------|-------------|--|------|----|-----|----|---|
| | | | | I | II | III | IV | V |
| 124 | カヤツリグサ科 | センダイスゲ | <i>Carex sendaica</i> | - | - | - | VU | - |
| 125 | | ニシノホンモンジスゲ | <i>Carex stenostachys</i> | - | - | - | VU | - |
| 126 | | アオヒエスゲ | <i>Carex subdita</i> | - | - | - | VU | - |
| 127 | | ホソバカンスゲ | <i>Carex temnolepis</i> | - | - | - | NT | - |
| 128 | | ヒメアオガヤツリ | <i>Cyperus extremiorientalis</i> | - | - | - | CR | - |
| 129 | | ヒメガヤツリ | <i>Cyperus tenuispica</i> | - | - | - | VU | - |
| 130 | | カガシラ | <i>Diplacrum caricinum</i> | - | - | VU | CR | - |
| 131 | | セイタカハライ | <i>Eleocharis attenuata</i> | - | - | - | VU | - |
| 132 | | マシカクイ | <i>Eleocharis tetraquetra</i> | - | - | - | VU | - |
| 133 | | トネテンツキ | <i>Fimbristylis stauntonii</i> var. <i>tonensis</i> | - | - | VU | VU | - |
| 134 | | トラノハナヒゲ | <i>Rhynchospora brownii</i> | - | - | - | CR | - |
| 135 | | オオイヌノハナヒゲ | <i>Rhynchospora fauriei</i> | - | - | - | VU | - |
| 136 | | シズイ | <i>Schoenoplectus nipponicus</i> | - | - | - | EN | - |
| 137 | | ノグサ | <i>Schoenus apogon</i> | - | - | - | EN | - |
| 138 | | ミカワシンジュガヤ | <i>Scleria mikawana</i> | - | - | VU | VU | - |
| 139 | | コシンジュガヤ | <i>Scleria parvula</i> | - | - | - | VU | - |
| 140 | イネ科 | ヒメコヌカグサ | <i>Agrostis valvata</i> | - | - | NT | - | - |
| 141 | | ヒナザサ | <i>Coelachne japonica</i> | - | - | NT | VU | - |
| 142 | | ヒメタイスビエ | <i>Echinochloa crus-galli</i> var. <i>formosensis</i> | - | - | - | EN | - |
| 143 | | ウンスケモドキ | <i>Eulalia quadrinervis</i> | - | - | NT | VU | - |
| 144 | | ウンスケ | <i>Eulalia speciosa</i> | - | - | VU | NT | - |
| 145 | | カモノハシ | <i>Ischaemum aristatum</i> var. <i>crassipes</i> | - | - | - | VU | - |
| 146 | | イブキヌカボ | <i>Milium effusum</i> | - | - | - | VU | - |
| 147 | | ウキシバ | <i>Pseudoraphis sordida</i> | - | - | - | NT | - |
| 148 | | シダミコザサ | <i>Sasa samaniensis</i> var. <i>yoshinoi</i> f. <i>hidejiroana</i> | - | - | - | VU | - |
| 149 | | ナリヒラダケ | <i>Semiarundinaria fastuosa</i> | - | - | - | VU | - |
| 150 | ケシ科 | オニシバ | <i>Zoysia macrostachya</i> | - | - | - | NT | - |
| 151 | | ナガミノツルケマン | <i>Corydalis raddeana</i> | - | - | NT | EN | - |
| 152 | | ヤマブキノソ | <i>Hylomecon japonica</i> | - | - | - | EN | - |
| 153 | メギ科 | ヘビノボラズ | <i>Berberis sieboldii</i> | - | - | - | NT | - |
| 154 | | イカリソウ | <i>Epimedium grandiflorum</i> var. <i>thunbergianum</i> | - | - | - | VU | - |
| 155 | キンポウゲ科 | アズマイチゲ | <i>Anemone raddeana</i> | - | - | - | NT | - |
| 156 | | レンゲショウマ | <i>Anemonopsis macrophylla</i> | - | - | - | EN | - |
| 157 | | エンコウソウ | <i>Caltha palustris</i> var. <i>enkoso</i> | - | - | - | CR | - |
| 158 | | キケンショウマ | <i>Cimicifuga japonica</i> var. <i>peltata</i> | - | - | - | EN | - |
| 159 | | カザグルマ | <i>Clematis patens</i> | - | - | NT | EN | - |
| 160 | | ハコネシロカネソウ | <i>Dichocarpum hakonense</i> | - | - | NT | - | - |
| 161 | | ミズミソウ | <i>Hepatica nobilis</i> var. <i>japonica</i> | - | - | NT | NT | - |
| 162 | | スハマソウ | <i>Hepatica nobilis</i> var. <i>japonica</i> f. <i>variegata</i> | - | - | - | NT | - |
| 163 | | オキナグサ | <i>Pulsatilla cernua</i> | - | - | NT | CR | - |
| 164 | | シギンカラマツ | <i>Thalictrum actaeifolium</i> | - | - | - | NT | - |
| 165 | ツゲ科 | ツゲ | <i>Buxus microphylla</i> var. <i>japonica</i> | - | - | - | VU | - |
| 166 | ボタン科 | ヤマシャクヤク | <i>Paeonia japonica</i> | - | - | NT | VU | - |
| 167 | | ベニバナヤマシャクヤク | <i>Paeonia obovata</i> | - | - | VU | EN | - |
| 168 | スグリ科 | ヤシャビシヤク | <i>Ribes ambiguum</i> | - | - | NT | EN | - |
| 169 | | ヤブサンザシ | <i>Ribes fasciculatum</i> | - | - | - | EN | - |
| 170 | ユキノシタ科 | ミカワショウマ | <i>Astilbe odontophylla</i> | - | - | NT | VU | - |
| 171 | | キバナハナネコノメ | <i>Chrysosplenium album</i> var. <i>flavum</i> | - | - | NT | NT | - |
| 172 | | ツルネコノメソウ | <i>Chrysosplenium flagelliferum</i> | - | - | - | VU | - |
| 173 | | チシマネコノメソウ | <i>Chrysosplenium kamtschaticum</i> var. <i>kamtschaticum</i> | - | - | - | VU | - |
| 174 | | ナメラダイモンジソウ | <i>Saxifraga fortunei</i> var. <i>suwoensis</i> | - | - | - | NT | - |
| 175 | ベンケイソウ科 | ベンケイソウ | <i>Hylotelephium erythrostictum</i> | - | - | - | EX | - |
| 176 | | アオベンケイ | <i>Hylotelephium viride</i> | - | - | - | EN | - |
| 177 | | ツメレンゲ | <i>Orostachys japonica</i> | - | - | NT | NT | - |
| 178 | タコノアシ科 | タコノアシ | <i>Penthorum chinense</i> | - | - | NT | NT | - |
| 179 | アリノトウグサ科 | タチモ | <i>Myriophyllum ussuriense</i> | - | - | NT | NT | - |
| 180 | マメ科 | サイカチ | <i>Gleditsia japonica</i> | - | - | - | VU | - |
| 181 | | オオバヌスビトハギ | <i>Hylodesmum laxum</i> | - | - | - | VU | - |
| 182 | | イヌハギ | <i>Lespedeza tomentosa</i> | - | - | NT | VU | - |
| 183 | | ミソナオシ | <i>Ohwia caudata</i> | - | - | - | VU | - |
| 184 | | ヨツバハギ | <i>Vicia nipponica</i> | - | - | - | VU | - |

注1) 表中のⅠ～Ⅴは表 3.1.49の番号と対応する。

注2) 種名及び配列については原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（令和6年10月 国土交通省）に準拠した。

第3章 配慮書対象事業実施想定区域及びその周囲の概況

3.1 自然的状況

表 3.1.51(4) 重要種一覧（植物）

| No. | 科名 | 種名 | 学名 | 選定基準 | | | | |
|-----|---------|-------------|---|------|----|-----|----|----|
| | | | | I | II | III | IV | V |
| 185 | グミ科 | クマヤマグミ | <i>Elaeagnus epitricha</i> | - | - | VU | - | - |
| 186 | | ハコネグミ | <i>Elaeagnus matsunoana</i> | - | - | NT | - | - |
| 187 | | アリマグミ | <i>Elaeagnus murakamiana</i> | - | - | - | VU | - |
| 188 | クロウメドキ科 | ケンボナシ | <i>Hovenia dulcis</i> | - | - | - | EN | - |
| 189 | アサ科 | コバノチョウセンエノキ | <i>Celtis biondii</i> var. <i>biondii</i> | - | - | - | EN | - |
| 190 | クワ科 | カジノキ | <i>Broussonetia papyrifera</i> | - | - | - | EN | - |
| 191 | イラクサ科 | トキホコリ | <i>Elatostema densiflorum</i> | - | - | NT | - | - |
| 192 | | ミヤマミズ | <i>Pilea angulata</i> ssp. <i>petiolaris</i> | - | - | - | VU | - |
| 193 | | ミヤコミズ | <i>Pilea kiotensis</i> | - | - | - | CR | - |
| 194 | バラ科 | カワラサイコ | <i>Potentilla chinensis</i> | - | - | - | VU | - |
| 195 | | テリハキンバイ | <i>Potentilla riparia</i> var. <i>riparia</i> | - | - | - | VU | - |
| 196 | | マメナシ | <i>Pyrus calleryan</i> var. <i>dimorphophylla</i> | - | - | EN | CR | - |
| 197 | | ミヤマモミジイチゴ | <i>Rubus pseudo-acer</i> | - | - | NT | - | - |
| 198 | | ミヤマワレモコウ | <i>Sanguisorba longifolia</i> | - | - | - | EN | - |
| 199 | ブナ科 | ナラガシワ | <i>Quercus aliena</i> | - | - | - | EN | - |
| 200 | | フモトミズナラ | <i>Quercus crispula</i> var. <i>mongolicoides</i> | - | - | - | NT | - |
| 201 | カバノキ科 | サクラバハハンノキ | <i>Alnus trabeculosa</i> | - | - | NT | - | - |
| 202 | | ウダイカンバ | <i>Betula maximowicziana</i> | - | - | - | VU | - |
| 203 | | オノオレカンバ | <i>Betula schmidtii</i> | - | - | - | VU | - |
| 204 | ニシキギ科 | シラヒゲソウ | <i>Parnassia foliosa</i> var. <i>foliosa</i> | - | - | - | EN | - |
| 205 | カタバミ科 | コミヤマカタバミ | <i>Oxalis acetosella</i> var. <i>acetosella</i> | - | - | - | NT | - |
| 206 | ヤナギ科 | キヌヤナギ | <i>Salix schwerinii</i> ‘Kinuyanagi’ | - | - | - | NT | - |
| 207 | スミレ科 | スミレサイシン | <i>Viola vaginata</i> | - | - | - | EN | - |
| 208 | オトギリソウ科 | アゼオトギリ | <i>Hypericum oliganthum</i> | - | - | EN | EN | - |
| 209 | フウロソウ科 | ミツバフウロ | <i>Geranium wilfordii</i> var. <i>wilfordii</i> | - | - | - | EN | - |
| 210 | ミソハギ科 | ヒメミソハギ | <i>Ammannia multiflora</i> | - | - | - | NT | - |
| 211 | | ミズスギナ | <i>Rotala hippuris</i> | - | - | CR | EX | - |
| 212 | | ミズマツバ | <i>Rotala mexicana</i> | - | - | NT | - | - |
| 213 | | ミズキカシグサ | <i>Rotala rosea</i> | - | - | NT | VU | - |
| 214 | | ヒメビシ | <i>Trapa incisa</i> | - | - | VU | EN | - |
| 215 | | オニビシ | <i>Trapa natans</i> var. <i>natans</i> | - | - | - | NT | - |
| 216 | | オニビシ | <i>Trapa natans</i> var. <i>quadrispinosa</i> | - | - | - | NT | - |
| 217 | アカバナ科 | ウスゲチョウジタデ | <i>Ludwigia epilobioides</i> ssp. <i>greatrexii</i> | - | - | NT | - | - |
| 218 | ムクロジ科 | ホソエカエデ | <i>Acer capillipes</i> | - | - | - | VU | - |
| 219 | | カジカエデ | <i>Acer diabolicum</i> | - | - | - | NT | - |
| 220 | | ハウチワカエデ | <i>Acer japonicum</i> | - | - | - | VU | - |
| 221 | | メグスリノキ | <i>Acer maximowiczianum</i> | - | - | - | VU | - |
| 222 | | クロビイタヤ | <i>Acer miyabei</i> | - | - | VU | - | - |
| 223 | | ハナノキ | <i>Acer pycnanthum</i> | - | - | VU | EN | - |
| 224 | アオイ科 | ハマボウ | <i>Hibiscus hamabo</i> | - | - | - | VU | - |
| 225 | ジンチョウゲ科 | サクラガンピ | <i>Diplomorpha pauciflora</i> var. <i>pauciflora</i> | - | - | VU | - | - |
| 226 | アブラナ科 | コンロンソウ | <i>Cardamine leucantha</i> | - | - | - | EN | - |
| 227 | | ミズタガラシ | <i>Cardamine lyrata</i> | - | - | - | NT | - |
| 228 | | コイヌガラシ | <i>Rorippa cantoniensis</i> | - | - | NT | - | - |
| 229 | タデ科 | サトヤマタデ | <i>Persicaria clivorum</i> | - | - | - | NT | - |
| 230 | | ヒメタデ | <i>Persicaria erectominor</i> | - | - | DD | EN | - |
| 231 | | トヨボタニソバ | <i>Persicaria geocarpica</i> | - | - | - | NT | - |
| 232 | | ナガバノウナギツカミ | <i>Persicaria hastatosagittata</i> | - | - | NT | NT | - |
| 233 | | コミゾソバ | <i>Persicaria mikawana</i> | - | - | - | NT | - |
| 234 | | ヌカボタデ | <i>Persicaria taquetii</i> | - | - | VU | VU | - |
| 235 | | オオミゾソバ | <i>Persicaria thunbergii</i> var. <i>stoloniferum</i> | - | - | - | NT | - |
| 236 | | コギシギシ | <i>Rumex dentatus</i> ssp. <i>klotzschianus</i> | - | - | NT | - | - |
| 237 | | ノダイオウ | <i>Rumex longifolius</i> | - | - | VU | CR | - |
| 238 | モウセンゴケ科 | ナガバノイシモチソウ | <i>Drosera indica</i> | - | - | VU | CR | 希少 |
| 239 | | イシモチソウ | <i>Drosera peltata</i> var. <i>nipponica</i> | - | - | NT | EN | - |
| 240 | ナデシコ科 | オオヤマフスマ | <i>Arenaria lateriflora</i> | - | - | - | VU | - |
| 241 | | ワダソウ | <i>Pseudostellaria heterophylla</i> | - | - | - | EN | - |
| 242 | | ヒゲネワチガイソウ | <i>Pseudostellaria palibiniana</i> | - | - | - | EN | - |
| 243 | | ツカモトハコベ | <i>Stellaria hibinoi</i> | - | - | VU | CR | - |
| 244 | ヒユ科 | ハマアカザ | <i>Atriplex subcordata</i> | - | - | - | VU | - |
| 245 | | マルバアカザ | <i>Chenopodium acuminatum</i> var. <i>acuminatum</i> | - | - | - | NT | - |

注1) 表中のⅠ～Ⅴは表 3.1.49の番号と対応する。

注2) 種名及び配列については原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（令和6年10月 国土交通省）に準拠した。

表 3.1.51(5) 重要種一覧（植物）

| No. | 科名 | 種名 | 学名 | 選定基準 | | | | |
|-----|----------|-------------|---|------|----|-----|----|----|
| | | | | I | II | III | IV | V |
| 246 | アジサイ科 | コガクウツギ | <i>Hortensia luteovenosa</i> var. <i>luteovenosa</i> | - | - | - | EN | - |
| 247 | ツリフネソウ科 | エンシュウツリフネソウ | <i>Impatiens hypophylla</i> var. <i>microhypophylla</i> | - | - | CR | CR | 希少 |
| 248 | カキノキ科 | ヤエヤマコクタン | <i>Diospyros egbertwalkerii</i> | - | - | NT | - | - |
| 249 | サクラソウ科 | クリンソウ | <i>Primula japonica</i> | - | - | - | NT | - |
| 250 | | サクラソウ | <i>Primula sieboldii</i> | - | - | NT | - | - |
| 251 | イワウメ科 | イワカガミ | <i>Schizocodon soldanelloides</i> var. <i>soldanelloides</i> | - | - | - | EN | - |
| 252 | ツツジ科 | サラサドウダン | <i>Enkianthus campanulatus</i> var. <i>campanulatus</i> | - | - | - | NT | - |
| 253 | | シャクジョウソウ | <i>Hypopitys monotropa</i> | - | - | - | NT | - |
| 254 | | ホンシャクナゲ | <i>Rhododendron japonoheptamerum</i> var. <i>hondoense</i> | - | - | - | VU | - |
| 255 | アカネ科 | キクムグラ | <i>Galium kikumugura</i> | - | - | - | NT | - |
| 256 | | ハクチョウゲ | <i>Serissa japonica</i> | - | - | VU | - | - |
| 257 | リンドウ科 | コケリンドウ | <i>Gentiana squarrosa</i> | - | - | - | VU | - |
| 258 | | ホソバナツルリンドウ | <i>Pterygocalyx volubilis</i> | - | - | VU | - | - |
| 259 | | ムラサキセンブリ | <i>Swertia pseudochinensis</i> | - | - | NT | VU | - |
| 260 | | イヌセンブリ | <i>Swertia tosaensis</i> | - | - | NT | NT | - |
| 261 | マチン科 | ヒメナエ | <i>Mitrasacme indica</i> | - | - | VU | CR | - |
| 262 | キョウチクトウ科 | フナバラソウ | <i>Vincetoxicum atratum</i> | - | - | NT | EN | - |
| 263 | | クサナギオゴケ | <i>Vincetoxicum katoii</i> | - | - | VU | NT | - |
| 264 | | タチガシワ | <i>Vincetoxicum magnificum</i> | - | - | - | CR | - |
| 265 | | スズサイコ | <i>Vincetoxicum pycnostelma</i> | - | - | NT | - | - |
| 266 | ヒルガオ科 | マメダオシ | <i>Cuscuta australis</i> | - | - | EN | EX | - |
| 267 | ナス科 | ヤマホオズキ | <i>Archiphysalis chamaesarachoides</i> | - | - | VU | VU | - |
| 268 | | アオホオズキ | <i>Physaliastrum japonicum</i> | - | - | VU | VU | - |
| 269 | ムラサキ科 | ホタルカズラ | <i>Aegonychon zollingeri</i> | - | - | - | EN | - |
| 270 | モクセイ科 | トネリコ | <i>Fraxinus japonica</i> | - | - | - | EN | - |
| 271 | | ハシドイ | <i>Syringa reticulata</i> var. <i>reticulata</i> | - | - | - | NT | - |
| 272 | オオバコ科 | マルバノサワトウガラシ | <i>Deinostema adenocaulum</i> | - | - | NT | NT | - |
| 273 | | オオアブノメ | <i>Gratiola japonica</i> | - | - | VU | VU | - |
| 274 | | トウオオバコ | <i>Plantago japonica</i> | - | - | - | EN | - |
| 275 | | ヒシモドキ | <i>Trapella sinensis</i> | - | - | EN | EX | - |
| 276 | | イヌノフグリ | <i>Veronica polita</i> | - | - | NT | - | - |
| 277 | | カワヂシャ | <i>Veronica undulata</i> | - | - | NT | - | - |
| 278 | ゴマノハグサ科 | ヒナノウスツボ | <i>Scrophularia duplicatoserrata</i> | - | - | - | NT | - |
| 279 | アゼナ科 | ツルウリクサ | <i>Torenia concolor</i> | - | - | CR | - | - |
| 280 | シソ科 | タチキランソウ | <i>Ajuga makinoi</i> | - | - | NT | - | - |
| 281 | | ジュウニヒトエ | <i>Ajuga nipponensis</i> | - | - | - | VU | - |
| 282 | | ケブカツルカコソウ | <i>Ajuga shikotanensis</i> f. <i>hirsuta</i> | - | - | - | EN | - |
| 283 | | ジャコウソウ | <i>Chelonopsis moschata</i> | - | - | - | VU | - |
| 284 | | マネキグサ | <i>Loxocalyx ambiguus</i> | - | - | NT | - | - |
| 285 | | シロネ | <i>Lycopus lucidus</i> | - | - | - | NT | - |
| 286 | | ヤマジソ | <i>Mosla japonica</i> | - | - | NT | VU | - |
| 287 | | ミズネコノオ | <i>Pogostemon stellatus</i> | - | - | NT | VU | - |
| 288 | | ミズトラノオ | <i>Pogostemon yatabeanus</i> | - | - | VU | VU | - |
| 289 | | シマジタムラソウ | <i>Salvia isensis</i> | - | - | VU | NT | - |
| 290 | | シナノアキギリ | <i>Salvia koyamae</i> | - | - | VU | - | - |
| 291 | | ミゾコウジュ | <i>Salvia plebeia</i> | - | - | NT | - | - |
| 292 | | ヒメナミキ | <i>Scutellaria dependens</i> | - | - | - | NT | - |
| 293 | | イブキジャコウソウ | <i>Thymus quinquecostatus</i> var. <i>ibukiensis</i> | - | - | - | CR | - |
| 294 | ハエドクソウ科 | スズメノハコベ | <i>Microcarpaea minima</i> | - | - | NT | NT | - |
| 295 | ハマウツボ科 | ゴマクサ | <i>Centranthera cochinchinensis</i> var. <i>lutea</i> | - | - | NT | VU | - |
| 296 | | クチナシグサ | <i>Monochasma shearerii</i> | - | - | - | NT | - |
| 297 | | ミカワシオガマ | <i>Pedicularis resupinata</i> ssp. <i>oppositifolia</i> var. <i>microphylla</i> | - | - | VU | EN | - |
| 298 | | キヨスミウツボ | <i>Phacellanthus tubiflorus</i> | - | - | - | VU | - |
| 299 | | ヒキヨモギ | <i>Siphonostegia chinensis</i> | - | - | - | NT | - |
| 300 | | オオヒキヨモギ | <i>Siphonostegia laeta</i> | - | - | NT | - | - |
| 301 | タヌキモ科 | ノタヌキモ | <i>Utricularia aurea</i> | - | - | VU | VU | - |
| 302 | | イスタヌキモ | <i>Utricularia australis</i> | - | - | NT | - | - |
| 303 | | フサタヌキモ | <i>Utricularia dimorphantha</i> | - | - | VU | EX | - |
| 304 | | ミカワタヌキモ | <i>Utricularia exoleta</i> | - | - | EN | CR | - |
| 305 | | コタヌキモ | <i>Utricularia intermedia</i> | - | - | - | CR | - |

注1) 表中の I～V は表 3.1.49 の番号と対応する。

注2) 種名及び配列については原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（令和6年10月 国土交通省）に準拠した。

第3章 配慮書対象事業実施想定区域及びその周囲の概況

3.1 自然的状況

表 3.1.51(6) 重要種一覧（植物）

| No. | 科名 | 種名 | 学名 | 選定基準 | | | | |
|-----|--------|------------|--|------|-----|-------|-------|-----|
| | | | | I | II | III | IV | V |
| 306 | タヌキモ科 | ヒメミミカキグサ | <i>Utricularia minutissima</i> | - | - | CR | EN | - |
| 307 | | ムラサキミミカキグサ | <i>Utricularia uliginosa</i> | - | - | NT | NT | - |
| 308 | | タヌキモ | <i>Utricularia x japonica</i> | - | - | NT | - | - |
| 309 | モチノキ科 | ミヤマウメモドキ | <i>Ilex nipponica</i> | - | - | - | VU | - |
| 310 | キキョウ科 | ソバナ | <i>Adenophora remotiflora</i> | - | - | - | NT | - |
| 311 | | バアソブ | <i>Codonopsis ussuriensis</i> | - | - | VU | EX | - |
| 312 | | キキョウ | <i>Platycodon grandiflorus</i> | - | - | NT | VU | - |
| 313 | ミツガシワ科 | ミツガシワ | <i>Menyanthes trifoliata</i> | - | - | - | EX | - |
| 314 | | ガガブタ | <i>Nymphoides indica</i> | - | - | NT | NT | - |
| 315 | | アサザ | <i>Nymphoides peltata</i> | - | - | NT | EN | - |
| 316 | キク科 | イワヨモギ | <i>Artemisia gmelinii</i> | - | - | VU | - | - |
| 317 | | ヒメヨモギ | <i>Artemisia lancea</i> | - | - | - | CR | - |
| 318 | | ヒメシオン | <i>Aster fastigiatus</i> | - | - | - | EN | - |
| 319 | | ヤマジノギク | <i>Aster hispidus</i> var. <i>hispidus</i> | - | - | - | CR | - |
| 320 | | オオガंकビソウ | <i>Carpesium macrocephalum</i> | - | - | - | EN | - |
| 321 | | ムラサキトキンソウ | <i>Centipeda</i> sp. | - | - | - | NT | - |
| 322 | | モリアザミ | <i>Cirsium dipsacolepis</i> | - | - | - | EX | - |
| 323 | | ヒダアザミ | <i>Cirsium tashiroi</i> var. <i>hidaense</i> | - | - | VU | - | - |
| 324 | | ワタムキアザミ | <i>Cirsium tashiroi</i> var. <i>tashiroi</i> | - | - | EN | - | - |
| 325 | | サワアザミ | <i>Cirsium yezoense</i> | - | - | - | CR | - |
| 326 | | ミズギク | <i>Inula ciliaris</i> var. <i>ciliaris</i> | - | - | - | NT | - |
| 327 | | カセンソウ | <i>Inula salicina</i> var. <i>asiatica</i> | - | - | - | EN | - |
| 328 | | ミコシギク | <i>Leucanthemella linearis</i> | - | - | EN | CR | - |
| 329 | | ヤマタバコ | <i>Ligularia angusta</i> | - | - | EN | EX | - |
| 330 | | オオモミジガサ | <i>Miricacalia makinoana</i> | - | - | - | VU | - |
| 331 | | ヤマタイミンガサ | <i>Parasenecio yatabei</i> | - | - | - | VU | - |
| 332 | | ホクチアザミ | <i>Saussurea gracilis</i> | - | - | - | EN | - |
| 333 | | ミヤコアザミ | <i>Saussurea maximowiczii</i> | - | - | - | EN | - |
| 334 | | ミカフトウヒレン | <i>Saussurea nipponica</i> Miq. var. | - | - | - | CR | - |
| 335 | | ウラギク | <i>Tripolium pannonicum</i> | - | - | NT | VU | - |
| 336 | | オナモミ | <i>Xanthium strumarium</i> ssp. <i>sibiricum</i> | - | - | VU | CR | - |
| 337 | スイカズラ科 | マツムシソウ | <i>Scabiosa japonica</i> | - | - | - | NT | - |
| | 103 科 | 337 種 | | 0 種 | 1 種 | 157 種 | 293 種 | 2 種 |

注1) 表中の I ～ V は表 3.1.49 の番号と対応する。

注2) 種名及び配列については原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（令和6年10月 国土交通省）に準拠した。

また、重要な植物として、対象事業実施想定区域及びその周囲の天然記念物及び巨樹・巨木林の分布状況は表 3.1.52 及び表 3.1.53 に、その位置は図 3.1.21 に示すとおりである。

重要な植物としては、東郷町の天然記念物であり、巨樹でもあるアベマキがあげられる。対象事業実施想定区域内には天然記念物に指定されている植物や巨樹・巨木林は分布していない。

表 3.1.52 重要な植物の分布状況（天然記念物）

| 番号 | 名称 | 所在地 | 備考 |
|----|------|-----------------|----------|
| 1 | アベマキ | 東郷町春木字北所屋敷 1042 | 天然記念物（町） |

注）表中の番号は、図 3.1.21 の番号に対応する。

出典：「町内の文化財」（東郷町ホームページ）

表 3.1.53 重要な植物の分布状況（巨樹・巨木林）

| 番号 | 樹種 | 樹高(m) | 幹周(m) | | 樹齢(推定) | 所在地 |
|----|------|-------------------|--------------------|--------------|--------|--------------------|
| | | | 単木の場合の 幹周 | 株立樹木の 総幹周 | | |
| 1 | アベマキ | 東側樹:16 西側樹:8.7 | 東側樹:3.3 西側樹:2.9 | - | - | 東郷町春木字北所屋敷 1042 |

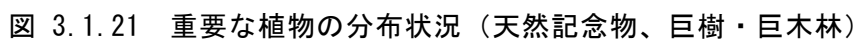
注）表中の番号は、図 3.1.21 の番号に対応する。

出典：「巨樹・巨木林調査（第6回）愛知県」（生物多様性センターホームページ）

「町内の文化財」（東郷町ホームページ）

(3) 重要な植物群落

対象事業実施想定区域及びその周囲には、重要な植物群落は分布していない。



3.1.8.3 生態系

植生自然度区分基準は表 3.1.54 に、植生自然度図は図 3.1.22 に示すとおりである。

対象事業実施想定区域及びその周囲は、植生自然度 1～2 の市街地や耕作地、植生自然度 7 の二次林が多く、対象事業実施想定区域の西側には開放水域も分布している。

対象事業実施想定区域及びその周囲の環境は、耕作地・水田、ため池、樹林地、市街地・工場地帯に大別でき、下記に示すような生態系が成立していると考えられる。

(1) 耕作地・水田

対象事業実施想定区域周辺の耕作地や水田は、ネズミ類やノウサギ、タヌキ、キツネ等の乾性～湿潤な草地に生息する小型～中型哺乳類の生息環境となっていると考えられる。

また、耕作地のうち水田については秋季から冬季は草地や土壌を利用する小型哺乳類や鳥類の採餌環境となっていると考えられるが、水田に水が入るとともに湿潤な環境に変わり、水生昆虫類や両生類の生息環境となり、季節の環境変化に応じた生態系が形成されている。

これらのことから、生態系上位種は中型哺乳類が該当し、耕作地や住宅地に順応可能で草地を営巣環境とするセッカ等の鳥類やシマヘビ等の爬虫類、ニホンアマガエル等の両生類といった典型性に該当する種が生息している可能性がある。

(2) ため池

対象事業実施想定区域西側のため池は、木曽川より水を取り入れている広大な解放水面を有する調整池である。

これらのことから、生態系上位種はカモ科やサギ科等の鳥類が該当し、ニホンイシガメ等の爬虫類、フナ類等の魚類、トンボ目等の昆虫類の典型性に該当する種が生息している可能性がある。

(3) 樹林地

対象事業実施想定区域周辺には、ケネザサーコナラ群集、アカメガシワーカラスザンショウ群落、モチツツジアカマツ群集が分布している。

このような植生には、小型～中型哺乳類や鳥類、爬虫類、多くの昆虫類の生息環境となっていると考えられる。また、林内の湿潤な環境は両生類の生息環境となっていると考えられる。

これらのことから、生態系上位種はタヌキ、キツネ等の中型哺乳類やタカ目等の鳥類が該当し、ジムグリ等の爬虫類やニホンアカガエル等の両生類、トンボ目やバッタ目、カメムシ目等の昆虫類の典型性に該当する種が生息している可能性がある。

(4) 市街地・工場地帯

対象事業実施想定区域周辺の工場地帯や市街地には、基本的には小型哺乳類や鳥類等の限られた種が生息する貧弱な生態系である。

これらのことから、生態系上位種はハシブトガラス等の鳥類が該当し、アブラコウモリ等の典型性に該当する種が生息している可能性がある。

表 3.1.54 植生自然度区分基準

| 植生 自然度 | 区分 | 区分基準 |
|-----------|--------------------|---|
| 10 | 自然草原 | 高山ハイデ、風衝草原、自然草原等、自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区 |
| 9 | 自然林 | エゾマツ・トドマツ群集、ブナ群落等、自然植生のうち低木林、高木林の植物社会を形成する地区 |
| 8 | 二次林 (自然林に近いもの) | ブナ・ミズナラ群落、シイ・カシ二次林等、代償植生であっても特に自然植生に近い地区 |
| 7 | 二次林 | クリーミズナラ群集、コナラ群落等、繰り返し伐採されている一般に二次林と呼ばれている代償植生地区 |
| 6 | 植林地 | 常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹等の植林地、アカメガシワ等の低木林 |
| 5 | 二次草原 (背の高い草原) | ササ群落、ススキ群落等の背丈の高い草原、伝統的な管理を受けて持続している構成種の多い草原 |
| 4 | 二次草原 (背の低い草原) | シバ群落等の背丈の低い草原、伐採直後の草原、路傍・空地雑草群落、放棄畑雑草群落 |
| 3 | 外来種植林 農耕地(樹園地) | 竹林、外来種の植林・二次林・低木林、果樹園、茶畑、残存・植栽樹群をもった公園、墓地等 |
| 2 | 外来種草原 農耕地(水田・畑) | 外来種の草原、畑、水田等の耕作地、緑の多い住宅地 |
| 1 | 市街地等 | 市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区 |

出典：「植生自然度区分基準」(生物多様性センターホームページ)

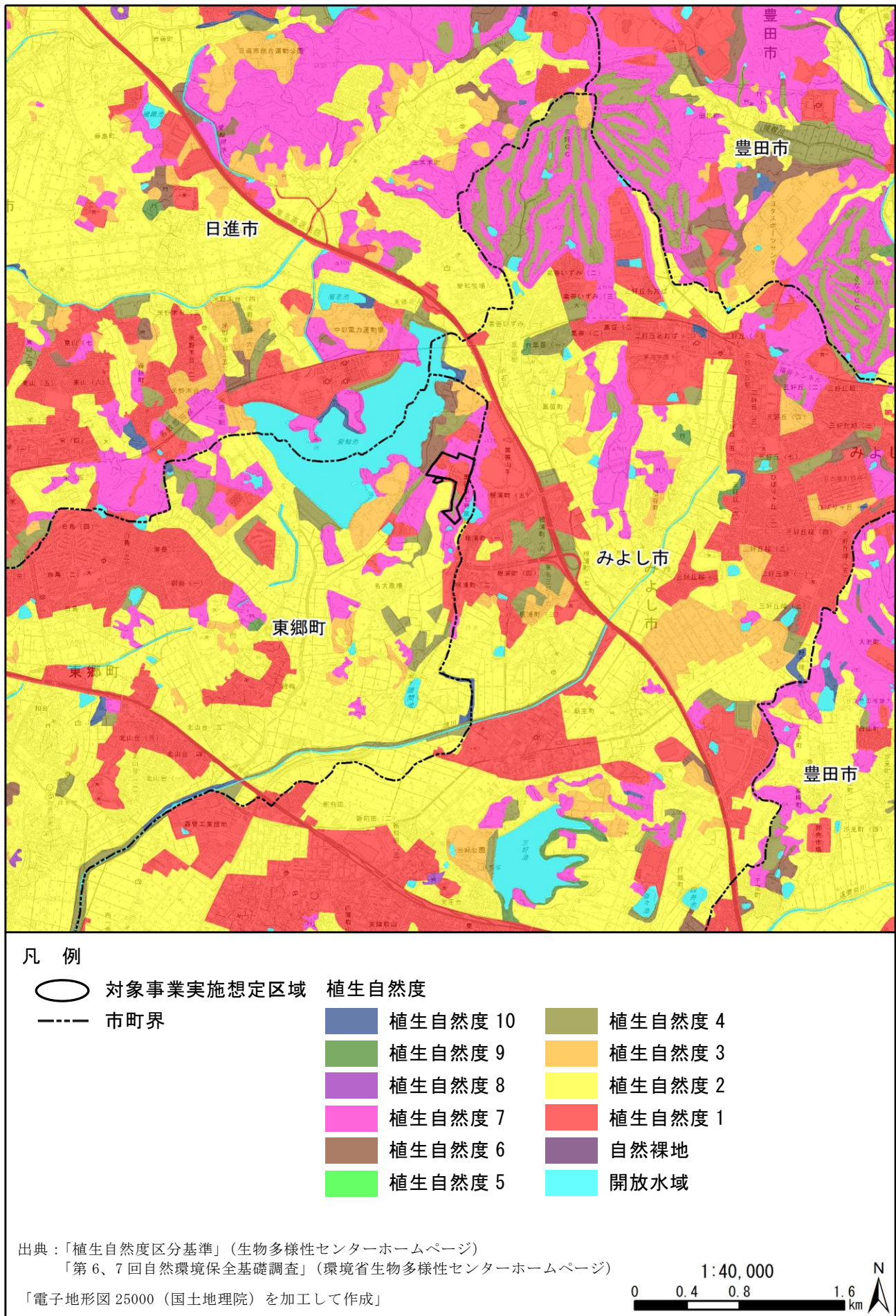


図 3.1.22 植生自然度図

3.1.9 景観、人と自然との触れ合いの活動の状況及び地域の歴史的文化的特性を生かした環境の状況

3.1.9.1 景観

(1) 景観資源

対象事業実施想定区域及びその周囲の景観資源の状況は表 3.1.55 に、その位置は図 3.1.23 に示すとおりである。

愛知県では、「美しい愛知づくり条例」（平成 18 年愛知県条例第 6 号）に基づき、地域の良好な景観を「美しい愛知づくり景観資源 600 選」に指定しており、対象事業実施想定区域及びその周囲では、対象事業実施想定区域西側の愛知池の風景や、南西側の愛知池から見た田園風景が指定されている。

表 3.1.55 景観資源の状況

| 番号 | 名 称 | 所在地 | 備考 |
|----|----------------------------|---------|---------------------|
| 1 | 愛知池の風景 | 東郷町諸輪ほか | 愛知池の堤体から見た愛知池の様子 |
| 2 | 愛知池から見た田園風景 | 東郷町諸輪 | 愛知池の堤体から見た諸輪地区の田園風景 |
| 3 | 境川の源流：長田池 | みよし市黒笹町 | — |
| 4 | 三好池 | みよし市三好町 | — |
| 5 | 三好稲荷と満福寺境内 | みよし市三好町 | — |
| 6 | 開発の波に打ち克った 蒔生辰己山の「アベマキ」 | みよし市蒔生町 | — |

注）表中の番号は、図 3.1.23 の番号と対応する。

出典：「美しい愛知づくり景観資源 600 選」（愛知県ホームページ）

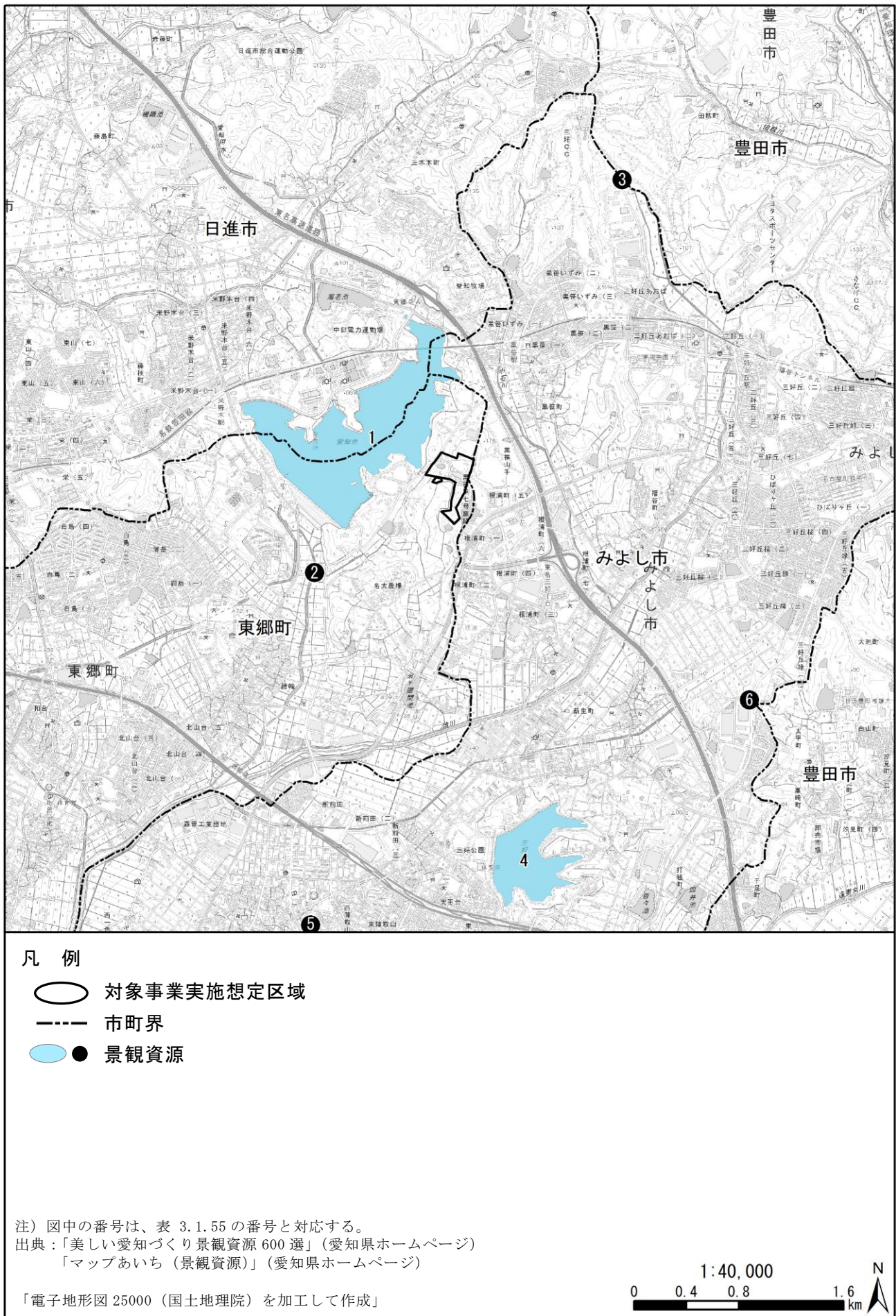


図 3.1.23 景観資源の分布状況

(2) 主要な眺望点等

対象事業実施想定区域及びその周囲の主要な眺望点の概要は表 3.1.56 に、その位置は図 3.1.24 に示すとおりである。

対象事業実施想定区域及びその周囲の主要な眺望点としては、西側の愛知池堤体や、東側のほのぼのテラスがあげられる。

表 3.1.56 主要な眺望点の概要

| 番号 | 主要な眺望点 | 概要 |
|----|----------|---|
| 1 | 愛知池 | 東郷町、日進市、みよし市にまたがり、周辺は緑豊かである。池には周回の遊歩道も整備されているため、多く利用されており、地域の憩いの場となっている。愛知池周辺は昔ながらの風景が残り、自然豊かで、四季折々の表情を楽しむことができる。 |
| 2 | 愛知牧場 | 愛知池近くに広がる大牧草地。どうぶつ広場や乗馬など動物との触れ合い、バーベキュー等を楽しむことができる。 菜の花、ひなげし、ひまわり、コスモスなど季節ごとに違った風景を楽しむことができる。 |
| 3 | 浮き雲の栈橋 | 名鉄豊田線の三好ヶ丘駅東側にある三好丘緑地の展望台。みよしの街並みの他、恵那山を始め美しい山々を望むことができる。 |
| 4 | ほのぼのテラス※ | 黒笹山手緑地4号内の小高いテラス。黒笹山手の住宅街など、周辺の街並みを望むことができる。 |
| 5 | 三好池 | 外周がトリムコースで、春には3000本程の桜が、初夏には紫陽花が美しく咲き誇る。夏には、三好池まつりで屋形船と華やかな花火が湖面を彩り多くの市民に親しまれている。 |

注1) 表中の番号は、図 3.1.24 の番号と対応する。

注2) ※：眺望点の概要は現地踏査により確認。

出典：「美しい愛知づくり景観資源600選」（愛知県ホームページ）

「愛知県の公式観光ガイド Aichi Now」（愛知県ホームページ）

「日進市観光マップ」（日進市ホームページ）



図 3.1.24 主要な眺望点の分布状況

3.1.9.2 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

対象事業実施想定区域及びその周囲の人と自然との触れ合いの活動の場の概要は表 3.1.57 に、その位置は図 3.1.25 に示すとおりである。

対象事業実施想定区域及びその周囲の人と自然との触れ合いの活動の場としては、対象事業実施想定区域西側の愛知池や、北側のあいち牧場などがあげられる。

表 3.1.57(1) 人と自然との触れ合いの活動の場の概要

| 番号 | 名称 | 概要 |
|----|----------------------|--|
| 1 | 愛知池 | 1 周約 7.4km の周回路が整備されている。愛知池百年森公園や、愛知池運動公園（野球場、運動場、テニスコート、ふれあい広場キャンプ場）等も隣接している。 |
| 2 | 上城さくら公園 | 上城保育園の跡地に造られた公園。春には桜が満開になることから写真映えする公園となっている。また、町内初となる噴水施設が設備しており、夏場は子供たちが水遊びできる。 |
| 3 | 春木川・境川 ウォーキングロード | 春木川合流地点から豊明市の境までつづくウォーキングロード。コース上に壁画、東郷町交通児童遊園、マレットゴルフ場、郡界橋、対岸にはみよし市のマレットゴルフ場がある。 |
| 4 | 愛知牧場 | 愛知池近くに広がる大牧草地。どうぶつ広場や乗馬など動物との触れ合い、バーベキュー等を楽しむことができる。 菜の花、ひなげし、ひまわり、コスモスなど季節ごとに違った風景を楽しむことができる。 |
| 5 | 米野木中央公園 | 軽運動のほか、遊具施設として複合遊具、ジャングルジム、砂場などを楽しむことができる。 |
| 6 | 相野山小学校区 ウォーキングコース | 短距離コースは、日進市総合運動公園入口で折り返し。総合運動公園付近には市の花あじさいが咲いている歩道がある。公園内には桜などの樹木があり、四季を通じて自然を身近に感じて歩くことができる。 長距離コースは、右手に岩崎川・北新田川を眺めながら田園風景の中を歩いていく。途中、長久手のグリーンロードを歩き、古戦場公園前（長久手市）を中間点として帰る。この公園も桜など樹木があり、四季を通じて楽しむことができ、ちょっとした休憩施設もある。 |
| 7 | 北小学校区 ウォーキングコース | 北部福祉会館を起点とし標高 134m の御嶽神社奥之院へ至る高低差のあるコース。御嶽神社奥之院から北を眺めると眼下に海上の森、愛・地球博記念公園（モリコロパーク）の観覧車、遠くには木曽御嶽山、南アルプスを望む雄大な景色を楽しむことができる。奥之院を下って北小学校から岩崎の御嶽山を望む風景は日進市の原風景とも言えるのどかな田園風景が広がり御嶽山の全貌がきれいに見える。そこから春には桜が咲く岩崎川沿いを歩いて北部福祉会館へ帰るコース。 |
| 8 | 南小学校区 ウォーキングコース | 市民会館から出発し、折戸川、天白川を歩き市民会館へ帰るコース。折戸川沿いは、春は桜、夏は蛍、秋は稲穂など四季折々の変化が楽しめる。天白川はバードウォッチングを楽しむこともできる緑豊かなコース。折戸川では 6 月ごろには蛍を見ることができる。 |
| 9 | 梨の木小学校区 ウォーキングコース | 日進駅から出発。途中、右手には特徴のある建物として「梨の木小学校」がある。右手に愛知池を、左手に研究施設に咲くつつじの並木を歩いていく。帰りは愛知池沿いの遊歩道を、自然を身近に感じながら歩くことができる。つつじは 5 月初旬が見頃。 |

注) 表中の番号は、図 3.1.25 の番号と対応する。

出典：「美しい愛知づくり景観資源 600 選」（愛知県ホームページ）

「上城さくら公園」（東郷町ホームページ）

「春木川・境川ウォーキングロード」（東郷町ホームページ）

「日進市観光マップ」（日進市）

「米野木中央公園」（日進市ホームページ）

「ヘルピーウォーキングマップ」（日進市ホームページ）

「みよし市景観百選」（みよし市）

「みよし市健康ウォーキングマップ」（みよし市）

「ウォーキングコース お手軽コース（5 キロメートル未満）」（豊田市ホームページ）

表 3.1.57(2) 人と自然との触れ合いの活動の場の概要

| 番号 | 名称 | 概要 |
|----|--------------------|--|
| 10 | 東小学校区 ウォーキングコース | 長距離コースは三本木川沿いを歩き、後半は愛知牧場の中を歩くコース。愛知牧場の四季折々の花などが楽しめる。 中距離コースは東部福祉会館を出発し、機織池の周りを歩くコース。蛍を放流できるほどの清流である三本木川沿いは、桜並木もありのどかな風景を眺めながらウォーキングができる。 愛知牧場はお花畑がきれい。5月初旬になるとつつじが見頃になる。 |
| 11 | 三好公園 | 外周がトリムコースで、春には3000本程の桜が、初夏には紫陽花が美しく咲き誇る。夏には、三好池まつりで屋形船と華やかな花火が湖面を彩り多くの市民に親しまれている。 |
| 12 | 境川緑地 | 東郷町とみよし市の境を流れる境川の堤外地が緑地として整備され、ウォーキングをする人やマレットゴルフ、サイクリング、こども連れで賑わう憩いの場。 |
| 13 | 三好池・梅の里コース | 三好池・荻生周辺のウォーキングコース。芝生広場から梅の里、三好池周回路を巡る。芝生広場からの景色、三好池周辺の四季の景観、春には梅や桜を楽しむことができる。 |
| 14 | お寺巡りコース | 三好上・三好下・西一色地区のウォーキングコース。数々のお寺や神社などを訪ねて歴史にふれることができる。 |
| 15 | 浮き雲栈橋コース | 三好丘地区のウォーキングコース。三好丘緑地には自然が残されており、浮き雲の栈橋という展望台からの景色も楽しむことができる。 |
| 16 | 史跡巡りコース | 福谷地区のウォーキングコース。城跡や窯跡などの歴史を訪ねて歩くことができる。 |
| 17 | 三好公園トリムコース | 三好池の周りを歩くウォーキングコース。 |
| 18 | 境川緑地コース | 境川緑地公園から緑地一帯を巡るウォーキングコース。 |
| 19 | みどりのこみちコース | 境川周辺のウォーキングコース。みどりのこみちは自然豊かで、四季に応じて楽しむことができる。 |
| 20 | 前田緑道コース | 三好公園総合体育館からみよし八幡社までを歩くウォーキングコース。 |
| 21 | 歴史と桜道をめぐるコース | 3つの城跡の横を通り、田舩川沿いの田園風景を眺めながら昔話「鶏石」の伝説の場所へ向かう。 距離：4.6キロメートル 起終点：保見交流館 |
| 22 | 社寺と昔話の里めぐりコース | 杉並木が見事な永澤寺を出発し、蛍が出る沢沿いを歩く。 距離：3.9キロメートル 起終点：永澤寺（篠原町） |

注）表中の番号は、図 3.1.25 の番号と対応する。

出典：「美しい愛知づくり景観資源 600 選」（愛知県ホームページ）

「上城さくら公園」（東郷町ホームページ）

「春木川・境川ウォーキングロード」（東郷町ホームページ）

「日進市観光マップ」（日進市）

「米野木中央公園」（日進市ホームページ）

「ヘルピーウォーキングマップ」（日進市ホームページ）

「みよし市景観百選」（みよし市）

「みよし市健康ウォーキングマップ」（みよし市）

「ウォーキングコース お手軽コース（5キロメートル未満）」（豊田市ホームページ）

3.1 自然的状況

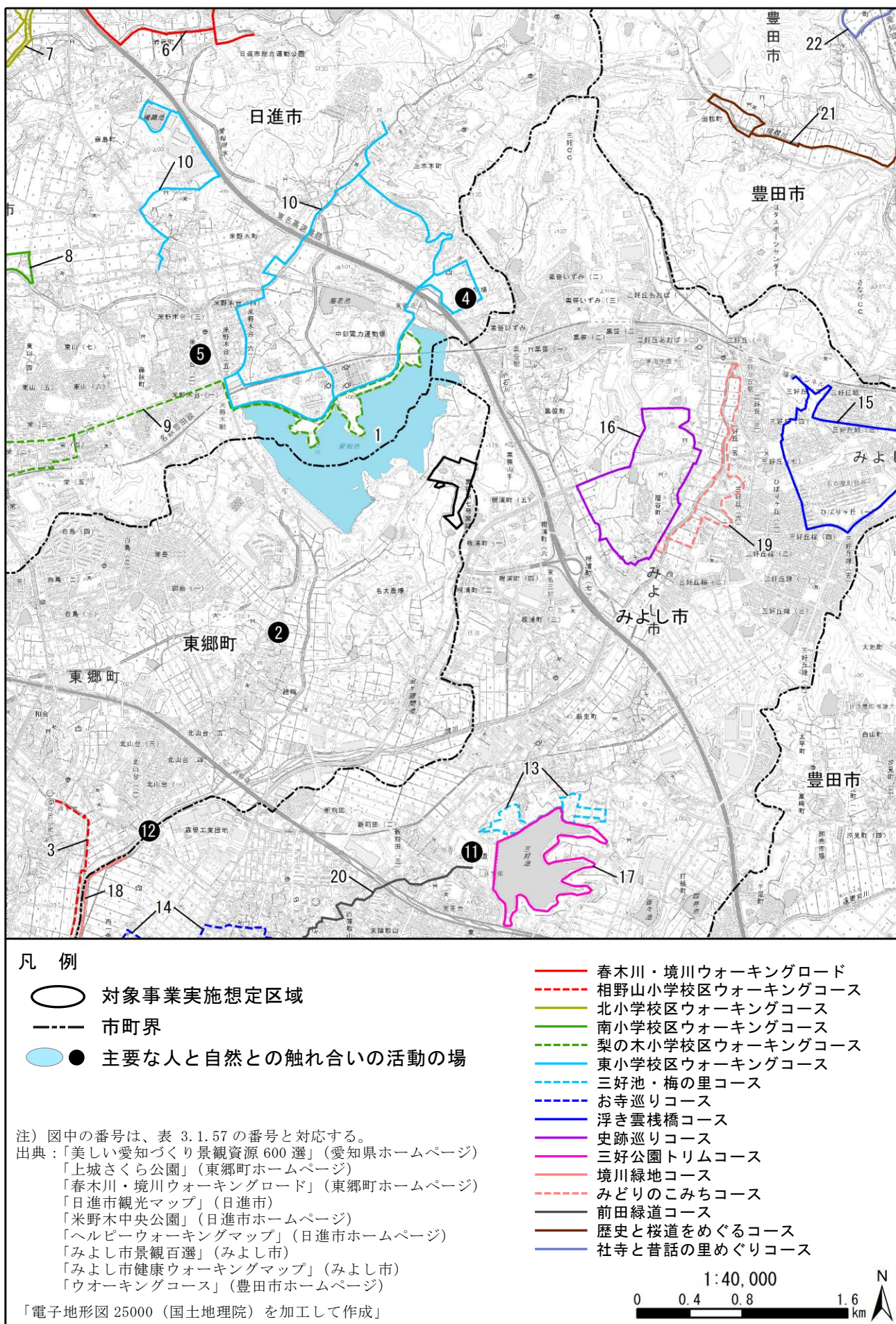


図 3.1.25 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布状況

3.1.9.3 地域の歴史的文化的特性を生かした環境**(1) 指定文化財等**

対象事業実施想定区域及びその周囲における指定文化財等の状況は表 3.1.58 に、その位置は図 3.1.26 に示すとおりである。

対象事業実施想定区域内には、県指定の史跡である黒笹 7 号窯が存在している。

また、対象事業実施想定区域近傍には、みよし市指定の史跡である黒笹 90 号古窯跡がある。

なお、文化財の状況の把握は、主に野外に存在している有形文化財（建造物）、記念物（史跡、名勝、天然記念物）、登録有形文化財を対象とした。

表 3.1.58 指定文化財等の状況

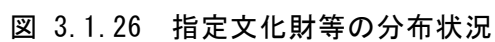
| 市町 | 種別 | 指定 | No. | 名称 | 所在地 |
|------|-------|----|-----|------------|------------------|
| 東郷町 | 天然記念物 | 町 | 1 | アベマキ | 東郷町春木字北所屋敷 1042 |
| | 史跡 | 県 | 2 | 黒笹 7 号窯 | 東郷町諸輪字百々51-271 |
| みよし市 | 建造物 | 市 | 3 | 石川家住宅 | みよし市三好町上 82 |
| | 史跡 | | 4 | 黒笹 90 号古窯跡 | みよし市黒笹町清水 370 |
| | | | 5 | 黒笹 27 号古窯跡 | みよし市福谷町大坂 49－434 |

注) 表中の番号は、図 3.1.26 の番号と対応する。

出典：「町内の文化財」（東郷町ホームページ）

「みよし市指定文化財」（みよし市ホームページ）

3.1 自然的狀況



(2) 埋蔵文化財包蔵地

対象事業実施想定区域及びその近傍における周知の埋蔵文化財包蔵地の状況は表 3.1.59 に、その位置は図 3.1.27 に示すとおりである。

対象事業実施想定区域内には、K-G-30 号窯及び黒笹 7 号窯があり、周辺にも窯業遺跡が多く確認されている。

表 3.1.59(1) 周知の埋蔵文化財包蔵地の状況

| No. | 名称 | 種別 | 時代 | 所在地 |
|-----|------------|------|-------|----------------|
| 1 | K-112 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良・平安 | 東郷町諸輪字吉田 16 |
| 2 | K-G-19 号窯 | — | — | 東郷町諸輪字吉田 16 |
| 3 | K-111 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良・平安 | 東郷町諸輪字吉田 63 |
| 4 | K-G-22 号窯 | — | — | 東郷町諸輪字篠木 |
| 5 | K-G-76 号窯 | — | — | 東郷町諸輪字篠木 78 |
| 6 | K-6 号窯 | — | — | 東郷町諸輪字篠木 78、88 |
| 7 | O-35 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良・平安 | 東郷町諸輪字東百々 |
| 8 | K-G-31 号窯 | — | — | 東郷町諸輪字畑尻 |
| 9 | K-G-32 号窯 | — | — | 東郷町諸輪字畑尻 |
| 10 | K-G-33 号窯 | — | — | 東郷町諸輪字畑尻 |
| 11 | K-92 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良・平安 | 東郷町諸輪字畑尻 |
| 12 | K-10 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良・平安 | 東郷町諸輪字畑尻 43 |
| 13 | O-G-11 号窯 | — | — | 東郷町諸輪字八王子前 |
| 14 | O-47 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良・平安 | 東郷町諸輪字八王子前 |
| 15 | K-G-35 号窯 | — | — | 東郷町諸輪字百々 |
| 16 | K-G-34 号窯 | — | — | 東郷町諸輪字百々 |
| 17 | K-93 号窯 | — | 奈良・平安 | 東郷町諸輪字百々 |
| 18 | 百々古窯 | 窯業遺跡 | 奈良・平安 | 東郷町諸輪字百々 |
| 19 | 黒笹 121 号窯跡 | 窯業遺跡 | 奈良 | 東郷町諸輪字百々 |
| 20 | K-95 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良・平安 | 東郷町諸輪字百々 |
| 21 | K-G-36 号窯 | — | — | 東郷町諸輪字百々 |
| 22 | K-G-37 号窯 | — | — | 東郷町諸輪字百々 |
| 23 | K-G-38 号窯 | — | — | 東郷町諸輪字百々 |
| 24 | K-G-29 号窯 | — | — | 東郷町諸輪字百々 |
| 25 | K-G-27 号窯 | — | — | 東郷町諸輪字百々 |
| 26 | K-G-30 号窯 | — | — | 東郷町諸輪字百々 |
| 27 | K-94 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良・平安 | 東郷町諸輪字百々 51 |
| 28 | K-85 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良・平安 | 東郷町諸輪字百々 51 |
| 29 | K-87 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良・平安 | 東郷町諸輪字百々 51 |
| 30 | K-86 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良・平安 | 東郷町諸輪字百々 51 |
| 31 | K-88 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良・平安 | 東郷町諸輪字百々 51 |
| 32 | K-84 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良・平安 | 東郷町諸輪字百々 51 |

注) 表中の番号は、図 3.1.27 の番号と対応する。

出典：「マップあいち（愛知県文化財マップ 埋蔵文化財 記念物）」（愛知県ホームページ）

表 3.1.59(2) 周知の埋蔵文化財包蔵地の状況

| No. | 名称 | 種別 | 時代 | 所在地 |
|-----|-----------|------|-------------|---------------------|
| 33 | K-14 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良・平安 | 東郷町諸輪字百々51 |
| 34 | K-15 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良・平安 | 東郷町諸輪字百々51 |
| 35 | 黒笹 7 号窯 | 窯業遺跡 | 平安 | 東郷町諸輪字百々51-271 |
| 36 | K-G-5 号窯 | 窯業遺跡 | 不明 | 東郷町諸輪字百々51-278 |
| 37 | K-G-6 号窯 | — | — | 東郷町諸輪字百々51-278 |
| 38 | K-G-28 号窯 | — | — | 東郷町諸輪字米ヶ廻間 |
| 39 | K-9 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良・平安 | 東郷町諸輪字米ヶ廻間 35 |
| 40 | K-G-39 号窯 | — | — | 東郷町諸輪字米ヶ廻間 65-1 |
| 41 | K-G-40 号窯 | — | — | 東郷町諸輪字米ヶ廻間 65-1 |
| 42 | O-G-23 号窯 | — | — | 東郷町諸輪字葎ヶ廻間 |
| 43 | O-G-24 号窯 | — | — | 東郷町諸輪字葎ヶ廻間 |
| 44 | O-43 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良・平安 | 東郷町諸輪字葎ヶ廻間 23 |
| 45 | O-G-38 号窯 | 窯業遺跡 | 中世 | 日進市米野木町南山 |
| 46 | O-G-7 号窯 | 窯業遺跡 | 中世 | 日進市米野木町南山 |
| 47 | O-G-8 号窯 | 窯業遺跡 | 中世 | 日進市米野木町南山 |
| 48 | O-51 号窯 | 窯業遺跡 | 平安 | 日進市米野木町南山 |
| 49 | O-37 号窯 | 窯業遺跡 | 平安 | 日進市米野木町南山 |
| 50 | O-G-5 号窯 | 窯業遺跡 | 中世 | 日進市米野木町南山 |
| 51 | O-52 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良・平安 | 日進市米野木町南山 |
| 52 | O-39 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良・平安 | 日進市米野木町南山 |
| 53 | O-38 号窯 | 窯業遺跡 | 平安 | 日進市米野木町南山 |
| 54 | O-53 号窯跡 | 窯業遺跡 | 平安 | 日進市米野木町南山 764 番 |
| 55 | 寺山遺跡 | 窯業遺跡 | 奈良・平安・中世・近世 | みよし市黒笹町寺山・桐山 |
| 56 | 寺山古窯 | 窯業遺跡 | 奈良・平安 | みよし市大字黒笹字寺山 |
| 57 | K-90 号窯 | 窯業遺跡 | 平安 | みよし市大字黒笹字清水 370 |
| 58 | K-22 号窯 | 窯業遺跡 | 平安 | みよし市大字黒笹字西新田 |
| 59 | K-26 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良・平安 | みよし市大字黒笹字唐沢 1157 |
| 60 | K-115 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良 | みよし市大字黒笹字野田兼 |
| 61 | K-25 号窯 | 窯業遺跡 | 平安 | みよし市大字黒笹字野田兼 |
| 62 | K-1 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良 | みよし市大字黒笹字野田兼 297-1 |
| 63 | K-8 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良 | みよし市大字黒笹字野田兼 297-1 |
| 64 | K-66 号窯 | 窯業遺跡 | 平安 | みよし市大字福谷字下地念古 64-67 |
| 65 | K-G-94 | 窯業遺跡 | 中世 | みよし市大字福谷字根浦 |
| 66 | K-108 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良・平安 | みよし市大字福谷字根浦 128-51 |
| 67 | K-3 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良 | みよし市大字福谷字根浦 2-1 |

注) 表中の番号は、図 3.1.27 の番号と対応する。

出典: 「マップあいち (愛知県文化財マップ 埋蔵文化財 記念物)」(愛知県ホームページ)

表 3.1.59(3) 周知の埋蔵文化財包蔵地の状況

| No. | 名称 | 種別 | 時代 | 所在地 |
|-----|------------|-------|-----------------|--------------------|
| 68 | K-89 号窯 | 窯業遺跡 | 平安 | みよし市大字福谷字根浦 27 |
| 69 | K-12 号窯 | 窯業遺跡 | 平安 | みよし市大字福谷字根浦 27 |
| 70 | K-G-24 号窯 | 窯業遺跡 | 中世 | みよし市大字福谷字根浦 27-388 |
| 71 | K-G-23 号窯 | 窯業遺跡 | 中世 | みよし市大字福谷字根浦 27-388 |
| 72 | K-G-21 号窯 | 窯業遺跡 | 中世 | みよし市大字福谷字根浦 27-84 |
| 73 | K-G-25 号窯 | 窯業遺跡 | 中世 | みよし市大字福谷字根浦 331 |
| 74 | K-G-26 号窯 | 窯業遺跡 | 中世 | みよし市大字福谷字根浦 331 |
| 75 | K-4 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良・平安 | みよし市大字福谷字根浦 6 |
| 76 | K-40 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良 | みよし市大字福谷字根松 27 |
| 77 | K-13 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良 | みよし市大字福谷字根松 27 |
| 78 | 坂上古窯 | 窯業遺跡 | 平安 | みよし市大字福谷字坂上 18-7 |
| 79 | 福谷城 | 城館跡 | 中世 | みよし市大字福谷字市場 |
| 80 | K-19 号窯 | 窯業遺跡 | 平安 | みよし市大字福谷字西ノ洞 21-12 |
| 81 | 西荒井遺跡 | 集落跡 | 奈良・平安・中世・近世・近現代 | みよし市大字福谷字西荒井 |
| 82 | K-2 号窯 | 窯業遺跡 | 奈良・平安 | みよし市大字福谷字大坂 142 |
| 83 | K-G-20 号窯 | 窯業遺跡 | 中世 | みよし市大字福谷字定一貫 |
| 84 | K-5 号窯 | 窯業遺跡 | 平安 | みよし市大字福谷字定一貫 66-6 |
| 85 | K-G-85 号窯 | 窯業遺跡 | 中世 | みよし市大字福谷字南井山 |
| 86 | K-G-84 号窯 | 窯業遺跡 | 中世 | みよし市大字福谷字南井山 |
| 87 | 大坂遺跡 | 遺物散布地 | 中世 | みよし市福谷町大坂 |
| 88 | 黒笹 120 号窯跡 | 窯業遺跡 | 奈良 | みよし市福谷町大坂 |

注) 表中の番号は、図 3.1.27 の番号と対応する。

出典: 「マップあいち (愛知県文化財マップ 埋蔵文化財 記念物)」(愛知県ホームページ)

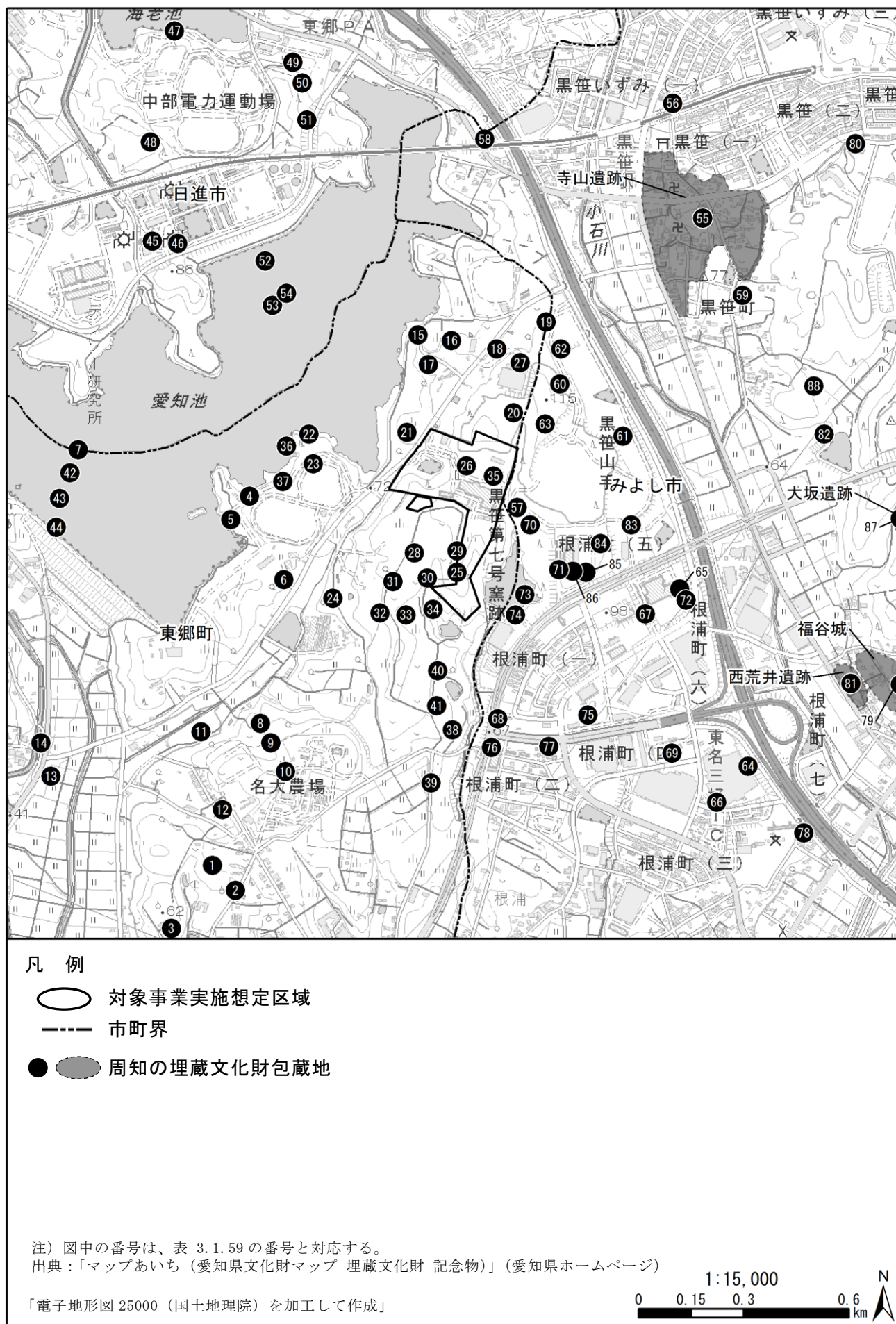


図 3.1.27 周知の埋蔵文化財包蔵地の分布状況

3.2 社会的状況

3.2.1 人口及び産業の状況

3.2.1.1 人口の状況

対象事業実施想定区域及びその周囲3市1町における人口及び世帯数の状況は表3.2.1に、人口及び世帯数の推移グラフは図3.2.1に示すとおりである。

対象事業実施想定区域が位置する東郷町の令和6年の人口は43,903人、世帯数は18,618戸となっている。

また、日進市は人口が93,881人、世帯数が39,848戸、みよし市は人口が61,380人、世帯数が25,865戸、豊田市は人口が415,853人、世帯数が187,545戸となっている。

また、対象事業実施想定区域及びその周囲3市1町における人口及び世帯数の推移は、概ね横ばいである。

表 3.2.1 人口及び世帯数の状況

東郷町：各年3月31日現在
日進市・みよし市・豊田市：各年4月1日現在

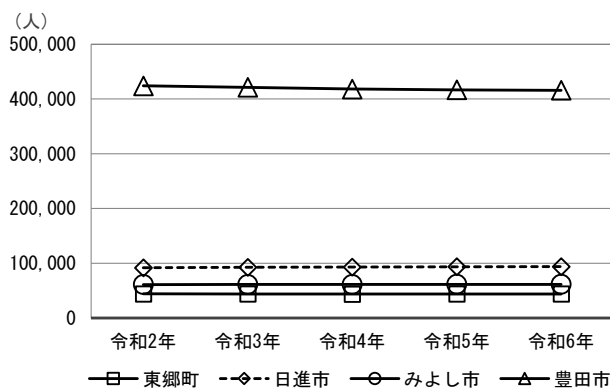
| 市町 | 東郷町 | | 日進市 | | みよし市 | | 豊田市 | |
|------|-----------|------------|-----------|------------|-----------|------------|-----------|------------|
| 年 | 人口 (人) | 世帯数 (戸) | 人口 (人) | 世帯数 (戸) | 人口 (人) | 世帯数 (戸) | 人口 (人) | 世帯数 (戸) |
| 令和2年 | 44,057 | 17,872 | 91,652 | 37,560 | 61,040 | 24,363 | 424,053 | 182,485 |
| 令和3年 | 44,003 | 18,036 | 92,562 | 38,239 | 61,236 | 24,843 | 421,280 | 183,167 |
| 令和4年 | 43,741 | 17,963 | 93,042 | 38,702 | 61,218 | 25,104 | 418,284 | 183,262 |
| 令和5年 | 43,903 | 18,296 | 93,643 | 39,373 | 61,375 | 25,480 | 416,747 | 184,884 |
| 令和6年 | 43,903 | 18,618 | 93,881 | 39,848 | 61,380 | 25,865 | 415,853 | 187,545 |

出典：「住民データ」(東郷町ホームページ)

「にっしんの統計書(令和6年版)」(令和6年8月 日進市)

「みよしものしり専科ーみよしの統計(令和6年度版)」(令和7年3月 みよし市)

「オープンデータ 豊田市の人口 詳細データ」(豊田市ホームページ)



出典：「住民データ」

(東郷町ホームページ)

「にっしんの統計書(令和6年版)」

(令和6年8月 日進市)

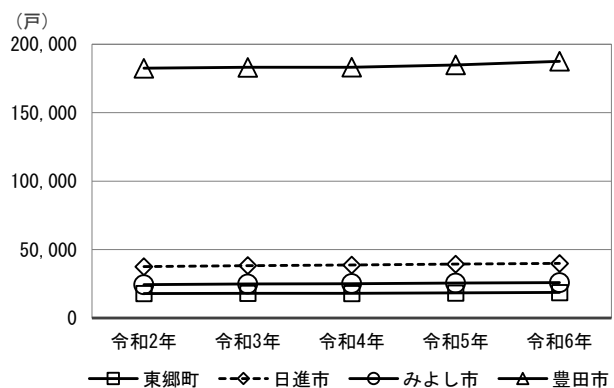
「みよしものしり専科ーみよしの統計(令和6年度版)」

(令和7年3月 みよし市)

「オープンデータ 豊田市の人口 詳細データ」

(豊田市ホームページ)

図 3.2.1(1) 人口の推移の状況



出典：「住民データ」

(東郷町ホームページ)

「にっしんの統計書(令和6年版)」

(令和6年8月 日進市)

「みよしものしり専科ーみよしの統計(令和6年度版)」

(令和7年3月 みよし市)

「オープンデータ 豊田市の人口 詳細データ」

(豊田市ホームページ)

図 3.2.1(2) 世帯数の推移の状況

3.2.1.2 産業の状況

対象事業実施想定区域及びその周囲 3 市 1 町における産業分類別就業人口及び事業所数の状況は、表 3.2.2 に示すとおりである。

対象事業実施想定区域が位置する東郷町は、事業所数が 1,364 事業所、従業者数が 15,421 人となっている。業種別の事業所数でみると、卸売業・小売業が 367 事業所と最も多くなっている。また、業種別の従業者数でみると、製造業が 4,661 人と最も多くなっている。

また、日進市は事業所数が 2,593 事業所、従業者数が 30,868 人、みよし市は事業所数が 1,798 事業所、従業者数が 33,410 人、豊田市は事業所数が 12,721 事業所、従業者数が 247,911 人となっている。

表 3.2.2 産業分類別就業人口及び事業所数の状況

令和3年6月1日現在

| 市町 | | 東郷町 | | 日進市 | | みよし市 | | 豊田市 | |
|------|-------------------|-------|-------------|-------|-------------|-------|-------------|--------|-------------|
| 産業分類 | 区 分 | 事業所数 | 従業者数 (人) | 事業所数 | 従業者数 (人) | 事業所数 | 従業者数 (人) | 事業所数 | 従業者数 (人) |
| | 第一次産業 | | | | | | | | |
| | 農業・林業 | 6 | 67 | 8 | 112 | 9 | 76 | 75 | 971 |
| | 漁業 | － | － | － | － | － | － | 2 | 12 |
| | 第二次産業 | | | | | | | | |
| | 鉱業・採石業・砂利採取業 | － | － | － | － | － | － | 11 | 130 |
| | 建設業 | 152 | 885 | 269 | 2,037 | 169 | 945 | 1,297 | 10,479 |
| | 製造業 | 196 | 4,661 | 197 | 4,281 | 290 | 15,592 | 1,387 | 114,018 |
| | 第三次産業 | | | | | | | | |
| | 電気・ガス・熱供給・水道業 | 1 | 1 | 6 | 116 | － | － | 22 | 508 |
| | 情報通信業 | 9 | 25 | 23 | 378 | 3 | 12 | 108 | 2,372 |
| | 運輸業・郵便業 | 14 | 312 | 37 | 1,336 | 65 | 2,457 | 341 | 12,836 |
| | 卸売業・小売業 | 367 | 3,296 | 614 | 6,719 | 367 | 5,068 | 2,725 | 29,867 |
| | 金融業・保険業 | 12 | 100 | 27 | 252 | 17 | 295 | 172 | 2,432 |
| | 不動産業・物品賃貸業 | 43 | 145 | 204 | 714 | 150 | 427 | 787 | 3,446 |
| | 学術研究・専門・技術サービス業 | 47 | 151 | 108 | 850 | 52 | 1,445 | 497 | 5,980 |
| | 宿泊業・飲食サービス業 | 125 | 1,136 | 259 | 3,037 | 181 | 1,876 | 1,629 | 14,177 |
| | 生活関連・サービス業・娯楽業 | 102 | 968 | 219 | 1,125 | 134 | 849 | 1,173 | 6,918 |
| | 教育・学習支援業 | 63 | 242 | 150 | 3,179 | 72 | 754 | 493 | 6,017 |
| | 医療・福祉 | 117 | 1,909 | 299 | 4,627 | 156 | 1,893 | 919 | 18,733 |
| | 複合サービス業 | 5 | 46 | 14 | 759 | 8 | 151 | 84 | 1,313 |
| | サービス業（他に分類されないもの） | 105 | 1,477 | 159 | 1,346 | 125 | 1,570 | 1,002 | 17,728 |
| 計 | | 1,364 | 15,421 | 2,593 | 30,868 | 1,798 | 33,410 | 12,721 | 247,911 |

出典：「令和6（2024）年度刊愛知県統計年鑑」（愛知県ホームページ）

3.2.2 土地利用の状況

対象事業実施想定区域及びその周囲3市1町における土地利用の状況は表 3.2.3に、土地利用現況図は図 3.2.2(1)に、対象事業実施想定区域周辺の空中写真は図 3.2.2(2)、(3)に示すとおりである。

対象事業実施想定区域が位置する東郷町は、その他の割合が 29.2%と最も多くなっており、次いで住宅地が 19.5%、田が 13.2%となっている。

また、日進市はその他の割合が 25.1%、みよし市はその他の割合が 21.5%、豊田市は森林・原野の割合が 67.9%と最も多くなっている。

対象事業実施想定区域は既存施設が存在しており、対象事業実施想定区域周辺の土地利用状況は主に森林や荒地、建物用地、その他の用地等が混在しており、西側は河川地及び湖沼（愛知池）となっている。

表 3.2.3 土地利用の状況

| 市町 | | 東郷町 | | 日進市 | | みよし市 | | 豊田市 | |
|--------------------|--------------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 項 目 | | 面積 (ha) | 構成比 (%) | 面積 (ha) | 構成比 (%) | 面積 (ha) | 構成比 (%) | 面積 (ha) | 構成比 (%) |
| 行政面積 | | 1,803 | 100.0 | 3,491 | 100.0 | 3,219 | 100.0 | 91,832 | 100.0 |
| 宅地 | 住宅地 | 352 | 19.5 | 742 | 21.3 | 555 | 17.2 | 4,044 | 4.4 |
| | その他 ^{注2)} | 197 | 10.9 | 306 | 8.8 | 523 | 16.2 | 2,871 | 3.1 |
| 農用地 | 田 | 238 | 13.2 | 311 | 8.9 | 393 | 12.2 | 4,770 | 5.2 |
| | 畑 | 98 | 5.4 | 119 | 3.4 | 336 | 10.4 | 1,460 | 1.6 |
| 森林・原野 | | 129 | 7.2 | 610 | 17.5 | 154 | 4.8 | 62,363 | 67.9 |
| 道路 | | 193 | 10.7 | 387 | 11.1 | 406 | 12.6 | 3,902 | 4.2 |
| 水面・河川・水路 | | 68 | 3.8 | 142 | 4.1 | 160 | 5.0 | 2,811 | 3.1 |
| その他 ^{注3)} | | 527 | 29.2 | 875 | 25.1 | 692 | 21.5 | 9,621 | 10.5 |

注1) 市町村名は令和4年4月1日現在で表章してある。

注2) 「宅地」から「住宅地」を除いた工業用地等である。

注3) 行政面積から「宅地」、「農地（農用地）」、「森林、原野等（森林、原野）」、「道路」及び「水面・河川・水路」の各面積を差し引いたものである。

注4) 面積は単位未満を、構成比は小数点第2位以下を四捨五入してあるため、行政面積と内訳の合計が一致しない場合がある。

出典：「令和6（2024）年度刊愛知県統計年鑑」（愛知県ホームページ）

第3章 配慮書対象事業実施想定区域及びその周囲の概況
3.2 社会的状況

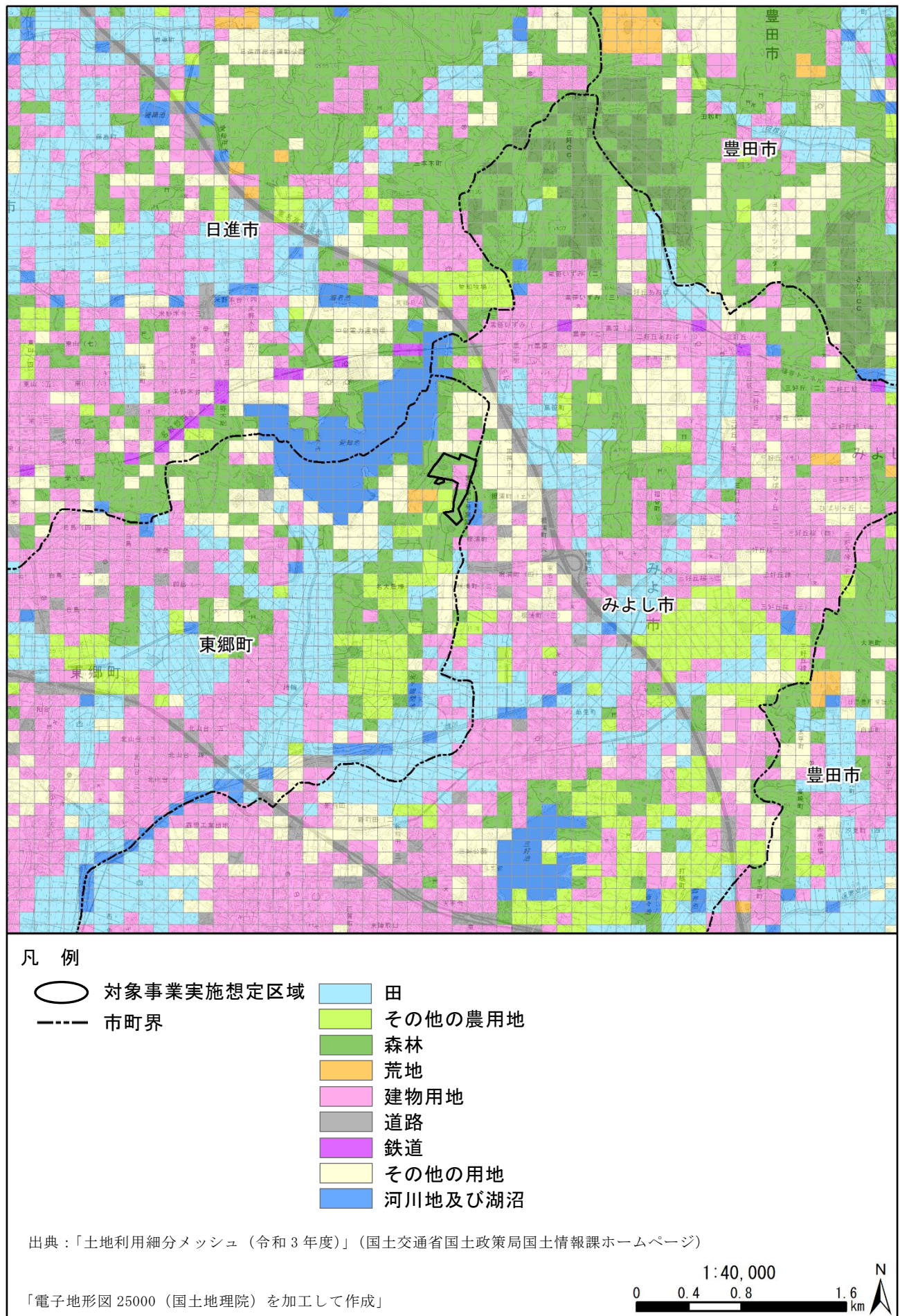


図 3.2.2(1) 土地利用現況図



注) 空中写真の撮影日：令和5年6月17日
出典：「地図・空中写真閲覧サービス」（国土地理院ホームページ）

図 3.2.2(2) 空中写真（対象事業実施想定区域周辺）



注) 空中写真の撮影日：令和5年6月17日

出典：「地図・空中写真閲覧サービス」（国土地理院ホームページ）

図 3.2.2(3) 空中写真（対象事業実施想定区域周辺：拡大図）

3.2.3 都市計画の状況

対象事業実施想定区域及びその周囲 3 市 1 町における都市計画（用途地域）の指定状況は、表 3.2.4 に示すとおりである。

また、対象事業実施想定区域及びその周囲の都市計画図は、図 3.2.3 に示すとおりである。

対象事業実施想定区域は用途地域の定められていない地域である。

表 3.2.4 都市計画（用途地域）の指定状況

令和5年1月1日現在

| 市町 | | | 東郷町 | 日進市 | みよし市 | 豊田市 |
|-------------|--------------|---------|--------|--------|--------|---------|
| 項目 | | | | | | |
| 都市計画区域 (ha) | | | 1, 803 | 3, 491 | 3, 219 | 35, 569 |
| 市街化区域 | 第一種低層住居専用地域 | 面積 (ha) | 241 | 484 | 259 | 1, 134 |
| | | 構成比 (%) | 13. 4 | 13. 9 | 8. 0 | 3. 2 |
| | 第二種低層住居専用地域 | 面積 (ha) | — | 25 | 19 | 32 |
| | | 構成比 (%) | — | 0. 7 | 0. 6 | 0. 1 |
| | 第一種中高層住居専用地域 | 面積 (ha) | 107 | 102 | 122 | 951 |
| | | 構成比 (%) | 5. 9 | 2. 9 | 3. 8 | 2. 7 |
| | 第二種中高層住居専用地域 | 面積 (ha) | 100 | — | 33 | 86 |
| | | 構成比 (%) | 5. 5 | — | 1. 0 | 0. 2 |
| | 第一種住居地域 | 面積 (ha) | 67 | 264 | 132 | 1, 160 |
| | | 構成比 (%) | 3. 7 | 7. 6 | 4. 1 | 3. 3 |
| | 第二種住居地域 | 面積 (ha) | 22 | 39 | 55 | 99 |
| | | 構成比 (%) | 1. 2 | 1. 1 | 1. 7 | 0. 3 |
| | 準住居地域 | 面積 (ha) | 2 | 25 | 17 | 50 |
| | | 構成比 (%) | 0. 1 | 0. 7 | 0. 5 | 0. 1 |
| | 田園住居地域 | 面積 (ha) | — | — | — | — |
| | | 構成比 (%) | — | — | — | — |
| | 近隣商業地域 | 面積 (ha) | 14 | 47 | 21 | 161 |
| | | 構成比 (%) | 0. 8 | 1. 3 | 0. 7 | 0. 5 |
| | 商業地域 | 面積 (ha) | — | — | 13 | 108 |
| | | 構成比 (%) | — | — | 0. 4 | 0. 3 |
| | 準工業地域 | 面積 (ha) | 4 | 106 | 12 | 364 |
| | | 構成比 (%) | 0. 2 | 3. 0 | 0. 4 | 1. 0 |
| | 工業地域 | 面積 (ha) | 5 | 33 | 150 | 246 |
| | | 構成比 (%) | 0. 3 | 0. 9 | 4. 7 | 0. 7 |
| | 工業専用地域 | 面積 (ha) | — | — | 254 | 934 |
| | | 構成比 (%) | — | — | 7. 9 | 2. 6 |
| | 計 | 面積 (ha) | 562 | 1, 124 | 1, 087 | 5, 323 |
| | | 構成比 (%) | 31. 2 | 32. 2 | 33. 8 | 15. 0 |
| 市街化調整区域 | | 面積 (ha) | 1, 241 | 2, 367 | 2, 132 | 30, 246 |
| | | 構成比 (%) | 68. 8 | 67. 8 | 66. 2 | 85. 0 |

注1) 構成比は小数点第2位以下を四捨五入してあるため、計と内訳の合計が一致しない場合がある。

注2) 用途地域面積は、都市計画区域単位で都市計画決定されるため、市町村別の用途地域面積は参考数値である。

出典：「令和6（2024）年度刊愛知県統計年鑑」（愛知県ホームページ）

第3章 配慮書対象事業実施想定区域及びその周囲の概況
3.2 社会的状況

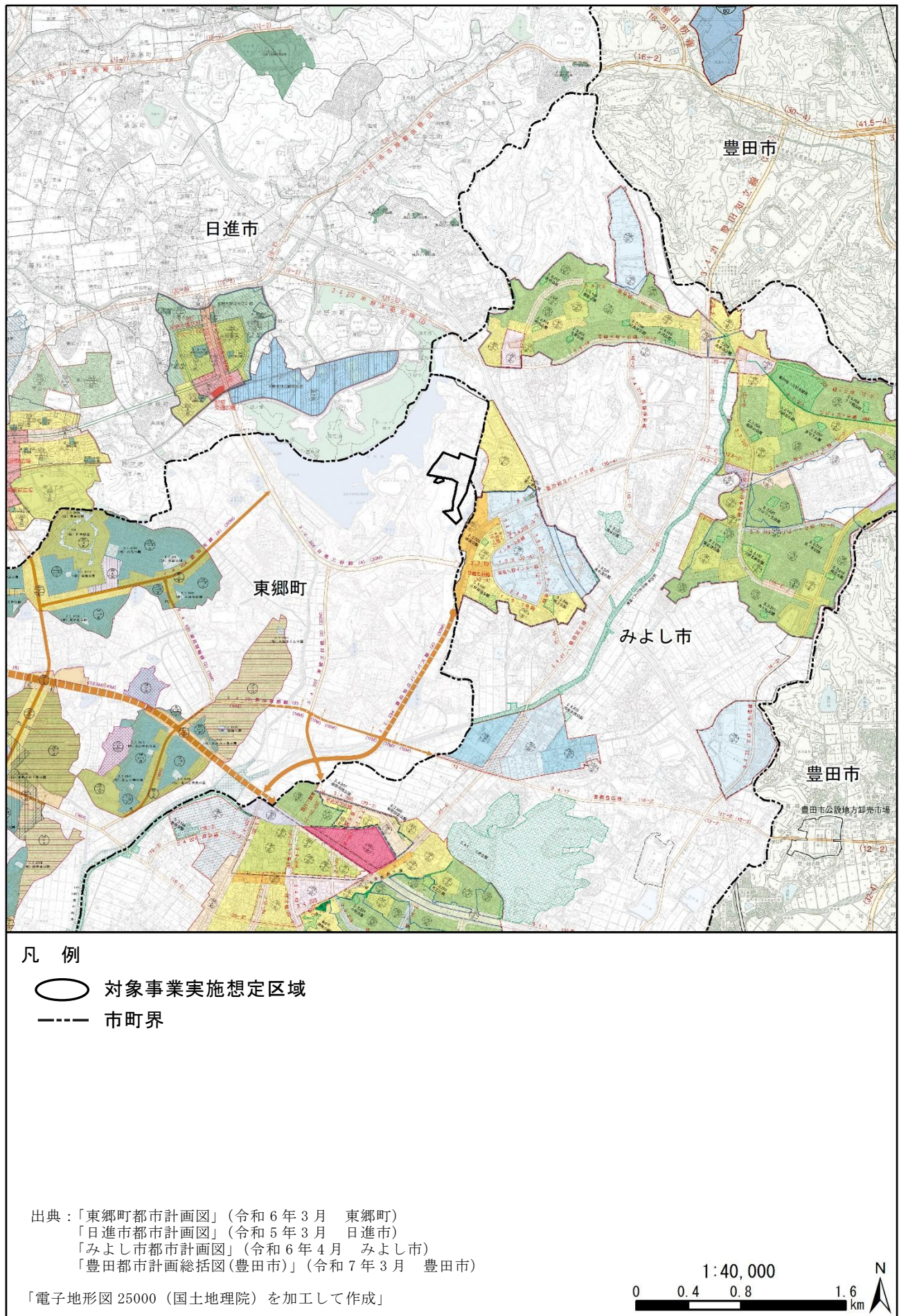


図 3.2.3(1) 都市計画図

| 凡 例 | | 東郷町 | 日進市 | みよし市 | 豊田市 |
|---------------|--------------|-----|-----------|------|-----|
| 市街化区域 | | | | | |
| 用途地域 | 第一種低層住居専用地域 | | | | |
| | 第二種低層住居専用地域 | — | | | |
| | 第一種中高層住居専用地域 | | | | |
| | 第二種中高層住居専用地域 | | — | | |
| | 第一種住居地域 | | | | |
| | 第二種住居地域 | | | | |
| | 準住居地域 | | | | |
| | 近隣商業地域 | | | | |
| | 商業地域 | — | — | | |
| | 準工業地域 | | | | |
| | 工業地域 | | | | |
| | 工業専用地域 | — | — | | |
| 特別工業地区 | | | — | | — |
| 高度利用地区 | | | — | — | — |
| 防火地域 | | — | — | | — |
| 準防火地域 | | | | | — |
| 地区計画区域 | | | | | — |
| 研究開発地区 | | — | | — | — |
| 都市計画道路 | | | 県決定 , 市決定 | | |
| 駅前広場 | | — | | — | — |
| 広場 | | — | — | | — |
| 都市計画公園 | | | — | | — |
| 都市計画緑地 | | | — | | — |
| 公園 | | — | | — | — |
| 土地区画整理事業施行中区域 | | | — | — | — |
| 土地区画整理事業施行済区域 | | | | | — |
| 供給処理施設 | | — | — | — | |

出典：「東郷町都市計画図」（令和6年3月 東郷町）
「日進市都市計画図」（令和5年3月 日進市）
「みよし市都市計画図」（令和6年4月 みよし市）
「豊田都市計画総括図（豊田市）」（令和7年3月 豊田市）

図 3.2.3(2) 都市計画図（凡例）

3.2.4 河川、湖沼及び海域の利用並びに地下水の利用の状況**3.2.4.1 漁業権の状況**

対象事業実施想定区域及びその周囲において、漁業権が設定されている水域はない。

3.2.4.2 上水道の普及状況

対象事業実施想定区域及びその周囲3市1町における上水道の普及状況は、表3.2.5に示すとおりである。

対象事業実施想定区域が位置する東郷町の水道普及率は99.9%、日進市及び豊田市は100.0%、みよし市は100%（未普及なし）となっている。

東郷町、日進市及びみよし市は愛知中部水道企業団により供給が行われており、水源は愛知県水道用水供給事業からの浄水である。

なお、東郷町、日進市、みよし市、豊田市では簡易水道は設けられていない。

表 3.2.5 上水道の普及状況（令和5年度）

| 項目 市町 | ①行政区域内 総人口 (人) | 現在給水人口（人） | | | | 普及率 (%) ②/①×100 |
|----------|----------------------|-----------|---------------------|------|----------------|-----------------------|
| | | ②総数 | 上水道 | 簡易水道 | 専用水道 | |
| 東郷町 | 43,778 | 43,728 | (284,227) 43,723 | — | (—) 3,243 | 99.9 |
| 日進市 | 93,005 | 92,996 | <92,996> 92,996 | — | (—) — | 100.0 |
| みよし市 | 62,097 | 62,097 | <61,825> 61,825 | — | (272) 1,972 | 100 |
| 豊田市 | 415,099 | 415,075 | 414,982 | — | (93) 2,055 | 100.0 |

注1) 上水道欄の（ ）の値は、他の市町村へ区域外給水している人口であり、< >の値は他の市町村等事業体からの区域外給水によって供給されている人口が再掲されたものである。

注2) 専用水道欄の（ ）の値は、上水道から受水している施設を除いた自己水源のみで供給している施設の数値であり、普及率の算出には同値を用いている。

注3) 普及率欄の【100.0%】は、小数2位の四捨五入によるものであるため一部未普及があるが、【100%】は未普及が無いものである。

出典：「令和5年度 愛知県の水道（水道年報）」（令和7年3月 愛知県）

3.2.4.3 地下水の利用状況

対象事業実施想定区域及びその周囲 3 市 1 町における地下水の工業用水としての利用状況は表 3.2.6 に示すとおりである。

対象事業実施想定区域が位置する東郷町の工業用水として利用されている井戸水の割合は、81.3%となっている。

また、その他の市の工業用水として利用されている井戸水の割合については、日進市は 63.6%、みよし市は 33.3%、豊田市は 16.5%となっている。

なお、対象事業実施想定区域及びその周囲は、「工業用水法」（昭和 31 年法律第 146 号）及び「県民の生活環境の保全等に関する条例」（平成 15 年愛知県条例第 7 号。以下、「県条例」という。）により地下水の採取規制はされていないが、県条例により揚水機の吐出口の断面積が 19 平方センチメートルを超える揚水設備（1 事業所に 2 つ以上ある場合はその断面積の合計）を設置している場合は、水量測定器を設置しなければならないとされている。

表 3.2.6 地下水の利用状況

令和 2 年 6 月 1 日現在

| 項目 市町 | 工業用水 | | |
|----------|----------------------------------|-------------------------|---------------|
| | 1 日当たり水源別用水量 (m^3) | 井戸水 (m^3) | 井戸水の割合 (%) |
| 東郷町 | 1,691 | 1,374 | 81.3 |
| 日進市 | 2,271 | 1,445 | 63.6 |
| みよし市 | 12,895 | 4,297 | 33.3 |
| 豊田市 | 54,152 | 8,958 | 16.5 |

出典：「2020 年工業統計調査結果（確報）」（愛知県ホームページ）

3.2.5 交通の状況

3.2.5.1 道路交通の状況

対象事業実施想定区域及びその周囲の主要な道路の状況は、図 3.2.4 に示すとおりである。また、令和3年度における交通量調査結果は、表 3.2.7 に示すとおりである。

対象事業実施想定区域及びその周囲の主要な道路としては、東名高速道路、主要地方道豊田知立線及び一般県道豊田東郷線等がある。

令和3年度の調査結果によると、最寄りの調査地点である主要地方道豊田知立線（区間番号：42140）では、12時間交通量は12,555台、大型車混入率は18.9%となっている。また、最も交通量の多い一般国道153号（区間番号：11041）では、30,601台、大型車混入率は10.4%となっている。

表 3.2.7 対象事業実施想定区域及びその周囲の主要道路の交通量（平日）

| 路線名 | | 区間番号 | 交通量観測地点 | 交通量（台/12時間） | | | 大型車混入率（%） |
|------------------|---------|-------|--------------|-------------|-------|--------|-----------|
| | | | | 小型車 | 大型車 | 合計 | |
| 高速自動車国道 | 東名高速道路 | 00060 | 豊田～東名三好 | 21,428 | 8,375 | 29,803 | 28.1 |
| | | 00070 | 東名三好～日進JCT | 21,554 | 8,986 | 30,540 | 29.4 |
| 一般国道 | 153号 | 11010 | 愛知郡東郷町和合新濁池 | 25,242 | 3,024 | 28,266 | 10.7 |
| | | 11021 | 愛知郡東郷町諸輪福田 | 25,403 | 2,179 | 27,582 | 7.9 |
| | | 11031 | みよし市三好町前田 | 19,594 | 2,081 | 21,675 | 9.6 |
| | | 11041 | 豊田市本新町5丁目 | 27,418 | 3,183 | 30,601 | 10.4 |
| | 155号 | 11410 | 豊田市保見町上三戸口 | 6,639 | 1,321 | 7,960 | 16.6 |
| | | 11420 | 豊田市大畑町不流 | 10,213 | 1,888 | 12,101 | 15.6 |
| 主要地方道 (都道府県道) | 諸輪名古屋線 | 41340 | 調査対象区間外（非観測） | 5,440 | 292 | 5,732 | 5.1 |
| | | 43480 | データなし | — | — | — | — |
| | 豊田知立線 | 42105 | みよし市三好町小坂 | 6,318 | 640 | 6,958 | 9.2 |
| | | 42110 | 調査対象区間外（非観測） | 10,758 | 2,329 | 13,087 | 17.8 |
| | | 42130 | 調査対象区間外（非観測） | 6,155 | 1,549 | 7,704 | 20.1 |
| | | 42140 | みよし市福谷町根浦 | 10,176 | 2,379 | 12,555 | 18.9 |
| | | 42150 | データなし | — | — | — | — |
| | | 43500 | 調査対象区間外（非観測） | 9,457 | 1,074 | 10,531 | 10.2 |
| | 瀬戸大府東海線 | 42470 | 調査対象区間外（非観測） | 21,115 | 2,063 | 23,178 | 8.9 |
| | 名古屋豊田線 | 42520 | 調査対象区間外（非観測） | 8,903 | 1,134 | 10,037 | 11.3 |
| | | 42530 | 調査対象区間外（非観測） | 7,586 | 1,381 | 8,967 | 15.4 |
| | | 42540 | 調査対象区間外（非観測） | 6,639 | 1,408 | 8,047 | 17.5 |
| 一般都道府 県道 | 田邰名古屋線 | 62010 | 調査対象区間外（非観測） | 5,712 | 1,279 | 6,991 | 18.3 |
| | 岩藤名古屋線 | 62030 | 調査対象区間外（非観測） | 7,479 | 1,414 | 8,893 | 15.9 |
| | 和合豊田線 | 62050 | 調査対象区間外（非観測） | 6,887 | 583 | 7,470 | 7.8 |
| | | 62060 | みよし市三好町中鯉ヶ池 | 7,844 | 571 | 8,415 | 6.8 |
| | 米野木蒔生線 | 62140 | 調査対象区間外（非観測） | 7,598 | 807 | 8,405 | 9.6 |
| | | 62150 | 調査対象区間外（非観測） | 4,293 | 389 | 4,682 | 8.3 |
| | | 66330 | みよし市蒔生町並木 | 9,539 | 1,005 | 10,544 | 9.5 |
| | 駕鴨みよし線 | 62160 | 調査対象区間外（非観測） | 3,953 | 2,185 | 6,138 | 35.6 |
| | 岩作諸輪線 | 62190 | 調査対象区間外（非観測） | 5,914 | 1,756 | 7,670 | 22.9 |
| | | 62210 | 調査対象区間外（非観測） | 7,142 | 965 | 8,107 | 11.9 |
| | | 62215 | 調査対象区間外（非観測） | 8,623 | 1,546 | 10,169 | 15.2 |
| | みよし沓掛線 | 62220 | みよし市明知町根場 | 3,883 | 1,473 | 5,356 | 27.5 |
| | 豊田東郷線 | 66010 | 豊田市宮上町8丁目 | 8,005 | 779 | 8,784 | 8.9 |
| | | 66020 | 調査対象区間外（非観測） | 7,459 | 1,124 | 8,583 | 13.1 |

注1) 斜体で示した交通量及び大型車混入率は推定値であることを示している。

注2) 12時間交通量とは、昼間（7時～19時）における交通量である。

注3) 表中の「—」は、令和3年度道路交通センサスにおいて、交通量観測が行われていないことを示している。

出典：「令和3年度 全国道路・街路交通情勢調査 一般交通量調査」（国土交通省ホームページ）

3.2.5.2 鉄道の状況

対象事業実施想定区域及びその周囲の鉄道の状況は図 3.2.5 に、駅別利用者数は表 3.2.8 に示すとおりである。

対象事業実施想定区域最寄りの駅としては、対象事業実施想定区域北側約 1.0km に名古屋鉄道豊田線の黒笹駅が存在しており、令和 5 年度における乗降人員は 1,176,001 人となっている。

表 3.2.8 対象事業実施想定区域周辺の主な駅別利用者数の状況（令和5年度）

| 路線名 | 駅 名 | 総 数（人） |
|----------|------|-----------|
| 名古屋鉄道豊田線 | 三好ヶ丘 | 2,743,036 |
| | 黒笹 | 1,176,001 |
| | 米野木 | 2,012,146 |
| | 日進 | 3,134,643 |

出典：「オープンデータ 各駅利用状況」（日進市ホームページ）

「みよしものしり専科ーみよしの統計（令和6年度版）」（令和7年3月 みよし市）

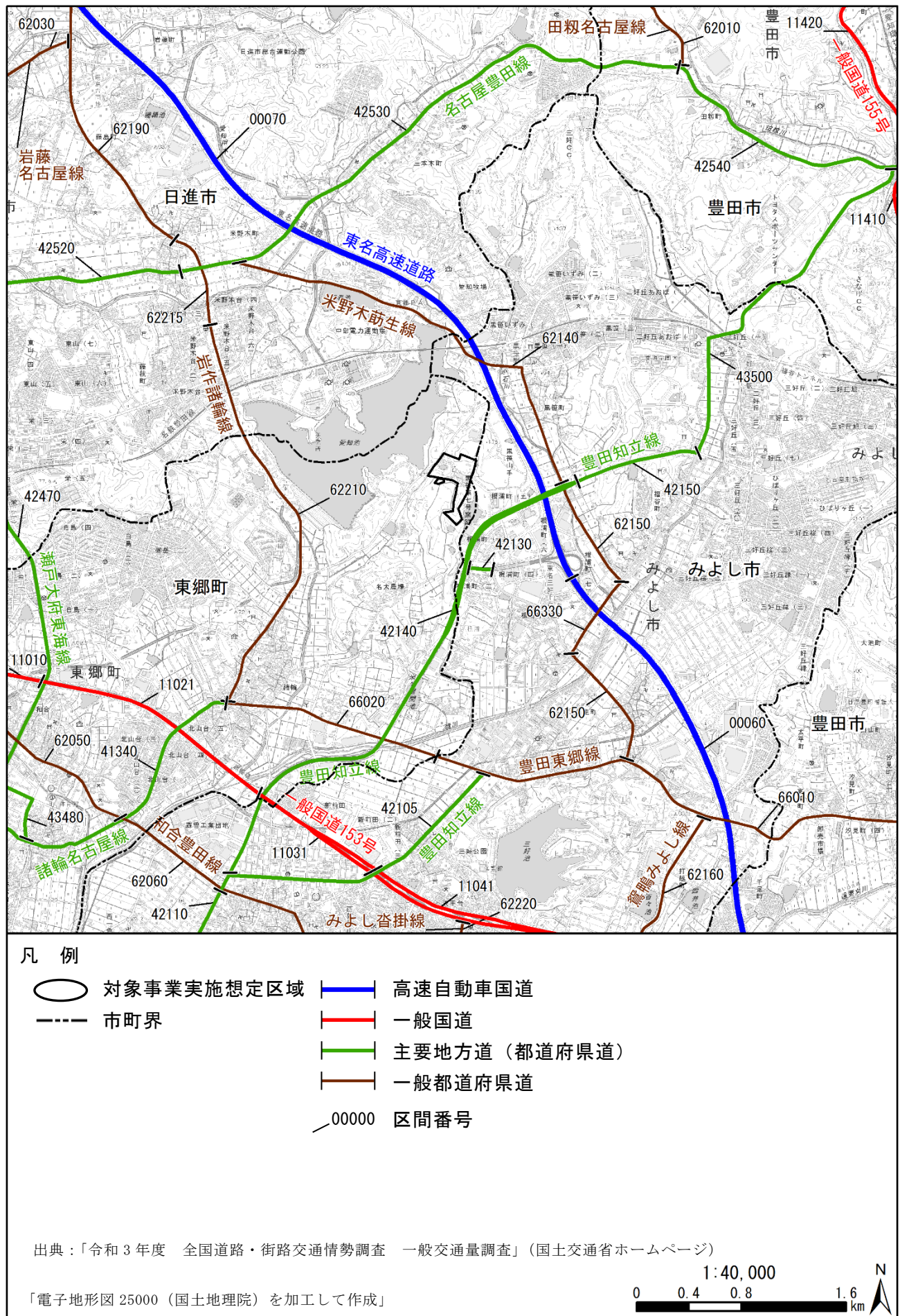


図 3.2.4 主要な道路の状況

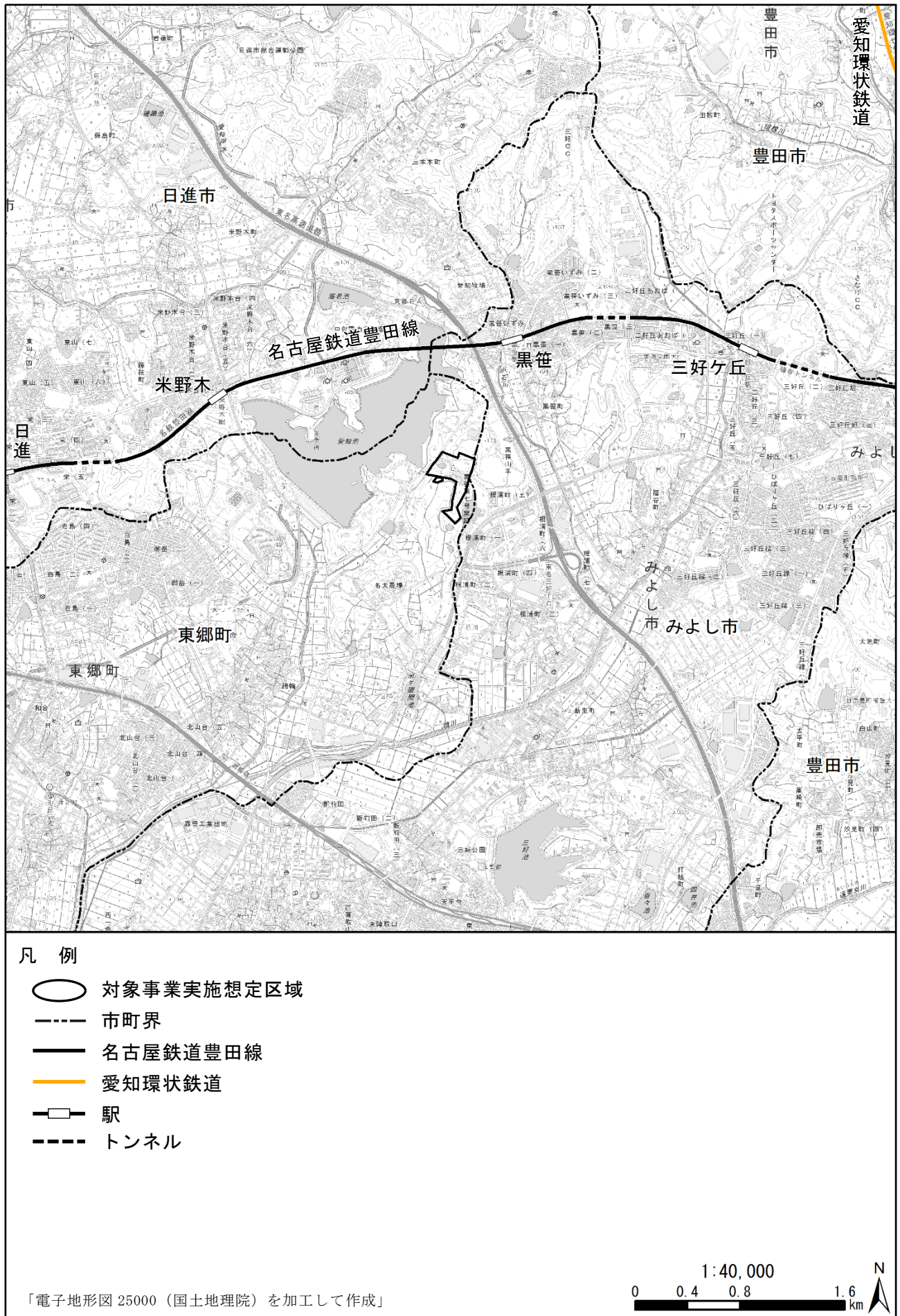


図 3.2.5 鉄道の状況

3.2.6 学校、病院その他の環境の保全についての配慮が特に必要な施設の配置の状況及び住宅の配置の概況

対象事業実施想定区域及びその周囲における学校、病院その他の環境の保全についての配慮が特に必要な施設は表 3.2.9 に、配置の状況は図 3.2.6 に示すとおりである。

対象事業実施想定区域最寄りの環境の保全についての配慮が特に必要な施設としては、南東側約 500m に位置する福祉施設である「シルバーハウスつばめの家みよし」があげられる。

また、住宅の配置の状況について、最寄住居及びまとまった住宅地が存在する最寄りの地区は対象事業実施想定区域東側約 100m に位置する黒笹山手となっている。

表 3.2.9(1) 環境保全への配慮を要する施設（教育施設）

| 区分 | No. | 施設名 | 住所 |
|-------|-----|----------------|-------------------|
| 小 学 校 | 1 | 東郷小学校 | 東郷町諸輪北山 112 |
| | 2 | 諸輪小学校 | 東郷町諸輪大坊池 29-110 |
| | 3 | 高嶺小学校 | 東郷町白鳥 2-5 |
| | 4 | 東小学校 | 日進市米野木町北畑 8-3 |
| | 5 | 北小学校 | 日進市岩崎町芝内 2-1 |
| | 6 | 梨の木小学校 | 日進市折戸町梨子ノ木 28-31 |
| | 7 | 北部小学校 | みよし市根浦町 3-9-47 |
| | 8 | 天王小学校 | みよし市三好町天王 51-75 |
| | 9 | 三好丘小学校 | みよし市三好丘 7-1 |
| | 10 | 緑丘小学校 | みよし市三好丘緑 1-1-1 |
| | 11 | 黒笹小学校 | みよし市黒笹いずみ 3-26-1 |
| | 12 | 小清水小学校 | 豊田市田町 2-81 |
| 中 学 校 | 13 | 東郷中学校 | 東郷町諸輪北山 126 |
| | 14 | 諸輪中学校 | 東郷町諸輪後山 60-65 |
| | 15 | 日進東中学校 | 日進市藤島町相山 77 |
| | 16 | 三好中学校 | みよし市三好町宮ノ越 42 |
| | 17 | 北中学校 | みよし市三好丘桜 1-1-1 |
| | 18 | 三好丘中学校 | みよし市三好丘 2-14-10 |
| 高等学校 | 19 | 日進高等学校 | 日進市米野木町三ヶ峯 4-18 |
| | 20 | 中部大学第一高等学校 | 日進市三本木町細廻間 425 |
| | 21 | 国際高等学校 | 日進市米野木町三ヶ峯 4-4 |
| | 22 | 衣台高等学校 | 豊田市太平町平山 5 |
| 大 学 等 | 23 | 東海学園大学 三好キャンパス | みよし市福谷町西ノ洞 21-233 |
| | 24 | 東海医療工学専門学校 | みよし市三好丘旭 3-1-3 |
| | 25 | 日本赤十字豊田看護大学 | 豊田市白山町七曲 12-33 |
| 幼 稚 園 | 26 | はくさん幼稚園 | 日進市藤枝町西外面 35 |
| | 27 | まこと第二幼稚園 | みよし市筋生町池下 8-1 |
| | 28 | ベル三好幼稚園 | みよし市三好丘 4-1-4 |
| | 29 | 東山幼稚園 | みよし市三好町東山 435 |
| | 30 | 三好桃山幼稚園 | みよし市西陣取山 26-1 |
| | 31 | 三好丘聖マーガレット幼稚園 | みよし市三好丘桜 1-9 |
| 図 書 館 | 32 | 東郷町立図書館 | 東郷町春木北反田 14 |
| | 33 | みよし市立中央図書館 | みよし市三好町湯ノ前 114 |

注) 表中の番号は、図 3.2.6(1)の番号と対応する。

出典：「令和6年度愛知県学校一覧（令和6年5月1日現在）」（愛知県ホームページ）

「マップあいち（学校及び小中学校区）」（愛知県ホームページ）

「幼稚園」（日進市ホームページ）

「幼稚園・こども園（幼稚園部）について」（みよし市ホームページ）

「東郷町立図書館」（東郷町ホームページ）

「みよし市立中央図書館」（みよし市ホームページ）

表 3.2.9(2) 環境保全への配慮を要する施設（医療・福祉施設等）

| 区分 | No. | 施設名 | 住所 |
|--------|--------------|--------------------------|--------------------|
| 病院・診療所 | 1 | 医療法人和合会 和合病院 | 東郷町諸輪字北木戸西 108 |
| | 2 | 医療法人 奥田眼科 | 東郷町和合ヶ丘 1-15-3 |
| | 3 | 医療法人財団愛泉会 愛知国際病院 | 日進市米野木町南山 987-31 |
| | 4 | 寺島ファミリアクリニック | 日進市折戸町枯木 166 |
| | 5 | 医療法人 寿光会 寿光会中央病院 | みよし市三好町石畑 5 |
| | 6 | 花レディースクリニック | みよし市福谷町細田 1-3 |
| | 7 | たなかマタニティクリニック | みよし市三好丘旭 3-4-3 |
| 福祉施設 | 介護老人福祉施設 | | |
| | 8 | エイジトピア諸輪 | 東郷町諸輪字後山 60-5 |
| | 9 | きらめきとうごう | 東郷町大字和合字南蚊谷 310 |
| | 10 | のぞみ | 日進市米野木町南山 987-104 |
| | 11 | きらめきみよし | みよし市西一色町神田 80 |
| | 介護老人保健施設 | | |
| | 12 | 医療法人財団愛泉会老人保健施設愛泉館 | 日進市米野木町南山 987-44 |
| | 13 | 介護老人保健施設リハビリス日進 | 日進市折戸町梨子ノ木 28-650 |
| | 14 | 医療法人寿光会三好老人保健施設 | みよし市福谷町下り松 42-1 |
| | 軽費老人ホーム | | |
| | 15 | ケアハウス 寿睦苑 | みよし市福谷町寺田 4 |
| | 有料老人ホーム | | |
| | 16 | KANWA PLUS 白鳥 | 東郷町白鳥 2-17-3 |
| | 17 | あっとほ一む東郷 | 東郷町大字諸輪字北山 158-140 |
| | 18 | 住宅型有料老人ホーム ハート・とうごう | 東郷町北山台 4-7-8 |
| | 19 | 有料老人ホームカナン | 日進市米野木台 4-801 |
| | 20 | ホームライフ咲花日進 | 日進市東山 5-304 |
| | 21 | みつば | 日進市米野木台 2-2421 |
| | 22 | 愛知老人コミュニティセンターシルバーホームまきば | 日進市米野木町南山 987-88 |
| | 23 | シルバーハウスつばめの家みよし | みよし市根浦町 1-8-1 |
| | 24 | ふくろうの家 | みよし市福谷町才戸 40 |
| | 25 | ゆうゆう未来館 三好 | みよし市三好町石畑 40-1 |
| | 26 | あっとほ一む三好 | みよし市三好町石畑 17 |
| | 認知症対応型共同生活介護 | | |
| | 27 | グループホーム あいわ | 日進市米野木町南山 987-58 |
| | 28 | グループホームあかり（みよし苑） | みよし市打越町山ノ間 86-2 |
| | 小規模多機能型居宅介護 | | |
| | 29 | 小規模多機能型介護事業所 サンライフハートネス | 日進市米野木町追鳥 47-1 |

注 1) 表中の番号は、図 3.2.6(2)の番号と対応する。

注 2) 病院・診療所は有床で入院できる施設を示している。

出典：「病院名簿（令和 6 年 10 月 1 日現在）」（愛知県ホームページ）

「医科診療所名簿（県所管分）」（愛知県ホームページ）

「介護保険・高齢者福祉ガイドブック」（愛知県ホームページ）

「介護事業所・生活関連情報検索 介護サービス情報公表システム」（厚生労働省ホームページ）

表 3.2.9(3) 環境保全への配慮を要する施設（医療・福祉施設等）

| 区分 | No. | 施設名 | 住所 |
|------|-----|-----------------|---------------------------|
| 保育施設 | 30 | たかね保育園 | 東郷町白鳥 4-1-3 |
| | 31 | 留愛東郷保育園 | 東郷町北山台 3-3-9 |
| | 32 | しらとり保育園 | 東郷町御岳 2-1-2 |
| | 33 | 東郷あやめこども園 | 東郷町大字諸輪字稲場 161 |
| | 34 | 太陽わごうこども園 | 東郷町和合東蚊谷 129-1 |
| | 35 | 米野木台西保育園（指定管理） | 日進市藤枝町廻間 1-1 |
| | 36 | 東部保育園 | 日進市米野木町仲田 35-14 |
| | 37 | 三本木保育園 | 日進市三本木町上川田 9 |
| | 38 | 愛知国際プリスクール | 日進市折戸町梨子ノ木 46 |
| | 39 | マミーズ保育園 FEEL 日進 | 日進市栄一丁目 201「FEEL 日進店」内 1F |
| | 40 | 蒔生保育園 | みよし市蒔生町仲田 48-1 |
| | 41 | 天王保育園 | みよし市三好町天王 51-20 |
| | 42 | みどり保育園 | みよし市三好丘桜四丁目 11-1 |
| | 43 | 城山保育園 | みよし市福谷町市場 61-2 |
| | 44 | すみれ保育園 | みよし市三好町八和田 108 |
| | 45 | わかば保育園 | みよし市三好町大坪 54 |
| | 46 | 黒笹保育園 | みよし市福谷町西大山 1-31 |
| | 47 | キッズハウスみよし | みよし市三好丘 1 丁目 11-5 |
| | 48 | グレース三好ヶ丘園 | みよし市三好丘二丁目 6-4 |
| | 49 | ちびっこランド三好中央園 | みよし市三好町上 75-1 |
| | 50 | みよしの森ほいくえん | みよし市打越町新池浦 110-4 |

注 1) 表中の番号は、図 3.2.6(2)の番号と対応する。

出典：「保育所一覧」（愛知県ホームページ）

「保育園・認定こども園」（東郷町ホームページ）

「令和7年度日進市の保育・教育施設案内」（日進市ホームページ）

「子ども・子育て支援法の規定に基づき確認した施設について」（みよし市ホームページ）

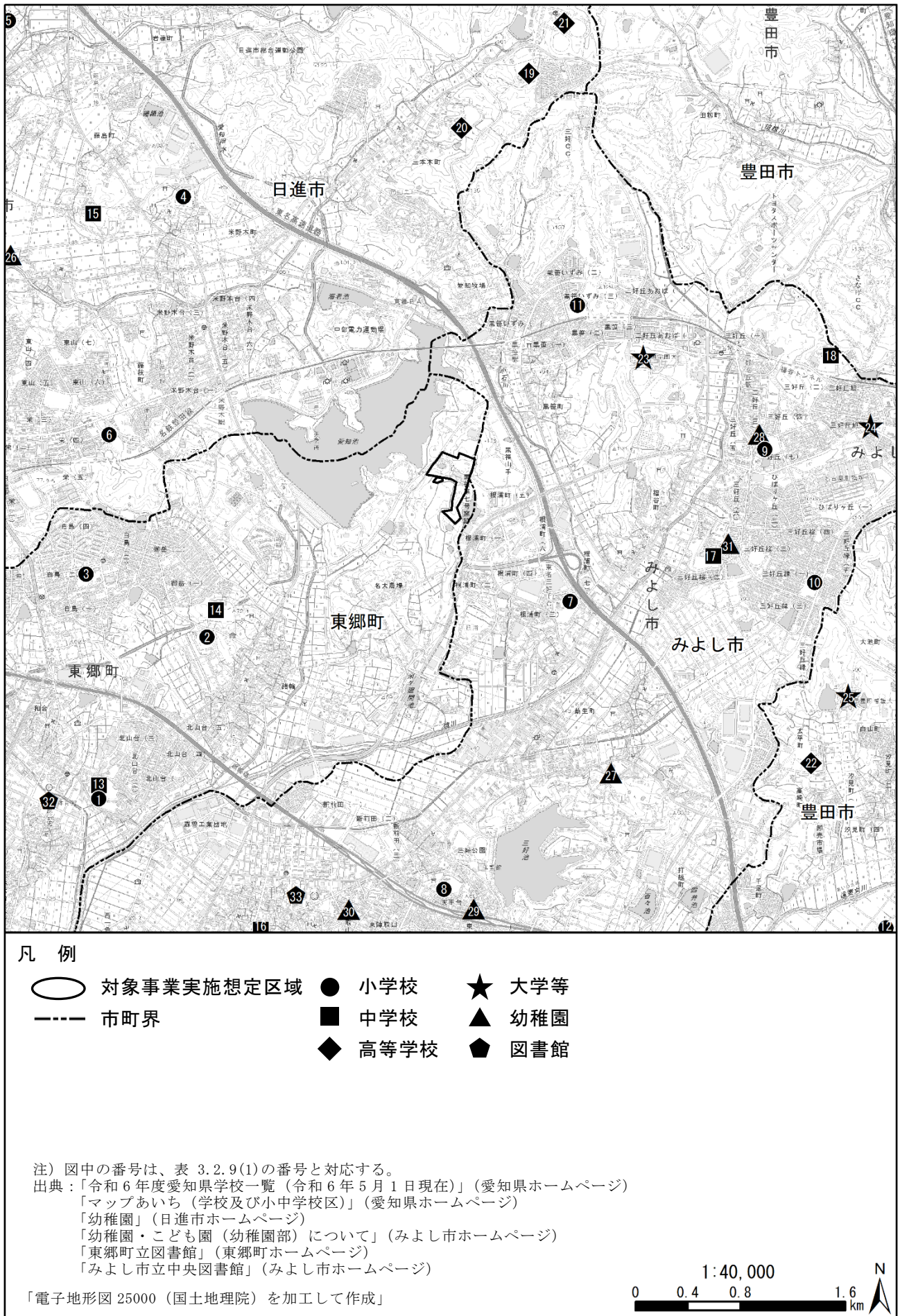


図 3.2.6(1) 環境保全への配慮を要する施設（教育施設）

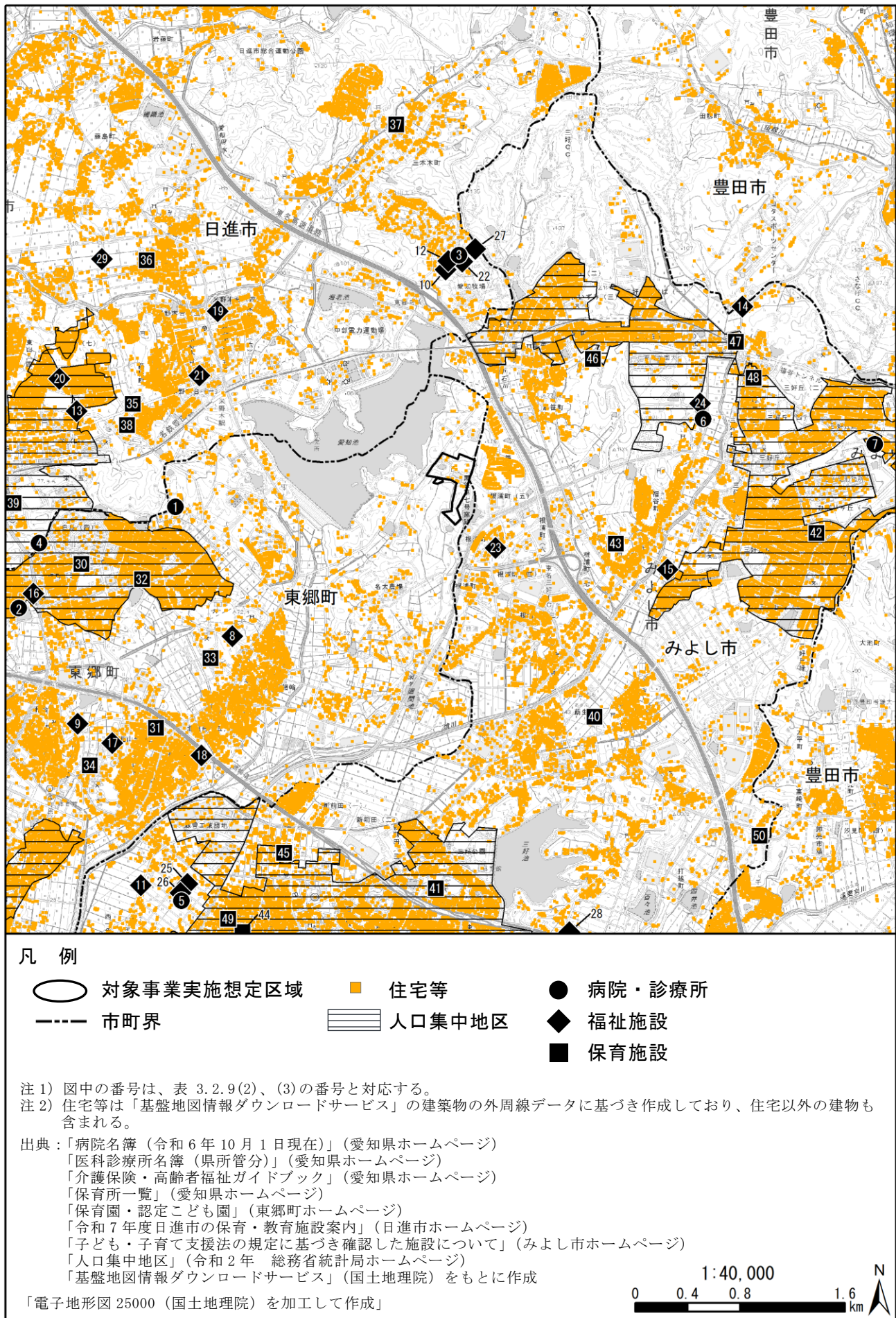


図 3.2.6(2) 環境保全への配慮を要する施設（医療・福祉施設等）

3.2.7 下水道の整備の状況

対象事業実施想定区域及びその周囲3市1町における公共下水道の普及状況は、表3.2.10に示すとおりである。

対象事業実施想定区域が位置する東郷町の令和5年度における下水道処理人口普及率は、83.1%となっている。

また、その他の市の下水道処理人口普及率については、日進市は78.8%、みよし市は84.0%、豊田市は77.8%となっている。

表 3.2.10 公共下水道普及状況（令和5年度）

令和6年3月31日現在

| 項目 市町 | 住民基本 台帳人口 (人) | 汚水処理人口 (人) | 汚水処理人口 普及率 (%) | 下水道 | |
|----------|---------------------|---------------|----------------------|--------------------|-----------------------|
| | | | | 下水道処理 人口 (人) | 下水道処理 人口普及率 (%) |
| 東郷町 | 43,903 | 39,074 | 89.0 | 36,474 | 83.1 |
| 日進市 | 93,881 | 86,358 | 92.0 | 73,978 | 78.8 |
| みよし市 | 61,380 | 60,844 | 99.1 | 51,573 | 84.0 |
| 豊田市 | 415,853 | 382,846 | 92.1 | 323,597 | 77.8 |

出典：「令和6（2024）年度刊愛知県統計年鑑」（愛知県ホームページ）

3.2.8 環境の保全を目的とする法令等により指定された地域その他の対象及び当該対象に係る規制の内容その他の環境の保全に関する施策の内容

3.2.8.1 大気質

(1) 大気汚染に係る環境基準等

「環境基本法」（平成5年法律第91号）に基づく大気汚染に係る環境基準及び有害大気汚染物質（ベンゼン等）に係る環境基準、「ダイオキシン類対策特別措置法」（平成11年法律第105号）に基づく環境基準は、表 3.2.11に示すとおり定められている。なお、環境基準は工業専用地域、車道その他一般公衆が生活していない地域又は場所については適用されない。

表 3.2.11(1) 大気汚染に係る環境基準

| 物質名 項目 | 二酸化硫黄 (SO ₂) | 二酸化窒素 (NO ₂) | 一酸化炭素 (CO) | 浮遊粒子状 物質 (SPM) | 光 化 学 オキシダント (O _x) |
|-----------|---|--|---|---|---|
| 環境基準 | 1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。 | 1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。 | 1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること。 | 1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること。 | 1時間値が0.06ppm以下であること。 |
| 長期的評価 | 年間にわたる1日平均値である測定値につき、測定値の高い方から2%の範囲内にあるものを除外した値が、0.04ppm以下であること。 ただし、1日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続しないこと。 | 年間における1日平均値のうち、低い方から98%に相当する値が、0.06ppm以下であること。 | 年間にわたる1日平均値である測定値につき、測定値の高い方から2%の範囲内にあるものを除外した値が、10ppm以下であること。 ただし、1日平均値が10ppmを超えた日が2日以上連続しないこと。 | 年間にわたる1日平均値である測定値につき、測定値の高い方から2%の範囲内にあるものを除外した値が、0.10mg/m ³ 以下であること。 ただし、1日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日が2日以上連続しないこと。 | — |
| 短期的評価 | 1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ1時間値が0.1ppm以下であること。 | — | 1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること。 | 1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり、かつ1時間値が0.2mg/m ³ 以下であること。 | 年間を通じて、1時間値が0.06ppm以下であること。 ただし、5時から20時の昼間時間帯について評価する。 |

出典：「大気汚染に係る環境基準について」（昭和48年環境庁告示第25号）

「大気汚染に係る環境基準について」（昭和48年環大企第143号）

「二酸化窒素に係る環境基準について」（昭和53年環境庁告示第38号）

「二酸化窒素に係る環境基準の改定について」（昭和53年環大企第262号）

表 3.2.11(2) 有害大気汚染物質に係る環境基準

| 物質名 項目 | ベンゼン | トリクロロエチレン | テトラクロロ エチレン | ジクロロメタン |
|-----------|--|---|--|---|
| 環境基準 | 年平均値が 0.003mg/m ³ 以下である こと。 | 年平均値が 0.13mg/m ³ 以下であるこ と。 | 年平均値が0.2mg/m ³ 以 下であること。 | 年平均値が 0.15mg/m ³ 以下であるこ と。 |
| 評価方法 | 同一地点における年平均値と認められる値との比較によって評価を行う。 | | | |

出典：「ベンゼン等による大気の汚染に係る環境基準について」（平成9年環境庁告示第4号）

表 3.2.11(3) 微小粒子状物質に係る環境基準

| 物質名 項目 | 微小粒子状物質 |
|-----------|--|
| 環境基準 | 1年平均値が15 μg/m ³ 以下であり、かつ、1日平均値が35 μg/m ³ 以下であること。 |
| 評価方法 | 1年平均値が15 μg/m ³ 以下であり、かつ、1日平均値の年間98%値が35 μg/m ³ 以下であること。 |

出典：「微小粒子状物質による大気の汚染に係る環境基準について」（平成21年環境省告示第33号）

「微小粒子状物質による大気の汚染に係る環境基準について（通知）」（平成21年環水大総発第090909001号）

表 3.2.11(4) ダイオキシン類に係る環境基準

| 物質名 項目 | ダイオキシン類 |
|-----------|---|
| 環境基準 | 年間平均値が0.6pg-TEQ/m ³ 以下であること。 |
| 評価方法 | 同一地点における1年間のすべての検体の測定値の算術平均値により評価する。 |

出典：「ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁（水底の底質の汚染を含む。）及び土壌の汚染に係る環境基準」

（平成11年環境庁告示第68号）

(2) 大気汚染に係る規制基準

計画施設は、「大気汚染防止法」（昭和43年法律第97号）及び「県条例」に定めるばい煙発生施設（廃棄物焼却炉）、「大気汚染防止法」に定める水銀排出施設（廃棄物焼却炉）、「ダイオキシン類対策特別措置法」に定める特定施設（廃棄物焼却炉）に該当する。

① 硫黄酸化物

a) 排出基準

「大気汚染防止法」及び「県条例」では、K値規制として、ばい煙発生施設ごとに排出口（煙突）の高さに応じて、硫黄酸化物の許容排出量を次式により定めている。東郷町における排出基準（K値）は、表 3.2.12に示すとおりである。

$$q = K \times 10^{-3} \times H_e^2$$

q：硫黄酸化物の許容排出量（m³N/時）
K：法施行規則第3条及び県条例施行規則第9条で定められた値
He：補正された排出口の高さ（m）

表 3.2.12 硫黄酸化物の排出基準（K値）

| 地域 区分 | 区域 | 法 | | | 県条例 | |
|--------------|--|-----------------|--------------------------------|-----------------|------------------|------------------|
| | | 設置年月日 | | | 設置年月日 | |
| | | ～ S 47. 1. 4 | S 47. 1. 5 ～ S 49. 3. 31 | S 49. 4. 1 ～ | ～ S 49. 9. 29 | S 49. 9. 30 ～ |
| 法52号 県条例4 | 瀬戸市、春日井市、豊田市（平成17年3月31日における豊田市の区域に限る。）、小牧市、知立市、尾張旭市、豊明市、日進市、みよし市、長久手市及び東郷町 | 9.0 | | | 9.0 | |

出典：「大気汚染防止法施行令」（昭和43年政令第329号）
「大気汚染防止法施行規則」（昭和46年厚生省・通商産業省令第1号）
「県民の生活環境の保全等に関する条例施行規則」（平成15年愛知県規則第87号）

b) 総量規制

「大気汚染防止法」では、地域により硫黄酸化物の総量規制基準が定められているが、対象事業実施想定区域が位置する東郷町は指定地域には含まれていない。

c) 総排出量規制

対象事業実施想定区域が位置する東郷町は、「県条例」に基づく硫黄酸化物の総排出量規制の対象地域となっている。総排出量規制は次式により定められており、総排出量規制の算出に用いる定数は、表 3.2.13に示すとおりである。

$$Q = R_3 \{0.7 \alpha S_3 (a W_2 + b) + Q''\}$$

Q : 硫黄酸化物の排出許容量 (m³N/時)

W₁ : 昭和49年9月29日現在の大気指定施設の燃焼能力の合計値 (L/時)

W₂ : 大気指定施設の燃焼能力の合計値 (L/時)

Q'' : 昭和49年9月30日以降に設置される大気指定施設から燃料以外のものの燃焼によって排出される硫黄酸化物の量 (m³N/時)

a : 定数 (表3.2.13参照)

b : 定数 (表3.2.13参照)

R₃ : 定数 (東郷町を含む内陸地域=1.0)

αS_3 : 定数 $(= (0.480 - 0.041 \log y_2) / 100)$
 $y_2 = |(a W_2 + b) - (a W_1 + b)|$

表 3.2.13 総排出量規制の定数 (廃棄物焼却炉)

| 対象規模 | 大気指定工場等における大気指定施設の燃焼設備の燃料の燃焼能力の合計 (重油の量に換算した1時間当たり) | a | b |
|---|--|-------|--------|
| 火格子面積2㎡以上 又は焼却能力200kg/時以上 又は焼却設備の燃焼能力が重油 換算50L/時以上 | 500L 以上 1,000L 未満 | 0.643 | 16 |
| | 1,000L 以上 5,000L 未満 | 0.743 | -84 |
| | 5,000L 以上 10,000L 未満 | 0.606 | 620 |
| | 10,000L 以上 | 0.861 | -1,930 |

出典:「県民の生活環境の保全等に関する条例施行規則」(平成15年愛知県規則第87号)

② ばいじん

「大気汚染防止法」では、施設の種類等による基準が定められている。廃棄物焼却炉に係るばいじんの排出基準は、表 3.2.14に示すとおりであり、計画施設は0.08g/m³Nが該当する。

表 3.2.14 ばいじんの排出基準（廃棄物焼却炉）

| 施設名 | 焼却能力 (t/時) | 規模 (万m ³ N/時) | 上乗せ基準 (g/m ³ N) | 一般排出基準 (g/m ³ N) | | |
|------------|---------------|-----------------------------|-------------------------------|--------------------------------|------------|-----------|
| | | | 設置年月日 | 設置年月日 | | 0n (%) |
| | | | S 48. 4. 1～ | ～ H10. 6. 30 | H10. 7. 1～ | |
| 廃棄物焼却炉 | 4以上 | — | — | 0.08 | 0.04 | 12 |
| | 2以上4未満 | — | — | 0.15 | 0.08 | 12 |
| | 2未満 | — | — | 0.25 | 0.15 | 12 |
| 廃棄物 焼却炉 | 連続炉 | 4以上 | 0.10 | — | — | 0s |
| | | 1以上4未満 | 0.20 | — | — | 0s |
| | | 1未満 | — | — | — | — |

注1) この表に掲げるばいじんの量は、日本産業規格（以下、「規格」という。）Z 8808に定める方法により測定される量として表示されたものとし、当該ばいじんの量には、燃料の点火、灰の除去のための火屑整理又はすすの掃除を行う場合において排出されるばいじん（1時間につき合計6分間を超えない時間内に排出されるものに限る。）は含まれないものとする。

注2) ばいじんの量が著しく変動する施設にあっては一工程の平均の量とする。

注3) ばいじん量の補正は次の算式により換算するものとする。

$$C = \{(21 - 0n) / (21 - 0s)\} \times Cs$$

C : ばいじん量 (g/m³N)

Cs : 測定時のばいじん量 (g/m³N)

0n : 施設ごとに定められた標準酸素濃度 (12%)

0s : 測定時の酸素濃度 (%)

注4) 一般排出基準と上乗せ基準の両方に該当する施設については、いずれかの厳しい基準が適用される。

出典 : 「大気汚染防止法施行規則」（昭和46年厚生省・通商産業省令第1号）

「大気汚染防止法第4条第1項に基づく排出基準を定める条例」（昭和48年愛知県条例第4号）

③ 窒素酸化物

a) 排出基準

「大気汚染防止法」では、施設の種類、規模及び設置年月日により排出基準が定められており、廃棄物焼却炉に係る窒素酸化物の排出基準は、表 3.2.15に示すとおりであり、計画施設は250ppmが該当する。

表 3.2.15 窒素酸化物の排出基準（廃棄物焼却炉）

| 施設名 | 規模 (万m ³ N/時) | 0n (%) | 排出基準 (ppm) | | |
|-----------------|-----------------------------|-----------|---------------|----------------------------|--------------|
| | | | 設置年月日 | | |
| | | | ～ S 52. 6. 17 | S 52. 6. 18～ S 54. 8. 9 | S 54. 8. 10～ |
| 廃棄物焼却炉 (連続炉) | 4以上 | 12 | 300 | 250 | 250 |
| | 4未満 | | 300 | 300 | 250 |

注) 窒素酸化物量の補正は次の算式により換算するものとする。

$$C = \{(21 - 0n) / (21 - 0s)\} \times Cs$$

C : 窒素酸化物濃度 (ppm)

0n : 施設ごとに定められた標準酸素濃度 (12%)

Cs : 測定時の窒素酸化物濃度 (ppm)

0s : 測定時の酸素濃度 (%)

出典 : 「大気汚染防止法施行規則」（昭和46年厚生省・通商産業省令第1号）

b) 工場・事業場に係る窒素酸化物対策指導要領

愛知県では、工場・事業場に対し窒素酸化物排出量の削減の指導が行われており、計画施設については指導対象ばい煙発生施設にあたる。窒素酸化物の指導要領は、表 3.2.16に示すとおりである。

表 3.2.16 窒素酸化物に係る指導要領

| 指導対象工場・事業場 | 指導対象施設 (大気汚染防止法第2条第2項に規定するばい煙発生施設) | 指導内容 | |
|--------------------------|--|--|--|
| | | 新增施設 (昭和58年6月15日以後に設置されるばい煙発生施設) | 既設施設 (昭和58年6月14日までに設置されたばい煙発生施設) |
| 大気指定工場等 (県条例施行規則第26条) | 廃棄物焼却炉 (火格子面積が2m ² 以上又は焼却能力が200kg/時以上) | 1. 表 3.2.15に示す窒素酸化物の排出基準の20%以上の低減。 ただし、削減されるべき窒素酸化物排出量と同等以上の量が他の施設で削減される場合は、この限りでない。 2. 1.の規定にかかわらず、新設に伴う既設施設の廃止の場合、新設の施設から排出される窒素酸化物の量は、当該廃止施設の量を下回ること。 ただし、新設施設に対する指導は、1.の規定による濃度の低減を限度とする。 | 表 3.2.15に示す窒素酸化物の排出基準(昭和60年3月31日において当該施設に適用される基準)の5%以上の低減。 ただし、削減されるべき窒素酸化物排出量と同等以上の量が他の施設で削減される場合は、この限りではない。 |

出典：「工場・事業場に係る窒素酸化物対策指導要領」(平成18年4月 愛知県)

④ 塩化水素

「大気汚染防止法」では、廃棄物焼却炉について塩化水素の排出基準が表 3.2.17に示すとおり定められている。

表 3.2.17 塩化水素の排出基準(廃棄物焼却炉)

| 施設名 | 排出基準 |
|--------|------------------------------------|
| 廃棄物焼却炉 | 700mg/m ³ N (430ppm) |

注) 廃棄物焼却炉に係る塩化水素量の補正は次の算式により換算するものとする。

$$C = \{(21 - 0n) / (21 - 0s)\} \times Cs$$

C : 塩化水素の量 (mg/m³N)

Cs : 排出ガス中の塩化水素の量 (mg/m³N)

0n : 施設ごとに定められた標準酸素濃度 (12%)

0s : 排出ガス中の酸素濃度 (%)

出典：「大気汚染防止法施行規則」(昭和46年厚生省・通商産業省令第1号)

「廃棄物焼却炉に係る塩化水素及び窒素酸化物の排出規制について」(昭和52環整54号)

⑤ 水銀

「大気汚染防止法」では、廃棄物焼却炉について水銀の排出基準が、表 3.2.18に示すとおり定められており、計画施設では $30 \mu\text{g}/\text{m}^3\text{N}$ が該当する。

表 3.2.18 水銀の排出基準（廃棄物焼却炉）

| 施設名 | 排出基準 ($\mu\text{g}/\text{m}^3\text{N}$) ^{注2)} | | On (%) |
|-----------------------|--|----------|--------|
| | ～H30.3.31 ^{注3)} | H30.4.1～ | |
| 廃棄物焼却炉 ^{注1)} | 50 | 30 | 12 |

注1) 火格子面積 2m^2 以上又は焼却能力が $200\text{kg}/\text{時}$ 以上について適用される。

注2) 廃棄物焼却炉に係る水銀量の補正は次の算式により換算するものとする。

$$C = \{(21 - 0n) / (21 - 0s)\} \times Cs$$

C : 水銀の量 ($\mu\text{g}/\text{m}^3\text{N}$)

Cs : 排出ガス中の水銀の量 ($\mu\text{g}/\text{m}^3\text{N}$)

0n : 施設ごとに定められた標準酸素濃度 (12%)

0s : 排出ガス中の酸素濃度 (%)

注3) 「大気汚染防止法の一部を改正する法律」(平成27年法律第41号)の施行(平成30年4月1日)において設置されている施設(設置の工事が着工されているものを含む。)を指す。

出典 : 「大気汚染防止法施行規則」(昭和46年厚生省・通商産業省令第1号)

⑥ ダイオキシン類

「ダイオキシン類対策特別措置法」では、廃棄物焼却炉から排出されるダイオキシン類の排出基準が表 3.2.19に示すとおり定められており、計画施設では $1\text{ng-TEQ}/\text{m}^3\text{N}$ が該当する。

表 3.2.19 廃棄物焼却炉に係るダイオキシン類の排出基準

| 規模 (焼却能力 ^{注1)}) | 排出基準 (ng-TEQ/m ³ N) ^{注2)} ^{注3)} | | | On (%) |
|--|--|--------------------------|-------------|--------|
| | 設置年月日 | | | |
| | ～H9. 12. 1 | H9. 12. 2～ H12. 1. 14 | H12. 1. 15～ | |
| 4t/時以上 | 1 | 0. 1 | 0. 1 | 12 |
| 2t/時以上～4t/時未滿 | 5 | 1 | 1 | |
| 火格子面積2m ² 以上又は 焼却能力0. 2t/時以上2t/時未滿 | 10 | 5 | 5 | |
| 上記以外 | 10 | 10 | 5 | |

注1) 火床面積 0.5m^2 以上又は焼却能力が $50\text{kg}/\text{時}$ 以上について適用される。

注2) ダイオキシン類の濃度の補正は次の算式により換算するものとする。

$$C = \{(21 - 0n) / (21 - 0s)\} \times Cs$$

C : ダイオキシン類の濃度 ($\text{ng-TEQ}/\text{m}^3\text{N}$)

Cs : 測定時のダイオキシン類の濃度 ($\text{ng-TEQ}/\text{m}^3\text{N}$)

0n : 施設ごとに定められた標準酸素濃度 (12%)

0s : 測定時の酸素濃度 (%)

注3) 基準値は、2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの毒性に換算した値とする。

出典 : 「ダイオキシン類対策特別措置法施行規則」(平成11年総理府令第67号)

3.2.8.2 騒音

(1) 騒音に係る環境基準

「環境基本法」に基づく騒音に係る環境基準は、表 3.2.20に示すとおり定められている。対象事業実施想定区域は都市計画区域で用途地域の定められていない地域となっており、B類型に該当する。

表 3.2.20(1) 騒音に係る環境基準

| 時間の区分 地域の類型 | | 基準値 | |
|----------------|--|-------------------|----------------------|
| | | 昼 間 午前6時～午後10時 | 夜 間 午後10時～翌日の午前6時 |
| AA | 該当なし | 50デシベル以下 | 40デシベル以下 |
| A | 第1種低層住居専用地域、第2種低層住居専用地域、第1種中高層住居専用地域、第2種中高層住居専用地域、田園住居地域 ^{注)} | 55デシベル以下 | 45デシベル以下 |
| B | 第1種住居地域、第2種住居地域、準住居地域、都市計画区域で用途地域の定められていない地域 | 55デシベル以下 | 45デシベル以下 |
| C | 近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域 | 60デシベル以下 | 50デシベル以下 |

注) 日進市、みよし市については田園住居地域は含まれない。

表 3.2.20(2) 道路に面する地域の騒音に係る環境基準

| 時間の区分 地域の区分 | | 基準値 | |
|--|--|-------------------|----------------------|
| | | 昼 間 午前6時～午後10時 | 夜 間 午後10時～翌日の午前6時 |
| A地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域 | | 60デシベル以下 | 55デシベル以下 |
| B地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域及びC地域のうち車線を有する道路に面する地域 | | 65デシベル以下 | 60デシベル以下 |

備考 車線とは1縦列の自動車安全かつ円滑に走行するために必要な一定の幅員を有する帯状の車道部分をいう。幹線交通を担う道路に近接する空間は、特例として表 3.2.20(3)の基準による。

表 3.2.20(3) 幹線交通を担う道路に近接する空間の騒音に係る環境基準（特例）

| 基 準 値 | |
|----------------|-------------------|
| 昼 間 午前6時～午後10時 | 夜 間 午後10時～翌日の午前6時 |
| 70デシベル以下 | 65デシベル以下 |

備考 個別の住居等において騒音の影響を受けやすい面の窓を主として閉めた生活が営まれていると認められるときは、屋内へ透過する騒音に係る基準（昼間にあっては45デシベル以下、夜間にあっては40デシベル以下）によることができる。

注1) 「幹線交通を担う道路」とは、次に掲げる道路をいう。

① 高速自動車国道、一般国道、都道府県道及び市町村道（市町村道は4車線以上の区間）

② 一般自動車道であって都市計画法施行規則第7条第1号に定める自動車専用道路

注2) 「幹線交通を担う道路に近接する空間」とは、次の車線数の区分に応じ、道路端からの距離により、特定された範囲をいう。

① 2車線以下の車線を有する幹線交通を担う道路 15メートル

② 2車線を超える車線を有する幹線交通を担う道路 20メートル

出典：「騒音に係る環境基準について」（平成10年環境庁告示第64号）

「騒音に係る環境基準の地域の類型」（平成11年愛知県告示第261号）

「環境基本法の規定に基づく騒音に係る環境基準の地域の類型」（平成24年日進市告示第79号）

「騒音に係る環境基準について」（平成24年みよし市告示第11号）

「環境基本法に基づく騒音に係る環境基準の地域の指定」（平成24年豊田市告示第121号）

(2) 騒音に係る規制基準

① 特定工場等に係る騒音の規制基準

「騒音規制法」（昭和43年法律第98号）及び「県条例」等に基づく特定工場等に係る規制基準は、表 3.2.21に示すとおりである。

対象事業実施想定区域は都市計画区域で用途地域の定められていない地域に該当する。

表 3.2.21 特定工場等に係る騒音規制基準

| 時間の区分 地域の区分 | | 昼 間 | 朝・夕 | 夜 間 |
|----------------|--|------------------|---------------------------------------|----------------------|
| | | 午前8時から 午後7時まで | 午前6時から午前8時 まで 午後7時から午後10時 まで | 午後10時から 翌日の午前6時まで |
| 第1種区域 | 第1種低層住居専用地域 第2種低層住居専用地域 第1種中高層住居専用地域 第2種中高層住居専用地域 田園住居地域 | 45デシベル | 40デシベル | 40デシベル |
| 第2種区域 | 第1種住居地域 第2種住居地域 準住居地域 | 50デシベル | 45デシベル | 40デシベル |
| 第3種区域 | 近隣商業地域 商業地域 準工業地域 | 65デシベル | 60デシベル | 50デシベル |
| | 都市計画区域で用途地域の 定められていない地域 | 60デシベル | 55デシベル | 50デシベル |
| 第4種区域 | 工業地域 | 70デシベル | 65デシベル | 60デシベル |
| | 工業専用地域 | 75デシベル | 75デシベル | 70デシベル |
| | 都市計画区域以外の地域 | 60デシベル | 55デシベル | 50デシベル |

1 第3種区域、第4種区域、工業専用地域及び都市計画区域以外の地域内に所在する学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する学校、児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条第1項に規定する保育所、医療法（昭和23年法律第205号）第1条の5第1項に規定する病院及び同条第2項に規定する診療所のうち患者を入院させるための施設を有するもの、図書館法（昭和25年法律第118号）第2条第1項に規定する図書館、老人福祉法（昭和38年法律第133号）第5条の3に規定する特別養護老人ホーム並びに就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律（平成18年法律第77号）第2条第7項に規定する幼保連携型認定こども園の周囲50mの区域内における基準は、上の表に掲げるそれぞれの値から5デシベルを減じた値とする。

2 第1種低層住居専用地域、第2種低層住居専用地域、第1種中高層住居専用地域、第2種中高層住居専用地域、第1種住居地域、第2種住居地域、準住居地域又は田園住居地域に接する工業地域又は工業専用地域の当該接する境界線から当該工業地域又は工業専用地域内へ50mの範囲内における基準は、上の表に掲げるそれぞれの値から5デシベルを減じた値とする。（1の適用を受ける区域は除く。）

出典：「特定工場等において発生する騒音の規制に関する基準」（昭和43年厚生省・農林省・通商産業省・運輸省告示第1号）

「特定工場等において発生する騒音の規制基準」（昭和46年愛知県告示第800号）

「県民の生活環境の保全等に関する条例施行規則」（平成15年愛知県規則第87号）

② 特定建設作業に係る騒音の規制基準

「騒音規制法」及び「県条例」等に基づき、特定建設作業に係る騒音の基準が定められている。

特定建設作業に係る規制基準は、表 3.2.22に示すとおりである。

対象事業実施想定区域は、都市計画区域で用途地域の定められていない地域となっており、

①地域の基準が適用される。

表 3.2.22 特定建設作業に係る騒音の規制基準

| 規制の種別 | 地域の区分 | 基準等 |
|-------------|-------|------------------------|
| 基準値 | ①②③ | 85デシベルを超えないこと |
| 作業時間 | ① | 午後7時～翌日の午前7時の時間内でないこと |
| | ② | 午後10時～翌日の午前6時の時間内でないこと |
| *1日あたりの作業時間 | ① | 10時間を超えないこと |
| | ② | 14時間を超えないこと |
| 作業期間 | ①②③ | 連続6日を超えないこと |
| 作業日 | ①②③ | 日曜日その他の休日でないこと |

注1) 基準値は、騒音特定建設作業の場所の敷地の境界線での値。

注2) 基準値を超えている場合、騒音の防止の方法の改善のみならず1日の作業時間を4時間以上*欄に定める時間未満の間において短縮させることを勧告・命令することができる。

注3) 地域の区分

①地域：ア 第1種低層住居専用地域、第2種低層住居専用地域、第1種中高層住居専用地域、第2種中高層住居専用地域、第1種住居地域、第2種住居地域、準住居地域、田園住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域、都市計画区域で用途地域の定められていない地域及び都市計画区域以外の地域

イ 工業地域及び工業専用地域のうち、学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する学校、児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条第2項に規定する保育所、医療法（昭和23年法律第205号）第1条の5第1項に規定する病院及び同条第2項に規定する診療所のうち患者を入院させるための施設を有するもの、図書館法（昭和25年法律第118号）第2条第1項に規定する図書館、老人福祉法（昭和38年法律第133号）第5条の3に規定する特別養護老人ホーム並びに就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律（平成18年法律第77号）第2条第7項に規定する幼保連携型認定こども園の敷地の周囲おおむね80mの区域

②地域：工業地域（①地域のイの区域を除く。）

③地域：工業専用地域（①地域のイの区域を除く。）

出典：「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」（昭和43年厚生省・建設省告示第1号）

「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準により指定する区域」（昭和46年愛知県告示第801号）

「県民の生活環境の保全等に関する条例施行規則」（平成15年愛知県規則第87号）

③ 自動車騒音に係る要請限度

「騒音規制法」に基づく自動車騒音に係る要請限度は表 3.2.23に示すとおり定められている。

表 3.2.23 自動車騒音に係る要請限度

| 区域区分 | 時間区分 | | 道路に面する地域 | | 幹線交通を担う道路 に近接する空間 |
|------|------|----------|----------|--------|------------------------|
| | | | 1車線 | 2車線以上 | |
| a | 昼間 | 6時～22時 | 65デシベル | 70デシベル | 昼間 75デシベル 夜間 70デシベル |
| | 夜間 | 22時～翌日6時 | 55デシベル | 65デシベル | |
| b | 昼間 | 6時～22時 | 65デシベル | 75デシベル | |
| | 夜間 | 22時～翌日6時 | 55デシベル | 70デシベル | |
| c | 昼間 | 6時～22時 | 75デシベル | | |
| | 夜間 | 22時～翌日6時 | 70デシベル | | |

※区域区分

a 区域：第1種低層住居専用地域、第2種低層住居専用地域、第1種中高層住居専用地域、第2種中高層住居専用地域及び田園住居地域

b 区域：第1種住居地域、第2種住居地域、準住居地域及び都市計画区域で用途地域の定められていない地域

c 区域：近隣商業地域、商業地域、準工業地域及び工業地域

（日進市、みよし市については田園住居地域は含まれない。）

注1) 要請限度とは、「騒音規制法」第17条第1項の規定に基づく「自動車騒音がその限度を超えていることにより、道路の周辺の生活環境が著しく損なわれていると認められるときに、市町村長が県公安委員会に「道路交通法」（昭和35年法律第105号）の規定による措置を執るべきことを要請するものとする」際の限度をいう。

注2) 「幹線交通を担う道路」とは、次に掲げる道路をいう。

① 高速自動車国道、一般国道、都道府県道及び市町村道（市町村道は4車線以上の区間）

② 一般自動車道であって都市計画法施行規則第7条第1号に定める自動車専用道路

注3) 「幹線交通を担う道路に近接する区域」とは、次の車線数の区分に応じ、道路端からの距離により、特定された範囲をいう。

① 2車線以下の車線を有する幹線交通を担う道路 15メートル

② 2車線を超える車線を有する幹線交通を担う道路 20メートル

出典：「騒音規制法第17条第1項の規定に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める省令」

（平成12年総理府令第15号）

「騒音規制法第17条第1項の規定に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める省令による区域の区分」

（平成12年愛知県告示第312号）

「騒音規制法に基づく特定工場・特定建設作業・特定工場の規制基準、自動車騒音の限度を定める区域の区分」

（平成24年日進市告示第80号）

「騒音規制法に基づく騒音の規制地域の指定」（平成24年みよし市告示第12号）

「騒音規制法に基づく騒音の規制地域等の指定及び規制基準の設定」（平成10年豊田市告示第62号）

3.2.8.3 振動

(1) 振動に係る規制基準

① 特定工場等に係る振動の規制基準

「振動規制法」（昭和51年法律第64号）及び「県条例」等に基づき、著しい振動を発生する施設を設置する工場等に係る規制基準は表 3.2.24に示すとおり定められている。

対象事業実施想定区域は都市計画区域で用途地域の定められていない地域となっており、第2種区域の1の基準が適用される。

表 3.2.24 特定工場等に係る振動規制基準

| 地域区分 | | | 時間区分 | 昼 間 | 夜 間 |
|-------|---|--|-------------|------------------|---------------------|
| | | | | 午前7時から 午後8時まで | 午後8時から 翌日の午前7時まで |
| 第1種区域 | 1 | 第1種低層住居専用地域 第2種低層住居専用地域 第1種中高層住居専用地域 第2種中高層住居専用地域 田園住居地域 | | 60デシベル | 55デシベル |
| | 2 | 第1種住居地域 第2種住居地域 準住居地域 | | 65デシベル | 55デシベル |
| 第2種区域 | 1 | 近隣商業地域 商業地域 準工業地域 都市計画区域で用途地域の定められていない地域 | | 65デシベル | 60デシベル |
| | 2 | 工業地域 | | 70デシベル | 65デシベル |
| | | | 工業専用地域 | 75デシベル | 70デシベル |
| | | | 都市計画区域以外の地域 | 65デシベル | 60デシベル |

- 工業地域及び工業専用地域のうち、学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する学校、児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条第1項に規定する保育所、医療法（昭和23年法律第205号）第1条の5第1項に規定する病院及び同条第2項に規定する診療所のうち患者を入院させるための施設を有するもの、図書館法（昭和25年法律第118号）第2条第1項に規定する図書館、老人福祉法（昭和38年法律第133号）第5条の3に規定する特別養護老人ホーム並びに就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律（平成18年法律第77号）第2条第7項に規定する幼保連携型認定こども園の敷地の周囲50mの区域内における基準は、上の表に掲げるそれぞれの値から5デシベルを減じた値とする。
- 第1種低層住居専用地域、第2種低層住居専用地域、第1種中高層住居専用地域、第2種中高層住居専用地域、第1種住居地域、第2種住居地域、準住居地域又は田園住居地域に接する工業地域又は工業専用地域の当該接する境界線から当該工業地域又は工業専用地域内へ50mの範囲内における基準は、上の表に掲げるそれぞれの値から5デシベルを減じた値とする（1の適用を受ける区域は除く。）。

出典：「特定工場等において発生する振動の規制に関する基準」（昭和51年環境庁告示第90号）

「特定工場等において発生する振動の規制基準」（昭和52年愛知県告示第1047号）

「県民の生活環境の保全等に関する条例施行規則」（平成15年愛知県規則第87号）

② 特定建設作業に係る振動の規制基準

「振動規制法」及び「県条例」等に基づき、建設工事として行われる作業のうち著しい振動を発生する作業及び振動の規制基準は表 3.2.25に示すとおり定められている。

対象事業実施想定区域は都市計画区域で用途地域の定められていない地域となっており、①地域の基準が適用される。

表 3.2.25 特定建設作業に係る振動の規制基準

| 規制の種別 | 地域の区分 | 基準等 |
|-------------|-------|------------------------|
| 基準値 | ①②③ | 75デシベルを超えないこと |
| 作業時間 | ① | 午後7時～翌日の午前7時の時間内でないこと |
| | ② | 午後10時～翌日の午前6時の時間内でないこと |
| *1日あたりの作業時間 | ① | 10時間を超えないこと |
| | ② | 14時間を超えないこと |
| 作業期間 | ①②③ | 連続6日を超えないこと |
| 作業日 | ①②③ | 日曜日その他の休日でないこと |

注1) 基準値は、振動特定建設作業の場所の敷地の境界線での値。

注2) 基準値を超えている場合、振動の防止の方法の改善のみならず1日の作業時間を4時間以上*欄に定める時間未満の間に於いて短縮させることを勧告・命令することができる。

注3) 地域の区分

①地域：ア 第1種低層住居専用地域、第2種低層住居専用地域、第1種中高層住居専用地域、第2種中高層住居専用地域、第1種住居地域、第2種住居地域、準住居地域、田園住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域、都市計画区域で用途地域の定めのない地域及び都市計画区域以外の地域

イ 工業地域及び工業専用地域のうち学校教育法第1条に規定する学校、児童福祉法第7条第1項に規定する保育所、医療法第1条の5第1項に規定する病院及び同条第2項に規定する診療所のうち患者を入院させるための施設を有するもの、図書館法第2条第1項に規定する図書館、老人福祉法第5条の3に規定する特別養護老人ホーム並びに就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律第2条第7項に規定する幼保連携型認定こども園の敷地の周囲80mの区域

②地域：工業地域（①地域のイの区域を除く。）

③地域：工業専用地域（①地域のイの区域を除く。）

出典：「振動規制法施行規則」（昭和51年総理府令第58号）

「振動規制法施行規則別表第1 付表第1号の規定に基づく区域の指定」（昭和52年愛知県告示第1048号）

「県民の生活環境の保全等に関する条例施行規則」（平成15年愛知県規則第87号）

③ 道路交通振動に係る要請限度

「振動規制法」に基づく道路交通振動に係る要請限度は、表 3.2.26に示すとおりである。

表 3.2.26 道路交通振動に係る要請限度

| 区域区分 | 要請限度 | |
|------|--------------------|-----------------------|
| | 昼間 午前7時から午後8時まで | 夜間 午後8時から翌日の午前7時まで |
| 第1種 | 65デシベル | 60デシベル |
| 第2種 | 70デシベル | 65デシベル |

※区域の区分

第1種区域：第1種低層住居専用地域、第2種低層住居専用地域、第1種中高層住居専用地域、第2種中高層住居専用地域、第1種住居地域、第2種住居地域、準住居地域及び田園住居地域

第2種区域：近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域及び都市計画区域で用途地域の定められていない地域

注) 要請限度とは、「振動規制法」第16条第1項の規定に基づく「道路交通振動がその限度を超えていることにより、道路の周辺の生活環境が著しく損われていると認められるときに、市町村長が道路管理者に対し該当道路の部分につき道路交通振動の防止のための舗装、維持又は修繕の措置を執るべきことを要請し、又は県公安委員会に道路交通法の規定による措置を執るべきことを要請するものとする」際の限度をいう。

出典：「振動規制法施行規則」（昭和51年総理府令第58号）

「振動規制法施行規則別表第2備考1の規定に基づく区域の区分及び同表備考2の規定に基づく時間の区分の指定」

（昭和52年愛知県告示第1049号）

「振動規制法の規定に基づく特定工場・特定建設作業、道路交通振動の区域の区分及び時間の区分」

（平成24年日進市告示第81号）

「振動規制法に基づく振動の規制地域の指定」（平成24年みよし市告示第13号）

「振動規制法に基づく振動の規制地域等の指定及び規制基準の設定」（平成10年豊田市告示第63号）

3.2.8.4 悪臭

愛知県は県内全域が「悪臭防止法」（昭和46年法律第91号）の規制地域であり、対象事業実施想定区域が位置する東郷町においても臭気指数による規制が行われている。「悪臭防止法」に基づく臭気指数による規制基準及び規制区分は表 3.2.27に示すとおりである。

対象事業実施想定区域は、第2種地域に該当する。

表 3.2.27 悪臭防止法に基づく臭気指数による規制基準

| 規制区分 | 敷地境界 (1号基準) | 気体排出口 (2号基準) | 排水 (3号基準) |
|-------|----------------|---|--------------|
| 第1種地域 | 臭気指数12 | 規制地域の区分に従い、それぞれの欄に掲げる規制基準を基礎として、悪臭防止法施行規則（昭和47年総理府令第39号）第6条の2に定める方法により算出した値 | 臭気指数28 |
| 第2種地域 | 臭気指数15 | | 臭気指数31 |
| 第3種地域 | 臭気指数18 | | 臭気指数34 |

注1) 臭気指数は、試料を人間の嗅覚で臭気を感じられなくなるまで無臭の空気（試料が水の場合は無臭の水）で希釈したときの希釈倍率（臭気濃度）から次式により算定される。

$$(\text{臭気指数}) = 10 \times \log_{10} (\text{臭気濃度})$$

(参考) 臭気指数10：ほとんどの人が気にならない臭気

臭気指数12～15：気をつければ分かる臭気（希釈倍率16～32倍）

臭気指数18～21：らくに感知できる臭気（希釈倍率63～126倍）

注2) 「悪臭防止法施行規則」において気体排出口の高さが15m以上と15m未満の施設に分けて設定方法が定められている。

・15m未満 指標：臭気指数

大気拡散式：流量を測定しない簡易な方法

・15m以上 指標：臭気排出強度

大気拡散式：建物の影響による拡散場の乱れを考慮した大気拡散式

出典：「悪臭防止法施行規則」（昭和47年総理府令第39号）

「悪臭防止法による規制地域の指定及び規制基準の設定」（平成18年愛知県告示第378号）

3.2.8.5 水質**(1) 水質汚濁に係る環境基準****① 人の健康の保護に関する環境基準**

「環境基本法」に基づく人の健康の保護に関する環境基準は表 3.2.28に示すとおりである。
人の健康の保護に関する環境基準は全公共用水域について定められている。

表 3.2.28 人の健康の保護に関する環境基準（健康項目）

| 項 目 | 基 準 値 | 項 目 | 基 準 値 |
|-----------------|--------------|----------------|-------------|
| カドミウム | 0.003mg/L以下 | 1,1,2-トリクロロエタン | 0.006mg/L以下 |
| 全シアン | 検出されないこと。 | トリクロロエチレン | 0.01mg/L以下 |
| 鉛 | 0.01mg/L以下 | テトラクロロエチレン | 0.01mg/L以下 |
| 六価クロム | 0.02mg/L以下 | 1,3-ジクロロプロペン | 0.002mg/L以下 |
| 砒素 | 0.01mg/L以下 | チウラム | 0.006mg/L以下 |
| 総水銀 | 0.0005mg/L以下 | シマジン | 0.003mg/L以下 |
| アルキル水銀 | 検出されないこと。 | チオベンカルブ | 0.02mg/L以下 |
| P C B | 検出されないこと。 | ベンゼン | 0.01mg/L以下 |
| ジクロロメタン | 0.02mg/L以下 | セレン | 0.01mg/L以下 |
| 四塩化炭素 | 0.002mg/L以下 | 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 | 10mg/L以下 |
| 1,2-ジクロロエタン | 0.004mg/L以下 | ふっ素 | 0.8mg/L以下 |
| 1,1-ジクロロエチレン | 0.1mg/L以下 | ほう素 | 1mg/L以下 |
| シス-1,2-ジクロロエチレン | 0.04mg/L以下 | 1,4-ジオキサン | 0.05mg/L以下 |
| 1,1,1-トリクロロエタン | 1mg/L以下 | | |

注1) 基準値は年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。

注2) 「検出されないこと。」とは、測定方法の定量限界を下回ることをいう。

注3) 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の濃度は、規格K0102-2 15.3、15.4、15.6、15.7又は15.8により測定された硝酸イオンの濃度に換算係数0.2259を乗じたものと、規格K0102-2 14.2、14.3又は14.4により測定された亜硝酸イオンの濃度に換算係数0.3045を乗じたものの和とする。

出典：「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年環境庁告示59号）

② 生活環境の保全に関する環境基準

生活環境の保全に関する環境基準は、河川、湖沼、海域について利用目的に応じて水域類型を設定してそれぞれの基準が定められている。河川に適用される環境基準は表 3.2.29に、湖沼に適用される環境基準は表 3.2.30に示すとおりである。

対象事業実施想定区域東側を流れる境川は、B類型に指定されている。

表 3.2.29 生活環境の保全に関する環境基準（生活環境項目（河川））

ア

| 項目 類型 | 利用目的の適応性 ^{注)} | 水素イオン 濃度 (pH) | 生物化学的 酸素要求量 (BOD) | 浮遊物質 量 (SS) | 溶存酸素量 (DO) | 大腸菌数 |
|----------|---------------------------------|---------------------|-------------------------|--------------------------|---------------|----------------------|
| A A | 水道1級 自然環境保全 及びA以下の欄に掲げるもの | 6.5以上 8.5以下 | 1mg/L 以下 | 25mg/L 以下 | 7.5mg/L 以上 | 20CFU/ 100mL以下 |
| A | 水道2級 水産1級 及びB以下の欄に掲げるもの | 6.5以上 8.5以下 | 2mg/L 以下 | 25mg/L 以下 | 7.5mg/L 以上 | 300CFU/ 100mL以下 |
| B | 水道3級 水産2級 及びC以下の欄に掲げるもの | 6.5以上 8.5以下 | 3mg/L 以下 | 25mg/L 以下 | 5mg/L 以上 | 1,000CFU/ 100mL以下 |
| C | 水産3級 工業用水1級 及びD以下の欄に掲げるもの | 6.5以上 8.5以下 | 5mg/L 以下 | 50mg/L 以下 | 5mg/L 以上 | — |
| D | 工業用水2級 農業用水 及びEの欄に掲げるもの | 6.0以上 8.5以下 | 8mg/L 以下 | 100mg/L 以下 | 2mg/L 以上 | — |
| E | 工業用水3級 環境保全 | 6.0以上 8.5以下 | 10mg/L 以下 | ごみ等の浮遊 が認められな いこと。 | 2mg/L 以上 | — |

備考

- 1 基準値は、日間平均値とする。ただし、大腸菌数に係る基準値については、90%水質値（年間の日間平均値の全データをその値の小さいものから順に並べた際の $0.9 \times n$ 番目（ n は日間平均値のデータ数）のデータ値（ $0.9 \times n$ が整数でない場合は端数を切り上げた整数番目の値をとる。）とする（湖沼、海域もこれに準ずる。）。
- 2 農業用利水点については、水素イオン濃度6.0以上7.5以下、溶存酸素量5mg/L以上とする（湖沼もこれに準ずる。）。
- 3 水質自動監視測定装置とは、当該項目について自動的に計測することができる装置であって、計測結果を自動的に記録する機能を有するもの又はその機能を有する機器と接続されているものをいう（湖沼、海域もこれに準ずる。）。
- 4 水道1級を利用目的としている測定点（自然環境保全を利用目的としている測定点を除く。）については、大腸菌数100CFU/100ml以下とする。
- 5 いずれの類型においても、水浴を利用目的としている測定点（自然環境保全及び水道1級を利用目的としている測定点を除く。）については、大腸菌数300CFU/100ml 以下とする。
- 6 水産1級、水産2級及び水産3級のみを利用目的とする場合については、当分の間、大腸菌数の項目の基準値は適用しない（湖沼、海域もこれに準ずる。）。
- 7 大腸菌数に用いる単位はCFU（コロニー形成単位（Colony Forming Unit））/100mlとし、大腸菌を培地で培養し、発育したコロニー数を数えることで算出する。

注)

- 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
- 2 水道1級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
- 水道2級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの
- 水道3級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
- 3 水産1級：ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用
- 水産2級：サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産3級の水産生物用
- 水産3級：コイ、フナ等、 β -中腐水性水域の水産生物用
- 4 工業用水1級：沈殿等による通常の浄水操作を行うもの
- 工業用水2級：薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの
- 工業用水3級：特殊の浄水操作を行うもの
- 5 環境保全：国民の日常生活（沿岸の散歩等を含む。）において不快感を生じない限度

イ

| 項目 類型 | 水生生物の生息状況の適応性 | 全垂鉛 | ノニルフェノール | 直鎖アルキルベン ゼンスルホン酸 及びその塩 |
|----------|---|------------|--------------|------------------------------|
| 生物A | イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域 | 0.03mg/L以下 | 0.001mg/L以下 | 0.03mg/L以下 |
| 生物特A | 生物Aの水域のうち、生物Aの欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域 | 0.03mg/L以下 | 0.0006mg/L以下 | 0.02mg/L以下 |
| 生物B | コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域 | 0.03mg/L以下 | 0.002mg/L以下 | 0.05mg/L以下 |
| 生物特B | 生物A又は生物Bの水域のうち、生物Bの欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域 | 0.03mg/L以下 | 0.002mg/L以下 | 0.04mg/L以下 |

備考 基準値は、年間平均値とする。

出典：「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年環境庁告示59号）

表 3.2.30 生活環境の保全に関する環境基準（生活環境項目（湖沼））

ア

| 項目 類型 | 利用目的の適応性 | 基準値 | | | | |
|----------|-------------------------------|---------------------|-----------------------|------------------|---------------|--------------------|
| | | 水素イオン 濃度 (pH) | 化学的 酸素要求量 (COD) | 浮遊物質量 (SS) | 溶存酸素量 (DO) | 大腸菌数 |
| A A | 水道1級、水産1級、自然環境保全及びA以下の欄に掲げるもの | 6.5以上 8.5以下 | 1mg/L以下 | 1mg/L以下 | 7.5mg/L以上 | 20CFU/ 100ml以下 |
| A | 水道2、3級、水産2級及びB以下の欄に掲げるもの | 6.5以上 8.5以下 | 3mg/L以下 | 5mg/L以下 | 7.5mg/L以上 | 300CFU/ 100ml以下 |
| B | 水産3級、工業用水1級、農業用水及びCの欄に掲げるもの | 6.5以上 8.5以下 | 5mg/L以下 | 15mg/L以下 | 5mg/L以上 | — |
| C | 工業用水2級、環境保全 | 6.0以上 8.5以下 | 8mg/L以下 | ごみ等の浮遊が認められないこと。 | 2mg/L以上 | — |

備考：水産1級、水産2級及び水産3級については、当分の間、浮遊物質量の項目の基準値は適用しない。

注)

- 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
- 2 水道1級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
水道2、3級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作、又は、前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
- 3 水産1級：ヒメマス等貧栄養湖型の水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用
水産2級：サケ科魚類及びアユ等貧栄養湖型の水域の水産生物用及び水産3級の水産生物用
水産3級：コイ、フナ等富栄養湖型の水域の水産生物用
- 4 工業用水1級：沈殿等による通常の浄水操作を行うもの
工業用水2級：薬品注入等による高度の浄水操作、又は、特殊な浄水操作を行うもの
- 5 環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

イ

| 項目 類型 | 利用目的の適応性 | 基準値 | |
|----------|---|-----------|-------------|
| | | 全窒素 | 全磷 |
| I | 自然環境保全及びII以下の欄に掲げるもの | 0.1mg/L以下 | 0.005mg/L以下 |
| II | 水道1、2、3級（特殊なものを除く。）、水産1種及びIII以下の欄に掲げるもの | 0.2mg/L以下 | 0.01mg/L以下 |
| III | 水道3級（特殊なもの）及びIV以下の欄に掲げるもの | 0.4mg/L以下 | 0.03mg/L以下 |
| IV | 水産2種及びVの欄に掲げるもの | 0.6mg/L以下 | 0.05mg/L以下 |
| V | 水産3種、工業用水、農業用水、環境保全 | 1mg/L以下 | 0.1mg/L以下 |

備考1 基準値は年間平均値とする。

備考2 水域類型の指定は、湖沼植物プランクトンの著しい増殖を生ずるおそれがある湖沼について行うものとし、全窒素の項目の基準値は、全窒素が湖沼植物プランクトンの増殖の要因となる湖沼について適用する。

備考3 農業用水については、全磷の項目の基準値は適用しない。

注)

- 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
- 2 水道1級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
水道2級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの
水道3級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの（「特殊なもの」とは、臭気物質の除去が可能な特殊な浄水操作を行うものをいう。）
- 3 水産1種：サケ科魚類及びアユ等の水産生物用並びに水産2種及び水産3種の水産生物用
水産2種：ワカサギ等の水産生物用及び水産3種の水産生物用
水産3種：コイ、フナ等の水産生物用
- 4 環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

ウ

| 項目 類型 | 水生生物の生息状況の適応性 | 基準値 | | |
|----------|---|------------|--------------|--------------------------|
| | | 全亜鉛 | ノニル フェノール | 直鎖アルキルベンゼン スルホン酸及びその塩 |
| 生物A | イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域 | 0.03mg/L以下 | 0.001mg/L以下 | 0.03mg/以下 |
| 生物特A | 生物Aの水域のうち、生物Aの欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域 | 0.03mg/L以下 | 0.0006mg/L以下 | 0.02mg/以下 |
| 生物B | コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域 | 0.03mg/L以下 | 0.002mg/L以下 | 0.05mg/以下 |
| 生物特B | 生物A又は生物Bの水域のうち、生物Bの欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域 | 0.03mg/L以下 | 0.002mg/L以下 | 0.04mg/以下 |

エ

| 項目 類型 | 水生生物が生息・再生産する場の適応性 | 基準値 |
|----------|--|-----------|
| | | 底層溶存酸素量 |
| 生物1 | 生息段階において貧酸素耐性の低い水生生物が生息できる場を保全・再生する水域又は再生産段階において貧酸素耐性の低い水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域 | 4.0mg/L以上 |
| 生物2 | 生息段階において貧酸素耐性の低い水生生物を除き、水生生物が生息できる場を保全・再生する水域又は再生産段階において貧酸素耐性の低い水生生物を除き、水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域 | 3.0mg/L以上 |
| 生物3 | 生息段階において貧酸素耐性の高い水生生物が生息できる場を保全・再生する水域、再生産段階において貧酸素耐性の高い水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域又は無生物域を解消する水域 | 2.0mg/L以上 |

備考1 基準値は、日間平均値とする。

備考2 底面近傍で溶存酸素量の変化が大きいたことが想定される場合の採水には、横型のバンドン採水器を用いる。

出典：「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年環境庁告示59号）

③ ダイオキシン類に係る環境基準

「ダイオキシン類対策特別措置法」に基づくダイオキシン類の環境基準は表 3.2.31に示すとおりである。

ダイオキシン類の環境基準は公共用水域及び底質について定められている。

表 3.2.31 ダイオキシン類に係る環境基準（水質及び水底の底質）

| 項目 | 基準値 |
|----------------|---------------|
| 水 質（水底の底質を除く。） | 1pg-TEQ/L以下 |
| 水底の底質 | 150pg-TEQ/g以下 |

備考1 基準値は、2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの毒性に換算した値とする。

備考2 基準値（水底の底質を除く。）は、年間平均値とする。

出典：「ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁（水底の底質の汚染を含む。）及び土壌の汚染に係る環境基準について」（平成11年環境庁告示第68号）

(2) 水質汚濁に係る規制基準

① 一律排水基準

一般廃棄物処理施設である焼却施設は、「水質汚濁防止法」（昭和45年法律第138号）に定める特定施設に該当する。特定施設を設置する事業場（特定事業場）は、排水量に関わらず有害物質に係る排水基準が適用される。有害物質に係る排水基準は、表 3.2.32に示すとおりである。

また、特定事業場からの排水が 50m³/日以上の場合には、表 3.2.33 に示す排水基準が適用される。なお、対象事業実施想定区域は窒素含有量及び燐含有量の排水基準の適用地域となっている。

表 3.2.32 排水基準（有害物質）

| 有害物質の種類 | 許容限度 |
|--|---|
| カドミウム及びその化合物 | 0.03mg/L |
| シアン化合物 | 1mg/L |
| 有機燐化合物（パラチオン、メチルパラチオン、メチルジメトン及びE P Nに限る） | 1mg/L |
| 鉛及びその化合物 | 0.1mg/L |
| 六価クロム化合物 | 0.2mg/L |
| 砒素及びその化合物 | 0.1mg/L |
| 水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物 | 0.005mg/L |
| アルキル水銀化合物 | 検出されないこと。 |
| ポリ塩化ビフェニル | 0.003mg/L |
| トリクロロエチレン | 0.1mg/L |
| テトラクロロエチレン | 0.1mg/L |
| ジクロロメタン | 0.2mg/L |
| 四塩化炭素 | 0.02mg/L |
| 1,2-ジクロロエタン | 0.04mg/L |
| 1,1-ジクロロエチレン | 1mg/L |
| シス-1,2-ジクロロエチレン | 0.4mg/L |
| 1,1,1-トリクロロエタン | 3mg/L |
| 1,1,2-トリクロロエタン | 0.06mg/L |
| 1,3-ジクロロプロペン | 0.02mg/L |
| チウラム | 0.06mg/L |
| シマジン | 0.03mg/L |
| チオベンカルブ | 0.2mg/L |
| ベンゼン | 0.1mg/L |
| セレン及びその化合物 | 0.1mg/L |
| ほう素及びその化合物 | 海域以外10mg/L 海域230mg/L |
| ふっ素及びその化合物 | 海域以外8mg/L 海域15mg/L |
| アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物 | 100mg/L（アンモニア性窒素に0.4を乗じたもの、亜硝酸性窒素及び硝酸性窒素の合計量） |
| 1,4-ジオキサン | 0.5mg/L |

備考 「検出されないこと。」とは、「排水基準を定める省令」（昭和46年総理府令第35号）第2条の規定に基づき環境大臣が定める方法により排出水の汚染状態を検定した場合において、その結果が当該検定方法の定量限界を下回ることをいう。

出典：「排水基準を定める省令」（昭和46年総理府令第35号）

表 3.2.33 排水基準（生活環境項目）

| 項目 | 許容限度 |
|-----------------|---|
| 水素イオン濃度 | 海域以外 5.8以上8.6以下 海域5.0以上9.0以下 |
| 生物化学的酸素要求量 | 160mg/L（日間平均120mg/L） |
| 化学的酸素要求量 | 160mg/L（日間平均120mg/L） |
| 浮遊物質 | 200mg/L（日間平均150mg/L） |
| ノルマルヘキサン抽出物質含有量 | <div> <div> <div>鉍油類</div> <div>動植物油脂類</div> </div> <div>5mg/L</div> <div>30mg/L</div> </div> |
| フェノール類含有量 | 5mg/L |
| 銅含有量 | 3mg/L |
| 亜鉛含有量 | 2mg/L |
| 溶解性鉄含有量 | 10mg/L |
| 溶解性マンガン含有量 | 10mg/L |
| クロム含有量 | 2mg/L |
| 大腸菌数 | 日間平均800 CFU/mL |
| 窒素含有量 | 120mg/L（日間平均60mg/L） |
| 燐含有量 | 16mg/L（日間平均8mg/L） |

備考

「日間平均」による許容限度は、1日の排出水の平均的な汚染状態について定めたものである。

この表に掲げる排水基準は、1日当たりの平均的な排出水の量が50立方メートル以上である工場又は事業場に係る排出水について適用する。

生物化学的酸素要求量についての排水基準は、海域及び湖沼以外の公共用水域に排出される排出水に限って適用し、化学的酸素要求量についての排水基準は、海域及び湖沼に排出される排出水に限って適用する。

窒素含有量についての排水基準は、窒素が湖沼植物プランクトンの著しい増殖をもたらすおそれがある湖沼として環境大臣が定める湖沼、海洋植物プランクトンの著しい増殖をもたらすおそれがある海域（湖沼であって水の塩素イオン含有量が1リットルにつき9,000ミリグラムを超えるものを含む。以下同じ。）として環境大臣が定める海域及びこれらに流入する公共用水域に排出される排出水に限って適用する。

燐含有量についての排水基準は、燐が湖沼植物プランクトンの著しい増殖をもたらすおそれがある湖沼として環境大臣が定める湖沼、海洋植物プランクトンの著しい増殖をもたらすおそれがある海域として環境大臣が定める海域及びこれらに流入する公共用水域に排出される排出水に限って適用する。

出典：「排水基準を定める省令」（昭和46年総理府令第35号）

また、「ダイオキシン類対策特別措置法」に基づく排出水の排出基準は、表 3.2.34に示すとおりである。

表 3.2.34 廃棄物焼却炉に係るダイオキシン類の排出基準（排出水）

| 特定施設種類 | 排出基準（pg-TEQ/L） |
|--|----------------|
| 廃棄物焼却炉（火床面積0.5m ² 以上又は焼却能力50kg/h以上）に係る廃ガス洗浄施設、湿式集じん施設、汚水又は廃液を排出する灰の貯留施設 | 10 |

注）基準値は、2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの毒性に換算した値とする。

出典：「ダイオキシン類対策特別措置法施行令」（平成11年政令第433号）

「ダイオキシン類対策特別措置法施行規則」（平成11年総理府令第67号）

② 総量規制基準

対象事業実施想定区域は、「水質汚濁防止法」に基づく総量規制の指定地域内にあり、排水が50m³/日以上の場合は、COD（化学的酸素要求量）、窒素含有量、りん含有量について、以下に示すとおり、総量規制基準が適用される。なお、総量規制基準値の算出に用いる定数は、表 3.2.35 に示すとおりである。

○COD（化学的酸素要求量）に係る総量規制基準

$$L_{c} = (C_{c j} \cdot Q_{c j} + C_{c i} \cdot Q_{c i} + C_{c o} \cdot Q_{c o}) \times 10^{-3}$$

L_{c} : 排出が許容される汚濁負荷量（単位 1日につきキログラム）

$C_{c j}$: 表 3.2.35に掲げる化学的酸素要求量（単位 1リットルにつきミリグラム）

$C_{c i}$: 表 3.2.35に掲げる化学的酸素要求量（単位 1リットルにつきミリグラム）

$C_{c o}$: 表 3.2.35に掲げる化学的酸素要求量（単位 1リットルにつきミリグラム）

$Q_{c j}$: 平成3年7月1日以後に特定施設の設置又は構造等の変更により増加する特定排出水の量（単位 1日につき立方メートル）

$Q_{c i}$: 昭和55年7月1日から平成3年6月30日までの間に特定施設の設置又は構造等の変更により増加する特定排出水の量。（単位 1日につき立方メートル）

$Q_{c o}$: 特定排出水の量（ $Q_{c j}$ 及び $Q_{c i}$ を除く。）（単位 1日につき立方メートル）

○窒素含有量に係る総量規制基準

$$L_{n} = (C_{n i} \cdot Q_{n i} + C_{n o} \cdot Q_{n o}) \times 10^{-3}$$

L_{n} : 排出が許容される汚濁負荷量（単位 1日につきキログラム）

$C_{n i}$: 表 3.2.35中に掲げる窒素含有量（単位 1リットルにつきミリグラム）

$C_{n o}$: 表 3.2.35中に掲げる窒素含有量（単位 1リットルにつきミリグラム）

$Q_{n i}$: 平成14年10月1日以後に特定施設の設置又は構造等の変更により増加する特定排出水の量（単位 1日につき立方メートル）

$Q_{n o}$: 特定排出水の量（ $Q_{n i}$ を除く。）（単位 1日につき立方メートル）

○りん含有量に係る総量規制基準

$$L_{p} = (C_{p i} \cdot Q_{p i} + C_{p o} \cdot Q_{p o}) \times 10^{-3}$$

L_{p} : 排出が許容される汚濁負荷量（単位 1日につきキログラム）

$C_{p i}$: 表 3.2.35中に掲げるりん含有量（単位 1リットルにつきミリグラム）

$C_{p o}$: 表 3.2.35中に掲げるりん含有量（単位 1リットルにつきミリグラム）

$Q_{p i}$: 平成14年10月1日以後に特定施設の設置又は構造等の変更により増加する特定排出水の量（単位 1日につき立方メートル）

$Q_{p o}$: 特定排出水の量（ $Q_{p i}$ を除く。）（単位 1日につき立方メートル）

表 3.2.35 総量規制基準の定数

| 区分 | | 化学的酸素要求量 (mg/L) | | | 窒素含有量 (mg/L) | | りん含有量 (mg/L) | |
|-------|--------------------------------|-----------------|-----|-----|--------------|-----|--------------|-----|
| | | Ccj | Cci | Cco | Cni | Cno | Cpi | Cpo |
| ごみ処理業 | 日平均排水量 400m ³ 以上 | 30 | 30 | 30 | 20 | 25 | 1 | 1 |
| | 日平均排水量 400m ³ 未満 | | | | | | 1.5 | 2.5 |

出典：「水質汚濁防止法第4条の5第1項及び第2項の規定に基づく化学的酸素要求量に係る総量規制基準」

(平成29年愛知県告示第286号)

「水質汚濁防止法第4条の5第1項及び第2項の規定に基づく窒素含有量に係る総量規制基準」

(平成29年愛知県告示第287号)

「水質汚濁防止法第4条の5第1項及び第2項の規定に基づくりん含有量に係る総量規制基準」

(平成29年愛知県告示第288号)

③ 上乗せ基準

愛知県では、「水質汚濁防止法第三条第三項に基づく排水基準を定める条例」（昭和47年愛知県条例第4号）に基づき、県内全体を7水域に分け、業種や排水量の規模等に応じて上乗せ排水基準を定められている。

対象事業実施想定区域及びその周囲は衣浦湾境川等水域に分類され、表 3.2.36に示す項目の上乗せ基準が適用される。

表 3.2.36 上乗せ排水基準（新設の工場又は事業場（衣浦湾境川等））

| 項目 | | 許容限度 |
|------------|--------|--------------------|
| 生物化学的酸素要求量 | | 25mg/L（日間平均20mg/L） |
| 化学的酸素要求量 | | 25mg/L（日間平均20mg/L） |
| 浮遊物質 | | 30mg/L（日間平均20mg/L） |
| ノルマルヘキサン | 鉱油類 | 2mg/L |
| 抽出物質含有量 | 動植物油脂類 | 10mg/L |
| フェノール類含有量 | | 1mg/L |
| 銅含有量 | | 1mg/L |

注）新設の工場又は事業場にあつては1日当たりの平均的な排水の量が20m³以上である工場又は事業場に係る排水について適用する。ただし、非金属鉱業及び窯業原料精製業に係る工場又は事業場にあつては、すべての工場又は事業場に係る排水について適用する。

出典：「水質汚濁防止法第三条第三項に基づく排水基準を定める条例」（昭和47年愛知県条例第4号）

3.2.8.6 地盤、地下水及び土壌

(1) 地盤

対象事業実施想定区域が位置する東郷町は、「工業用水法」及び「県条例」による揚水規制の規制区域には該当していないが、「県条例」による水量測定器設置義務区域に該当することから、揚水設備のうち、揚水機の吐出口の断面積が19平方センチメートルを超える揚水設備（1事業所に2つ以上ある場合はその断面積の合計）を設置している場合は、水量測定器を設置し、地下水の揚水量を測定し、その結果を知事に報告しなければならない。

(2) 地下水及び土壌

① 地下水及び土壌に係る環境基準

「環境基本法」及び「ダイオキシン類対策特別措置法」に基づく地下水の水質汚濁並びに土壌の汚染に係る環境基準は、表 3.2.37及び表 3.2.38に示すとおり定められている。

表 3.2.37 地下水の水質汚濁に係る環境基準

| 項 目 | 基 準 値 |
|---------------------------------|--------------|
| カドミウム | 0.003mg/L以下 |
| 全シアン | 検出されないこと。 |
| 鉛 | 0.01mg/L以下 |
| 六価クロム | 0.02mg/L以下 |
| 砒素 | 0.01mg/L以下 |
| 総水銀 | 0.0005mg/L以下 |
| アルキル水銀 | 検出されないこと。 |
| P C B | 検出されないこと。 |
| ジクロロメタン | 0.02mg/L以下 |
| 四塩化炭素 | 0.002mg/L以下 |
| クロロエチレン (別名塩化ビニル又は塩化ビニルモノマー) | 0.002mg/L以下 |
| 1,2-ジクロロエタン | 0.004mg/L以下 |
| 1,1-ジクロロエチレン | 0.1mg/L以下 |
| 1,2-ジクロロエチレン | 0.04mg/L以下 |
| 1,1,1-トリクロロエタン | 1mg/L以下 |
| 1,1,2-トリクロロエタン | 0.006mg/L以下 |
| トリクロロエチレン | 0.01mg/L以下 |
| テトラクロロエチレン | 0.01mg/L以下 |
| 1,3-ジクロロプロペン | 0.002mg/L以下 |
| チウラム | 0.006mg/L以下 |
| シマジン | 0.003mg/L以下 |
| チオベンカルブ | 0.02mg/L以下 |
| ベンゼン | 0.01mg/L以下 |
| セレン | 0.01mg/L以下 |
| 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 | 10mg/L以下 |
| ふっ素 | 0.8mg/L以下 |
| ほう素 | 1mg/L以下 |
| 1,4-ジオキサン | 0.05mg/L以下 |
| ダイオキシン類 | 1pg-TEQ/L以下 |

備考

- 1 基準値は年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。
- 2 「検出されないこと。」とは、測定結果が平成9年環境庁告示第10号別表に定められた方法の定量限界を下回ることをいう。
- 3 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の濃度は、規格K0102-2 15.3、15.4、15.6、15.7又は15.8により測定された硝酸イオンの濃度に換算係数0.2259を乗じたものと、規格K0102-2 14.2、14.3又は14.4により測定された亜硝酸イオンの濃度に換算係数0.3045を乗じたものの和とする。
- 4 1,2-ジクロロエチレンの濃度は、規格K0125 5.1、5.2又は5.3.2により測定されたシス体の濃度と規格K0125 5.1、5.2又は5.3.1により測定されたトランス体の濃度の和とする。
- 5 ダイオキシン類の基準値は、2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの毒性に換算した値とする。

出典：「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」（平成9年環境庁告示第10号）

「ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁（水底の底質の汚染を含む。）及び土壌の汚染に係る環境基準」

（平成11年環境庁告示第68号）

表 3.2.38 土壌の汚染に係る環境基準

| 項 目 | 環境上の条件 |
|---------------------------------|--|
| カドミウム | 検液1Lにつき0.003mg以下であり、かつ、農用地においては、米1kgにつき0.4mg以下であること。 |
| 全シアン | 検液中に検出されないこと。 |
| 有機燐 | 検液中に検出されないこと。 |
| 鉛 | 検液1Lにつき0.01mg以下であること。 |
| 六価クロム | 検液1Lにつき0.05mg以下であること。 |
| 砒素 | 検液1Lにつき0.01mg以下であり、かつ、農用地（田に限る。）においては、土壌1kgにつき15mg未満であること。 |
| 総水銀 | 検液1Lにつき0.0005mg以下であること。 |
| アルキル水銀 | 検液中に検出されないこと。 |
| P C B | 検液中に検出されないこと。 |
| 銅 | 農用地（田に限る。）において、土壌1kgにつき125mg未満であること。 |
| ジクロロメタン | 検液1Lにつき0.02mg以下であること。 |
| 四塩化炭素 | 検液1Lにつき0.002mg以下であること。 |
| クロロエチレン （別名塩化ビニル又は塩化ビニルモノマー） | 検液1Lにつき0.002mg以下であること。 |
| 1,2-ジクロロエタン | 検液1Lにつき0.004mg以下であること。 |
| 1,1-ジクロロエチレン | 検液1Lにつき0.1mg以下であること。 |
| 1,2-ジクロロエチレン | 検液1Lにつき0.04mg以下であること。 |
| 1,1,1-トリクロロエタン | 検液1Lにつき1mg以下であること。 |
| 1,1,2-トリクロロエタン | 検液1Lにつき0.006mg以下であること。 |
| トリクロロエチレン | 検液1Lにつき0.01mg以下であること。 |
| テトラクロロエチレン | 検液1Lにつき0.01mg以下であること。 |
| 1,3-ジクロロプロペン | 検液1Lにつき0.002mg以下であること。 |
| チウラム | 検液1Lにつき0.006mg以下であること。 |
| シマジン | 検液1Lにつき0.003mg以下であること。 |
| チオベンカルブ | 検液1Lにつき0.02mg以下であること。 |
| ベンゼン | 検液1Lにつき0.01mg以下であること。 |
| セレン | 検液1Lにつき0.01mg以下であること。 |
| ふっ素 | 検液1Lにつき0.8mg以下であること。 |
| ほう素 | 検液1Lにつき1mg以下であること。 |
| 1,4-ジオキサン | 検液1Lにつき0.05mg以下であること。 |
| ダイオキシン類 | 1,000pg-TEQ/g以下であること。 |

備考

- 環境上の条件のうち検液中濃度に係るものにあつては、平成3年環境庁告示第46号付表に定められた方法により検液を作成し、これを用いて測定を行うものとする。
- カドミウム、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、セレン、ふっ素及びほう素に係る環境上の条件のうち検液中濃度に係る値にあつては、汚染土壌が地下水面から離れており、かつ、原状において当該地下水中のこれらの物質の濃度がそれぞれ地下水1Lにつき0.003mg、0.01mg、0.05mg、0.01mg、0.0005mg、0.01mg、0.8mg及び1mgを超えていない場合には、それぞれ検液1Lにつき0.009mg、0.03mg、0.15mg、0.03mg、0.0015mg、0.03mg、2.4mg及び3mgとする。
- 「検液中に検出されないこと。」とは、測定結果が平成3年環境庁告示第46号別表に定められた方法の定量限界を下回ることをいう。
- 有機燐とは、パラチオン、メチルパラチオン、メチルジメトン及びE P Nをいう。
- 1,2-ジクロロエチレンの濃度は、規格K0125 5.1、5.2又は5.3.2より測定されたシス体の濃度と規格K0125 5.1、5.2又は5.3.1により測定されたトランス体の濃度の和とする。
- ダイオキシン類の基準値は、2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの毒性に換算した値とする。

出典：「土壌汚染に係る環境基準について」（平成3年環境庁告示第46号）

「ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁（水底の底質の汚染を含む。）及び土壌の汚染に係る環境基準」

（平成11年環境庁告示第68号）

② 土壌汚染対策法及び農用地の土壌の汚染防止等に関する法律

「土壌汚染対策法」においては、使用が廃止された有害物質使用特定施設に係る工場又は事業場の敷地であった土地、一定規模（3,000m²）以上の形質の変更が行われる土地、土壌汚染による健康被害が生ずるおそれがある土地について、以下に示す特定有害物質による汚染の可能性のある場合に、土壌汚染状況調査、区域の指定及び健康被害防止のための措置を行うことが定められている。

「土壌汚染対策法」で定める特定有害物質

カドミウム及びその化合物、六価クロム化合物、クロロエチレン、シマジン、シアン化合物、チオベンカルブ、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、1,3-ジクロロプロペン、ジクロロメタン、水銀及びその化合物、セレン及びその化合物、テトラクロロエチレン、チウラム、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、鉛及びその化合物、砒素及びその化合物、ふっ素及びその化合物、ベンゼン、ほう素及びその化合物、PCB、有機りん化合物（パラチオン、メチルパラチオン、メチルジメトン、EPN）

また、「農用地の土壌の汚染防止等に関する法律」（昭和45年法律第139号）においては、以下に示す特定有害物質による農用地の汚染がある場合、農用地土壌汚染対策地域として指定し、農用地土壌汚染対策計画を策定することが定められている。

「農用地の土壌の汚染防止等に関する法律」で定める特定有害物質

カドミウム及びその化合物、銅及びその化合物、砒素及びその化合物

対象事業実施想定区域は、「土壌汚染対策法」に基づく形質変更時要届出区域及び要措置区域、「農用地の土壌の汚染防止等に関する法律」に基づく農用地土壌汚染対策地域のいずれにも指定されていない。

③ 土壌汚染等対策基準

「県条例」において、特定有害物質による土壌汚染等の有無を判断する基準である土壌汚染等対策基準は、表 3.2.39に示すとおり定められている。

表 3.2.39 土壌汚染等対策基準

| 特定有害物質の種類 | 土壌溶出量基準 | 土壌含有量基準 | 地下水基準 |
|----------------|---|-------------------------|---|
| カドミウム及びその化合物 | 0.003mg/L以下 | 45mg/kg以下 | 0.003mg/L以下 |
| 六価クロム化合物 | 0.05mg/L以下 | 250mg/kg以下 | 0.05mg/L以下 |
| クロロエチレン | 0.002mg/L以下 | — | 0.002mg/L以下 |
| シマジン | 0.003mg/L以下 | — | 0.003mg/L以下 |
| シアン化合物 | 検出されないこと | 50mg/kg以下 (遊離シアンとして) | 検出されないこと |
| チオベンカルブ | 0.02mg/L以下 | — | 0.02mg/L以下 |
| 四塩化炭素 | 0.002mg/L以下 | — | 0.002mg/L以下 |
| 1,2-ジクロロエタン | 0.004mg/L以下 | — | 0.004mg/L以下 |
| 1,1-ジクロロエチレン | 0.1mg/L以下 | — | 0.1mg/L以下 |
| 1,2-ジクロロエチレン | 0.04mg/L以下 | — | 0.04mg/L以下 |
| 1,3-ジクロロプロペン | 0.002mg/L以下 | — | 0.002mg/L以下 |
| ジクロロメタン | 0.02mg/L以下 | — | 0.02mg/L以下 |
| 水銀及びその化合物 | 水銀が0.0005mg/L以下、 かつアルキル水銀が検出 されないこと | 15mg/kg以下 | 水銀が0.0005mg/L以下、か つアルキル水銀が検出され ないこと |
| セレン及びその化合物 | 0.01mg/L以下 | 150mg/kg以下 | 0.01mg/L以下 |
| テトラクロロエチレン | 0.01mg/L以下 | — | 0.01mg/L以下 |
| チウラム | 0.006mg/L以下 | — | 0.006mg/L以下 |
| 1,1,1-トリクロロエタン | 1mg/L以下 | — | 1mg/L以下 |
| 1,1,2-トリクロロエタン | 0.006mg/L以下 | — | 0.006mg/L以下 |
| トリクロロエチレン | 0.01mg/L以下 | — | 0.01mg/L以下 |
| 鉛及びその化合物 | 0.01mg/L以下 | 150mg/kg以下 | 0.01mg/L以下 |
| 砒素及びその化合物 | 0.01mg/L以下 | 150mg/kg以下 | 0.01mg/L以下 |
| ふっ素及びその化合物 | 0.8mg/L以下 | 4,000mg/kg以下 | 0.8mg/L以下 |
| ベンゼン | 0.01mg/L以下 | — | 0.01mg/L以下 |
| ほう素及びその化合物 | 1mg/L以下 | 4,000mg/kg以下 | 1mg/L以下 |
| P C B | 検出されないこと | — | 検出されないこと |
| 有機りん化合物 | 検出されないこと | — | 検出されないこと |

出典：「県民の生活環境の保全等に関する条例」（平成15年愛知県条例第7号）

「県民の生活環境の保全等に関する条例施行規則」（平成15年愛知県規則第87号）

3.2.8.7 日照阻害

「建築基準法」（昭和25年法律第201号）及び「愛知県建築基準条例」（昭和39年愛知県条例第49号）では、表 3.2.40に示すとおり、「都市計画法」（昭和43年法律第100号）の用途地域に応じた日影規制が設定されている。

対象事業実施想定区域は、都市計画区域で用途地域の定められていない地域の日影規制が適用される。

表 3.2.40 建築基準法に基づく日影規制

| 地域又は区域 | 制限を受ける建築物 | 測定面高さ ^{注1)} | 容積率(%) | 日影時間 | |
|------------------------------|---------------------------------|----------------------|------------|--------------------------------------|------------------------|
| | | | | 敷地境界線からの水平距離が10m以内の範囲 ^{注2)} | 敷地境界線からの水平距離が10mを超える範囲 |
| 第1種低層住居専用地域 第2種低層住居専用地域 | 軒の高さが7mを超える建築物又は地階を除く階数が3以上の建築物 | 1.5m | 50の場合 | 3時間 | 2時間 |
| | | | 100・150の場合 | 4時間 | 2.5時間 |
| 第1種中高層住居専用地域 第2種中高層住居専用地域 | 高さが10mを超える建築物 | 4m | 150の場合 | 3時間 | 2時間 |
| | | | 200の場合 | 4時間 | 2.5時間 |
| 第1種住居地域 第2種住居地域 準住居地域 | 高さが10mを超える建築物 | 4m | 200の場合 | 4時間 | 2.5時間 |
| 近隣商業地域 準工業地域 | 高さが10mを超える建築物 | 4m | 200の場合 | 5時間 | 3時間 |
| 都市計画区域で用途地域の指定のない区域 | 高さが10mを超える建築物 | 4m | 200の場合 | 4時間 | 2.5時間 |

注1) 当該建築物が周囲の地面と接する位置の平均の高さにおける水平面からの高さをいうものとする。

注2) 敷地境界線からの水平距離が5mを超える範囲に対する規制である。

出典：「建築基準法」（昭和25年法律第201号）

「愛知県建築基準条例」（昭和39年愛知県条例第49号）

3.2.8.8 その他の関係法令に基づく指定状況

対象事業実施想定区域及びその周囲におけるその他の関係法令に基づく指定状況は、表 3.2.41 に示すとおりである。

表 3.2.41 その他の関係法令に基づく指定状況

| 区分 | 関係法令等 | 地域地区等の名称 | 指定等の有無 | |
|----------|---|-----------------------------|----------------|------------------|
| | | | 対象事業実施 想定区域 | 対象事業実施 想定区域周辺 |
| 土地利用関連 | 都市計画法 | 風致地区 | 該当なし | 該当なし |
| | 土地区画整理法 (昭和29年法律第119号) | 土地区画整理事業の 施行地区 | 該当なし | 該当あり |
| | 都市再開発法 (昭和44年法律第38号) | 市街地再開発事業の 施行地区 | 該当なし | 該当なし |
| | 都市緑地法(昭和48年法律第72号) | 特別緑地保全地区 | 該当なし | 該当なし |
| | 生産緑地法(昭和49年法律第68号) | 生産緑地地区 | 該当なし | 該当あり |
| | 農地法(昭和27年法律第229号) | 農地 | 該当なし | 該当あり |
| | 農業振興地域の整備に関する法律(昭和 44年法律第58号) | 農業振興地域 | 該当なし | 該当あり |
| | 河川法(昭和39年法律第167号) | 河川区域 | 該当なし | 該当あり |
| | | 河川保全区域 | 該当なし | 該当なし |
| | 道路法(昭和27年法律第180号) | 認定道路 | 該当なし | 該当あり |
| 自然環境保全関連 | 航空法(昭和27年法律第231号) | 制限表面 | 該当なし | 該当なし |
| | 自然公園法 (昭和32年法律第161号) | 国立公園 | 該当なし | 該当なし |
| | | 国定公園 | 該当なし | 該当なし |
| | 都市公園法(昭和31年法律第79号) | 都市計画公園 | 該当なし | 該当あり |
| | 自然環境保全法 (昭和47年法律第85号) | 原生自然環境保全地域 及び自然環境保全地域 | 該当なし | 該当なし |
| | 鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化 に関する法律 (平成14年法律第88号) | 鳥獣保護区 | 該当なし | 該当あり |
| | | 鳥獣保護区特別保護地区 | 該当なし | 該当なし |
| | | 特定猟具使用禁止区域 | 該当あり | 該当あり |
| | 都市の美観風致を維持するための樹木の 保存に関する法律 (昭和37年法律第142号) | 保存樹及び保存樹林 | 該当なし | 該当なし |
| | 景観法(平成16年法律第110号) | 景観計画区域、景観重点地 区、都市景観形成地区等 | 該当なし | 該当あり |
| 防災関連 | 森林法(昭和26年法律第249号) | 保安林 | 該当なし | 該当あり |
| | 土砂災害警戒区域等における土砂災害防 止対策の推進に関する法律 (平成12年法律第57号) | 土砂災害警戒区域 | 該当あり | 該当あり |
| | | 土砂災害特別警戒区域 | 該当あり | 該当あり |
| | 地すべり等防止法 (昭和33年法律第30号) | 地すべり防止区域 | 該当なし | 該当なし |
| | 砂防法(明治30年法律第29号) | 砂防指定地 | 該当あり | 該当あり |
| | 急傾斜地の崩壊による災害の防止に関す る法律(昭和44年法律第57号) | 急傾斜地崩壊危険区域 | 該当なし | 該当あり |
| | 宅地造成及び特定盛土等規制法 (昭和36年法律第191号) | 宅地造成等規制区域 | 該当あり | 該当あり |
| | | 特定盛土等規制区域 | 該当なし | 該当なし |

(1) 土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域

対象事業実施想定区域及びその周囲における、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく土砂災害警戒区域（土石流、急傾斜地の崩壊）及び土砂災害特別警戒区域（土石流、急傾斜地の崩壊）の指定状況は、図 3.2.7に示すとおりである。

対象事業実施想定区域には、土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）及び土砂災害特別警戒区域（急傾斜地の崩壊）が存在している。

(2) 砂防指定地

対象事業実施想定区域及びその周囲における、「砂防法」に基づく砂防指定地の指定状況は、図 3.2.8に示すとおりである。

対象事業実施想定区域の全体が、砂防指定地に該当する。

(3) 急傾斜地崩壊危険区域

対象事業実施想定区域及びその周囲における、「急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律」に基づく急傾斜地崩壊危険区域の指定状況は、図 3.2.8に示すとおりである。

対象事業実施想定区域には、急傾斜地崩壊危険区域の指定はない。

(4) 洪水浸水想定区域

対象事業実施想定区域周辺の洪水浸水想定区域は図 3.2.9に示すとおりである。対象事業実施想定区域の位置する東郷町には、洪水浸水想定区域はない。

なお、「東郷町防災マップ」（令和2年 東郷町ホームページ）に示される「東郷町ハザードマップ」は図 3.2.10に示すとおりであり、過去の水害で浸水した区域や冠水した箇所、1時間あたり52mmの降雨があった場合に想定される浸水箇所、ため池が満水時に決壊した場合の浸水想定区域が示されており、対象事業実施想定区域はこれらに該当しないとされている。なお、対象事業実施想定区域南西側の道路には、過去に冠水した箇所がある。

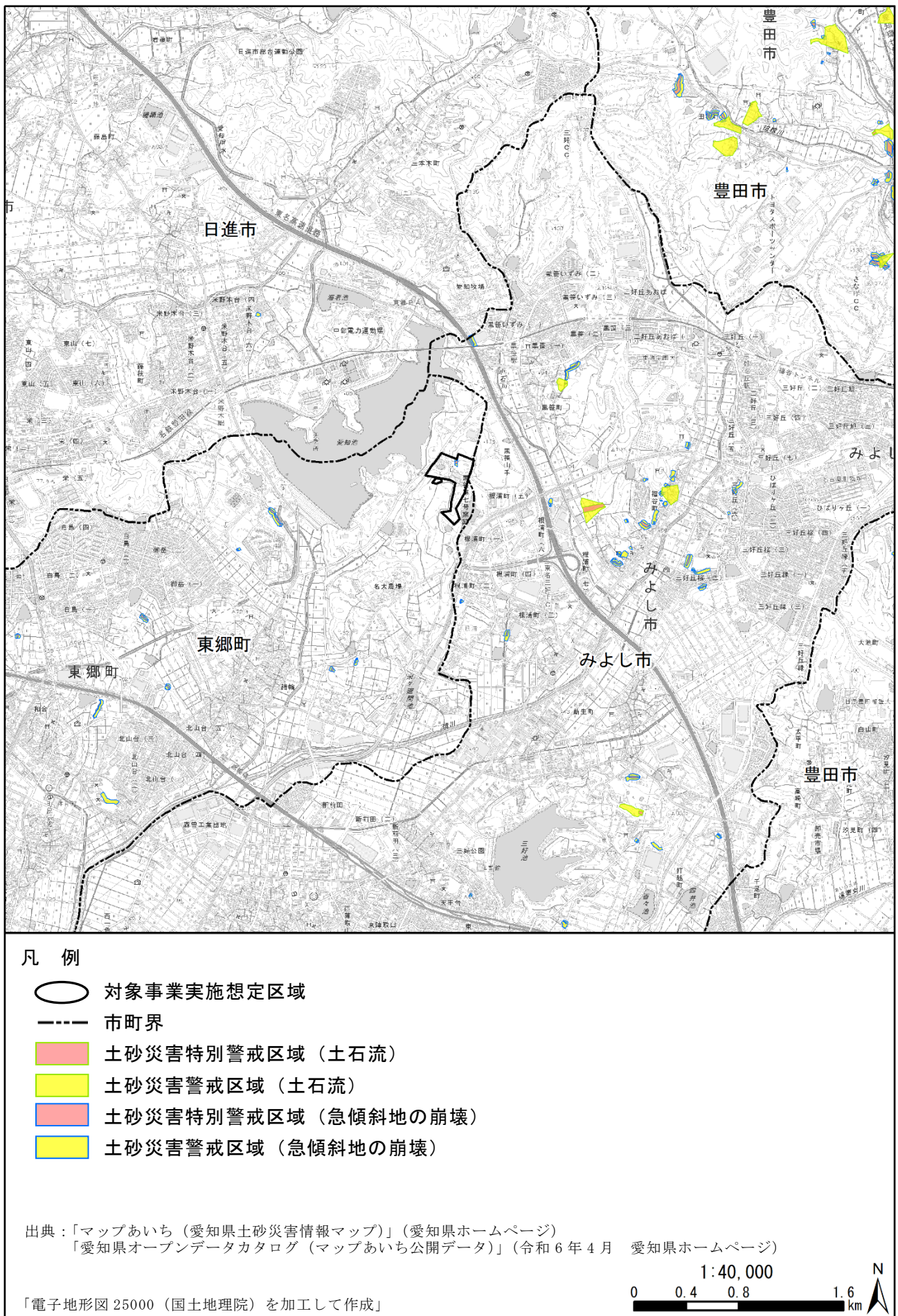


図 3.2.7 土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域の状況

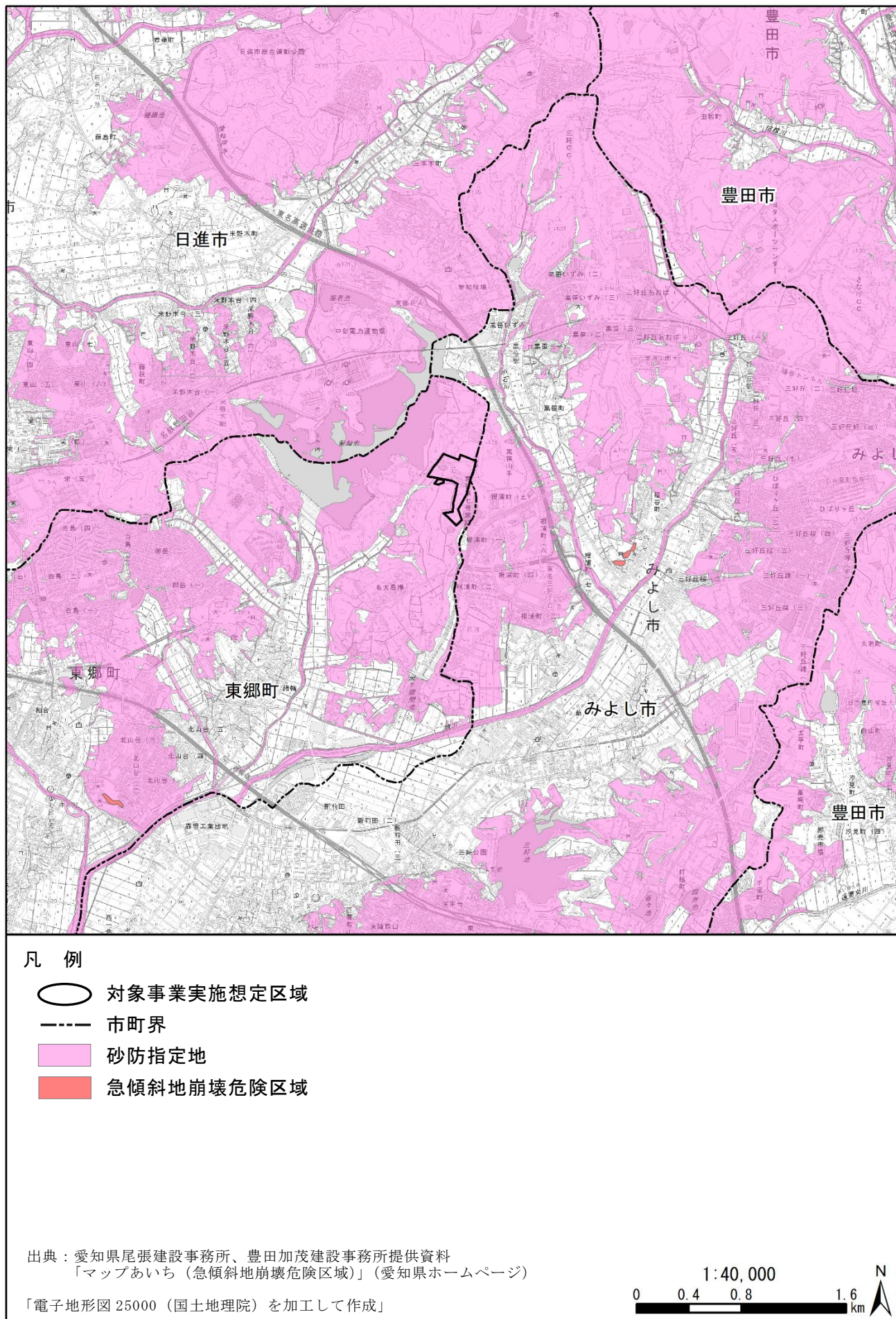


図 3.2.8 砂防指定地及び急傾斜地崩壊危険区域の状況

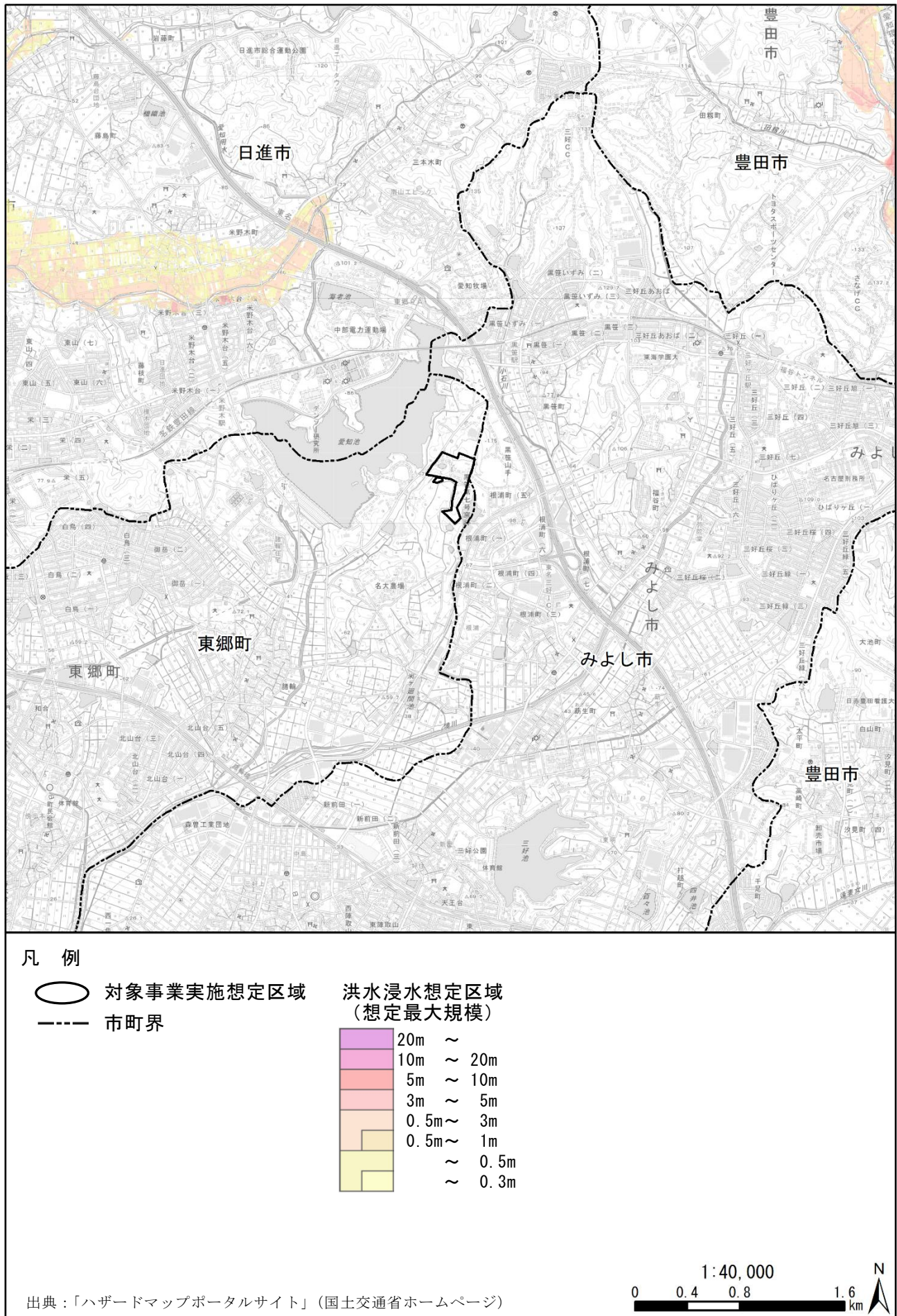
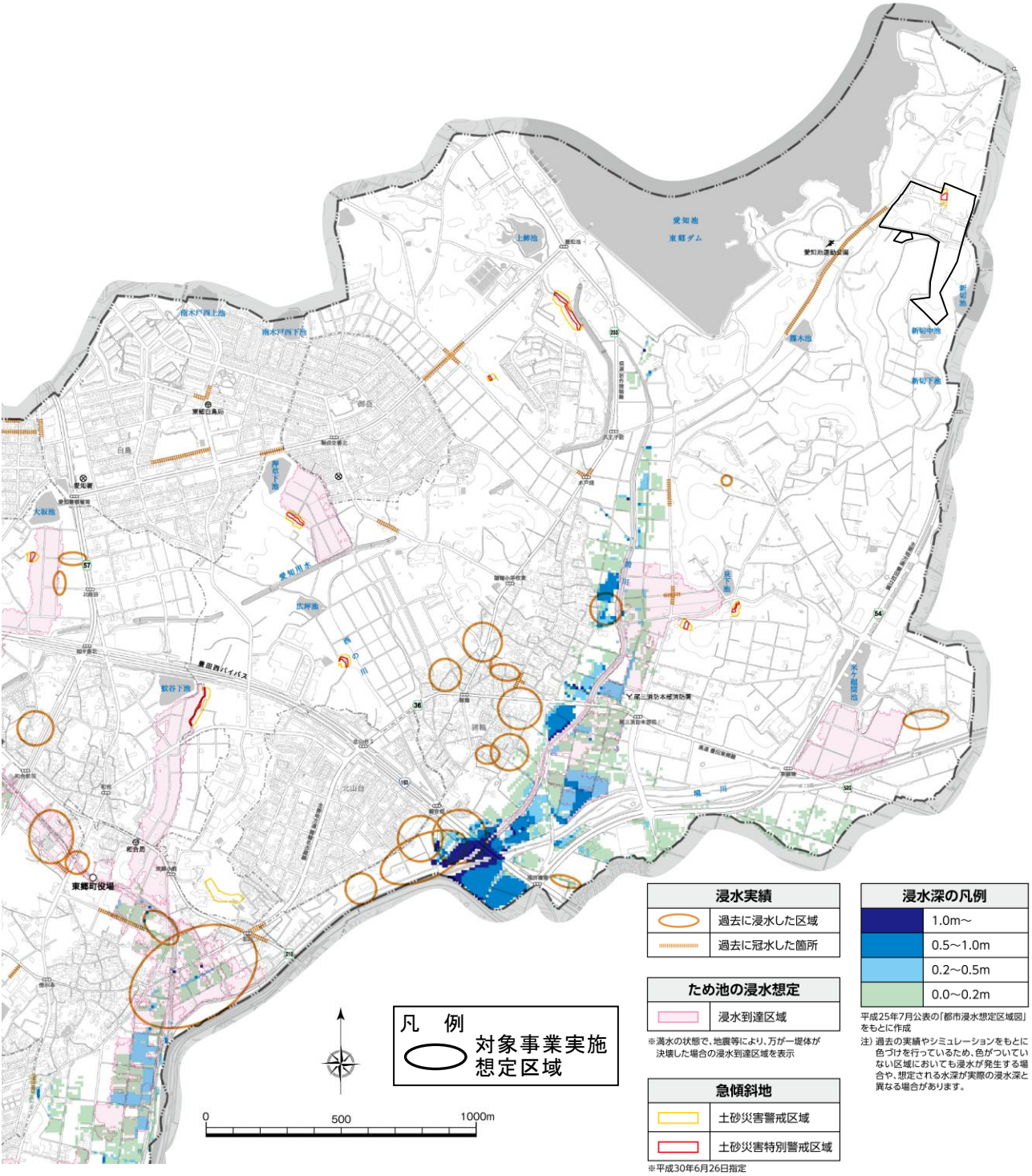


図 3.2.9 洪水浸水想定区域の状況



出典：「東郷町防災マップ」（令和2年 東郷町ホームページ）

図 3.2.10 東郷町ハザードマップ

3.2.8.9 環境基本計画等

(1) 第5次愛知県環境基本計画

愛知県では、「愛知県環境基本条例」（平成7年愛知県条例第1号）に基づき、環境の保全に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、平成9年8月に第1次の「愛知県環境基本計画」が策定された。その後、環境政策の更なる展開を図るため、5年を目安に見直しが行われ、令和3年2月に2040年頃までの長期を展望した上で、2030年度までの間に取り組むべき施策の方向を示す「第5次愛知県環境基本計画」が策定された。

概要については、表 3.2.42に示すとおりである。

表 3.2.42 「第5次愛知県環境基本計画」の概要

| | |
|----------|---|
| 策定の趣旨 | 愛知県環境基本条例第9条に基づき、環境の保全に関する長期的な目標及び施策の方向を示すもので、環境の保全に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために策定するものである。 |
| 期間 | 2021年度から2030年度まで（10年間） |
| 目標 | SDGs達成に向け、環境を原動力に経済・社会が統合的に向上する「環境首都あいち」 |
| 環境施策の方向性 | SDGsの達成を加速するため、「地球温暖化対策」、「自然との共生」、「資源循環」、「安全・安心の確保」の各分野について、新たな課題への対応も含め取り組むとともに、SDGsを理解・認識した「行動する人づくり」やパートナーシップによる連携・協働を推進する。 |
| 特徴 | <ul style="list-style-type: none"> (1) 目指すべき3つのあいちの姿の設定 <ul style="list-style-type: none"> ・日本一環境にやさしいあいち ・環境と経済成長が好循環しているあいち ・地域が活性化している魅力あるあいち (2) 環境の各分野の関連性及び経済・社会との関わりの明示 <ul style="list-style-type: none"> ・環境の各分野間の関連を示すとともに、経済や社会との関わりも記載 (3) SDGsとの主な関連性の明示 <ul style="list-style-type: none"> ・施策の方向とSDGsの17のゴールとの関連について、アイコンを利用して分かりやすく記載 (4) 重点施策の設定 <ul style="list-style-type: none"> ・複数の課題（経済・社会分野含む）を総合的に解決する施策のうち、特にSDGsの多くのゴールに貢献する9つの施策を重点施策として位置づけを推進 (5) 数値目標の設定 <ul style="list-style-type: none"> ・環境の各分野に数値目標（合計21項目）を設定 |

出典：「第5次愛知県環境基本計画」（令和3年2月 愛知県）

(2) 第3次東郷町環境基本計画（2023-2032）

東郷町では、東郷町環境基本条例第8条の規定に基づき、平成15年に「東郷町環境基本計画」を策定し、平成25年の見直しを経て、令和5年3月に現在運用されている「第3次東郷町環境基本計画」を策定した。

本計画は、環境の保全及び創出に関する施策を総合的かつ計画的に推進していくことを目的とし、町民・事業者・行政それぞれが主体的に環境活動に取り組むための計画である。

本計画の計画期間は、令和5年度からの10年間であり、目標年度は令和14年度である。

概要については表 3.2.43に示すとおりである。

表 3.2.43 「第3次東郷町環境基本計画（2023-2032）」の概要

| 将来の望ましい環境像 | 基本目標 | 施策方針 |
|--------------------------------|--|---------------|
| 持続可能な“まち・くらし” ずっと暮らしたい とうごう | 基本目標①：脱炭素を目指したまちづくり 地球温暖化の要因である温室効果ガスの排出を抑制し、脱炭素社会を目指します。 | 地球温暖化防止対策の推進 |
| | | 環境負荷の少ない交通の推進 |
| | 基本目標②：循環型社会を目指したまちづくり 資源の有効利用、廃棄物の適正処理を推進し、循環型社会を目指します。 | 6Rの推進 |
| | | 廃棄物の適正処理の徹底 |
| | | 生活雑排水対策の推進 |
| | 基本目標③：自然との共生を目指したまちづくり 豊かな水資源とそれらを中心とした農地・樹林地等の緑で構成される自然環境との共生を目指します。 | 生物多様性の保全 |
| | | 身近な緑の保全と創出 |
| | | 環境に配慮した農業の推進 |
| | 基本目標④：安全・安心を目指したまちづくり 公害対策や良好な景観の保全等により、快適な暮らしを営むための安全・安心なまちの維持に努めます。 | 良好な生活環境の保全 |
| | 基本目標⑤：あらゆる主体の参画・協働を目指したまちづくり 基本目標①～④の達成に向けて、あらゆる主体の参画・協働を推進します。 | 環境配慮行動の推進 |
| | | 環境教育・環境学習の推進 |
| | | あらゆる主体の連携 |

出典：「第3次東郷町環境基本計画」（令和5年3月 東郷町）

(3) 第2次日進市環境基本計画

日進市では、日進市環境まちづくり基本条例第14条に基づき、平成16（2004）年度に「第1次日進市環境基本計画」を策定し、平成20（2008）年度と平成25（2013）年度の見直しを経て、第1次計画の課題を踏まえ令和6（2024）年3月に、「第2次日進市環境基本計画」を策定している。

たゆまぬ“日進月歩”の取組によって、わがまち日進を将来世代にわたって「住環境と自然が調和するまち」にし、だれもが豊かな生活環境を享受し、健やかで心豊かに暮らしていけるまちを目指すとしている。

計画期間は令和6（2024）年度から令和12（2030）年度の7年間とし、目標年次を令和12（2030）年度としている。

概要については、表 3.2.44に示すとおりである。

表 3.2.44 「第2次日進市環境基本計画」の概要

| 都市の将来像 | 目指す環境都市像 | 環境目標 | 施策の展開 | 協働の取組 |
|--|-------------------------|---|---|--|
| ともに暮らす 私たちがつないで創る 人とみどりを大切にするまち 日進 (第6次日進市総合計画) | 日進月歩 住環境と自然が調和するまち につしん | 環境目標1：脱炭素社会づくり 温室効果ガス排出量の削減を推進します。 | 1-1 さらに省エネルギーを進めます。 ①省エネ性能の高い設備・機器の導入／②建物の省エネ化の促進／③自動車の省エネ化の促進／④暮らしの省エネ化の促進／⑤市役所における率先した取組 | 行動する人づくり・地域づくり 行動する人を増やし、ともに活動する (1) 学校にESD事業の推進 (2) 一人ひとりの環境教育の推進 (3) 一人ひとりの環境行動の推進 (4) マルチパートナーシップの推進 |
| | | | 1-2 再生可能エネルギーの利用を進めます。 ①太陽光発電設備の導入／②再生可能エネルギーの利用促進 | |
| | | | 1-3 脱炭素型のまちへの転換を進めます。 ①公共交通等の利用促進／②ごみの減量／③地産地消の推進／④緑の保全・創出 | |
| | | 環境目標2：循環型社会づくり ごみの発生を抑え、資源の循環利用を高めます。 | 2-1 ごみの発生を抑えます。 ①生ごみの減量化の促進／②食品ロス削減の促進／③事業所等におけるごみ減量化の促進 | |
| | | | 2-2 さらに再利用・資源化を進めます。 ①紙・プラスチックリサイクルの促進／②資源回収機会の充実／③民間サービス等を活用した資源化の促進 | |
| | | | 2-3 ごみを適正に処理します。 ①DXを利用したごみの適時・適正な排出・分別・収集の促進／②事業所等における適正な処理の徹底 | |
| | | 環境目標3：自然共生社会づくり 身近な自然を大切に、自然の恵みを将来に継承します。 | 3-1 生態系・生物多様性への関心を高めます。 ①生態系・生物多様性の重要性についての理解促進（啓発活動、ESD 講座等）／②希少野生動植物種の保全と外来種の対策 | |
| | | | 3-2 水・緑・自然を保全します。 ①自然環境調査（水生生物調査）／②生態系の保全／③農地・ため池の保全／④東部丘陵地等の保全 | |
| | | 環境目標4：安全が確保される社会づくり 安全・安心で、良好な生活環境を守り育てます。 | 4-1 良好な生活環境を保全します。 ①環境調査・監視等の実施／②地域の環境衛生の向上／③産業型公害と生活型公害の防止（指導・助言・啓発等）／④不法投棄の防止（指導・啓発等）／⑤生活排水対策の推進 | |
| | | | 4-2 まちの環境美化を進めます。 ①市民参加による環境美化活動の促進／②ポイ捨て等の防止のための暮らしのマナー向上 | |

出典：「第2次日進市環境基本計画」（令和6年3月 日進市）

(4) 第2次みよし市環境基本計画

みよし市では、みよし市環境基本条例第12条に基づき、平成23（2011）年3月に「みよし市環境基本計画」を策定し、令和3（2021）年3月には複雑・多様化する環境問題や環境を取り巻く社会情勢の変化を踏まえ、「第2次みよし市環境基本計画」を策定している。

本計画の将来像に「循環・共生する持続可能なずっと住みたいまち」を掲げている。

計画期間は令和3（2021）年度から令和12（2030）年度までの10年間としている。

概要については、表 3.2.45に示すとおりである。

表 3.2.45 「第2次みよし市環境基本計画」の概要

| 環境像 | 施策分野 | 目指すまちの姿 | 施策 |
|-----------------------|-------------------|---|--|
| 循環・共生する持続可能なずっと住みたいまち | 1 脱炭素のまちづくり | <ul style="list-style-type: none"> ・創・省エネルギーなどの技術革新やビジネス創出により経済が活性化している。 ・太陽光発電などの導入により、無理のない低炭素型の暮らしが定着している。 | ①地球温暖化対策への対応 ②環境負荷の少ない交通の推進 |
| | 2 自然共生のまちづくり | <ul style="list-style-type: none"> ・多様な自然と風土を適切に保全するとともに、豊かな生態系ネットワークがまちの中に息づいている。 | ①豊かな自然の保全・再生 ②身近な緑の保全・創出 ③公害対策の推進 ④快適で人にやさしい都市空間の形成 |
| | 3 循環型のまちづくり | <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物減量化がさらに進み、小型家電など資源の有効利用が実現している。 ・ごみ出し・収集での高齢者対策、有害物質対策や、災害廃棄物対策などの仕組みが構築されている。 | ①資源の循環利用の推進 ②資源の地域循環 |
| | 4 安全・安心のまちづくり | <ul style="list-style-type: none"> ・生活環境が汚染されることなく健全に維持され、起こりうる気候変動や災害に備えたまちづくりによって、市民の健康と安全が守られている。 | ①環境汚染の防止とリスク管理 ②良好な生活環境 ③災害に強いまちづくり |
| | 5 協働による環境行動のまちづくり | <ul style="list-style-type: none"> ・市民一人一人が環境に対する関心や自覚を高め、環境に配慮した選択ができている。 | ①環境学習の推進 ②環境保全行動の推進 |

出典：「第2次みよし市環境基本計画」（令和3年3月 みよし市）

(5) 豊田市環境基本計画（2018-2025）

豊田市では、「豊田市環境基本条例」に基づき「豊田市環境基本計画」を策定している。平成7（1995）年3月に初めて策定されて以降、平成14（2002）年3月、平成20（2008）年12月に改訂しており、平成30（2018）年3月に新たな環境基本計画を策定し、令和4（2022）年3月に中間見直しを行っている。

「WE LOVE とよた」を合言葉に、一人ひとりの環境行動の促進、共働による相乗効果の創出、環境行動を下支えする仕組みづくりを進めることで、持続可能な社会を目指すこととしている。

計画期間は平成30（2018）年度から令和7（2025）年度までとしている。

概要については、表 3.2.46に示すとおりである。

表 3.2.46 「豊田市環境基本計画（2018-2025）」の概要

| 将来都市像 | 基本理念 | 8年後のめざす姿 | | 施策の柱 |
|-----------------------|---|------------------|--|-------------------------------|
| つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた | <p>私たちは、「WE LOVE とよた」を合言葉に、「豊かな自然の恵み」と「先進的な技術」を活かして、将来にわたって環境にやさしく、多様で豊かな豊田市をつくりたい。</p> <p>3 市民・事業者・行政が共働して、更に大きな行動が選択される仕組みづくりを進めます。</p> <p>2 市民一人ひとりが高い意識を持ち、行動します。</p> <p>1 意識せずとも、環境にやさしい行動が選択される仕組みづくりを進めます。</p> | 脱炭素社会 | ・再生可能エネルギーの普及が進み、まち全体としてエネルギー利用の効率化が進んでいる | 1.1 エネルギーの地産地消の推進 |
| | | | ・低炭素型の暮らしが定着し、低炭素型の交通システムやものづくりの基盤が確立している | 1.2 民生・交通の低炭素化の促進 |
| | | | ・人工林の間伐が進み、森林によるCO ₂ 吸収量が増加している | 1.3 産業の低炭素化の促進 |
| | | | ・気候変動への適応の認知度が高まり、取組が進んでいる | 1.4 森林吸収源対策の推進 |
| | | 自然共生社会 | ・環境モデル都市としてモビリティなどの先進技術やインフラが普及し、取組が浸透している | 1.5 気候変動適応策の推進 |
| | | | ・豊かな自然とふれあう機会を創出し、多くの市民が利用している | 1.6 連携による取組の推進 |
| | | | ・生物多様性の状況を把握し、その結果が施策へ反映されている | 2.1 自然とのふれあい機会の創出 |
| | | | ・標本等の適正管理やインタープリターの育成がされている | 2.2 生物多様性への理解の促進 |
| | | | ・市民による保全活動が促進され、連携が進んでいる | 2.3 生物多様性保全とネットワーク形成 |
| | | | ・開発行為に対する適切な監視や指導がされている | 2.4 豊かな森林づくりと、市街地の緑化等の推進 |
| | | 循環型社会 | ・森林が適正に管理されるとともに、緑地等が保全・創出されている | 2.5 環境保全と取組支援の推進 |
| | | | ・企業による生物多様性保全に関するCSR活動が活発化している | 3.1 廃棄物の発生抑制の促進 |
| | | | ・多面的機能を持つ農地が保全され、生態系に配慮した営農がされている | 3.2 廃棄物の再使用・再生利用の促進 |
| | | | ・廃棄物の発生抑制が進んでいる | 3.3 廃棄物エネルギーの活用 |
| | | | ・廃棄物の再使用・再生利用が進んでいる | 3.4 廃棄物の適正処理の推進 |
| | | 安心・安全社会 | ・廃棄物の適正処理が進んでいる | 3.5 安心できるごみ処理体制の確保 |
| | | | ・安心できるごみ処理体制が確保されている | 4.1 環境汚染の防止とリスク低減 |
| | | 市民の環境行動力の向上と共働の分 | ・生活環境が保全され、快適に暮らせている | 4.2 良好な生活環境の形成 |
| | | | ・災害に強いまちづくりが進んでいる | 4.3 気候変動や自然災害による環境影響の低減・回避 |
| | | | ・充実した環境学習施設を拠点に、様々な世代へ適切な環境情報・学習の場が提供されている | 5.1 学習機会・知識の提供 |
| | | | ・学んだ知識を活かして、環境配慮行動を実践する市民が増えている | 5.2 共働の推進 |
| | | | ・多様な暮らし方を認め、理想の暮らしを実現している | 5.3 多様な価値観・ライフスタイルに応えられる環境の整備 |
| | | | ・多くの市民・事業者が、自発的に環境行動を実践し、活動成果を共有している | 5.4 環境行動を促す支援・仕組みづくり |
| | | | ・特徴的な取組が市内外へ発信されている | 5.5 市内外への情報発信 |

出典：「豊田市環境基本計画（2018-2025） 2022.3 中間見直し版」（令和4年3月 豊田市）

3.2.8.10 地球温暖化防止に関する取組状況**(1) あいち地球温暖化防止戦略2030（改定版）**

愛知県では、令和4（2022）年12月に「あいち地球温暖化防止戦略2030（改定版）」を策定した。本戦略では、「2050年カーボンニュートラル」の実現を目指し、令和12（2030）年度までに愛知県の温室効果ガス排出量を2013年度比で46％削減する目標を掲げ、取り組むべき施策の方向を示している。なお、新たに特に注力する6つの重点施策を柱として、これまで進めてきた「徹底した省エネルギー」と「創エネルギーの導入拡大」を加速するとともに、「愛知発の脱炭素イノベーションの推進」や「水素利用のさらなる拡大」等により、目標の実現を目指すこととしている。

重点施策は、表 3.2.47に示すとおりである。

表 3.2.47 「あいち地球温暖化防止戦略2030（改定版）」における重点施策

| 重点施策 | 取組指標と主な施策 |
|-------------------------------------|---|
| 1. 脱炭素プロジェクトの創出・支援～愛知からのイノベーションを実現～ | ■取組指標 カーボンニュートラル戦略会議の選定事業者数 2030年度までに10件 ■主な施策 ・プロジェクトの選定・事業化の支援 ・既選定プロジェクトの推進 ・革新事業創造提案プラットフォームの運用 |
| 2. 意識改革・行動変容 | ■取組指標 脱炭素社会の実現に向け日常的に取り組んでいることの数 一人当たり平均4.0項目 ■主な施策 ・「あいち COOL CHOICE」県民運動の強化 ・全世代に向けた情報発信・行動促進 ・行動変容につながる各種施策の実施 ・あいちエコアクション・ポイント |
| 3. 建築物の脱炭素化の推進 | ■取組指標 住宅用太陽光発電設備・太陽熱利用システムの設置基数 40万基 ■主な施策 ・住宅用地球温暖化対策設備導入促進のための支援 ・あいちエコ住宅ガイドラインによる周知 ・建築物のZEB化の促進 ・県有施設の率優先ZEB化 |
| 4. 脱炭素型事業活動の促進 | ■取組指標 計画書制度に基づく事業者の総排出量 35％削減（2019年度比） ■主な施策 ・地球温暖化対策計画書制度の強化 ・事業者の再生可能エネルギーの導入、設備の省エネ化の促進 ・中小事業者等による脱炭素経営の支援 |
| 5. ゼロエミッション自動車の普及加速 | ■取組指標 EV・PHV・FCVの保有割合 20％ ■主な施策 ・ゼロエミッション自動車導入促進のための支援 ・公用車へのゼロエミッション自動車（EV・PHV・FCV）の率先導入 ・充電インフラ、水素ステーション設置の促進 |
| 6. 水素社会の構築 | ■取組指標 低炭素水素認証制度による認定事業数 2030年度までに20件 ■主な施策 ・大規模水素サプライチェーンの構築及び利活用 ・低炭素水素サプライチェーンの構築 ・水素利用の更なる拡大（水素ステーションの設置等） |

出典：「あいち地球温暖化防止戦略2030（改定版）」（令和4年12月 愛知県）

(2) 第4次東郷町エコプラン 東郷町地球温暖化対策実行計画（事務事業編）

「地球温暖化対策の推進に関する法律」（平成10年法律第117号）により、地方公共団体は自らの事務及び事業に関し温室効果ガスの排出量の削減等のための措置に関する計画の策定が義務付けられている。

東郷町では、平成19年10月から「東郷町エコプラン（東郷町地球温暖化対策実行計画・職員環境保全率先計画）」を策定し取組を行っており、令和6年3月には「第4次東郷町エコプラン 東郷町地球温暖化対策実行計画（事務事業編）令和6年度～令和12年度」を策定している。

計画期間は令和6（2024）年度から令和12（2030）年度までの7年間としている。削減目標は政府実行計画「業務その他の部門」における削減目標に準じ、平成25（2013）年度を基準年度とし、令和12（2030）年度までに温室効果ガス排出量を51%削減することを目指すとしている。

概要については、表 3.2.48に示すとおりである。

表 3.2.48 「第4次東郷町エコプラン」の概要

| | |
|------|--|
| 目的 | 「地球温暖化対策の推進に関する法律」第21条に基づき、町が事務事業に係る環境に配慮した取組を率先して実行し、温室効果ガス排出量を削減することを目的に策定。 |
| 期間 | 令和6年度から令和12年度までの7年間 |
| 適用範囲 | 役場庁舎、保育園及び児童館の事務及び事業、町民会館、総合体育館、いこまい館、愛知池運動公園、町民運動広場、ゲートボール場、資源回収ステーション、中部老人憩いの家 |
| 削減目標 | 平成25年度の削減目標施設のCO ₂ 総排出量（537,513kg）から51%削減 |
| 主な取組 | <p>空調：室温は夏は高め（28℃）、冬は低め（19℃）にする。空調の運転時間を適正化する。</p> <p>給湯等：給湯温度をこまめに調整する。</p> <p>照明：外光等を利用し、必要な場所・時間帯のみ点灯し、無駄をなくす。</p> <p>エレベーター：出来るだけ使用しないように努め、階段を積極的に利用する</p> <p>OA機器：可能な範囲で省電力モードを採用する。退庁時は電源を切る。</p> <p>公用車：アクセル調整等のエコドライブに努める。出張等は公共交通機関を積極的に利用する。</p> <p>用紙類：両面コピー、裏面活用を徹底する。ミスコピーをしないよう努める。庁内情報システムを有効利用し、紙の使用を減らす</p> <p>廃棄物、リサイクル：ごみの分別を徹底し、資源化を促進する。割り箸・紙コップ等の使用を自粛する。封筒、ファイルなどの再利用を促進する。プリンタのトナーカートリッジの回収、リサイクルを推進する。昼食等の食べきりを推進する。個人のごみは持ち帰る。</p> <p>物品購入：グリーン購入を推進する。</p> |

出典：「第4次東郷町エコプラン 東郷町地球温暖化対策実行計画（事務事業編）令和6年～令和12年度」（令和6年3月 東郷町）

(3) 第2次日進市環境基本計画・地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

日進市では、令和6（2024）年3月に「第2次日進市環境基本計画」を策定しており、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を包括し一体的に作成している。

計画期間は、令和6（2024）年度から令和12（2030）年度までとしている。

削減目標は、二酸化炭素排出量について令和12（2030）年度に平成25（2013）年度比46％削減とする。

また、日進市では、令和4（2022）年2月には温室効果ガスの排出を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」を宣言している。

概要については、表 3.2.49に示すとおりである。

表 3.2.49 「第2次日進市環境基本計画・地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の概要

| | | |
|-------------|---|--|
| 対象とする温室効果ガス | 愛知県内の温室効果ガスの94.1％（2019年度）が二酸化炭素であることや発生要因等を勘案して、本計画が対象とする温室効果ガスは二酸化炭素のみとする。 | |
| 対象とする主体の範囲 | 市域の二酸化炭素の排出の削減を図るためには、すべての主体の積極的な関与が必要である。したがって、市民、事業者、市（行政）の三者を対象とする。 | |
| 計画期間 | 令和6（2024）年度から令和12（2030）年度まで | |
| 削減目標 | 2030年度に2013年度比46％削減を目標とする。 | |
| 主な取組 | (1) 緩和策の推進 | 1-1 さらなる省エネルギー化を進める。 ① 省エネ性能の高い設備・機器の導入 ② 建物の省エネ化の促進 ③ 自動車の省エネ化の促進 ④ 暮らしの省エネ化の促進 ⑤ 市役所における率先した取組 1-2 再生可能エネルギーの利用を進めます。 ① 太陽光発電設備の導入 ② 再生可能エネルギーの利用促進 1-3 脱炭素型のまちへの転換を進めます。 ① 公共交通等の利用促進 ② ごみの減量 ③ 地産地消の推進 ④ 緑の保全・創出 |
| | (2) 適応策の推進 | ①農業 ・気候変動による農作物への影響に関する情報収集 ・農業関連団体と協力・連携し、日照不足、高温といった気象条件や自然災害に対する管理・技術対策（適応技術導入や品種転換など）、病虫害発生予報などの農業者への周知 ②水環境・水資源 ・河川などの水質調査の継続的な実施 ③自然生態系 ・気候変動に伴う外来種の定着による在来種への影響などの分布の変化を把握するため、市民・市民団体とともに情報収集やモニタリング、外来種の駆除活動を実施 ④自然災害 ・ハザードマップの周知や防災情報の提供、避難所や災害時の備蓄品の整備など、災害に強いまちづくり、地域防災力の強化 ・老朽化した側溝や雨水排水施設の計画的改修 ・雨水を貯留し洪水被害を軽減するグリーンインフラとしての機能を発揮できるようにするための農地の保全 ⑤健康 ・イベント・市広報・市ホームページなどで熱中症の注意喚起や熱中症の予防・対処法に関する情報提供 ・暑熱を回避する休憩所などの確保 ・都市公園をはじめとするまちなかの緑の適正な維持・管理による緑陰の確保 |

出典：「第2次日進市環境基本計画」（令和6年3月 日進市）

(4) 日進市環境保全・創出のための行動計画（地球温暖化対策実行計画 事務事業編）

日進市では、令和6（2024）年3月に第2次日進市環境基本計画・地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を策定したことにあわせ、「日進市環境保全・創出のための行動計画（地球温暖化対策実行計画 事務事業編）」を策定している。

計画期間は、令和6（2024）年度から令和12（2030）年度までとしている。

削減目標は、二酸化炭素排出量を平成25（2013）年度比で55％削減し、3,624t-CO₂以下に抑えることを目標として掲げている。

概要については、表 3.2.50に示すとおりである。

表 3.2.50 「日進市環境保全・創出のための行動計画
（地球温暖化対策実行計画 事務事業編）」の概要

| | |
|-------------------|--|
| 計画の目的 | <ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化対策推進法第21条第1項で、市町村は自らの事務及び事業に関し、温室効果ガス排出量を削減するための措置に関する計画を策定するものとされている。 この行動計画は、同規定に基づき、国の策定する地球温暖化対策計画に即し、第6次日進市総合計画と日進市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）との整合を図って策定する。 |
| 対象とする事務の範囲と温室効果ガス | <ul style="list-style-type: none"> この行動計画の対象は、本市の全事務及び事業とする。 対象とする温室効果ガスは、県内の温室効果ガスの94.1％（2019年度）が二酸化炭素であることや発生要因等を考慮し、二酸化炭素のみとする。 |
| 計画期間 | 2024年度から2030年度末まで。 |
| 削減目標 | <ul style="list-style-type: none"> 国、愛知県は、2030年度の温室効果ガス排出量を2013年度比で46％減らすことを目標とし、2050年度までに総排出量を実質ゼロとする計画を掲げている。本市の地球温暖化対策実行計画（区域施策編）では、5つの分野ごとに削減目標を立て、全体として2030年度の二酸化炭素排出量を2013年度比で46％削減することを目標としている。 この行動計画では、本市の地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の「業務その他部門」の削減目標値である2013年度比53.4％を上回る目標として、二酸化炭素排出量を2013年度比で55％削減し、3,624t-CO₂以下に抑えることを目標として掲げる。 |
| 主な取組 | <ol style="list-style-type: none"> 設備・機器の省エネ化 <ul style="list-style-type: none"> 空調機器、照明設備、電気機器について、LED照明、高効率空調機器など、省エネ効果が高い設備・機器への切り替えを進める。 次世代自動車（EV、PHV、FCV）の導入 <ul style="list-style-type: none"> 公用車について、次世代自動車への切り替えを順次進める。 次世代自動車の公用車台数に応じ、公共施設へのEV充電スタンド設置を進める。 再生可能エネルギーの導入 <ul style="list-style-type: none"> 公共施設の新設・更新時は、太陽光発電設備の設置を可能な範囲で検討する。 既存施設については、大規模改修時等に劣化度、建物（屋根）形状、残存耐用年数などを勘案し、効果が高い施設への設置を検討する。 環境配慮電力の導入 <ul style="list-style-type: none"> 財政面の影響を考慮しつつ、カーボンフリー電力など、二酸化炭素排出係数が低い電力の使用に努める。 環境配慮行動の推進 <ul style="list-style-type: none"> 事務のペーパーレス化、エコ通勤、時差勤務や在宅勤務の活用、業務効率化による時間外勤務の削減に取り組み、事務処理で生じるエネルギーの節減に努める。 施設の省エネ化・緑化 <ul style="list-style-type: none"> 公共施設の空調管理を徹底する他、公共施設の更新、大規模改修時におけるZEB方式建築の導入を検討し、建物内のエネルギー消費を抑制できる施設への転換を検討する。 二酸化炭素の吸収源となるよう、公共施設や敷地の緑化を推進する。 |

出典：「日進市環境保全・創出のための行動計画（地球温暖化対策実行計画 事務事業編）」（令和6年3月 日進市）

(5) みよし市地球温暖化対策実行計画（区域施策編・事務事業編）

みよし市では、平成12（2000）年3月に「三好町地球温暖化対策実行計画、庁内環境保全率先行動計画」を策定し、平成23（2011）年3月には「地球環境にやさしい 低炭素型都市づくり」を含む基本目標を定めた「みよし市環境基本計画」を策定し、これを市の地球温暖化対策実行計画（区域施策編）と位置づけた。「三好町地球温暖化対策実行計画、庁内環境保全率先行動計画」は平成27（2015）年3月に、「みよし市環境基本計画」は平成29（2017）年3月にそれぞれ計画の中間見直しを実施した。その後、令和3（2021）年3月に、市の地球温暖化対策の現状を踏まえるとともに、国の「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づく計画として、「みよし市地球温暖化対策実行計画」を策定している。

計画期間は、令和3（2021）年度から令和12（2030）年度までの10年間としている。

削減目標は、平成25（2013）年度を基準年とし令和12（2030）年度までに、区域施策編においては26%削減、事務事業編においては40%削減としている。

また、みよし市では令和元（2019）年12月に「ゼロカーボンシティ宣言」を表明している。

概要については、表 3.2.51に示すとおりである。

表 3.2.51 「みよし市地球温暖化対策実行計画（区域施策編・事務事業編）」の概要

| | |
|------|--|
| 目的 | 「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、市域全体から排出される温室効果ガスの排出抑制（区域施策編）および市の事務事業に起因する温室効果ガスの排出抑制（事務事業編）の実行のために、市民・事業者・市（行政）の各主体の役割を明確にし、地球温暖化対策に関する施策や取り組みを総合的かつ計画的に推進することを目的とする。 |
| 計画期間 | 令和3（2021）年度から令和12（2030）年度までの10年間 |
| 削減目標 | 【区域施策編における削減目標】 みよし市全体での温室効果ガス（CO ₂ ）排出量を令和12（2030）年度までに平成25（2013）年度比で26%削減 【事務事業編における削減目標】 みよし市の事務事業に起因する温室効果ガス（CO ₂ ）排出量を令和12（2030）年度までに平成25（2013）年度比で40%削減 |
| 施策展開 | 本計画は、第2次みよし市環境基本計画のうち、「脱炭素のまちづくり」を担う重要分野であるため、環境基本計画の「脱炭素のまちづくり」における施策展開を本計画でも実行する。 【施策】 ①地球温暖化対策への対応 ②環境負荷の少ない交通の推進 【主な取り組み】 1. ①.1 省エネルギーの推進 1. ①.2 再生可能エネルギーの推進 1. ②.1 環境にやさしい自動車利用促進 1. ②.2 公共交通機関の整備と利用促進 |

出典：「みよし市地球温暖化対策実行計画（区域施策編・事務事業編）」（令和3年3月 みよし市）

(6) 豊田市地球温暖化防止行動計画2018-2025

豊田市では、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく地方公共団体実行計画（区域施策編・事務事業編）、気候変動適応法に基づく地域気候変動適応計画及び「豊田市環境基本計画」における脱炭素分野に関する具体的な行動計画として、平成30（2018）年に「豊田市地球温暖化防止行動計画2018-2025」を策定し、令和4（2022）年3月に見直しを行っている。

計画期間は、平成30（2018）年度から令和7（2025）年度までの8年間としている。

削減目標は、平成25（2013）年度比で中期目標（令和12（2030）年度）として50%削減、長期目標（令和32（2050）年度）として実質100%削減としており、本計画の最終年次である令和7（2025）年度は25%削減を目安としている。

また、豊田市では令和元（2019）年11月に「ゼロカーボンシティ宣言」を表明している。

概要については、表 3.2.52に示すとおりである。

表 3.2.52 「豊田市地球温暖化防止行動計画2018-2025」の概要

| | |
|----------------|---|
| 位置付け | 地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく地方公共団体実行計画（区域施策編・事務事業編）、気候変動適応法に基づく地域気候変動適応計画、及び「豊田市環境基本計画」における脱炭素分野に関する具体的な行動計画。 |
| 計画期間 | 平成30（2018）年度から令和7（2025）年度までの8年間 |
| 対象とする温室効果ガス | <ul style="list-style-type: none"> ・本計画において算定の対象とする温室効果ガスは、温対法第2条第3項に掲げる7物質（二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン類、パーフルオロカーボン類、六フッ化硫黄、三フッ化窒素）。 ・「市の実施する事務事業」において対象とする温室効果ガスは、このうち、①二酸化炭素（CO₂）、②メタン（CH₄）及び③一酸化二窒素（N₂O）。 |
| 削減目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・中期目標（令和12（2030）年度）：50%削減（1,757千t-CO₂） ・長期目標（令和32（2050）年度）：実質100%削減（0t-CO₂） ・計画最終年次（令和7（2025）年度）：25%削減（2,635千t-CO₂） |
| 再生可能エネルギー導入率目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・2030年度 30% ・市導入・関与による電力導入量 令和7（2025）年度 119,500kW |
| 施策の柱 | <ol style="list-style-type: none"> 1 エネルギーの地産地消の推進 2 民生・交通の脱炭素化の促進 3 産業の脱炭素化の促進 4 森林吸収源対策の推進 5 気候変動適応策の推進 6 連携による取組の推進 |

出典：「豊田市地球温暖化防止行動計画2018-2025（2022.3 中間見直し版）」（令和4年3月 豊田市）

3.2.8.11 景観計画等

(1) 美しい愛知づくり基本計画

愛知県では、平成18年3月に「美しい愛知づくり基本方針」を策定し、同時に景観への取組を積極的に進めるため、「美しい愛知づくり条例」を制定した。また、施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、平成19年3月に「美しい愛知づくり基本計画」を策定し、その計画における目標は表 3.2.53に示すとおりである。

平成21年3月には、愛知県職員を始め公共事業に携わる者が、公共事業の景観に対する影響や効果、責務を十分認識し、県民が望む良好な景観を形成するための基礎知識や指針、配慮事項等を示した「愛知県公共事業景観整備指針」を策定し、令和5年8月には、公共事業の種類別に景観設計の進め方の例示を加筆するなどの一部改訂が行われた。

表 3.2.53 「美しい愛知づくり基本計画」の目標

| 基本目標 | 分野別の目標 |
|-----------------------|---|
| 未来につなぐ 緑豊かな“美しい愛知” | 多様な生物が共存する『自然景観』 ～変化に富んだ地形と生物多様性を支える自然環境を守ります～ |
| | 武家文化や近代化遺産が伝える『歴史景観』 ～先人達が築いてきた尾張や三河の歴史・文化を伝え残します～ |
| | 心の豊かさを映し出す『生活景観』 ～身近な文化を守り、育て、潤いと安らぎのある生活環境を創出します～ |
| | 「モノづくり」の活力が創り出す『産業景観』 ～産業により創出される特色ある景観を守り、育みます～ |

出典：「美しい愛知づくり基本計画」（平成19年3月 愛知県）

(2) みよし市みどりと景観計画

みよし市では、「緑の基本計画」と「景観計画」が一体となった「みどりと景観計画」を策定し、平成23年4月に公表、同年7月に発効した。その後、上位関連計画の改定や社会情勢の変化に対応した緑地の保全及び緑化の推進を図っていくため、令和6年7月に改定が行われている。

本計画は、市の緑と景観の総合的指針となるもので、環境基本計画等の部門別計画と整合を図りつつ、都市緑地法、景観法の考えにのっとり、策定されている。

基本理念として、「～みよし市の目指す景観のために～みよしらしい水と緑の豊かさを守り、育み、楽しむ」が掲げられ、景観計画区域はみよし市全域、目標年次は令和15（2033）年度となっている。

概要については、表 3.2.54に示すとおりである。

表 3.2.54 「みよし市みどりと景観計画」の概要

| 基本理念 | 基本目標 | 施策 |
|---|--|---|
| みよし市 ～みよし市の目指す景観のために～ みよしらしい水と緑の豊かさを守り、育み、楽しむ | 「まもる」 地域性緑地（地域に残る貴重な緑）の保全や都市公園及び緑道、街路樹等の維持管理に市民協働で取り組みながら生物多様性に配慮し緑をまもりまします。また、自然景観や歴史・文化景観といった景観についても地域特性を踏まえて保全していきます。 | ① 里山・樹林地の保全 ② 河川やため池の保全、水質浄化 ③ 田園・果樹園等の農地の保全、有効活用 ④ 都市景観の保全・整備の推進 ⑤ 都市公園及び都市緑地の維持管理 |
| | 「つくる・つなぐ」 都市公園や緑道等の施設緑地や街路樹等の道路植栽の整備や改修により連続する緑をつくり、緑のネットワークを形成するように緑をつないでいきます。 | ⑥ 都市公園及び都市緑地の整備 ⑦ 親水空間の整備 ⑧ 緑のネットワークの充実 |
| | 「ふやす」 公共空間とともに民有地における緑化の推進やこれらの取組の規制により、豊かで快適な暮らしに有効なグリーンインフラに資する新たな緑をふやします。 | ⑨ 公共施設の緑化の推進 ⑩ 住宅地の緑化の推進 ⑪ 工場、事務所等の緑化の推進 |
| | 「はぐくむ」 市民・活動団体・事業者・行政それぞれが緑に関する理解を深め、さらに関心を高めて、緑化や維持管理・運営等の活動により人のつながりや緑をはぐくみます。また、市街地等における生活景観についても協働の取組を行いながら、愛着や誇りの持てる身近な景観をはぐくんでいきます。 | ⑫ 環境学習の推進 ⑬ 市民参加による緑・景観まちづくりの仕組みづくり ⑭ 緑・景観に関する効果的な情報の発信 |

出典：「みよし市みどりと景観計画」（令和6年7月 みよし市）

(3) 豊田市景観計画

豊田市では、平成20年3月に景観法に基づく「豊田市景観計画」を策定し、平成30年3月に見直しを行っている。

目指すべき景観像として「人と自然と産業が響きあう一番美しいまち・豊田」を設定しており、景観計画区域は豊田市全域である。

概要については、表 3.2.55に示すとおりである。

表 3.2.55 「豊田市景観計画」の概要

| 目指すべき景観像 | 人と自然と産業が響きあう いちばん美しいまち・豊田 |
|---------------------|--|
| 基本目標 | 1 生命を育み環境を守る自然景観づくり ～豊かな水と森を守り育み、人と生き物にやさしい環境を持った景観をつくります～ 2 豊かな心を育む生活景観づくり ～快適性と安全性を基盤に、愛着と誇りが持てる景観をつくります～ 3 活力を生み出す産業景観づくり ～モノづくり産業の活気が感じられ、また、交流と賑わいが見られる景観をつくります～ 4 文化を培う歴史景観づくり ～地域の伝統を受け継ぎ、歴史と文化の香り高い景観をつくります～ |
| 景観形成の基本方針 (ゾーン別) | ●市街地ゾーン ・水と緑で繋ぐうおい豊かな景観を形成する ・人とクルマからの視線に配慮した美しいまちなみ景観を形成する ・市の「顔」にふさわしい質の高い市街地景観を形成する ・地域の歴史文化を活かした魅力的な景観を形成する ・緑豊かで広がりを感じられる工場景観を形成する ●都市・田園共生ゾーン ・広がりのある田園景観と山並みへの眺望景観を保全する ・落ち着いた感じられる住宅地内の景観を守り育む ●都市近郊自然共生ゾーン ・多様な生物が生息できる環境を有した景観を形成する ・心和む美しい住宅地景観を保全する ・周囲の里山などの自然景観と調和した住宅及び工場の景観を形成する ・地域の歴史を物語る景観資源を保全・活用する ●森林環境共生ゾーン ・森林の適切な維持管理により美しい山並み景観を保全する ・山村に残る地域文化を継承したまちなみ景観を形成する ・地域の拠点にふさわしいまちなみ景観を形成する ・歴史的な趣を際立たせる資源を活用し、魅力あるまちなみ景観を形成する |
| 重点的に取り組む景観施策 | 1 市民活動の推進 ①民間活動の促進 ②建築物の修景 2 景観学習の推進 ①市民の自主的な景観学習の推進 ②学校教育への景観学習の導入支援 3 重点地区の整備 中心市街地地区、国道248号地区、足助地区 4 屋外広告物の規制 ①屋外広告物の掲出に関する意識啓発 ②現行規制の見直しと取組の拡充 5 道路の整備 ①無電柱化の推進 ②舗装の美装化、ガードレール・照明柱のデザイン向上 ③サイン案内板のデザイン向上 ④緑化の推進 6 水と緑の整備 ①公園の整備 ②親水空間の整備 ③民有地の緑化の推進 7 公共建築物の整備 ①質の高い施設の建設と適切な維持管理 ②敷地内の緑化 8 行政による景観誘導に関する仕組みづくり ①規制区域の指定 ②景観誘導の仕組みの実施 |

出典：「豊田市景観計画」（平成30年3月 豊田市）

3.2.9 その他都市計画対象事業に関し必要な事項

3.2.9.1 廃棄物の状況

(1) ごみの処理状況

対象事業実施想定区域及びその周囲3市1町における令和5年度のごみの処理状況は、表 3.2.56(1)に示すとおりである。

対象事業実施想定区域が位置する東郷町のごみの総排出量は、12,001t/年となっている。また、その他の市におけるごみの総排出量は、日進市が25,387t/年、みよし市が19,699t/年、豊田市が129,275t/年となっている。

また、尾三衛生組合の構成市町である2市1町におけるごみ処理合計量の推移は、表 3.2.56(2)及び図 3.2.11に示すとおりであり、総排出量は緩やかな減少傾向となっている。

表 3.2.56(1) ごみの処理状況（令和5年度）

単位：t/年

| 市 町 | 東郷町 | 日進市 | みよし市 | 豊田市 |
|------------|--------|--------|--------|---------|
| 総排出量 | 12,001 | 25,387 | 19,699 | 129,275 |
| 焼却処理量 | 10,217 | 20,223 | 17,034 | 104,201 |
| 直接焼却量 | 9,683 | 19,363 | 16,449 | 102,905 |
| 焼却以外の中間処理量 | 793 | 1,290 | 3,197 | 18,730 |
| 最終処分量 | 753 | 1,462 | 2,100 | 7,835 |
| 総資源化量 | 2,456 | 6,536 | 2,925 | 19,304 |

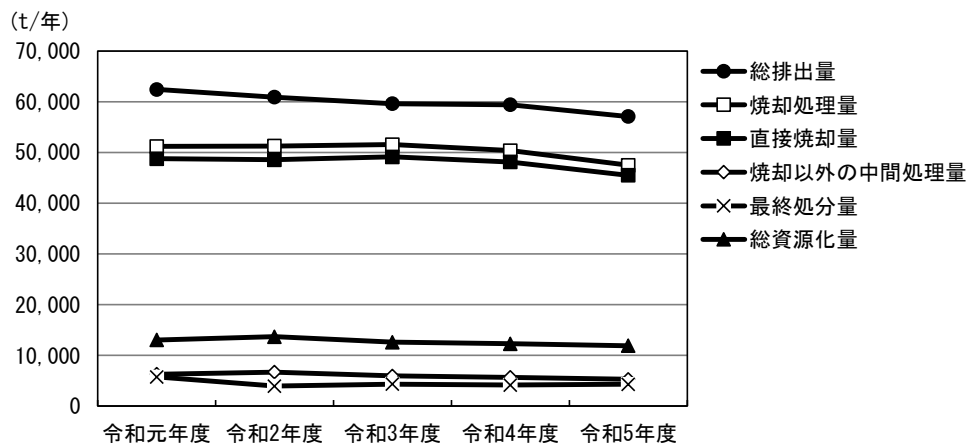
出典：「令和5年度 一般廃棄物処理事業実態調査」（令和7年3月 愛知県）

表 3.2.56(2) 組合構成市町におけるごみ処理合計量の推移

単位：t/年

| 年 度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 総排出量 | 62,418 | 60,912 | 59,604 | 59,400 | 57,087 |
| 焼却処理量 | 51,202 | 51,275 | 51,542 | 50,354 | 47,474 |
| 直接焼却量 | 48,761 | 48,556 | 49,138 | 48,129 | 45,495 |
| 焼却以外の中間処理量 | 6,292 | 6,697 | 5,959 | 5,690 | 5,280 |
| 最終処分量 | 5,764 | 3,962 | 4,347 | 4,158 | 4,315 |
| 総資源化量 | 13,034 | 13,682 | 12,613 | 12,297 | 11,917 |

出典：「令和元年度～令和5年度 一般廃棄物処理事業実態調査」（愛知県）



出典：「令和元年度～令和5年度 一般廃棄物処理事業実態調査」（愛知県）

図 3.2.11 組合構成市町におけるごみ処理合計量の推移

(2) し尿及び浄化槽汚泥の処理状況

対象事業実施想定区域及びその周囲3市1町における令和5年度のし尿及び浄化槽汚泥の処理状況は、表 3.2.57(1)に示すとおりである。

対象事業実施想定区域が位置する東郷町のし尿等の処理量の合計は、7,420kL/年となっている。また、その他の市のし尿等の処理量の合計は、日進市が12,881kL/年、みよし市が5,454kL/年、豊田市が103,997kL/年となっている。

また、3市1町におけるし尿等の処理量の推移は、表 3.2.57(2)及び図 3.2.12 に示すとおりである。

し尿等の処理量の推移は、令和3年度以降概ね減少傾向となっている。

表 3.2.57(1) し尿及び浄化槽汚泥の処理状況（令和5年度）

単位：kL/年

| 項 目 \ 市町 | 東郷町 | 日進市 | みよし市 | 豊田市 |
|----------|-------|--------|-------|---------|
| し尿処理量 | 216 | 336 | 338 | 6,281 |
| 浄化槽汚泥処理量 | 7,204 | 12,545 | 5,116 | 97,716 |
| 自家処理量 | - | - | - | - |
| 合 計 | 7,420 | 12,881 | 5,454 | 103,997 |

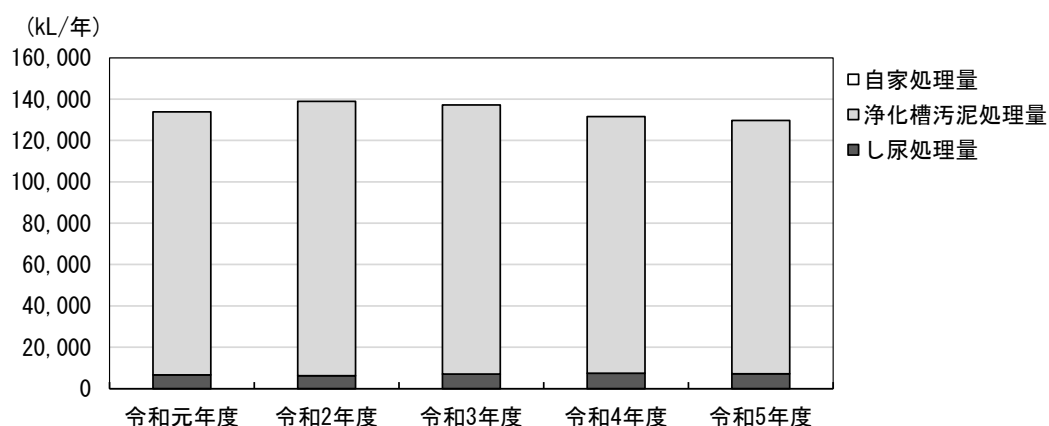
出典：「令和5年度 一般廃棄物処理事業実態調査」（令和7年3月 愛知県）

表 3.2.57(2) 3市1町におけるし尿及び浄化槽汚泥の処理量の推移

単位：kL/年

| 項 目 \ 年 度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|
| し尿処理量 | 6,639 | 6,215 | 7,052 | 7,403 | 7,171 |
| 浄化槽汚泥処理量 | 127,248 | 132,784 | 130,145 | 124,181 | 122,581 |
| 自家処理量 | - | - | - | - | - |
| 合 計 | 133,887 | 138,999 | 137,197 | 131,584 | 129,752 |

出典：「令和元年度～令和5年度 一般廃棄物処理事業実態調査」（愛知県）



出典：「令和元年度～令和5年度 一般廃棄物処理事業実態調査」（愛知県）

図 3.2.12 3市1町におけるし尿及び浄化槽汚泥の処理量の推移

3.2.9.2 公害苦情の状況

対象事業実施想定区域及びその周囲3市1町における令和4年度の公害苦情の状況は、表 3.2.58 及び図 3.2.13に示すとおりである。

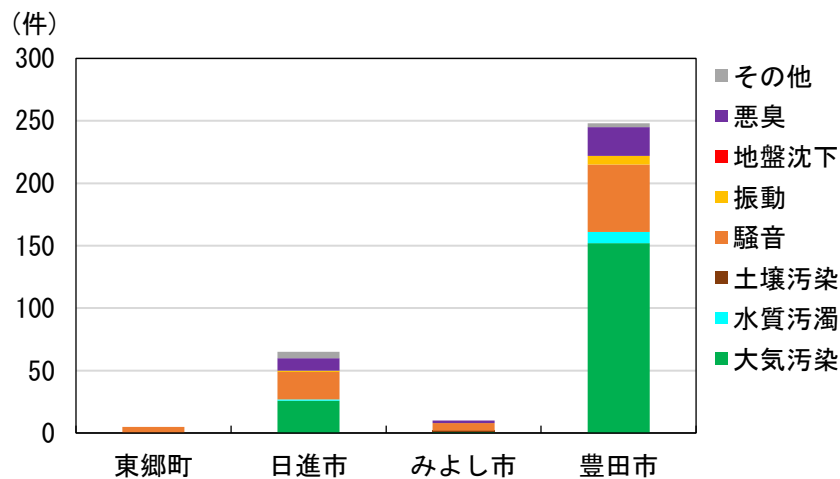
対象事業実施想定区域が位置する東郷町の公害苦情の総数は5件となっており、その他の市の公害苦情の総数は、日進市は65件、みよし市は10件、豊田市は248件となっている。

表 3.2.58 公害苦情の状況（令和4年度）

単位：件

| 区 分 \ 市町 | 東郷町 | 日進市 | みよし市 | 豊田市 |
|----------|-----|-----|------|-----|
| 大気汚染 | － | 26 | 1 | 152 |
| 水質汚濁 | － | 1 | － | 9 |
| 土壌汚染 | － | － | 1 | － |
| 騒音 | 5 | 22 | 6 | 54 |
| 振動 | － | 1 | － | 7 |
| 地盤沈下 | － | － | － | － |
| 悪臭 | － | 10 | 2 | 23 |
| その他 | － | 5 | － | 3 |
| 総数 | 5 | 65 | 10 | 248 |

出典：「令和6（2024）年度刊愛知県統計年鑑」（愛知県ホームページ）



出典：「令和6（2024）年度刊愛知県統計年鑑」（愛知県ホームページ）

図 3.2.13 公害苦情の状況（令和4年度）

3.2.9.3 維持管理の状況

既存施設の令和6年度の維持管理の状況は、表 3.2.59に示すとおりである。

測定結果は、すべての項目で規制値を下回っていた。

表 3.2.59(1) 維持管理の状況（令和6年度）

| | | 測定位置 | 測定日 | 結果報告日 | 測定結果 | 施設基準値 |
|-------------------------------------|-----|----------|--------|--------|----------|-------|
| ダイオキシン類 (ng-TEQ/m ³) | 1号炉 | 1号炉煙突測定口 | 7月26日 | 9月4日 | 0.20 | 1 |
| | 2号炉 | 2号炉煙突測定口 | 6月14日 | 7月24日 | 0.000063 | |
| 全水銀 (μg/m ³ N) | 1号炉 | 1号炉煙突測定口 | 4月23日 | 5月30日 | 1.1 | 50 |
| | | 〃 | 8月30日 | 10月8日 | 1.0 | |
| | | 〃 | 2月5日 | 3月13日 | 2.1 | |
| | 2号炉 | 2号炉煙突測定口 | 5月21日 | 6月27日 | 1.8 | |
| | | 〃 | 10月8日 | 11月12日 | 0.52 | |
| | | 〃 | 1月17日 | 2月25日 | 10 | |
| ばいじん (g/m ³ N) | 1号炉 | 1号炉煙突測定口 | 4月23日 | 5月30日 | 0.007 | 0.08 |
| | | 〃 | 7月26日 | 9月4日 | <0.004 | |
| | | 〃 | 8月30日 | 10月8日 | <0.004 | |
| | | 〃 | 9月10日 | 10月18日 | <0.004 | |
| | | 〃 | 12月13日 | 1月20日 | <0.004 | |
| | | 〃 | 2月5日 | 3月13日 | <0.004 | |
| | 2号炉 | 2号炉煙突測定口 | 5月21日 | 6月27日 | <0.003 | |
| | | 〃 | 6月14日 | 7月24日 | <0.004 | |
| | | 〃 | 10月8日 | 11月12日 | <0.004 | |
| | | 〃 | 11月14日 | 12月20日 | <0.003 | |
| | | 〃 | 1月17日 | 2月25日 | <0.005 | |
| | | 〃 | 3月13日 | 3月28日 | <0.004 | |
| 硫黄酸化物 (m ³ N/h) | 1号炉 | 1号炉煙突測定口 | 4月23日 | 5月30日 | 0.058 | K値規制 |
| | | 〃 | 7月26日 | 9月4日 | 0.090 | |
| | | 〃 | 8月30日 | 10月8日 | 0.190 | |
| | | 〃 | 9月10日 | 10月18日 | 0.10 | |
| | | 〃 | 12月13日 | 1月20日 | 0.27 | |
| | | 〃 | 2月5日 | 3月13日 | 0.25 | |
| | 2号炉 | 2号炉煙突測定口 | 5月21日 | 6月27日 | 0.21 | |
| | | 〃 | 6月14日 | 7月24日 | 0.24 | |
| | | 〃 | 10月8日 | 11月12日 | 0.13 | |
| | | 〃 | 11月14日 | 12月20日 | 0.28 | |
| | | 〃 | 1月17日 | 2月25日 | 0.19 | |
| | | 〃 | 3月13日 | 3月28日 | 0.30 | |
| 塩化水素 (mg/m ³ N) | 1号炉 | 1号炉煙突測定口 | 4月23日 | 5月30日 | <2.0 | 700 |
| | | 〃 | 7月26日 | 9月4日 | 6.0 | |
| | | 〃 | 8月30日 | 10月8日 | 34.0 | |
| | | 〃 | 9月10日 | 10月18日 | 20.0 | |
| | | 〃 | 12月13日 | 1月20日 | 50.0 | |
| | | 〃 | 2月5日 | 3月13日 | 55.0 | |
| | 2号炉 | 2号炉煙突測定口 | 5月21日 | 6月27日 | 27.0 | |
| | | 〃 | 6月14日 | 7月24日 | 25.0 | |
| | | 〃 | 10月8日 | 11月12日 | 20.0 | |
| | | 〃 | 11月14日 | 12月20日 | 31.0 | |
| | | 〃 | 1月17日 | 2月25日 | 35.0 | |
| | | 〃 | 3月13日 | 3月28日 | 19.0 | |

出典：「尾三衛生組合 一般廃棄物処理施設維持管理の状況（令和6年度）」（尾三衛生組合ホームページ）

表 3.2.59(2) 維持管理の状況（令和6年度）

| | | 測定位置 | 測定日 | 結果報告日 | 測定結果 | 施設基準値 |
|-------------------|-----|----------|--------|--------|------|-------|
| 窒素酸化物 (v/vppm) | 1号炉 | 1号炉煙突測定口 | 4月23日 | 5月30日 | 68.0 | 250 |
| | | 〃 | 7月26日 | 9月4日 | 65.0 | |
| | | 〃 | 8月30日 | 10月8日 | 80.0 | |
| | | 〃 | 9月10日 | 10月18日 | 66.0 | |
| | | 〃 | 12月13日 | 1月20日 | 72.0 | |
| | | 〃 | 2月5日 | 3月13日 | 79.0 | |
| | 2号炉 | 2号炉煙突測定口 | 5月21日 | 6月27日 | 67.0 | |
| | | 〃 | 6月14日 | 7月24日 | 62.0 | |
| | | 〃 | 10月8日 | 11月12日 | 90.0 | |
| | | 〃 | 11月14日 | 12月20日 | 82.0 | |
| | | 〃 | 1月17日 | 2月25日 | 59.0 | |
| | | 〃 | 3月13日 | 3月28日 | 81.0 | |

出典：「尾三衛生組合 一般廃棄物処理施設維持管理の状況（令和6年度）」（尾三衛生組合ホームページ）

第 4 章 計画段階配慮事項並びに調査、予測及び 評価の手法

第4章 計画段階配慮事項並びに調査、予測及び評価の手法

4.1 計画段階配慮事項の選定及びその選定理由

計画段階配慮事項は、愛知県環境影響評価条例に規定する「環境影響評価指針」（平成 11 年 5 月 28 日 愛知県告示第 445 号、最終改正令和 2 年 11 月 27 日）（以下、「指針」という。）の別表第 1 の参考項目を勘案して選定した。

計画段階配慮事項の選定に当たっては、事業特性及び地域特性に関する情報を踏まえ、配慮書対象事業（以下、「対象事業」という。）に伴う環境影響を及ぼすおそれがある要因（以下、「影響要因」という。）が、当該影響要因により重大な影響を受けるおそれがある環境の構成要素（以下、「環境要素」という。）に及ぼす影響の重大性について、客観的かつ科学的に検討した。

なお、工事の実施に関する環境影響については、地形改変の範囲は必要最小限とすることと、特殊な工法を用いた建設工事を行わない計画であること、環境保全措置を講ずることによって環境影響を低減することができることなどから、重大な環境影響を及ぼすおそれはないものと考えられるため、計画段階配慮事項としては選定しない。

影響要因と環境要素の関連及び選定した計画段階配慮事項は表 4.1.1 に、計画段階配慮事項の選定理由は表 4.1.2 に示すとおりである。

表 4.1.1 計画段階配慮事項の選定

| 影響要因の区分 環境要素の区分 | | | 工事の実施 | | | 土地又は工作物の存在及び供用 | | | | | |
|--|--|------------------------|----------------|----------|-----------|----------------|--------|--------|-----------|-------------|------------|
| | | | 資材等の搬入及び搬出 | 建設機械の稼働等 | 掘削・盛土等の土工 | 地形改変並びに施設の存在 | ばい煙の排出 | 機械等の稼働 | 汚水の排出（雨水） | 廃棄物等の搬入及び搬出 | 施設からの悪臭の漏洩 |
| 環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素 | 大気質 | 硫黄酸化物 | | | | | | | | | |
| | | 窒素酸化物 | | | | | ○ | | | | |
| | | 浮遊粒子状物質 | | | | | ○ | | | | |
| | | 粉じん等 | | | | | | | | | |
| | | 有害物質等 | | | | | ○ | | | | |
| | 騒音及び超低周波音 | 建設作業等騒音 | | | | | | | | | |
| | | 施設からの騒音 | | | | | | | | | |
| | | 道路交通騒音 | | | | | | | | | |
| | 振 動 | 建設作業等振動 | | | | | | | | | |
| | | 施設からの振動 | | | | | | | | | |
| | | 道路交通振動 | | | | | | | | | |
| | 悪 臭 | 特定悪臭物質、臭気指数 | | | | | | | | | |
| | 水 質 | 水素イオン濃度 | | | | | | | | | |
| | | 水の汚れ(生物化学的酸素要求量等) | | | | | | | | | |
| | | 水の濁り(浮遊物質等) | | | | | | | | | |
| | | 富栄養化 | | | | | | | | | |
| | | 有害物質等 | | | | | | | | | |
| | 地形及び地質 | 重要な地形及び地質 | | | | | | | | | |
| | 地盤・土壌 | 土壌環境 | | | | | | | | | |
| | 地下水の状況及び地下水質 | 地下水の状況 | | | | | | | | | |
| | | 地下水質 | | | | | | | | | |
| | 日照障害 | | | | | | | | | | |
| | 生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素 | 動 物 | 重要な種及び注目すべき生息地 | | | | | | | | |
| 植 物 | | 重要な種及び群落 | | | | | | | | | |
| 生態系 | | 地域を特徴付ける生態系 | | | | | | | | | |
| 人と自然との豊かな触れ合いの確保及び地域の歴史的・文化的特性を生かした快適な環境の創造を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素 | 景 観 | 景観資源及び主要な眺望点並びに主要な眺望景観 | | | | ○ | | | | | |
| | 人と自然との触れ合いの活動の場 | 主要な人と自然との触れ合いの活動の場 | | | | | | | | | |
| | 地域の歴史的文化的特性を生かした環境の状況 | | | | | | | | | | |
| 環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき環境要素 | 廃棄物等 | 廃棄物 | | | | | | | | | |
| | | 残土その他の副産物 | | | | | | | | | |
| | 温室効果ガス等 | 温室効果ガス等 | | | | | | | | | |

注1) 表中の網掛けは、指針に定める点的開発の参考項目であることを示す。

注2) 表中の「○」は選定した項目を示す。

表 4.1.2 計画段階配慮事項の選定理由

| 項目 | | | 選定理由 |
|---------|---------------------------|--------------|--|
| 環境要素の区分 | | 影響要因の区分 | |
| 大気質 | 窒素酸化物 浮遊粒子状物質 有害物質等 | ばい煙の排出 | <p>計画施設の稼働に伴い発生する排ガス中に含まれる窒素酸化物等により、周辺地域において重大な影響を及ぼすおそれがあることから、計画段階配慮事項として選定する。</p> <p>なお、項目は既存の一般環境大気測定局の結果からバックグラウンド濃度の把握ができ、現況の濃度の状況を鑑みて重大な影響の可能性のある窒素酸化物、浮遊粒子状物質、有害物質等（ダイオキシン類）とする。</p> |
| 景観 | 景観資源及び主要な眺望点並びに主要な眺望景観 | 地形改変並びに施設の使用 | <p>計画施設の存在に伴い主要な眺望点等における景観が変化し重大な影響を及ぼすおそれがあることから、計画段階配慮事項として選定する。</p> |

4.2 調査、予測及び評価の手法の選定

調査、予測及び評価の手法は、指針及び「計画段階配慮手続に係る技術ガイド」（平成25年3月環境省計画段階配慮技術手法に関する検討会）を参考とし、選定事項ごとに選定事項の特性及び対象事業が及ぼすおそれがある環境影響の重大性について、客観的かつ科学的に検討できる手法を選定した。

本事業に係る計画段階配慮事項に関する調査、予測及び評価の手法は、表4.2.1に示すとおりである。

表 4.2.1(1) 調査、予測及び評価の手法（大気質）

| 項目 | | 調査、予測及び評価の手法 | |
|---------------------------|-------------------|--------------|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | |
| 窒素酸化物 浮遊粒子状物質 有害物質等 | <施設の供用> ばい煙の排出 | 調査すべき情報 | (1) 二酸化窒素、浮遊粒子状物質及び有害物質等の濃度の状況 (2) 気象の状況 地上気象（風向・風速） |
| | | 調査の基本的な手法 | (1) 二酸化窒素、浮遊粒子状物質及び有害物質等の濃度の状況 大気汚染常時監視測定局等における測定結果の収集、整理による。 (2) 気象の状況 (1)と同じ |
| | | 調査地域 | 対象事業実施想定区域より概ね 3km ^{注)} の範囲とする。 |
| | | 予測の基本的な手法 | プルーム式等による簡易的な拡散計算により、年間の平均的な気象条件時における煙突からの寄与濃度について予測する。 |
| | | 予測地域 | 調査地域と同じ。 |
| | | 評価の手法 | 本事業の実施による、重大な環境影響の程度を整理・検討する。 |

注) 計画施設からの煙突排ガスの最大着地濃度出現予想距離の概ね2倍を見込んで設定した。（「第3章 配慮書対象事業実施想定区域及びその周囲の概況」（3-1頁）参照。）

表 4.2.1(2) 調査、予測及び評価の手法（景観）

| 項目 | | 調査、予測及び評価の手法 | |
|------------------------|-------------------------|--------------|--|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | |
| 景観資源及び主要な眺望点並びに主要な眺望景観 | <施設の存在> 地形改変並びに施設の存在 | 調査すべき情報 | 景観資源、主要な眺望点等及び眺望景観の状況 |
| | | 調査の基本的な手法 | 既存資料の調査・整理及び現地踏査による。 |
| | | 調査地域 | 対象事業実施想定区域より概ね 3km の範囲とする。 |
| | | 予測の基本的な手法 | 景観資源及び主要な眺望点と対象事業実施想定区域の位置関係について整理する。 また、フォトモンタージュを作成し視覚的に表現するとともに、仰角を算出し、定量的に予測する。 |
| | | 予測地域 | 対象事業実施想定区域周辺とする。 |
| | | 評価の手法 | 複数案における環境影響の程度を比較整理し、重大な環境影響の程度を整理・検討する。 |

第 5 章 計画段階配慮事項に係る調査、予測及び 評価の結果

第5章 計画段階配慮事項に係る調査、予測及び評価の結果

5.1 大気質

5.1.1 調査

5.1.1.1 調査方法

(1) 大気質の状況

文献及び他の資料調査結果により、対象事業実施想定区域周辺の一般環境大気測定局における過去5年間の測定結果（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、ダイオキシン類）を調査・整理した。

各測定局の位置は、前掲図 3.1.5（3-9 頁参照）に示したとおりである。

(2) 気象の状況

文献及び他の資料調査結果により、対象事業実施想定区域から北西に約 12.2 km の位置にある名古屋地方気象台の測定結果（風向・風速）を調査・整理した。

なお、対象事業実施想定区域の最寄りの気象観測所として、対象事業実施想定区域から東北東約 8.3km の位置に豊田地域気象観測所が位置するが、周辺の地形や対象事業実施想定区域における過去の測定データ等から、より類似性の高いと考えられる名古屋地方気象台の観測結果により把握することとした。

5.1.1.2 調査結果

(1) 大気質の状況

一般環境大気測定局等における測定結果は、「3.1.1.2 大気質」（3-8～15 頁参照）に記載したとおりである。

測定結果は、二酸化窒素、浮遊粒子状物質及びダイオキシン類ともに環境基準を達成していた。

(2) 気象の状況

名古屋地方気象台における令和6年の風向及び風速の測定結果は表5.1.1に、風配図は図5.1.1に示すとおりである。

観測結果は、最多風向は北北西（年間出現頻度：20.9%）、年間平均風速は3.0m/秒となっている。

表 5.1.1 風向・風速の観測結果（令和6年）

| 風向 | 北 | 北北東 | 北東 | 東北東 | 東 | 東南東 | 南東 | 南南東 |
|-----------|------|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|
| 出現頻度（%） | 12.6 | 4.7 | 3.1 | 2.8 | 1.8 | 2.9 | 6.8 | 7.7 |
| 平均風速（m/秒） | 2.3 | 1.7 | 1.6 | 1.6 | 1.3 | 1.9 | 2.7 | 3.6 |
| 風向 | 南 | 南南西 | 南西 | 西南西 | 西 | 西北西 | 北西 | 北北西 |
| 出現頻度（%） | 4.3 | 2.7 | 2.4 | 1.5 | 2.2 | 9.0 | 14.4 | 20.9 |
| 平均風速（m/秒） | 3.3 | 3.0 | 3.0 | 2.5 | 2.8 | 4.1 | 3.8 | 3.1 |

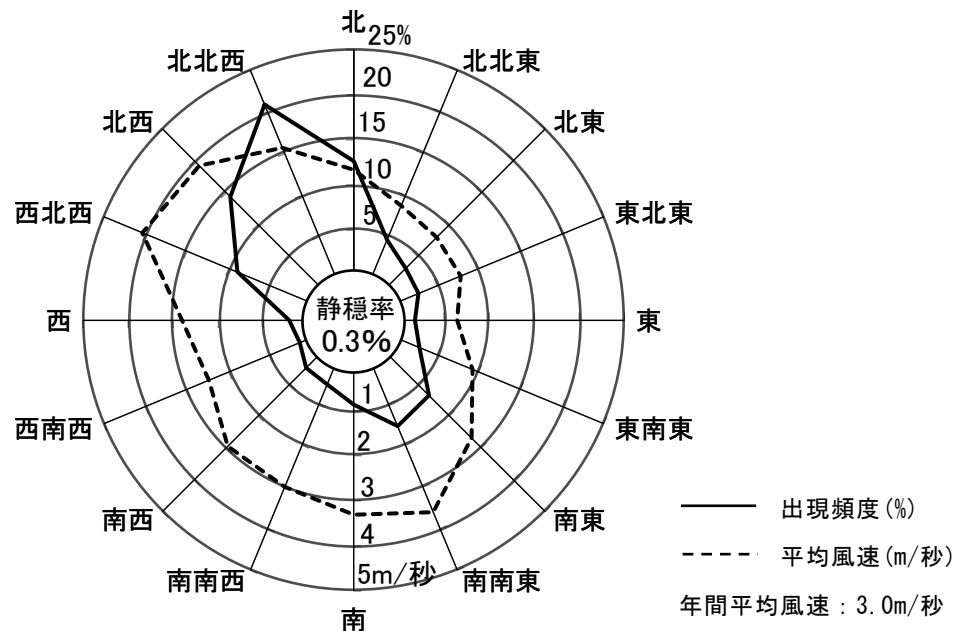


図 5.1.1 名古屋地方気象台における風向・風速及び出現頻度（令和6年）

5.1.2 予測

5.1.2.1 予測方法

(1) 予測項目

予測項目は、計画施設からのばい煙の排出に係る大気質への影響の程度とし、長期平均濃度（年平均値）を予測することとし、項目は既存の一般環境大気測定局の結果からバックグラウンド濃度の把握ができる二酸化窒素（窒素酸化物）、浮遊粒子状物質（ばいじん）、ダイオキシン類とした。

(2) 予測地域

予測地域は、計画施設から排出される煙突排ガスに係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域として、図 5.1.2 に示すとおり、対象事業実施想定区域から半径約 3km の範囲とした。3km 範囲の設定の考え方は、「第3章 配慮書対象事業実施想定区域及びその周囲の概況」（3-1 頁）参照。また、予測点高さは地上 1.5m とした。

(3) 予測対象時期

予測対象時期は、計画施設の稼働が定常の状態になる時期とした。



図 5.1.2 大気質の予測地域

(4) 予測方法

① 予測手法

現地での詳細な気象データがないことから、「廃棄物処理施設生活環境影響調査指針」（平成18年9月 環境省）に記載された長期平均濃度を求めるための手法のうち簡易的な手法を参考に年平均値に相当する値を求めた。

② 予測式

a) 有風時寄与濃度計算（風速：1.0m/秒以上）

拡散式は以下の点煙源ブルーム式を用いた。

$$C(x, y, z) = \frac{Q_p}{2\pi\sigma_y\sigma_z u} \cdot \exp\left(-\frac{y^2}{2\sigma_y^2}\right) \cdot \left[\exp\left\{-\frac{(z-H_e)^2}{2\sigma_z^2}\right\} + \exp\left\{-\frac{(z+H_e)^2}{2\sigma_z^2}\right\} \right] \cdot 10^6$$

ここで、

$C(x, y, z)$: 予測地点の濃度 (ppm、mg/m³)

x : 予測地点までの風下距離 (m)

y : 予測地点までの水平距離 (m)

z : 予測地点の高さ (=1.5m)

Q_p : 排出強度 (m³/秒、kg/秒)

u : 風速 (m/秒)

H_e : 有効煙突高 (m)

σ_y : 有風時の水平方向の拡散パラメータ (m)

(大気安定度Cでの値：表 5.1.2(1)参照)

σ_z : 有風時の鉛直方向の拡散パラメータ (m)

(大気安定度Cでの値：表 5.1.2(2)参照)

有風時の最大着地濃度 (Cm) に主風向出現比率 (Fw：%) を乗じて、有風時年平均寄与濃度 (Cw) を算出した。

$$Cw = Cm \times Fw / 100$$

b) 静穏時寄与濃度計算（風速：1.0m/秒未満）

拡散式は以下の簡易パフ式を用い、静穏時の寄与濃度を計算した。

$$C(R, z) = \frac{Q_p}{(2\pi)^{3/2}\gamma} \cdot \left\{ \frac{1}{R^2 + (\alpha^2/\gamma^2) \cdot (H_e - z)^2} + \frac{1}{R^2 + (\alpha^2/\gamma^2) \cdot (H_e + z)^2} \right\} \cdot 10^6$$

ここで、

$C(R, z)$: 予測地点の濃度 (ppm、mg/m³)

R : 予測地点までの水平距離 (m)

z : 予測地点の高さ (=1.5m)

Q_p : 排出強度 (m³/秒、kg/秒)

H_e : 有効煙突高 (m)

α 、 γ : 拡散パラメータ (大気安定度Cでの値：表 5.1.3参照)

静穏時の濃度 (C) に静穏時出現比率 (Fc：%) を乗じて、静穏時年平均寄与濃度 (Cc) を算出した。

$$Cc = C \times Fc / 100$$

c) 拡散パラメータ

有風時の拡散パラメータとして、表 5.1.2 に示すパスキル・ギフォード (Pasquill・Gifford) 図に基づく近似関数を用いた。

表 5.1.2(1) パスキル・ギフォード図 (有風時) の近似関数 (σ_y)

$$\sigma_y(\chi) = \gamma_y \cdot \chi^{\alpha_y}$$

| 安 定 度 | α_y | γ_y | 風下距離 χ (m) |
|-------|------------|------------|-----------------|
| A | 0.901 | 0.426 | 0 ~ 1,000 |
| | 0.851 | 0.602 | 1,000 ~ |
| B | 0.914 | 0.282 | 0 ~ 1,000 |
| | 0.865 | 0.396 | 1,000 ~ |
| C | 0.924 | 0.1772 | 0 ~ 1,000 |
| | 0.885 | 0.232 | 1,000 ~ |
| D | 0.929 | 0.1107 | 0 ~ 1,000 |
| | 0.889 | 0.1467 | 1,000 ~ |
| E | 0.921 | 0.0864 | 0 ~ 1,000 |
| | 0.897 | 0.1019 | 1,000 ~ |
| F | 0.929 | 0.0554 | 0 ~ 1,000 |
| | 0.889 | 0.0733 | 1,000 ~ |
| G | 0.921 | 0.0380 | 0 ~ 1,000 |
| | 0.896 | 0.0452 | 1,000 ~ |

出典：「窒素酸化物総量規制マニュアル (新版)」(平成 12 年 公害研究対策センター)

表 5.1.2(2) パスキル・ギフォード図 (有風時) の近似関数 (σ_z)

$$\sigma_z(\chi) = \gamma_z \cdot \chi^{\alpha_z}$$

| 安 定 度 | α_z | γ_z | 風下距離 χ (m) |
|-------|------------|------------|-----------------|
| A | 1.122 | 0.0800 | 0 ~ 300 |
| | 1.514 | 0.00855 | 300 ~ 500 |
| | 2.109 | 0.000212 | 500 ~ |
| B | 0.964 | 0.1272 | 0 ~ 500 |
| | 1.094 | 0.0570 | 500 ~ |
| C | 0.918 | 0.1068 | 0 ~ |
| D | 0.826 | 0.1046 | 0 ~ 1,000 |
| | 0.632 | 0.400 | 1,000 ~ 10,000 |
| | 0.555 | 0.811 | 10,000 ~ |
| E | 0.788 | 0.0928 | 0 ~ 1,000 |
| | 0.565 | 0.433 | 1,000 ~ 10,000 |
| | 0.415 | 1.732 | 10,000 ~ |
| F | 0.784 | 0.0621 | 0 ~ 1,000 |
| | 0.526 | 0.370 | 1,000 ~ 10,000 |
| | 0.323 | 2.41 | 10,000 ~ |
| G | 0.794 | 0.0373 | 0 ~ 1,000 |
| | 0.637 | 0.1105 | 1,000 ~ 2,000 |
| | 0.431 | 0.529 | 2,000 ~ 10,000 |
| | 0.222 | 3.62 | 10,000 ~ |

出典：「窒素酸化物総量規制マニュアル (新版)」(平成 12 年 公害研究対策センター)

なお、 σ_y については、次のとおり時間希釈の補正を行った。

$$\sigma_y = \sigma_{yp} \cdot (t/t_p)^r$$

ここで、

σ_y : 評価時間 t における水平方向の拡散パラメータ (m)

σ_{yp} : パスキル・ギフォード図の近似関数における水平方向の拡散パラメータ (m)

t : 評価時間 (=60分)

t_p : パスキル・ギフォード図の評価時間 (=3分)

r : べき指数 (=0.2)

また、無風時の拡散パラメータとして、表 5.1.3 に示すパスキル安定度に対応した拡散パラメータを使用した。

表 5.1.3 無風時の拡散パラメータの近似関数

| 大気安定度 | α | γ |
|-------|----------|----------|
| A | 0.948 | 1.569 |
| A-B | 0.859 | 0.862 |
| B | 0.781 | 0.474 |
| B-C | 0.702 | 0.314 |
| C | 0.635 | 0.208 |
| C-D | 0.542 | 0.153 |
| D | 0.470 | 0.113 |
| E | 0.439 | 0.067 |
| F | 0.439 | 0.048 |
| G | 0.439 | 0.029 |

出典：「窒素酸化物総量規制マニュアル（新版）」

（平成12年12月 公害研究対策センター）

d) 年平均値の計算

上記で算出した有風時、静穏時の年平均寄与濃度を合計したものを簡易的年平均濃度推定値（Cn）とした。

$$C_n = C_w + C_c$$

e) 有効煙突高の計算式

有効煙突高は、有風時はCONCAWE（コンケイウ）式を、無風時はBriggs（ブリッグス）式を用いて求めた値とした。

$$H_e = H_0 + \Delta H$$

$$\text{CONCAWE式：} \Delta H = 0.0855 \cdot Q_H^{1/2} \cdot u^{-3/4}$$

$$\text{Briggs式：} \Delta H = 0.979 \cdot Q_H^{1/4} \cdot (d\theta/dz)^{-3/8}$$

[記号]

H_e ：有効煙突高（m）

H_0 ：煙突実体高（m）

ΔH ：排煙上昇高（m）

Q_H ：排出熱量（J/秒）

$$Q_H = \rho \cdot C_p \cdot Q \cdot \Delta T$$

ρ ：0℃における排出ガス密度（ $1.293 \times 10^3 \text{g/m}^3$ ）

C_p ：定圧比熱（ $1.0056 \text{J/(K} \cdot \text{g)}$ ）

Q ：排出ガス量（湿り）（ $\text{m}^3/\text{秒}$ ）

ΔT ：排出ガス温度と気温との温度差（℃）

u ：煙突頂部の風速（m/秒）

$d\theta/dz$ ：温位勾配（℃/m）

③ 予測条件

a) 煙突排ガスの諸元

予測に用いる煙突排ガスの諸元は、表 5.1.4 に示すとおりである。

排ガス量は同規模の類似事例を参考とし、排出濃度は既存施設の自主基準値とした。なお、計画施設の排出濃度については、今後検討を行い、項目の精査と併せて同等又は排出濃度をさらに低減した値を自主規制値とする計画である。

表 5.1.4 予測に用いる煙突排ガスの諸元

| 項 目 | | 設定値 |
|--------|--------------------------|-----------------------------|
| 煙突高 | | 59m |
| 湿りガス量 | | 40,500m ³ /h×2 炉 |
| 乾きガス量 | | 33,800m ³ /h×2 炉 |
| 排出ガス温度 | | 175℃ |
| 排出濃度 | ばいじん | 0.02g/m ³ N |
| | 窒素酸化物 (NO _x) | 100ppm |
| | ダイオキシン類 | 1ng-TEQ/m ³ N |

注) 排出濃度は、酸素濃度 12%換算値

b) 気象条件

名古屋地方気象台の令和 6 年の測定結果を用いて、煙突実体高における年間の主風向の風速（北北西：4.0m/秒）、出現頻度（北北西：20.7%）、静穏時（1m/秒未満）の出現頻度（3.5%）を設定した。大気安定度については「廃棄物処理施設生活環境影響調査指針」に基づく簡易的予測の手法を用いる場合は、大気安定度「C」とすることとされているため、「C」とした。

c) バックグラウンド濃度

バックグラウンド濃度は、対象事業実施想定区域周辺の一般環境大気測定局における令和 6 年度の測定結果（年平均値）のうち、最も高い値を用いた。

設定したバックグラウンド濃度は、表 5.1.5 に示すとおりである。

表 5.1.5 バックグラウンド濃度

| 項目 | バックグラウンド濃度 | 測定局 |
|---------|----------------------------|----------|
| 二酸化窒素 | 0.008ppm | 東郷町春木測定局 |
| 浮遊粒子状物質 | 0.013mg/m ³ | 東郷町春木測定局 |
| ダイオキシン類 | 0.029pg-TEQ/m ³ | 東郷町春木測定局 |

④ 変換式

a) 窒素酸化物濃度から二酸化窒素濃度への変換

窒素酸化物濃度から二酸化窒素濃度への変換は、環境への影響が大きくなる設定とし、窒素酸化物がすべて二酸化窒素に変換するものとした。

b) 日平均値の2%除外値又は年間98%値への換算

大気拡散計算により得られるのは年平均値であるため、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質については環境基準と対比するために、日平均値の2%除外値又は年間98%値へ換算する必要がある。

変換は、対象事業実施想定区域周辺の一般環境大気測定局（東郷町春木測定局、日進市五色園測定局、中部局（三軒町））における過去5年間の測定データを用いて、年平均値と年間98%値又は2%除外値の関係を統計的に求める方法によった。

・ 二酸化窒素 : $y = 2.1684x + 0.0017$

・ 浮遊粒子状物質 : $y = 2.1479x + 0.001$

5.1.2.2 予測結果

(1) 二酸化窒素等の長期予測結果

ばい煙の排出による大気質への影響の予測結果は、表 5.1.6 に示すとおりである。

最大着地濃度地点における将来濃度は、バックグラウンド濃度と同程度になると予測される。
 なお、A 案(煙突東側配置)、B 案(煙突中央配置)ともに同等の値となり、施設配置の複数案による違いはない。

表 5.1.6 予測結果

| 項 目 | バックグラ ウンド濃度 (年平均値) ① | 寄与濃度 (年平均値) ② | 将来濃度 (年平均値) ①+② | 日平均値の 2%除外値 又は 年間98%値 | 最大着地 濃度 出現距離 |
|----------------------------------|-------------------------------|---------------------|-----------------------|--------------------------------|--------------------|
| 二酸化窒素 (ppm) | 0.008 | 0.0009 | 0.0089 | 0.0209 | 約 1.3km |
| 浮遊粒子状物質 (mg/m ³) | 0.013 | 0.0002 | 0.0132 | 0.0293 | 約 1.3km |
| ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³) | 0.029 | 0.0087 | 0.0377 | — | 約 1.3km |

(2) 予測の不確実性

計画施設における煙突排ガスの諸元が現時点で決定していないこと、また、気象条件及びバックグラウンド濃度について、既存資料データを用いて予測を行っていることから、予測の不確実性があり、方法書以降の手続きにおいて、気象の現地調査の実施や計画施設の計画諸元について十分検討したデータに基づいた予測を行う。

5.1.3 評価

5.1.3.1 評価方法

予測結果に基づき、環境保全に関する基準との整合性及び重大な環境影響の程度について評価した。

5.1.3.2 評価結果

二酸化窒素、浮遊粒子状物質及びダイオキシン類の予測結果と環境基準との比較結果は、表5.1.7に示すとおりである。

予測結果（寄与濃度）にバックグラウンド濃度を加えた将来濃度は、いずれの対象計画案においても同様の値となり、すべての項目において環境基準を下回っていることから、重大な影響が生じることはないと評価する。

表 5.1.7 予測結果と環境基準の比較

| 項目 | 最大着地濃度地点 の将来濃度 (年平均値) | 日平均値の2% 除外値又は 年間98%値 | 環境基準 |
|-------------------------------------|-----------------------------|----------------------------|--|
| 二酸化窒素 (ppm) | 0.0089 | 0.0209 | 1時間値の1日平均値が0.04 から0.06までのゾーン内又 はそれ以下 |
| 浮遊粒子状物質 (mg/m ³) | 0.0132 | 0.0293 | 1時間値の1日平均値が0.10 以下 |
| ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³) | 0.0377 | — | 年間平均値が0.6以下 |

5.2 景観

5.2.1 調査

5.2.1.1 調査方法

文献その他の既存資料調査結果及び現地踏査により、対象事業実施想定区域より概ね3kmの範囲における景観資源、主要な眺望点等及び眺望景観の状況について調査・整理した。3km範囲の設定の考え方は、「第3章 配慮書対象事業実施想定区域及びその周囲の概況」（3-1頁）参照。

5.2.1.2 調査結果

(1) 既存資料調査

① 景観資源の状況

対象事業実施想定区域周辺における景観資源の状況は、「3.1.9.1 景観」（3-86、87頁参照）に示したとおりである。対象事業実施想定区域周辺の景観資源としては、「美しい愛知づくり条例」に基づく「美しい愛知づくり景観資源600選」に指定されている長田池、三好池などが挙げられる。また、対象事業実施想定区域の西側約0.1kmには愛知池が存在している。

② 主要な眺望点等の状況

対象事業実施想定区域周辺における主要な眺望点等の状況は、「3.1.9.1 景観」（3-88、89頁参照）に示したとおりである。対象事業実施想定区域周辺における主要な眺望点等としては、愛知池堤体、愛知牧場などが挙げられる。

(2) 現地踏査

① 踏査時期

令和7年5月13日（火）

② 踏査地点

踏査地点には、対象事業実施想定区域周辺における主要な眺望点や不特定多数の人が利用すると考えられる日常生活における視点の場を設定した。

設定した踏査地点は、表5.2.1及び図5.2.1に示すとおりである。

表 5.2.1 設定した踏査地点

| 踏査地点 | 設定理由 |
|-------------|-------------------|
| 景観1 北側道路 | 日常生活における視点の場として設定 |
| 景観2 ほのぼのテラス | 主要な眺望点として設定 |
| 景観3 南側住宅地 | 日常生活における視点の場として設定 |
| 景観4 愛知池運動公園 | 主要な眺望点として設定 |

③ 踏査方法

踏査地点における対象事業実施想定区域方向の眺望の状況について、写真撮影により把握した。撮影は、地上高さ約1.5mより、35mmフィルム換算で35mm相当のレンズを使用して行った。

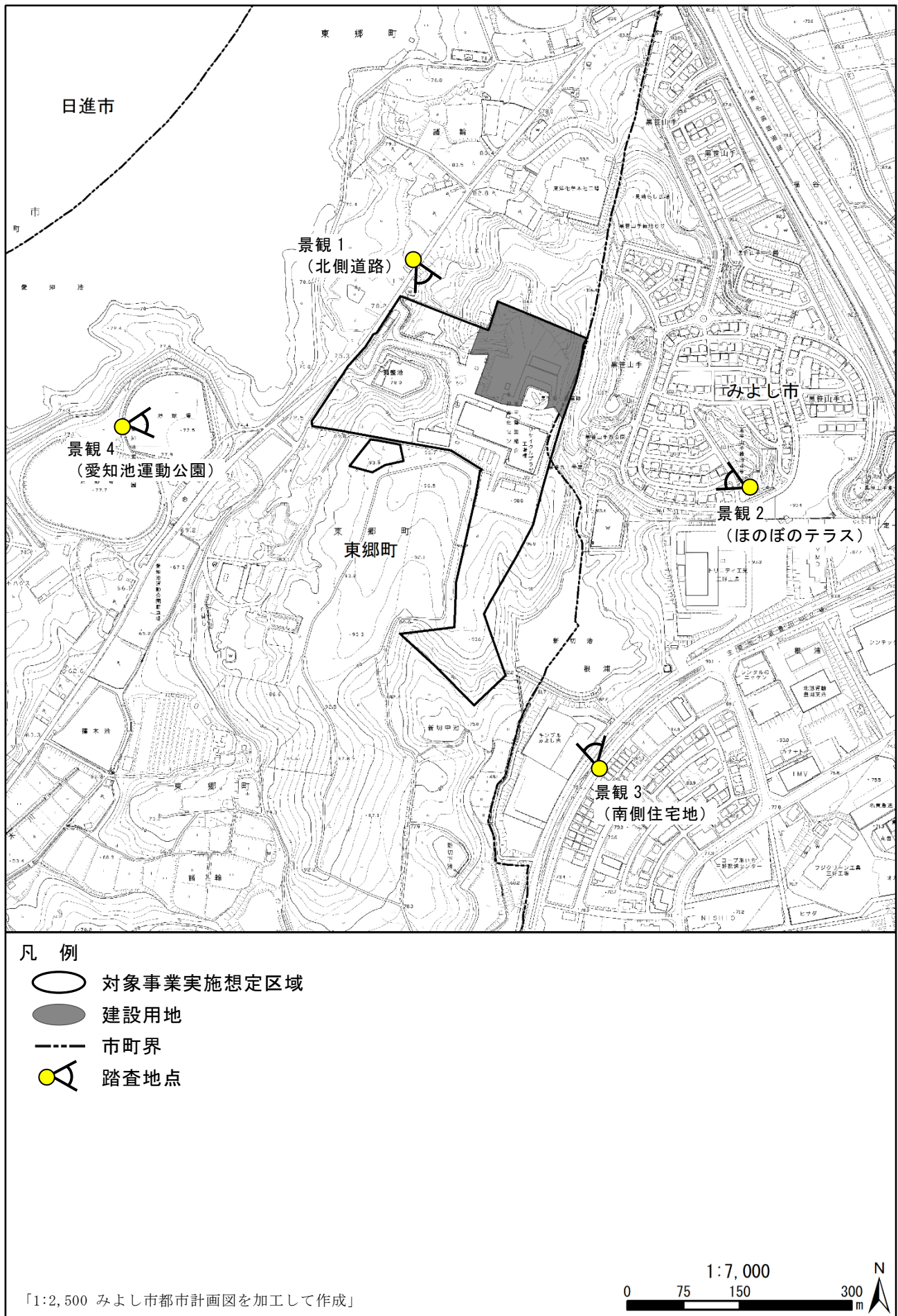


図 5.2.1 設定した踏査地点

④ 踏査結果

各踏査地点における視点の状況及び眺望の状況は、表 5.2.2 に示すとおりである。

表 5.2.2(1) 踏査結果

| 踏査地点 | 景観1 北側道路 |
|-------|--|
| 視点の状況 | 対象事業実施想定区域（建設用地）の北西側約120mに位置する地点で、周辺には事業所等が存在する。 |
| 眺望の状況 | <p>手前には土砂の仮置き場や樹林が視認され、樹林の奥に対象事業実施想定区域方向を望むことができる。</p>  |

表 5.2.2(2) 踏査結果

| 踏査地点 | 景観2 ほのぼのテラス |
|-------|--|
| 視点の状況 | 対象事業実施想定区域（建設用地）の東側約270mに位置する地点で、周辺には住宅や事業所、樹林等が存在する。 |
| 眺望の状況 | <p>手前には住宅や樹林等が視認され、その奥に対象事業実施想定区域方向を望むことができる。</p>  |

表 5.2.2(3) 踏査結果



| 踏査地点 | 景観3 南側住宅地 |
|-------|---|
| 視点の状況 | 対象事業実施想定区域（建設用地）の南側約470mに位置し、周辺には住宅や事業所、樹林等が存在する。 |
| 眺望の状況 | <p>手前には道路や事業所の構造物、樹林等が視認され、その奥に対象事業実施想定区域方向を望むことができる。</p>  |

表 5.2.2(4) 踏査結果

| 踏査地点 | 景観4 愛知池運動公園 |
|-------|--|
| 視点の状況 | 対象事業実施想定区域（建設用地）の西側約470mに位置し、愛知池運動公園内の地点で、周辺には愛知池や野球場、グラウンド等が存在する。 |
| 眺望の状況 | <p>手前には野球場、樹林等が視認され、樹林の奥に対象事業実施想定区域方向を望むことができる。</p>  |

5.2.2 予測

5.2.2.1 予測方法

(1) 予測項目

予測項目は、景観資源及び主要な眺望点の改変の状況並びに計画施設の存在による眺望景観への影響の程度とした。

(2) 予測地域及び予測地点

① 予測地域

予測地域は、計画施設の存在による景観への影響が及ぶと想定される範囲とし、対象事業実施想定区域より約3kmの範囲とした。3km範囲の設定の考え方は、「第3章 配慮書対象事業実施想定区域及びその周囲の概況」(3-1 頁) 参照。また、予測地点は景観資源及び主要な眺望点とした。

② 予測地点

予測地点は、主要な眺望点や不特定多数の人が利用すると考えられる日常生活における視点の場を設定し、表 5.2.3 に示すとおり、踏査の結果、対象事業実施想定区域を視認できる4地点とした。

表 5.2.3 予測地点

| 予測地点 | 設定理由 |
|-------------|-------------------|
| 景観1 北側道路 | 日常生活における視点の場として設定 |
| 景観2 ほのぼのテラス | 主要な眺望点として設定 |
| 景観3 南側住宅地 | 日常生活における視点の場として設定 |
| 景観4 愛知池運動公園 | 主要な眺望点として設定 |

(3) 予測対象時期

予測対象時期は、計画施設の供用開始後とした。

(4) 予測方法

① 予測手法

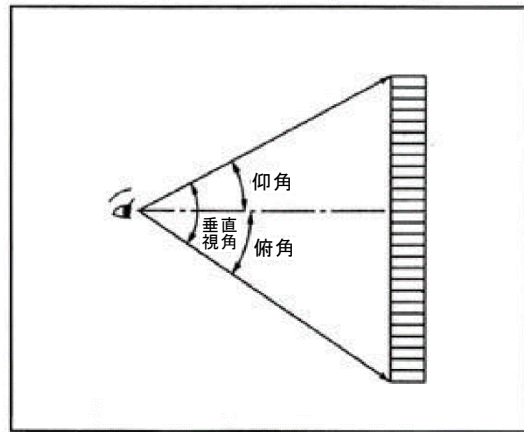
a) 景観資源及び主要な眺望点の改変の状況

景観資源及び主要な眺望点と対象事業実施想定区域の位置関係について整理することにより、事業の実施による景観資源及び主要な眺望点の改変の状況について予測を行った。

b) 施設の存在による眺望景観への影響

予測地点からの現況写真に計画施設を合成したフォトモンタージュを作成し、視覚的に表現することにより予測を行った。

また、予測地点から計画施設を望む仰角を算出し、定量的な予測を行った。仰角の概要は、図 5.2.2 に示すとおりである。



出典：「環境アセスメント技術ガイド自然とのふれあい」
(2002年10月 財団法人自然環境研究センター)

図 5.2.2 仰角の概要

② 予測式

a) 仰角

仰角については、以下のとおり算出した。

$$\text{仰角}^{\circ} = \tan^{-1} \left(\frac{\text{対象物高 (m)} - \text{眺望点高 (m)}}{\text{水平距離 (m)}} \right) \times 180 / \pi$$

π ：円周率

注) 眺望点高については、視点の高さ(1.5m)とした。

③ 予測条件

予測にあたって設定した計画施設の規模は、表 5.2.4 に示すとおりである。なお、煙突の配置に関する複数案については、「2.2.5 複数案の設定」(2-14～16 頁参照)で示したとおりである。

表 5.2.4 設定した計画施設の規模

| 項目 | | 規模等 |
|-------|-------|--------------------------|
| 建屋 | 縦(短辺) | 65m (40m+25m) |
| | 横(長辺) | 80m |
| | 高さ | 39m |
| 煙突高さ | | 59m |
| 煙突の配置 | | A 案：煙突東側配置 B 案：煙突中央配置 |

5.2.2.2 予測結果

(1) 予測結果

① 景観資源及び主要な眺望点の改変の状況

景観資源及び主要な眺望点は対象事業実施想定区域内にないことから、直接改変による影響はないと予測する。なお、対象事業実施想定区域から景観資源又は主要な眺望点までの距離は、表 5.2.5 に示すとおりである。

表 5.2.5 対象事業実施想定区域から景観資源又は主要な眺望点までの距離

| 項目 | 地点 | 距離 |
|--------|------------------------|---------|
| 景観資源 | 愛知池の風景 | 約 0.1km |
| | 愛知池から見た田園風景 | 約 1.1km |
| | 境川の源流：長田池 | 約 2.4km |
| | 三好池 | 約 2.5km |
| | 三好稲荷と満福寺境内 | 約 3.6km |
| | 開発の波に打ち克った蒔生辰己山の「アベマキ」 | 約 2.8km |
| 主要な眺望点 | 愛知池堤体 | 約 0.9km |
| | 愛知牧場 | 約 1.4km |
| | 浮き雲の栈橋 | 約 2.5km |
| | ほのぼのテラス | 約 0.3km |
| | 三好池堤体 | 約 2.9km |

② 施設の存在による眺望景観への影響

予測地点からの眺望景観の予測結果は、表 5.2.6 及び表 5.2.7 に示すとおりである。

景観 1 及び景観 3 については、計画施設の建屋及び煙突が周辺の住宅、樹林等に遮られることから、眺望景観の変化は小さいと予測する。景観 2 及び景観 4 については、計画施設を遮る遮蔽物等が少ないことから、眺望景観の変化は大きいと予測する。

表 5.2.6 眺望景観の予測結果

| 予測地点 | 対象計画案 | |
|-----------------|---|-------------|
| | A 案（煙突東側配置） | B 案（煙突中央配置） |
| 景観 1 北側道路 | 樹林の奥に計画施設の建屋及び煙突の一部が視認できるものの、眺望景観の変化は小さいと予測する。複数案による眺望景観の変化の程度の差としては、A 案では建屋のみが視認されるが、B 案では建屋及び煙突が視認され、B 案のほうが変化の程度が大きいと予測する。 | |
| 景観 2 ほのぼのテラス | 住宅や樹林等の奥に計画施設の建屋及び煙突が視認され、眺望景観の変化が大きいと予測する。複数案による眺望景観の変化の程度の差としては、B 案よりも煙突が手前にくる A 案のほうが変化の程度が大きいと予測する。 | |
| 景観 3 南側住宅地 | 樹林等の奥に計画施設の建屋及び煙突の一部が視認できるものの、眺望景観の変化は小さいと予測する。複数案による眺望景観の変化の程度の差としては、B 案よりも煙突が東側となり横に広がって見える A 案のほうが変化の程度が大きいと予測する。 | |
| 景観 4 愛知池運動公園 | 樹林の奥に計画施設の建屋及び煙突が視認され、眺望景観の変化が大きいと予測する。複数案による眺望景観の変化の程度の差としては、A 案よりも煙突が手前にくる B 案のほうが変化の程度が大きいと予測する。 | |

表 5.2.7(1) 眺望景観の予測結果



| 予測地点 | 景観1 北側道路 |
|----------------|--|
| 現況の 眺望の状況 |  |
| A案 (煙突東側配置) |  <p>土砂の仮置き場や樹林の奥に計画施設の建屋の一部が視認される。</p> |

表 5.2.7(2) 眺望景観の予測結果



| 予測地点 | 景観1 北側道路 |
|----------------|---|
| 現況の眺望の状況 |  |
| B案 (煙突中央配置) |  <p data-bbox="416 1888 1398 1921">土砂の仮置き場や樹林の奥に計画施設の建屋及び煙突の一部が視認される。</p> |

表 5.2.7(3) 眺望景観の予測結果

| 予測地点 | 景観2 ほのぼのテラス |
|------------------------|---|
| <p>現況の 眺望の状況</p> |  |
| <p>A案 (煙突東側配置)</p> |  <p>住宅や樹林等の奥に計画施設の建屋及び煙突が視認される。</p> |

表 5.2.7(4) 眺望景観の予測結果

| 予測地点 | 景観2 ほのぼのテラス |
|----------------|---|
| 現況の眺望の状況 |  |
| B案 (煙突中央配置) |  <p>住宅や樹林等の奥に計画施設の建屋及び煙突が視認される。</p> |

表 5.2.7(5) 眺望景観の予測結果



| 予測地点 | 景観3 南側住宅地 |
|----------------|---|
| 現況の眺望の状況 |  |
| A案 (煙突東側配置) |  <p>樹林等の奥に計画施設の建屋及び煙突の一部が視認される。</p> |

表 5.2.7(6) 眺望景観の予測結果



| 予測地点 | 景観3 南側住宅地 |
|----------------|--|
| 現況の 眺望の状況 |  |
| B案 (煙突中央配置) |  <p data-bbox="414 1888 1197 1921">樹林等の奥に計画施設の建屋及び煙突の一部が視認される。</p> |

表 5.2.7(7) 眺望景観の予測結果





| 予測地点 | 景観4 愛知池運動公園 |
|------------------------|---|
| <p>現況の 眺望の状況</p> |  |
| <p>A案 (煙突東側配置)</p> |  <p>樹林の奥に計画施設の建屋及び煙突が視認される。</p> |

表 5.2.7(8) 眺望景観の予測結果

| 予測地点 | 景観4 愛知池運動公園 |
|----------------|--|
| 現況の 眺望の状況 |  |
| B案 (煙突中央配置) |  <p data-bbox="416 1888 1078 1921">樹林の奥に計画施設の建屋及び煙突が視認される。</p> |

予測地点からの仰角を算出した結果は、表 5.2.8 に示すとおりである。

予測地点から計画施設を望む仰角は、景観 1 では B 案、景観 2 及び景観 3 では A 案のほうが大きく、景観 4 ではほぼ同等となっている。

また、景観 1 の A 案及び B 案、景観 2 の A 案では、圧迫感を受ける目安である 10 度（表 5.2.9 参照）を上回っている。ただし、景観 1、2 とともに前述のとおり土砂の仮置き場や樹林、住宅等が手前にあり、建屋や煙突は一部が遮られ視認されないため、実際の圧迫感は小さいものと予測する。

表 5.2.8 仰角の予測結果

| 予測地点 | A 案（煙突東側配置） | | | B 案（煙突中央配置） | | |
|-----------------|---------------------------|---------------------------|-----------|---------------------------|---------------------------|-----------|
| | 対象物高 ^{注)} (m) | 水平距離 ^{注)} (m) | 仰角 (度) | 対象物高 ^{注)} (m) | 水平距離 ^{注)} (m) | 仰角 (度) |
| 景観 1 北側道路 | 59 | 233 | 13.9 | 59 | 200 | 16.0 |
| 景観 2 ほのぼのテラス | 59 | 311 | 10.5 | 59 | 342 | 9.5 |
| 景観 3 南側住宅地 | 59 | 527 | 6.2 | 59 | 554 | 5.9 |
| 景観 4 愛知池運動公園 | 59 | 581 | 5.7 | 59 | 562 | 5.8 |

注) 対象物高は煙突高さ、水平距離は予測地点と計画施設の煙突との距離とした。

表 5.2.9 垂直視角と鉄塔の見え方

| 視角 | 距離 | 鉄塔の場合の見え方 |
|----------|--------|---|
| 0.5° | 8,000m | 輪郭がやっとわかる。季節と時間（夏の午後）の条件は悪く、ガスのせいもある。 |
| 1° | 4,000m | 十分見えるけれど、景観的にはほとんど気にならない。ガスがかかって見えにくい。 |
| 1.5° ～2° | 2,000m | シルエットになっている場合にはよく見え、場合によっては景観的に気になり出す。シルエットにならず、さらに環境融和塗色がされている場合には、ほとんど気にならない。光線の加減によっては見えないこともある。 |
| 3° | 1,300m | 比較的細部までよく見えるようになり、気になる。圧迫感を受けない。 |
| 5° ～6° | 800m | やや大きく見え、景観的にも大きな影響がある（構図を乱す）。架線もよく見えるようになる。圧迫感はあまり受けない（上限か）。 |
| 10° ～12° | 400m | 眼いっぱいになり、圧迫感を受けるようになる。平坦なところでは垂直方向の景観要素としては際立った存在になり、周囲の景観とは調和しない。 |
| 20° | 200m | 見上げるような仰角になり、圧迫感も強くなる。 |

出典：「環境アセスメント技術ガイド自然とのふれあい」（2002 年 10 月 財団法人自然環境研究センター）

(2) 予測の不確実性

計画段階であるため予測の不確実性はあるが、計画施設の大きさは現時点における最大条件で予測しており、今後、出来る限り影響を低減するように計画諸元を検討する。方法書以降の手続きにおいて、計画施設の計画諸元について十分検討したデータに基づいた予測を行う。

5.2.3 評価

5.2.3.1 評価方法

予測結果をもとに、対象計画案ごとに主要な眺望点、景観資源及び眺望景観への影響について、計画施設との位置関係等から比較整理し、重大な環境影響の程度について評価した。

5.2.3.2 評価結果

(1) 景観資源及び主要な眺望点の改変の状況

いずれの対象計画案においても景観資源及び主要な眺望点の直接改変はないことから、計画施設の存在が重大な環境影響を及ぼすことはないとは評価する。

(2) 施設の存在による眺望景観への影響

予測地点からの眺望景観について、景観1及び景観3については、眺望景観の変化は小さく、景観2及び景観4については、眺望景観の変化は大きいと予測する。

予測地点から計画施設を望む仰角は、景観1ではB案、景観2及び景観3ではA案のほうが大きく、景観4ではほぼ同等となっている。また、景観1のA案及びB案、景観2のA案では、圧迫感を受ける目安である10度（表5.2.9参照）を上回っている。ただし、景観1、2ともに前述のとおり土砂の仮置き場や樹林、住宅等が手前にあり、建屋や煙突は一部が遮られ視認されないため、実際の圧迫感は小さいものと予測する。

施設の詳細な計画にあたっては、出来る限り影響を低減するように計画諸元を検討することから、いずれの対象計画案についても、眺望景観に重大な影響が生じることはないとは評価する。

第 6 章 総合評価

第6章 総合評価

「第5章 計画段階配慮事項に係る調査、予測及び評価の結果」において検討した各環境要素の評価結果を整理した総合評価は、表 6.1 に示すとおりである。

6.1 大気質

大気質については、予測結果（寄与濃度）にバックグラウンド濃度を加えた将来濃度は、いずれの対象計画案においても同等の値となり、すべての項目において環境基準を下回っていることから、重大な影響が生じることはないと評価する。

6.2 景観

いずれの対象計画案においても景観資源及び主要な眺望点の直接改変はないことから、計画施設の存在が重大な環境影響を及ぼすことはないと評価する。

また、予測地点からの眺望景観について、景観 1 及び景観 3 については、眺望景観の変化は小さく、景観 2 及び景観 4 については、眺望景観の変化は大きいと予測する。

予測地点から計画施設を望む仰角は、景観 1 では B 案、景観 2 及び景観 3 では A 案のほうが大きく、景観 4 ではほぼ同等となっている。また、景観 1 の A 案及び B 案、景観 2 の A 案では、圧迫感を受ける目安である 10 度を上回っている。ただし、景観 1、2 ともに前述のとおり土砂の仮置き場や樹林、住宅等が手前にあり、建屋や煙突は一部が遮られ視認されないため、実際の圧迫感は小さいものと予測する。

施設の詳細な計画にあたっては、出来る限り影響を低減するように計画諸元を検討することから、いずれの対象計画案についても、眺望景観に重大な影響が生じることはないと評価する。

表 6.1 総合評価

| 計画 段階 配慮 事項 | 項目 | | 予測結果 | | 総合評価 |
|----------------------|--|------------------------|-----------------|-----------------|---|
| | | | A 案 (煙突東側配置) | B 案 (煙突中央配置) | |
| 大 気 質 | 最大着地濃度 地点の 将来濃度 (年平均値) (寄与濃度＋ バックグラウ ンド濃度) | 二酸化窒素 (ppm) | 0.0089 | | 【対象計画案による比較】 いずれの対象計画案においても、予 測結果は概ね同等の値となる。 【重大な影響の有無】 環境基準を下回っていることから、 重大な影響が生じることはないと評 価する。 |
| | | 浮遊粒子状物質 (mg/m³) | 0.0132 | | |
| | | ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³) | 0.0377 | | |
| 景 観 | 景観資源及び 主要な眺望点の改変の状況 | | なし | | 【重大な影響の有無】 直接改変はないことから、計画施設 の存在が重大な環境影響を及ぼすこ とはないと評価する。 |
| | 眺望景観への 影響（仰角） | 景観 1 北側道路 （度） | 13.9 | 16.0 | 【対象計画案による比較】 予測地点から計画施設を望む仰角 は、景観 1 では B 案、景観 2 及び景 観 3 では A 案のほうが大きく、景観 4 ではほぼ同等となっている。 【重大な影響の有無】 景観 1 及び景観 3 については、眺望 景観の変化は小さく、景観 2 及び景 観 4 については、眺望景観の変化は 大きいと予測する。 予測地点から計画施設を望む仰角 は、景観 1 の A 案及び B 案、景観 2 の A 案では、圧迫感を受ける目安で ある 10 度を上回っている。ただ し、景観 1、2 とともに前述のとおり 土砂の仮置き場や樹林、住宅等が手 前にあり、建屋や煙突は一部が遮ら れ視認されないため、実際の圧迫感 は小さいものと予測する。 施設の詳細な計画にあたっては、出 来る限り影響を低減するように計画 諸元を検討することから、いずれの 対象計画案についても、眺望景観に 重大な影響が生じることはないと評 価する。 |
| | | 景観 2 ほのぼのテラス （度） | 10.5 | 9.5 | |
| | | 景観 3 南側住宅地 （度） | 6.2 | 5.9 | |
| | | 景観 4 愛知池運動公園 （度） | 5.7 | 5.8 | |

第 7 章 配慮書の案についての意見書の意見の 概要及び配慮書事業者の見解

第7章 配慮書の案についての意見書の意見の概要及び 配慮書事業者の見解

7.1 配慮書の案についての縦覧状況及び意見書の提出状況

7.1.1 縦覧状況

- ・縦覧期間：令和7年10月29日（水）～11月27日（木）
- ・意見書提出期限：令和7年11月27日（木）

表7.1.1 計画段階環境配慮書の案についての縦覧状況

| 縦覧場所 | | 閲覧者数 |
|------|------------|------|
| — | 尾三衛生組合 | 1 |
| 東郷町 | 東郷町役場 | 0 |
| | 東郷町諸輪公民館 | 0 |
| 日進市 | 日進市環境課 | 0 |
| | 日進市米野木区民会館 | 0 |
| みよし市 | みよし市生活環境課 | 0 |
| | みよし市黒笹公民館 | 0 |
| | みよし市福谷区民会館 | 0 |
| 豊田市 | 豊田市環境保全課 | 0 |
| 合 計 | | 1 |

7.1.2 意見書の提出状況

計画段階環境配慮書の案を上記の期間において縦覧し、意見書提出期限までに提出された環境の保全の見地からの意見書は計0通（0件）であり、その意見書に記載された意見の分類は、表7.1.2に示すとおりである。

表7.1.2 計画段階環境配慮書の案についての意見書の意見の分類

| 分 類 | 意見数 |
|---|-----|
| 第1章 配慮書事業者の名称 | 0 |
| 第2章 配慮書対象事業の目的及び内容 | 0 |
| 第3章 配慮書対象事業実施想定区域及びその周囲の概況 | 0 |
| 第4章 計画段階配慮事項並びに調査、予測及び評価の手法 | 0 |
| 第5章 計画段階配慮事項に係る調査、予測及び評価の結果 | 0 |
| 第6章 総合評価 | 0 |
| 第7章 計画段階環境配慮書に関する業務を委託した事業者の 名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地 | 0 |
| その他の事項 | 0 |
| 合 計 | 0 |

第 8 章 配慮書の案から配慮書への主な修正点

第8章 配慮書の案から配慮書への主な修正点

本事業の計画段階環境配慮書の案の記載事項について検討を加え、計画段階環境配慮書において行った主な修正内容は、表 8.1 に示すとおりである。

表8.1(1) 計画段階環境配慮書の案の記載事項の主な修正内容

| 計画段階環境配慮書の案の頁 | 計画段階環境配慮書の案 | 計画段階環境配慮書の頁 | 計画段階環境配慮書 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|-------------------------|--|-------------------------|---------------------------------|-----------------------|-----------------------|----------|-----|-----|--|--|--|--|--|---|---|-----|-----|-----|-----|-----|---|-----|--|--|--|--|--|---|-----|--|--|--|--|--|---|-----|--|--|--|--|--|---|-----|--|--|--|--|--|-------|---|----------|-----------------------------|-------------------------|---------------------------------|-----------------------|-----------------------|----------|-----|-----|--|--|--|--|--|---|---|-----|-----|-----|-----|-----|---|-----|--|--|--|--|--|---|-----|--|--|--|--|--|---|-----|--|--|--|--|--|---|-----|--|--|--|--|--|
| 3-1 | また、市町村単位で公表されている統計資料等については、愛知県東郷町、日進市、みよし市及び豊田市の全域を範囲とした。 | 3-1 | また、市町村単位で公表されている統計資料等については、愛知県愛知郡東郷町、日進市、みよし市及び豊田市の全域を範囲とした。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3-120 | 表 3.2.11(1) 大気汚染に係る環境基準 (略) 出典：「大気汚染に係る環境基準について」(昭和 48 年環境庁告示第 25 号) 「二酸化窒素に係る環境基準について」(昭和 53 年環境庁告示第 38 号) | 3-120 | 表 3.2.11(1) 大気汚染に係る環境基準 (略) 出典：「大気汚染に係る環境基準について」(昭和 48 年環境庁告示第 25 号) 「大気汚染に係る環境基準について」(昭和 48 年環大企第 143 号) 「二酸化窒素に係る環境基準について」(昭和 53 年環境庁告示第 38 号) 「二酸化窒素に係る環境基準の改定について」(昭和 53 年環大企第 262 号) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3-132 | 表 3.2.26 道路交通振動に係る要請限度 (略) 出典：「振動規制法施行規則」 「振動規制法施行規則別表第 2 備考 1 の規定に基づく区域の区分及び同表備考 2 の規定に基づく時間の区分の指定」(昭和 52 年愛知県告示第 1049 号) 「振動規制法の規定に基づく特定工場・特定建設作業、道路交通振動の区域の区分及び時間の区分」(平成 24 年日進市告示第 81 号) 「振動規制法に基づく振動の規制地域の指定」(平成 24 年みよし市告示第 13 号) 「振動規制法に基づく振動の規制地域等の指定及び規制基準の設定」(平成 10 年豊田市告示第 63 号) | 3-132 | 表 3.2.26 道路交通振動に係る要請限度 (略) 出典：「振動規制法施行規則」(昭和 51 年総理府令第 58 号) 「振動規制法施行規則別表第 2 備考 1 の規定に基づく区域の区分及び同表備考 2 の規定に基づく時間の区分の指定」(昭和 52 年愛知県告示第 1049 号) 「振動規制法の規定に基づく特定工場・特定建設作業、道路交通振動の区域の区分及び時間の区分」(平成 24 年日進市告示第 81 号) 「振動規制法に基づく振動の規制地域の指定」(平成 24 年みよし市告示第 13 号) 「振動規制法に基づく振動の規制地域等の指定及び規制基準の設定」(平成 10 年豊田市告示第 63 号) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3-135 | 表3.2.29 生活環境の保全に関する環境基準 (生活環境項目 (河川)) ア <table><tr><th>項目 類型</th><th>利用目的の 適用性^(注)</th><th>水素イ オン濃 度 (pH)</th><th>生物化 学的酸 素要求 量 (BOD)</th><th>浮遊物 質 量 (SS)</th><th>溶存酸 素 量 (DO)</th><th>大腸菌 数</th></tr><tr><td>A A</td><td colspan="6">(略)</td></tr><tr><td>A</td><td>水道 2 級 水産 1 級 水浴及び B 以下 の欄に掲げるもの</td><td>(略)</td><td>(略)</td><td>(略)</td><td>(略)</td><td>(略)</td></tr><tr><td>B</td><td colspan="6">(略)</td></tr><tr><td>C</td><td colspan="6">(略)</td></tr><tr><td>D</td><td colspan="6">(略)</td></tr><tr><td>E</td><td colspan="6">(略)</td></tr></table> | 項目 類型 | 利用目的の 適用性 ^(注) | 水素イ オン濃 度 (pH) | 生物化 学的酸 素要求 量 (BOD) | 浮遊物 質 量 (SS) | 溶存酸 素 量 (DO) | 大腸菌 数 | A A | (略) | | | | | | A | 水道 2 級 水産 1 級 水浴及び B 以下 の欄に掲げるもの | (略) | (略) | (略) | (略) | (略) | B | (略) | | | | | | C | (略) | | | | | | D | (略) | | | | | | E | (略) | | | | | | 3-135 | 表3.2.29 生活環境の保全に関する環境基準 (生活環境項目 (河川)) ア <table><tr><th>項目 類型</th><th>利用目的の 適応性^(注)</th><th>水素イ オン濃 度 (pH)</th><th>生物化 学的酸 素要求 量 (BOD)</th><th>浮遊物 質 量 (SS)</th><th>溶存酸 素 量 (DO)</th><th>大腸菌 数</th></tr><tr><td>A A</td><td colspan="6">(略)</td></tr><tr><td>A</td><td>水道 2 級 水産 1 級 及び B 以下の 欄に掲げるもの</td><td>(略)</td><td>(略)</td><td>(略)</td><td>(略)</td><td>(略)</td></tr><tr><td>B</td><td colspan="6">(略)</td></tr><tr><td>C</td><td colspan="6">(略)</td></tr><tr><td>D</td><td colspan="6">(略)</td></tr><tr><td>E</td><td colspan="6">(略)</td></tr></table> | 項目 類型 | 利用目的の 適応性 ^(注) | 水素イ オン濃 度 (pH) | 生物化 学的酸 素要求 量 (BOD) | 浮遊物 質 量 (SS) | 溶存酸 素 量 (DO) | 大腸菌 数 | A A | (略) | | | | | | A | 水道 2 級 水産 1 級 及び B 以下の 欄に掲げるもの | (略) | (略) | (略) | (略) | (略) | B | (略) | | | | | | C | (略) | | | | | | D | (略) | | | | | | E | (略) | | | | | |
| 項目 類型 | 利用目的の 適用性 ^(注) | 水素イ オン濃 度 (pH) | 生物化 学的酸 素要求 量 (BOD) | 浮遊物 質 量 (SS) | 溶存酸 素 量 (DO) | 大腸菌 数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A A | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A | 水道 2 級 水産 1 級 水浴及び B 以下 の欄に掲げるもの | (略) | (略) | (略) | (略) | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| E | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 項目 類型 | 利用目的の 適応性 ^(注) | 水素イ オン濃 度 (pH) | 生物化 学的酸 素要求 量 (BOD) | 浮遊物 質 量 (SS) | 溶存酸 素 量 (DO) | 大腸菌 数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A A | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A | 水道 2 級 水産 1 級 及び B 以下の 欄に掲げるもの | (略) | (略) | (略) | (略) | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| E | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

表8.1(2) 計画段階環境配慮書の案の記載事項の主な修正内容

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|----------------------------------|--|--------------|----------------|------------|-----------------|-----------------|-----|--------|-------------|-----|-----|----------------|------------------------------|-----|-----------------------------------|----------------------------------|--------|-----|---|----------|----|------|--|------|-----------------|-----------------|-----|--------|-------------|-----|-----|----------------|------------------------------|-----|-------------------|----------------------------------|--------|--|-----|----|---|-----|--|--|----|--|-----|-----|-----|-----|--|--|----|-----|--|--|---|-----|--|--|-------|---|------|----------|--------------|----------------|------------|------------|------|-----|-----|--|--|--|--|--|---|--------------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|---|-----|--|--|--|--|--|---|-----|--|--|--|--|--|------|----------|-----|--|-----|----|---|-----|--|--|----|---|-----|-----|-----|-----|--|--|----|-----|--|--|---|-----|--|--|
| 計画段階環境配慮書の案の頁 | 計画段階環境配慮書の案 | 計画段階環境配慮書の頁 | 計画段階環境配慮書 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3-136 | <div>表 3.2.30 生活環境の保全に関する環境基準（生活環境項目（湖沼））</div> <div>ア</div> <table><tr><td>項目類型</td><td>利用目的の適用性</td><td>水素イオン濃度 (pH)</td><td>化学的酸素要求量 (COD)</td><td>浮遊物質量 (SS)</td><td>溶存酸素量 (DO)</td><td>大腸菌数</td></tr><tr><td>A A</td><td colspan="6">(略)</td></tr><tr><td>A</td><td>水道 2、3 級、水産 2 級、水浴及び B 以下の欄に掲げるもの</td><td>(略)</td><td>(略)</td><td>(略)</td><td>(略)</td><td>(略)</td></tr><tr><td>B</td><td colspan="6">(略)</td></tr><tr><td>C</td><td colspan="6">(略)</td></tr></table> <div>備考 (略) 注) (略)</div> <div>イ</div> <table><tr><td rowspan="2">項目類型</td><td rowspan="2">利用目的の適用性</td><td colspan="2">基準値</td></tr><tr><td>全窒素</td><td>全磷</td></tr><tr><td>I</td><td>(略)</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>II</td><td>水道 1、2、3 級（特殊なものを除く。）、水産 1 種、水浴及びⅢ以下の欄に掲げるもの</td><td>(略)</td><td>(略)</td></tr><tr><td>III</td><td>(略)</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>IV</td><td>(略)</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>V</td><td>(略)</td><td colspan="2"></td></tr></table> | 項目類型 | 利用目的の適用性 | 水素イオン濃度 (pH) | 化学的酸素要求量 (COD) | 浮遊物質量 (SS) | 溶存酸素量 (DO) | 大腸菌数 | A A | (略) | | | | | | A | 水道 2、3 級、水産 2 級、水浴及び B 以下の欄に掲げるもの | (略) | (略) | (略) | (略) | (略) | B | (略) | | | | | | C | (略) | | | | | | 項目類型 | 利用目的の適用性 | 基準値 | | 全窒素 | 全磷 | I | (略) | | | II | 水道 1、2、3 級（特殊なものを除く。）、水産 1 種、水浴及びⅢ以下の欄に掲げるもの | (略) | (略) | III | (略) | | | IV | (略) | | | V | (略) | | | 3-136 | <div>表 3.2.30 生活環境の保全に関する環境基準（生活環境項目（湖沼））</div> <div>ア</div> <table><tr><td>項目類型</td><td>利用目的の適用性</td><td>水素イオン濃度 (pH)</td><td>化学的酸素要求量 (COD)</td><td>浮遊物質量 (SS)</td><td>溶存酸素量 (DO)</td><td>大腸菌数</td></tr><tr><td>A A</td><td colspan="6">(略)</td></tr><tr><td>A</td><td>水道 2、3 級、水産 2 級及び B 以下の欄に掲げるもの</td><td>(略)</td><td>(略)</td><td>(略)</td><td>(略)</td><td>(略)</td></tr><tr><td>B</td><td colspan="6">(略)</td></tr><tr><td>C</td><td colspan="6">(略)</td></tr></table> <div>備考 (略) 注) (略)</div> <div>イ</div> <table><tr><td rowspan="2">項目類型</td><td rowspan="2">利用目的の適用性</td><td colspan="2">基準値</td></tr><tr><td>全窒素</td><td>全磷</td></tr><tr><td>I</td><td>(略)</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>II</td><td>水道 1、2、3 級（特殊なものを除く。）、水産 1 種及びⅢ以下の欄に掲げるもの</td><td>(略)</td><td>(略)</td></tr><tr><td>III</td><td>(略)</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>IV</td><td>(略)</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>V</td><td>(略)</td><td colspan="2"></td></tr></table> | 項目類型 | 利用目的の適用性 | 水素イオン濃度 (pH) | 化学的酸素要求量 (COD) | 浮遊物質量 (SS) | 溶存酸素量 (DO) | 大腸菌数 | A A | (略) | | | | | | A | 水道 2、3 級、水産 2 級及び B 以下の欄に掲げるもの | (略) | (略) | (略) | (略) | (略) | B | (略) | | | | | | C | (略) | | | | | | 項目類型 | 利用目的の適用性 | 基準値 | | 全窒素 | 全磷 | I | (略) | | | II | 水道 1、2、3 級（特殊なものを除く。）、水産 1 種及びⅢ以下の欄に掲げるもの | (略) | (略) | III | (略) | | | IV | (略) | | | V | (略) | | |
| 項目類型 | 利用目的の適用性 | 水素イオン濃度 (pH) | 化学的酸素要求量 (COD) | 浮遊物質量 (SS) | 溶存酸素量 (DO) | 大腸菌数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A A | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A | 水道 2、3 級、水産 2 級、水浴及び B 以下の欄に掲げるもの | (略) | (略) | (略) | (略) | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 項目類型 | 利用目的の適用性 | 基準値 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 全窒素 | 全磷 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| I | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| II | 水道 1、2、3 級（特殊なものを除く。）、水産 1 種、水浴及びⅢ以下の欄に掲げるもの | (略) | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| III | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| IV | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| V | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 項目類型 | 利用目的の適用性 | 水素イオン濃度 (pH) | 化学的酸素要求量 (COD) | 浮遊物質量 (SS) | 溶存酸素量 (DO) | 大腸菌数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A A | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A | 水道 2、3 級、水産 2 級及び B 以下の欄に掲げるもの | (略) | (略) | (略) | (略) | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 項目類型 | 利用目的の適用性 | 基準値 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 全窒素 | 全磷 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| I | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| II | 水道 1、2、3 級（特殊なものを除く。）、水産 1 種及びⅢ以下の欄に掲げるもの | (略) | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| III | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| IV | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| V | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3-137 | また、特定事業場からの排水が 50m ³ /日を超える場合には、表 3.2.33 に示す排水基準が適用される。なお、対象事業実施想定区域は窒素含有量及び磷含有量の排水基準の適用地域となっている。 | 3-137 | また、特定事業場からの排水が 50m ³ /日以上の場合には、表 3.2.33 に示す排水基準が適用される。なお、対象事業実施想定区域は窒素含有量及び磷含有量の排水基準の適用地域となっている。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5-5 | <div>a) 有風時寄与濃度計算（風速：1.0m/秒以上）</div> <div>拡散式は以下の点煙源ブルーム式を用いた。</div> <div>$C(x,y,z)=\frac{Q_p}{2\pi\sigma_y\sigma_zu}\cdot\exp\left(-\frac{y^2}{2\sigma_y^2}\right)\left[\exp\left\{-\frac{(z-H_p)^2}{2\sigma_z^2}\right\}+\exp\left\{-\frac{(z+H_p)^2}{2\sigma_z^2}\right\}\right]$</div> | 5-5 | <div>a) 有風時寄与濃度計算（風速：1.0m/秒以上）</div> <div>拡散式は以下の点煙源ブルーム式を用いた。</div> <div>$C(x,y,z)=\frac{Q_p}{2\pi\sigma_y\sigma_zu}\cdot\exp\left(-\frac{y^2}{2\sigma_y^2}\right)\left[\exp\left\{-\frac{(z-H_p)^2}{2\sigma_z^2}\right\}+\exp\left\{-\frac{(z+H_p)^2}{2\sigma_z^2}\right\}\right]\cdot10^6$</div> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6-2 | <div>表 6.1 総合評価</div> <table><tr><td rowspan="2">計画段階配慮事項</td><td rowspan="2">項目</td><td colspan="2">予測結果</td><td rowspan="2">総合評価</td></tr><tr><td>A 案 (煙突東側配置)</td><td>B 案 (煙突中央配置)</td></tr><tr><td rowspan="3">大気質</td><td>最大着地濃度</td><td>二酸化窒素 (ppm)</td><td>(略)</td><td rowspan="3">(略)</td></tr><tr><td>地点の将来濃度 (年平均値)</td><td>浮遊粒子状物質 (mg/m³)</td><td>(略)</td></tr><tr><td>(寄与濃度+バックグラウンド濃度)</td><td>ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)</td><td>0.0287</td></tr></table> | 計画段階配慮事項 | 項目 | 予測結果 | | 総合評価 | A 案 (煙突東側配置) | B 案 (煙突中央配置) | 大気質 | 最大着地濃度 | 二酸化窒素 (ppm) | (略) | (略) | 地点の将来濃度 (年平均値) | 浮遊粒子状物質 (mg/m ³) | (略) | (寄与濃度+バックグラウンド濃度) | ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³) | 0.0287 | 6-2 | <div>表 6.1 総合評価</div> <table><tr><td rowspan="2">計画段階配慮事項</td><td rowspan="2">項目</td><td colspan="2">予測結果</td><td rowspan="2">総合評価</td></tr><tr><td>A 案 (煙突東側配置)</td><td>B 案 (煙突中央配置)</td></tr><tr><td rowspan="3">大気質</td><td>最大着地濃度</td><td>二酸化窒素 (ppm)</td><td>(略)</td><td rowspan="3">(略)</td></tr><tr><td>地点の将来濃度 (年平均値)</td><td>浮遊粒子状物質 (mg/m³)</td><td>(略)</td></tr><tr><td>(寄与濃度+バックグラウンド濃度)</td><td>ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)</td><td>0.0377</td></tr></table> | 計画段階配慮事項 | 項目 | 予測結果 | | 総合評価 | A 案 (煙突東側配置) | B 案 (煙突中央配置) | 大気質 | 最大着地濃度 | 二酸化窒素 (ppm) | (略) | (略) | 地点の将来濃度 (年平均値) | 浮遊粒子状物質 (mg/m ³) | (略) | (寄与濃度+バックグラウンド濃度) | ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³) | 0.0377 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計画段階配慮事項 | 項目 | | | 予測結果 | | | 総合評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | A 案 (煙突東側配置) | B 案 (煙突中央配置) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大気質 | 最大着地濃度 | 二酸化窒素 (ppm) | (略) | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 地点の将来濃度 (年平均値) | 浮遊粒子状物質 (mg/m ³) | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (寄与濃度+バックグラウンド濃度) | ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³) | 0.0287 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計画段階配慮事項 | 項目 | 予測結果 | | 総合評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | A 案 (煙突東側配置) | B 案 (煙突中央配置) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大気質 | 最大着地濃度 | 二酸化窒素 (ppm) | (略) | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 地点の将来濃度 (年平均値) | 浮遊粒子状物質 (mg/m ³) | (略) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (寄与濃度+バックグラウンド濃度) | ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³) | 0.0377 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

第 9 章 計画段階環境配慮書に関する業務を
委託した事業者の名称、代表者の氏名及び
主たる事務所の所在地

第9章 計画段階環境配慮書に関する業務を委託した事業者の名称、 代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

計画段階環境配慮書に関する業務は、以下に示す者に委託して実施した。

名 称 : 八千代エンジニアリング株式会社 名古屋支店
代 表 者 : 執行役員支店長 磯部 滋
所 在 地 : 愛知県名古屋市中区新栄町 2-9

